

A top-down photograph of six children lying on a white floor. The floor is covered with various colorful drawings made with markers, including flowers, a yellow circle, a star, and human figures. The children are looking up at the camera with open mouths, appearing happy and engaged. The text is overlaid on a light blue rectangular background in the center of the image.

地域学校協働活動 事例集

平成 28 年度

文部科学省
生涯学習政策局
初等中等教育局

平成28年度地域学校協働活動事例集の発行に当たって

文部科学省では、平成27年12月に中央教育審議会に取りまとめられた答申及び平成28年1月に策定された「次世代の学校・地域」創生プランに基づき、地域と学校が連携・協働して、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進することや、その活動を推進する新たな体制として「地域学校協働本部」を全国的に整備すること、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の一層の推進を図るため、制度面・運用面の改善及び財政支援を含めた条件整備等の方策を総合的に講じることとしております。

さらに、平成28年12月の中央教育審議会の答申において、学習指導要領の改善に関し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが提言されており、学校がその目的を達成するためには、家庭や地域の人々とともに子供を育てていくという視点に立ち、地域と学校の連携・協働の下、幅広い地域住民等とともに、地域学校協働活動を進めながら、学校内外を通じた子供の生活の充実と活性化を図ることが大切であり、学校、家庭、地域社会がそれぞれ本来の教育機能を発揮し、全体としてバランスのとれた教育が行われることが重要とされています。

本事例集は、全国で取り組まれている地域学校協働活動のうち、その内容が特に優れ、他の模範と認められる取組として、平成28年度に文部科学大臣から表彰を受けた135の活動を広く紹介するために作成したものです。また、文部科学省ウェブサイト「学校と地域でつくる学びの未来」(<http://manabi-mirai.mext.go.jp/>)にも過去の表彰事例とともに掲載しておりますので、御覧ください。

なお、本事例集とともに、それぞれの地域の特色を生かしつつ、地域と学校の連携・協働を推進していく際の参考手引として「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン」を作成しています。地域、学校関係者及び教育委員会の皆さまにおかれましては、それぞれの地域や学校の特色や実情に応じて、地域と学校の連携・協働の推進に御活用いただければ幸いです。

最後に、本事例集の作成に当たりまして、表彰団体や都道府県、市町村等関係者の皆様方の多大な御協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

平成29年4月

文部科学省

生涯学習政策局社会教育課長 西井 知紀

初等中等教育局参事官 木村 直人

目次

●はじめに..... 1

●「地域学校協働活動」事例

No.	都道府県市名	市区町村名	活動名または学校名	活動区分					こんな活動です！	ページ
				学校支援	未来塾	放課後	土曜	CS		
1		占冠村	占冠村学校支援地域本部	○				○	地域資源をフル活用した学校支援活動	7
2	北海道	帯広市	帯広第五学校支援地域本部緑丘小学校	○		○	○		地域に学び、地域で育ち、地域に生きる子供を育てる活動	8
3		栗山町	土曜授業推進事業					○	地域の伝統・文化・産業、スポーツを体験的に学ぶ機会としての土曜授業	9
4		八戸市	八戸市立柏崎小学校地域密着型教育	○					地域とともに歩む学校づくり「We Love 柏崎」	10
5	青森県	黒石市	北陽小学校支援事業	○					子供が輝き、地域をつなぐコミュニティーネットワークの活用	11
6		中泊町	小泊小学校学校支援事業	○		○			学校・家庭・地域の協働！！地域ぐるみで子供を育てるための仕組みづくり	12
7		盛岡市	繫小学校放課後子ども教室				○		異学年交流や地域の方とのコミュニケーションで、子供たちの社会性を育む	13
8	岩手県	宮古市	山口小学校支援地域本部	○					つなぎ・つづき・ひろがる支援活動	14
9		平泉町	長島わくわくフィールド			○	○		子供の安心できる居場所、豊かな体験、地域づくり！	15
10		釜石市	鵜住居子どもひろば				○		子供が輝けば地域も輝く —子供の居場所づくりから地域のつながりへ—	16
11	宮城県	仙台市	住吉台中学校区学校支援地域本部コンパス住吉台	○					小中連携と地域連携の二本柱で、学校と地域の未来を育みます！	17
12		蔵王町	蔵王町協働教育プラットフォーム協議会						登録ボランティア「ざおうっ子応援団」による地域全体で子供を育てる活動	18
13		大和町	鶴巣地域教育協議会	○					「夢田んぼ」がつなぎ、鶴巣地域と鶴巣っ子	19
14		石巻市	和小っ子クラブ				○		地域の子供たちを、地域で育てていく活動	20
15		仙北市	中川小学校支援地域本部	○					そだてよう 手をとりあって 中川っ子のための学校応援団	21
16	秋田県	由利本荘市	矢島小学校学校運営協議会	○		○		○	「地域と共に、地域のための」 コミュニティ・スクール	22
17		大館市	南中学校区学校支援地域本部	○					地域の団体や企業が、それぞれの特色を活かし、協力して育てる南学区の子供	23
18	山形県	小国町	おぐに放課後子ども教室「めっちゃ」				○		地域を学び、地域に学ぶ「めっちゃ」たのしい遊びの場	24
19		東根市	高崎地区アフタースクール				○		放課後の子供たちの学習と体験をサポートする、地域主体の放課後子供教室	25
20		北塩原村	北塩原村学校支援地域本部	○					北塩原村「学校の応援団」 —笑顔いきいき みんなで子育て—	26
21	福島県	大玉村	大玉村放課後子ども教室	○		○		○	みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ…地域一体の子供教室！	27
22		川内村	川内村放課後子ども教室				○		地域が見守り育てる川内っこ —遊・学・スポーツ・ものづくり・交流活動—	28
23	茨城県	牛久市	ひたち野うしく小学校「うしく土曜カップ塾」「うしく放課後カップ塾」		○		○		地域人材と教育力を活用した「うしく土曜カップ塾」「放課後カップ塾」	29
24		かすみがうら市	いなよし学習広場					○	地域ボランティアの方々による中学校区児童への土曜学習教室	30
25	栃木県	栃木市	都賀地域アシストネット推進本部事業	○					～地域から学校へ、学校から地域へ～ ふるさとの風土で育む人づくり、まちづくり	31
26		沼田市	こどもの広場「結いんぐ」 (白沢小放課後子ども教室)	○		○			地域の特性を生かした体験活動を通して、子供たちに豊かな心を育む！	32
27	群馬県	富岡市	高瀬小学校支援ボランティア	○					広がる学校支援の輪「高瀬小学校支援ボランティア」	33
28		中之条町	中之条町放課後子ども教室				○		伝統的な文化、工作、手作りゲーム、スポーツを中心とした体験的な活動	34
29		さいたま市	中島小チャレンジスクール・ウルラ		○	○			地域の人、歴史、自然から学ぶウルラ	35
30		大久保中学校「チャレンジスクール」		○					寄り添う・応援する・きっかけをつくる学習支援活動	36
31	埼玉県	熊谷市	奈良っ子ふれあいメイト				○		地域と学校で子供を育てる環境作り	37
32		ふじみ野市	上野台小学校学校応援団活動	○					光り輝く子供たちのために、できる人ができる時にできることを	38
33		上尾市	原市中学校応援団	○					「学校や地域の活性化に向けた一助を」 —地域の力で学力向上を—	39

No.	都道府県市名	市区町村名	活動名または学校名	活動区分					こんな活動です！	ページ	
				学校支援	未来塾	放課後	土曜	CS			
34	千葉県	大網白里市	大網白里市放課後子ども教室			○			小学校の余裕教室を活用し、地域の方々とする「安心・安全な居場所」です。	40	
35		市川市	第八中学校ブロック学校支援地域本部	○					『だめでもともと！』第八中学校ブロック学校支援コーディネーターズ！	41	
36		松戸市	牧野原中学校区地域教育協議会	○					地域の支援で健やかに育て！ステップアップ牧中学校区～学習・環境・安全の取り組み～	42	
37	東京都	八王子市	松木中学校区3校合同学校運営協議会	○				○	小中学校運営協議会の連合体が、地域総がかりでの学校支援活動を展開！	43	
38		府中市	日新小スクール・コミュニティ協議会	○		○	○	○	日新を誇り誇る日新をつくる児童を育む スクール・コミュニティ	44	
39		三鷹市	鷹南学園コミュニティ・スクール委員会	○	○				○	地域で創る「鷹南っ子ジャンプアッププラン」の取り組み	45
40		板橋区	高島第六小学校学校支援地域本部	○						日曜日の朝のグリーンキーパーから広がる学習ボランティアの輪	46
41		江東区	三砂中支援の会	○				○		地域の応援力～第三砂町中学校に通うすべての生徒のために～	47
42		町田市	町田市立小山中央小学校学校支援活動	○						学校区内の豊かな教育環境を活かした地域共同学習の実施～学校・家庭・地域でともに育て、共に育つ「共育（ともいく）」の推進～	48
43		神奈川県	横浜市	さくらの子応援隊	○				○	共に学び、共に創る地域の学校「瀬谷さくら小学校」	49
44	「潮田共学舎」による地域学校協働活動		○				○	まさに社会に開かれた教育課程を実現—潮田共学舎による地域学校協働活動—	50		
45	川崎市		臨港中学校区地域教育会議地域の寺子屋					○	子供に寄り添う地域をめざして	51	
46	菅生中学校区地域教育会議地域の寺子屋						○	これまでの実績を活かした菅生地域ならではの寺子屋	52		
47	相模原市		根小屋小学校放課後子どもプラン			○			人と人とが育ちあえる地域の拠点づくりを目指して	53	
48	鎌倉市	「かえでPapas」地域支援活動	○					地域と協働して、子供たちの郷土への愛着を育む、安全な文化行事を企画	54		
49	新潟県	新潟市	新潟小学校学校支援地域本部	○		○			子供たちを「持続可能な地域社会の担い手」に	55	
50		早通中学校学校支援地域本部	○					「地域とともに感動を！」 —粘り強く継続し、故郷早通に輝き続け！—	56		
51		聖籠町	聖籠町学校運営協議会	○				○	学校関係者評価と合同学校運営協議会で学校・家庭・地域の教育力を高める。	57	
52		刈羽村	刈羽村学校運営協議会	○	○	○		○	「オール刈羽で子どもを育てる」を合い言葉に、おらが刈羽の学校とともに歩んでいます	58	
53	上越市	牧っこを育てる会	○				○	中学生の思いを地域へ！ 学校と地域が連携・協働して牧を熱くしよう！	59		
54	富山県	高岡市	川原小学校区土曜学習					○	地域の人と触れ合い、地域を学び、地域の良さを再発見する ～ふるさと学習～	60	
55		舟橋村	舟橋子どもかがやき教室			○			地域に支えられる「舟橋子どもかがやき教室」	61	
56	石川県	金沢市	森山町小学校支援地域本部	○					地域の伝統芸能・産業を継承！	62	
57		白山市	はくれない森の放課後			○	○		小学校裏の雑木林を子供たちの居場所にした放課後子供教室です。	63	
58		七尾市	浜っ子「ふるさと歴史教室」					○	児童の豊かな人間性と地域創造力の育成をめざした「ふるさと歴史教室」	64	
59	山梨県	富士川町	富士川町放課後子供教室「わくわく体験教室」			○			豊かな体験活動とおした、子供たちの安全で健やかな居場所づくり	65	
60		甲府市	中道南小学校地域による応援団	○					地域と支える子供の学び、子供の育ち	66	
61		上野原市	上野原市放課後子ども教室「しまだクラブ」			○			異年齢集団の交流の中で、豊かな体験ができる教室	67	
62	長野県	大町市	大町市立美麻小中学校					○	地域とともに「自立した学習者」を育てる	68	
63		青木村	青木村を愛する活動 青木村立青木小学校	○					心豊かでたくましい青木村の子供の育成—今こそ子供に社会力を—	69	
64		岡谷市	川岸小学校『とちっ子ひろば』			○			地域全体の子育てで、大人も子供も輝く「ひろば」	70	

No.	都道府県市名	市区町村名	活動名または学校名	活動区分					こんな活動です！	ページ
				学校支援	未来塾	放課後	土曜	CS		
65	岐阜県	岐阜市	岩野田北小学校学校運営協議会					○	地域と一体となった安全・安心子供見守り活動	71
66		白川村	将来の担い手育て					○	将来の担い手育て ～学校と地域が共通の願いを持って共に育む～	72
67		関市	集まれ！せき放課後学びクラブ、ふれあいクラブ			○	○		学習・スポーツ・体験・交流活動を通して子供たちに安全・安心な居場所を	73
68		岐南町	岐南中学校 学校支援活動	○				○	生徒の「自己有用感」を高める、地域住民の積極的な学校教育への参画	74
69	愛知県	名古屋市	老松小学校トワイライトスクール			○			講座「なかま」を中心にして、地域の絆で子供たちを育成	75
70			北一社小学校トワイライトスクール			○			地域の力を発揮した講座が魅力！放課後教室は子供がワクワク！	76
71		豊田市	浄水小学校支援地域本部	○		○	○		保護者や地域の力を生かした、共働支援	77
72		西尾市	一色町公民館 子ども大学					○	地域の人や団体等がネットワーク化をして、地域全体で継続的な学びを展開。	78
73		瀬戸市	陶原小学校せとっ子モアスクール			○			～地域の子どもは地域で育てる～ 放課後の安全な遊び場として	79
74		東海市	緑陽小学校子ども教室			○			地域が連携・協働する子供教室 ～体験を通し豊かな人間性と創造性を育む～	80
75	三重県	名張市	百合が丘小学校 学校支援地域本部	○					学習等多岐にわたり支援を行い、教育活動の充実を図る「ほめほめ活動」	81
76		四日市市	中部西小学校区学校参画委員会					○	「めざす学校像・子どもがかがやく学校」は地域とともに	82
77		いなべ市	放課後子ども教室「ほくせい」			○			子供たちや事業に関わる全ての人がいきいきと輝くことができる人づくり	83
78	滋賀県	長浜市	地域とともにある学校づくりの推進					○	できることを できるときに できることから 様々な学校支援への取組 ～志の集まる学校へ～	84
79	京都府	京都市	洛央小学校学校運営協議会 (洛央いきいきコミュニティ)					○	『学校・家庭・地域の協働による温かい学びの創造』 洛央いきいきコミュニティ	85
80			嵯峨小学校放課後まなび教室			○			地域の力で子供たちのまなびを支援 —自学自習の習慣や学力の定着を図る—	86
81		城陽市	西城陽中学校学校支援地域本部	○	○				支援者をうまくコーディネートして学校のニーズに応じた地域学校協働活動を実施しています。	87
82		京丹波町	竹野活性化委員会 竹野小学校学校支援活動	○					地域とともに歩む竹野小学校 ～竹野活性化委員会との連携～	88
83		長岡京市	長三小校区すくすく教室			○			地域人材を活用した魅力ある実戦に向けて	89
84	大阪府	大阪市	柏里小学校「いきいき」活動			○			異学年の子供同士が認め励ましあって活動する教育環境作りに主眼を置き活動	90
85			大空小学校「いきいき」活動			○			みんなでつくる楽しい活動	91
86		茨木市	茨木小学校区放課後子ども教室			○			地域全体で子供たちにとって安全・安心な居場所作り	92
87		門真市	門真市立第七中学校区学校支援協議会	○					顔の見える関係作りを！ —つながりあう未来のために—	93
88	兵庫県	西宮市	西宮市教育連携協議会	○					熟議を通して、学校・地域・家庭が連携・協働し活動する西宮の教育連携協議会	94
89		伊丹市	伊丹市学校支援活動	○	○				伊丹市内全域で学校支援ボランティアが学校を舞台に活躍中！！	95
90	奈良市	奈良市	平城西中学校区地域教育協議会	○					地域・学校園・各種団体の協働による次世代の地域防災を担う子供の育成	96
91		大和郡山市	平和小学校コミュニティ	○		○			「地域の中で笑顔輝く平和っこ」の育成を目指してつながる学校と地域	97
92		五條市	五條小学校コミュニティ協議会	○		○		○	地域と子供が双方向につながる学校コミュニティづくり	98
93				奈良県立榛生昇陽高等学校	○					地域と共生・共同、地域に根ざした学校作り
94	和歌山県	田辺市	西部地域学社融合推進協議会	○					学校・家庭・地域が一体で、子育てや地域づくりを推進する学卒融合事業	100
95	島根県	松江市	ちくや子ども広場			○			「みんな竹矢の子」プロジェクト	101

No.	都道府県市名	市区町村名	活動名または学校名	活動区分					こんな活動です！	ページ
				学校支援	未来塾	放課後	土曜	CS		
96		新庄村	新庄村学校支援地域本部	○		○	○		ふるさと学習支援！ 「心豊かにたくましく生きる 新庄っ子」	102
97	岡山県	玉野市	玉野市地域子ども楽級			○			地域が子供を元気にし、元気な子供が地域を活性化 する！	103
98		備前市	伊里学園支援地域協議会	○			○		地域活性化にも寄与！学校・地域が連携・協働し子 供の育ちを支援	104
99	広島県	広島市	広島市立二葉中学校 学校協力者会議	○	○				まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト ～まちぐるみで子供の健やかな成長を図る！～	105
100		廿日市市	阿品台中学校区学校支援地域本部	○		○			2つのコミュニティと3つの学校が連携・協働し地 域全体で子供を育てる取組	106
101		北広島町	千代田地域学校支援連絡協議会	○					児童生徒が安心安全な学校生活を送るための地域ボ ランティアによる支援	107
102		庄原市	総領自治振興区子供事業（教育プロジェ クト事業）			○			学校、家庭、地元が一体となって、子供の育ちを応 援	108
103	岩国市	地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた 子どもの育成～あったかネットの取組～	○				○		地域ぐるみで子供を見守り育てる「あったかネット」	109
104	山口県	宇部市	上宇部中学校学校運営協議会					○	元気な学校、活力ある地域づくり ～地域貢献の充実～	110
105		柳井市	「行きたくなる学校づくり」をめざしたコ ミュニティ・スクールの活動	○	○	○		○	「行きたくなる学校」に！ ～学校・家庭・地域が一体となって育む柳東っ子～	111
106	徳島県	阿南市	阿南第一中学校区学校支援地域本部	○					地域の宝である子供を育む地域ぐるみの学校支援活 動	112
107		三好市	三好市楽しく学ぶ英語教室・絵画教室				○		地域の教育力を生かした「三好市楽しく学ぶ英語教 室・絵画教室」	113
108		つるぎ町	つるぎ町未来塾	○	○				学校・家庭・地域が連携・協働し、地域の宝である 子供を育む学習支援活動	114
109	香川県	高松市	新番丁小学校サポート協議会	○		○			子供や学校のために何かしたいという気持ちと学校 のニーズをつなぐ活動	115
110		丸亀市	放課後子供教室 どっきん☆くらぶ			○			共に遊び合い、学び合い、楽しい時間を過ごす子供 の「居場所」	116
111		三豊市	高瀬の学び舎			○			夏休みに体験活動！地域の方に教わりながら、一緒 に楽しく学びます。	117
112	愛媛県	西条市	たちばな愛ちゃん教室			○			橘っ子は橘で育てる 一礼節をわきまえ創造力豊かな子供にー	118
113		今治市	宮窪放課後子ども教室			○			地域の子供は地域で育てる	119
114	高知県	南国市	奈路小学校放課後子ども教室			○		○	地域の未来をになう子どもを育てる ～なるっこはみんなの宝物～	120
115		土佐市	蓮池小学校支援地域本部	○					「輝け 蓮池の子！」地域は蓮池の子の応援団	121
116	福岡県	篠栗町	篠栗小校区づくり実行委員会	○			○		経験を生かして、子供のために、誰かのために、私 のために。	122
117		春日市	日の出小学校学校運営協議会			○	○	○	わ 一学校と家庭と地域が輪となり、和み合うようにー	123
118		宗像市	正助さんの寺子屋			○			正助さんの寺子屋事業では放課後の学習会やスポー ツ体験教室等を行っています。	124
119	長崎県	佐世保市	吉井南小放課後子ども教室			○			学校と地域が連携・融合し、吉井町の人づくり、地 域づくりに資する	125
120		対馬市	地域で子育てを楽しむ会				○		こどもたちいらっしゃい！おとなもらっしゃい！	126
121		壱岐市	白砂の会			○			筒城の子供は筒城で育てる	127
122		佐々町	口石小学校学校支援会議	○					子供は地域から支えられ、地域は子供から元気をも らう共育活動	128
123	熊本県	荒尾市	荒尾第一小学校学校運営協議会					○	子供をお客さんにしない！ ー地域教育力を活かし、地域に貢献するCSー	129
124		人吉市	人吉市学校支援地域本部事業	○					支え、見守り、育てる、地域の力 「われら人よし 活き域 学校応援団」	130
125		菊池市	泗水西小学校運営協議会					○	学校・家庭・地域が一体となり、「田島っ子」の健や かな成長を目指して	131

No.	都道府県市名	市区町村名	活動名または学校名	活動区分					こんな活動です！	ページ
				学校支援	未来塾	放課後	土曜	CS		
126	大分県	国東市	安岐地域ネットワーク	○		○	○	○	教室から飛びだそう！見て、触って、作る、生活の知恵体験中。	132
127		豊後高田市	「真玉きらきらコミュニティ」 —地域の“応援団”を味方にして—	○			○	○	「真玉きらきらコミュニティ」 —地域の“応援団”を味方にして—	133
128	宮崎県	都城市	祝吉地区子どもふれあい教室			○			体験活動や交流活動を核とした放課後子供教室！	134
129		日向市	魚っ子クラブ放課後子ども教室			○			子どもの元気が地域の元気に！地域総ぐるみによる放課後子供教室支援	135
130		日南市	飫肥地区学校支援地域本部	○					地域の歴史を大切に！観光地ならではの学校支援活動	136
131	鹿児島県	鹿児島市	学校支援ボランティア事業八幡小学校	○					地域住民や企業などの多様な主体が参画する学校支援活動	137
132		垂水市	たるみず学校応援団	○					地域全体で子供を守り育てる環境づくり	138
133		鹿屋市	かのや学校応援団 吾平地域学校支援本部	○					学校支援ボランティアの活用による地域の伝統芸能活動の継承	139
134	沖縄県	沖縄市	室川小学校支援地域本部	○		○		○	地域の子は地域で育てる「室川っ子応援団」ひやみかち隊	140
135		沖縄市	美原小学校支援地域本部	○		○		○	地域と連携・協働し学校・子供たちを支援する活動	141

参 考 資 料

「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰要項 144

こんな活動です

地域資源をフル活用した学校支援活動

北海道占冠村

活動名

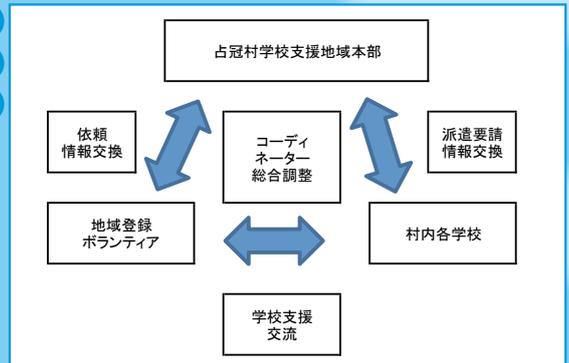
占冠村学校支援地域本部

関係する学校名

占冠中央小学校・占冠中学校・トママ小中学校

基本データ	学校支援活動	統計コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		3人	71人	有	20年度	有	無	無	無
	地域未来塾	統計コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統計コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所			学習支援	放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統計コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	
	平成 26 年 5 月 1 日					11 人	31 人	4 学級	

体制図



活動の概要・経緯

地域に根差した子供の健全な成長を地域全体で見守り、支援していくため、地域、学校、家庭が一体となって連携・協働して、占冠村学校支援地域本部を組織し、より効果的な子供の学びへの支援が行われている。

また、平成 26 年 5 月から占冠中央小学校がコミュニティ・スクールに指定され、より地域に開かれた学校となり、学校と地域との連携・協働が深まったことで、さらに地域に密着した学校運営が行われている。(平成 28 年 5 月から占冠中学校、トママ小中学校もコミュニティ・スクールに指定された。)

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

特徴的な活動内容としては、「地域資源をフル活用」している点である。平成 27 年度において、「ボランティア人材バンク」を作成し、71 名の方（H 28.3 現在）が登録している。この人材バンクを活用し、学校からの支援要請やボランティアからの自発的な活動をコーディネーターが総合的に調整し、連携・協働を図っている。

地域に密着した支援として、①地域の伝統的な山菜料理を指導する際に、ボランティアが児童生徒と一緒に森林に行き、山菜の種類や山菜の採り方なども指導、②「占冠音頭」を伝承し、運動会において地域住民と一緒に披露、③伝統文化の継承と世代間交流、そして地域を知り、学び、地域愛を育む取組の実施、④食育の一環で地場産野菜を使った漬物教室、学童農園での野菜の育て方、秋には地域住民を学校に招待し、子供たちが作った料理をふるまう収穫祭の開催等を行っている。

また、学校と連携・協働し、ボランティアへの情報発信を行うことで、着物の着付け教室、放課後の見守り、楽器合奏指導、読み聞かせ、学校周辺の環境整備、部活動の支援、スキー教室指導、スキー大会のスタッフ等、ボランティアの自発的な活動を促進している。

【実施に当たっての工夫】

学校と綿密な情報共有を行い、「ボランティア人材バンク」、ボランティア間・地域住民の人的ネットワークを有効に活用を図るとともに、学校とボランティア相互のニーズを把握し、地域ぐるみでの学校支援となるよう配慮している。また、年度末に成果報告会を実施し、活動の成果を発信している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・子供の学びを地域が支援することにより、学校への理解が深まり、地域住民の中で「地域の中の学校」という意識に変わっている。
- ・学校と地域が連携・協働することで、地域に開かれた学校運営となり、多くの地域住民が関わり、地域全体で子供の学びを支援するという環境が醸成されている。
- ・地域資源をフル活用することで、地域を学び、地域愛を育むことができるような学校支援が行われている。
- ・地域ぐるみでの学校運営の必要性が認識され、村内すべての小中学校がコミュニティ・スクールに指定された。

● その他

楽器合奏指導支援、スキー指導支援、山菜料理学習支援、占冠音頭学習支援、漬物指導支援、学童農園栽培活動支援、陶芸指導支援



小学生への「占冠音頭」指導



中学生への山菜料理指導

こんな活動です

地域に学び、地域で育ち、地域に生きる子供を育てる活動

北海道帯広市

活動名

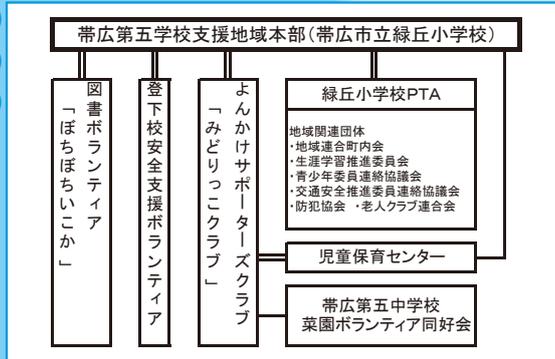
帯広第五学校支援地域本部緑丘小学校

関係する学校名

緑丘小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 2人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 164人	学習支援 有	開始年度 25年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 50人	子供の平均参加人数 43日	年間開催日数 19年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	放課後子供教室	実施場所 緑丘小学校 学習室、図書室、多目的室、体育館		学習支援 有	放課後児童クラブとの連携 一体型				
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 45人	学習支援 無	開始年度 19年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	コミュニティ・スクール	指定日		委員数		児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯
平成19年に帯広市の事業として放課後子供教室が始まり、平成20年には、「よんかけサポーターズクラブ」を立ち上げ、「みどりっこクラブ」という名称で、放課後における子供の体験活動等の場を提供している。平成25年に帯広第五学校支援地域本部緑丘小学校がスタートし、コーディネーターを中心に、地域の団体やボランティアと連携・協働する体制を構築し、地域全体を巻き込んだ子育て環境を作り出している。活動内容は、放課後の学習支援や遊び、図書の読み聞かせや蔵書管理、登下校時の安全指導、土曜日や長期休業中などにおける体験的な学習、地域全体を巻き込んだイベントの実施など、多岐にわたっている。

活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 「みどりっこクラブ」
・放課後子供教室では、放課後の詩吟寺子屋教室（詩吟、書道、英会話）、自由遊びを中心に、子供がのびのびと過ごすことのできる活動を心がけている。クリスマスやハロウィンといった季節の行事や、タグラグビー教室、防災教室など多様な活動を展開している。
- 図書ボランティア「ぼちぼちいこか」
・火曜日と木曜日を中心とした朝・昼の読み聞かせ活動をはじめ、手作りの飾りによる図書室の整備や図書整理など、読書環境の育成に努めている。
- 登下校見守り活動
・児童の登下校支援ボランティアを中心に、地域連合町内会、交通安全推進委員、PTAと協力し、登下校の見守りと指導を行っている。
- 関係団体の連携・協働
・「みどりっこ夏祭り（よんかけサポーターズクラブ主催、8月）」「子どもフェスティバル（PTA主催、11月）」「ウィンターフェスティバル（青少年委員連絡協議会主催、1月開催）」といった行事に、関連団体が継続的に連携・協働し、大きなイベントに育て上げている。

【実施に当たっての工夫】

- 緑小関連団体会議の開催
・子供に関わる地域団体の代表者で定期的に会合を開き、連携・協働を確認している。
- 「緑小・五中フォーラム」の実施
・子供に関わる地域団体の代表者によるシンポジウムを行い、保護者や地域の方に活動を理解していただくとともに、支援の拡大を図っている。

事業を実施しての効果・成果

- ・地域の事情に精通したコーディネーターが学校を中心に様々な団体が連携・協働するネットワークの中心となることにより、学校の中だけでは得られない体験的な学びの機会を様々な増やし、子供たちの健全育成に大きく寄与している。
- ・「地域のみんなで子供を育てる」を目標に、関係団体が連携・協働することにより、地域老人クラブ連合会や校区中学校にも及ぶなど、活動の輪が広範囲に広がっている。

その他

- 学校支援地域本部では、長期休業中に国語・算数を中心とした補充的な学習、放課後子供教室「みどりっこクラブ」で、平日（月曜日放課後）の活動「みどりっこ寺子屋」において、詩吟・書道・英語教室



親子防災教室



冬休み寺子屋

こんな活動です

地域の伝統・文化・産業、スポーツを体験的に学ぶ機会としての土曜授業

北海道栗山町

活動名

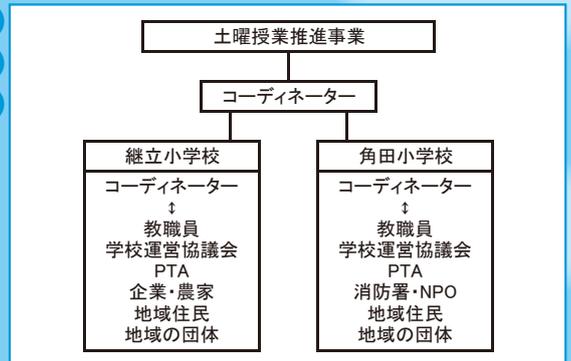
土曜授業推進事業

関係する学校名

角田小学校・継立小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所			学習支援	放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	1人	14人	50人	無	26年度	有	無	有	
	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要 栗山町が目指す「伝える力・伝え合う力・かかわりあう力の育成」の実現のためには、学校における教育活動はもとより、土曜日において、学校・家庭・地域が連携・協働した体験活動の機会が必要であるとの考えから、平成26年から継立小学校と角田小学校の子供たちを対象に、「土曜授業推進事業」を立ち上げた。事業は年8～10回程度で、保護者・地域住民・企業等と連携・協働した体験的な活動を、教育課程にも位置づけた「土曜授業」として実施している。また、両校は平成28年4月1日からコミュニティ・スクールの指定を受けており、学校運営協議会での協議に基づいて活動が行われている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・継立小学校：アスファルト工場、トマト・メロン農家、牛・鶏などの酪農家等と連携・協働を図り、地域の産業に関わる見学や体験などキャリア教育を推進している。
- ・角田小学校：スポーツテストや水泳教室などの体力向上に向けた取組や、防災・防災教室、収穫感謝祭、ふれあい発表会、冬の遊び体験などによる交流など、保護者や地域の方々が参画しやすい活動を推進している。

【実施に当たっての工夫】

- ・学校、家庭、地域、教育委員会のすべての大人が役割分担し、それぞれのスキルを活かした取組になるようにしている。
- ・子供たちがふるさと栗山を知ったり、地域の方々と関わることの楽しさを味わったりできるような活動を意識している。
- ・実施の際には、地域住民や保護者に対し、教育課程上のねらいを理解してもらえるよう努めている。
- ・「伝える」「かかわりあう」ことを大切にし、地域住民や保護者が子供に積極的に関わるようにしている。
- ・学校運営協議会での協議を踏まえた活動を行うとともに、積極的に協議会委員が講師を務めるようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・子供たちが身近なものについて体験的に詳しく学習することにより、興味や関心が増し、日常の教育活動においても意欲的に活動するとともに、地域をより近くに感じ「ふるさと」を実感している。
- ・地域の協力を得ることにより、地域住民の学校への関心が強くなっており、学校に協力しようという体制が整備された。

● その他

- ・共立道路（株） ・ 斎藤農場 ・ 片山農場 ・ 日原メロン ・ 酒井養鶏場 ・ ハロー-enjoy ・ NPO 雨煙別学校 ・ 育成会



収穫感謝祭の様子



冬の遊び体験

青森県八戸市

活動名

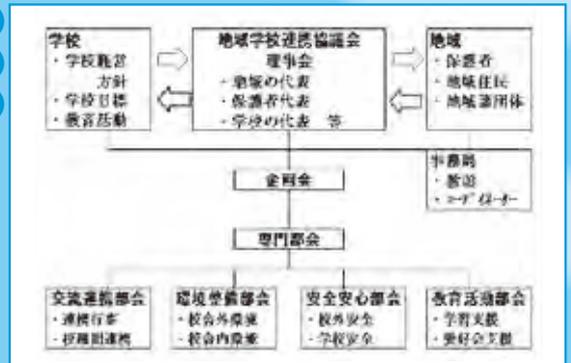
八戸市立柏崎小学校地域密着型教育

関係する学校名

柏崎小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 3人	ボランティア登録数 40人	学習支援 無	開始年度 20年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯

平成20年度に八戸市教育委員会より地域密着型教育推進事業モデル校の指定（2年間）を受け、地域密着型教育を推進して9年目を迎える。

学校内に、地域学校連携協議会（地域の代表11人、保護者代表4人、学校代表4人）を設置し、地域密着型教育における取組計画や取組についての意見・要望等、学校目標・重点施策にかかる自己評価の説明や各専門部会の取組状況、学校支援ボランティア活動の現状と今後、来年度の学校運営等について協議している。そして、4つの専門部会（地域住民、保護者、教職員から構成）により、学校目標達成のための具体的・実践的な活動を行っている。

また、地域コーディネーター（3名）と教頭が事務局を担うことで、地域と学校が連携・協働して企画調整を図り、より充実した連携・協働した活動となっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 1 教育活動部会
 - ・「朝の読み聞かせ」…月2回、読み聞かせボランティア「かしわ お話のたまご」のメンバーが、絵本等の読み聞かせをしている。本との出会いを創る活動となっている。
 - ・「愛好会支援」…「地域密着型教育」の趣旨を踏まえ、教職員・保護者・外部指導者が協働して、スポーツ・文化活動（部活動）をととして児童の健全育成を図っている。外部人材を活用した活発な活動が継続的に行われている。
- 2 安全安心部会
 - ・「校外子ども会・集団下校訓練」…「校外子ども会」は、町内の子供会ではなく、学校が地域と一緒に校外での生活指導を目的に、町内ごとに組織している会である。各町内会長、公民館長、地区の関係諸団体の代表、そして交番所長が参加し、具体的に安全指導や町内会の行事紹介をしている。また、緊急時に備えての集団下校訓練（児童の安全確保）も実施している。
- 3 交流連携部会
 - ・「柏崎地区区民運動会」…地区の体育振興会と学校と一緒に開催している（今年で68回目）。全校児童が町内毎に分かれて参加している。

【実施に当たっての工夫】

- 1 地域との連携・協働を深めるために、コーディネーターが地域の関係団体や人材等に係わる情報収集に努めるとともに、連携だよりを作成・発行し、学校だよりやPTA広報誌とともに全町内会で回覧し、活動への理解を深めてもらうようにしている。
- 2 各専門部会の活動では、地域と学校の架け橋であるPTAが、地域住民のボランティア募集や活動の推進において中心となって事業を進め、大きな役割を担っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・「共に育て、共に育つ」の考え方が浸透し、「ボランティア」に参加する保護者・地域の方々・教職員・児童が増え、「みんなの学校」という意識が高まってきている。
- ・「校外子ども会・集団下校訓練」等に参加する地域の方々が増え、児童と顔見知りになり、児童と地域の方々がつながってきている。
- ・地域の方々の協力による教育活動への支援により、安全に、継続的に多くの体験的な学習を行うことができています。
- ・地域への愛着が強まり、児童のまちづくりへの意識が高まる。家庭や地域へ「あいさつの輪を広める」児童会活動や、地域行事への参加など、自主的に実践されている。



入学祝としてすてきなプレゼント、最初の「読み聞かせ」



地域の方々、保護者に見守られての「集団下校訓練」

こんな活動です

子供が輝き、地域をつなぐコミュニティーネットワークの活用

青森県黒石市

活動名

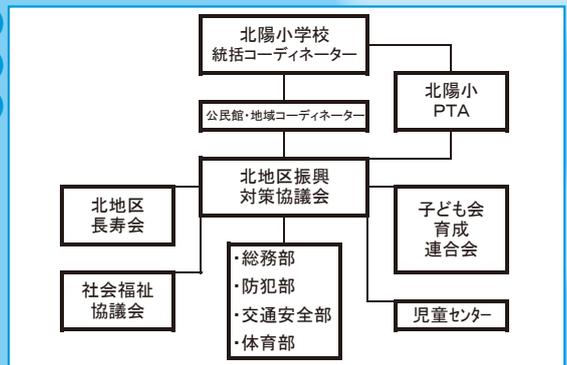
北陽小学校支援事業

関係する学校名

北陽小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	1人	2人	40人	無	13年度	無	無	無
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数
	実施場所		放課後児童クラブとの連携						

体制図



- 活動の概要・経緯**
- 北陽小学校のある黒石市北地区は、学校、公民館、社会福祉協議会、児童センター、保育園が地区の中心地に全て隣接している。
 - 子ども会育成会と北陽小 PTA、北地区の中枢組織である北地区振興対策協議会の各メンバーが系統的・長期的な活動を行っていることに加え、北地区振興対策協議会の事務局でもある公民館職員が地域コーディネーターを担っており、学校と連携・協働しながら多くの地域住民の参画を得て、様々な教育活動を支援している。
 - 平成 13 年度からは、「学校行事を通して地区のつながりを深め、活性化させる」ことをねらいに、北地区振興対策協議会と学校・PTA と共催の形で運動会を北地区合同運動会、学習発表会を北地区総合文化祭として企画・運営することにより、地区住民がより一層教育活動に関わるようになった。

● 活動の特徴・工夫 ●

【特徴的な活動内容】

- 地区合同運動会は地域住民が参加する種目も多く、地区総合文化祭は小学校児童の学習発表を中心としながらも、隣接する保育園児童や地域住民も数多く出演している。また、伝統的に続く餅つき大会の準備と運営、地域の方々が製作した工芸品等の展示も行われている。
- 避難訓練は公民館を中心とした地域防災組織と連動し、交通安全教室は地域住民、保護者が学区内に立ち、指導に当たっている。また、北地区振興対策協議会、PTA、教職員が合同で学区の危険箇所の点検を行うとともに、長期休業中には、防犯のための学区巡視を行っている他、あいさつ・声かけ運動も合同実施している。
- 地域交流クラブ活動は、地区住民を講師としてクラブ活動を実施し、交流を深めている。また、19年間続けられている川柳教室は地域の方を招いての川柳作りを行っている。作品コンクールの出品手配作業も行い、入選作品は校内展示用に色紙に書いてくれている。

【実施に当たっての工夫】

- 小学校と地域コーディネーターのいる中郷公民館は隣接しており、相互に行き来して月に数回程度、情報交換及び打合せを行っている。また、公民館には北地区振興対策協議会と社会福祉協議会、子ども会育成連合会の事務局も置かれているため、地域や学校の要望を相互共有しながら進めている。
- 活動に関する情報発信として、学校だよりの全戸配付をおこなっている他、ホームページは月ごとにブログは2～3日ごとに更新し、地域住民や保護者の理解と協力を呼びかけている。

● 事業を実施しての効果・成果 ●

- 北地区振興対策協議会が学校や子供を地域の中心に据えた「つながりづくり」を進めてきたことにより、学校が地域の中心的役割を果たし、保護者や地域の方が学校支援ボランティアに対しての理解・協力が十分である。
- 従来の学習支援はもちろん、様々な学校行事を通して保護者以外の大人（教育サポーターや地域コーディネーター等）と関わる機会が多く、社会性を育むと同時に、地域に見守られている安心感から生徒指導上の問題がほとんど見られず、落ち着いた学校生活を送ることができている。
- 活動の様子を掲載したお便り、ホームページ、ブログで情報発信することにより、ボランティア活動についての地域への周知だけでなく、ボランティアの次の活動への意欲付けにもつながっている。



北地区合同運動会



川柳出前教室

こんな活動です

学校・家庭・地域の協働！！地域ぐるみで子供を育むための仕組みづくり

青森県中泊町

活動名

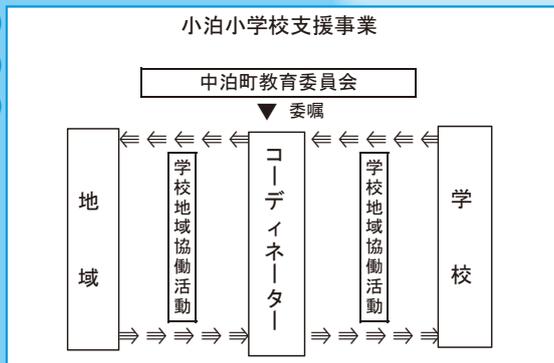
小泊小学校学校支援事業

関係する学校名

小泊小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 23人	学習支援 有	開始年度 25年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 5人	年間開催日数 20日	開始年度 19年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		中泊町立小泊小学校体育館等		無	連携型					
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



【学校支援活動】

平成 25 年度に国庫補助事業としてスタートした。町教育委員会の委嘱によりコーディネーターが 1 名配置され、学校と地域をうまく結びつけ、協働活動を推進している。コーディネーターが地域の実情に大変詳しいので、学校のニーズに的確に対応し、多くの地域住民が参加して活動している。活動内容も、地域人材や地域資源を生かし、充実している。

【放課後子ども教室】

平成 19 年度にスタートし、10 年目を迎えている。町教育委員会職員がコーディネーターを担い、年間 20 回開設（概ね土曜日で月 2 回）している。放課後児童クラブとも連携・協働し、年 4 回、子供が喜ぶ特色ある体験活動を実施している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

【学校支援活動】

- ・小泊漁協との連携・協働し、漁協施設の見学をしている。また、総合的な学習の時間の単元「小泊名人」で漁師さんのお話を聞いたり、小泊漁協婦人部の指導で小泊名産「さざえ」のカレー作りをしたりするなど、地域の人材、資源を活用した学習が継続的に行われている。
- ・ボランティア登録者への依頼だけでなく、学校のニーズに合わせて、地区婦人会などに幅広く声をかけることにより、多くの地域住民がボランティアとして参加し、花壇・畑などの学校環境整備、見守りによる子供の安全確保、読み聞かせ、家庭科のミシンの指導補助など、多様に学校支援活動が行われている。

【放課後子ども教室】

- ・体験教室を企画し、積極的に屋外へも出て、町内外の資源等を活用することにより、普段できない様々な体験活動を行っている。（例：サクランボ狩り体験（つがる市）、なぎなた教室、段ボールピザ作り等）

【実施に当たっての工夫】

- ・学校側（教頭）とコーディネーターとの打合せの機会を日常的にとり、学校のニーズに合った学校支援活動が行われている。また、コーディネーターと教職員と地域住民（ボランティア）との連携・協働も日常的に図られ、アットホームな雰囲気の中で活動が行われている。
- ・学校支援活動をする地域住民が活動の喜びを感じることができるよう、成果等を学校だより等で地域住民に発信している。
- ・活動の継続性につながるよう、こまめに活動の記録を残している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・学校と地域の窓口をコーディネーターに一本化することで、学校・家庭・地域の連絡調整が的確かつ迅速になり、それが学校支援活動の充実につながっている。支援してくれる地域住民にはお年寄りの方が多く、活動の様子から、その方々にとっても学校支援活動する楽しさ、子供とふれあう喜びを感じていることがわかる。
- ・小泊漁協と連携・協働していることで、支援してくれる人材を確保しやすくするとともに、学校支援活動の継続性にもつながっている。
- ・多くの地域住民が学校のニーズに合った学校支援に参画していくことで、学校と地域の結びつきが深まり、学校を核とした地域づくりが進んできている。



サクランボ狩り



「小泊名人」のお話

こんな活動です

異学年交流や地域の方とのコミュニケーションで、子供たちの社会性を育む

岩手県盛岡市

活動名

繫小学校放課後子ども教室

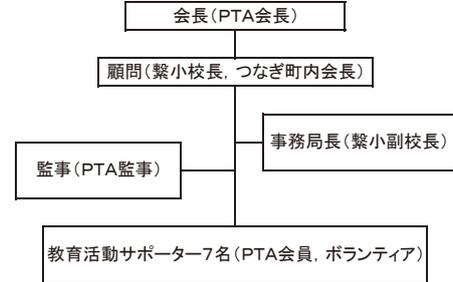
関係する学校名

繫小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		1人	0人	15人	169日	20年度	有	無	無	
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携					
	繫小学校図書室		有		連携なし					
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図

盛岡市では、放課後子どもプラン推進のため、子ども教室を設置している小学校区に運営委員会を設置している。繫小学校区では「繫小学校放課後子ども教室推進委員会」を組織



活動の概要
 学校施設の図書室・校庭を利用し、幼児・児童が放課後の時間を過ごしている。繫小学校のPTA会長が、放課後子ども教室の会長を兼務しており、PTAが本会を全面的に後押ししている形で運営されている。また、顧問を繫小学校の校長・つなぎ町内会長が務め、学校の立場や地域の立場からの意見を広く受け入れたり、協力を得たりしやすい体制も整っている。放課後子ども教室は、地域から放課後に子供たちが一緒に過ごす場所設置への要望の声が高まり、教育委員会の協力を得ながら発起へと至った。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ①活動場所が、小学校校舎内の図書室・校庭である。
- ②PTA会長が放課後子ども教室の会長を兼務しており、PTAとしての協力体制が基盤としてある。
- ③小学生は、全員放課後子ども教室に在籍している。
- ④事務局長を小学校副校長が務めており、学校行事との兼ね合いを考慮した運営が行われやすいこと。また、中学生を含めた異学年交流を実施しており、子供たちの社会性を育むことができている。
- ⑤PTA及び地域の方（町内会の児童委員等）が教育活動サポーターとして活躍している。

【実施に当たっての工夫】

- ①年度当初に関係保護者を全員集め、運営についての共通理解を図っている。
- ②毎月1回、全教育活動サポーター・事務局長による合同会議を開き、運営についての情報交換や翌月の計画についての確認を行い、スムーズな運営となるようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ①幼児、児童には、安全な広い場所が保障されており、保護者は安心して子供を預けることができている。
- ②異学年の児童と一緒に活動することで、人間関係について多くのことを学ぶ機会となっている。
- ③運営にあたっているサポーターが地域住民であるため、子ども教室を通じて地域の子供たちを日常的に見守ることで、町内会や子ども会活動の充実にも繋がっている。



「宿題（教えあい）の様子」



「読書の様子」

岩手県宮古市

活動名

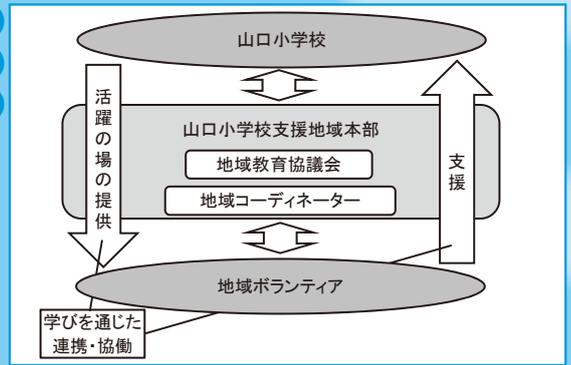
山口小学校支援地域本部

関係する学校名

山口小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 60人	学習支援 有	開始年度 20年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有	
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
	土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯

- 平成20年度に市内で先頭を切って学校支援地域本部事業を開始し、平成28年度で9年目を迎えた。
- 子供の安全確保や学習等の支援に、地域の人材や学習材を取り入れ、地域の特色を活かした活動を展開している。
- NPO等と連携・協働を図り新たな企画に取り組みなど、活動に広がりや深まりを生み出している。
- 平成26年度「優れた『地域による学校支援活動』推進にかかる文部科学大臣表彰」受賞後も、その活動を発展させ幅広く取り組んでいる。

《主な活動内容》

学習支援活動（体力測定補助、野菜作り等）、部活動支援、環境整備（草取り、プール整備、学校林整備等）、子供の安全確保（登下校安全指導）、学校行事等の支援（運動会、マラソン大会補助）、その他（ふれあい教室《生け花、お茶、英語》、読み聞かせ、伝統芸能指導等）

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 様々な体験の場として放課後に実施している「ふれあい教室」において、平成27年度は、新たにNPO法人スクール・アドバイズ・ネットワークの協力のもと、身体を動かしながら英語を学ぶ「えいごであそぼう」を低学年向けに実施した。
- 平成28年度の「ふれあい教室」では、公益財団法人日本数学検定協会の協力のもと、長さや速さを体感的に学ぶ「さんすう体感プログラム」を予定している。
- 地域の方による季節の生け花が校舎内に置かれており、環境整備と同時に情操教育の役割も果たしている。
- 図書ボランティアによる読み聞かせが月に2、3回実施されるなど、支援活動が定着している。
- 平成27年度は、スクールバンドの練習を保護者（吹奏楽経験者等）が補助しており、教員の負担軽減と共に細かな指導にも寄与している。

【実施に当たっての工夫】

- 民間組織と連携・協働した活動を行う場合は、継続的に地域ボランティアだけでも活動を実施できるよう、地域の方をスタッフとして養成し、スタッフが中心となって実施する体制としている。
- 児童数の減少に伴う保護者数の減少により、PTA活動やボランティア活動への参加者数が増えにくい状況にあって、「小物作り」や「読み聞かせセミナー」など、保護者をはじめ地域の方の興味を引くような活動を実施し、「学校へ行こう」と思うきっかけ作りを積極的に行っている。
- 自治会やスーパー、公民館等の協力のもと、およそ70箇所に「活動だより」を掲示し、活動の周知と共にボランティアの募集等を行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 読み聞かせ等継続的に実施している活動は、ボランティアが組織化され、自主的に学校と連携・協働する体制が構築されている。
- 地域の方と日常的に関わりを持つことで、子供達が校外でも地域の方に挨拶を行う姿が見られるようになった。
- 地域の方を講師として学び、運動会等で発表を行う伝統芸能「黒森神楽」の伝承活動について、以前は高学年だけの取り組みであったものから、ボランティアの協力により全校児童での活動に拡大されるなど、地域の文化・伝統を学ぶ機会をより充実させることができた。
- 伝承活動の発表等は、地域の方にとっても地域の文化・伝統を再確認できる機会となっており、地域の活性化にも寄与している。

● その他

- NPO法人スクール・アドバイズ・ネットワークと連携・協働し英語の学習支援活動を行っているほか、公益財団法人日本数学検定協会と連携・協働した算数の学習支援活動を予定している。
- 定期的な学習支援として家庭科の演習補助、体力テスト補助、総合的な学習の時間支援等を実施している。



日頃お世話になっているボランティアへ感謝状の贈呈



ふれあい教室（ちぎり絵）の様子

こんな活動です

子供の安心できる居場所、豊かな体験、地域づくり！

岩手県平泉町

活動名

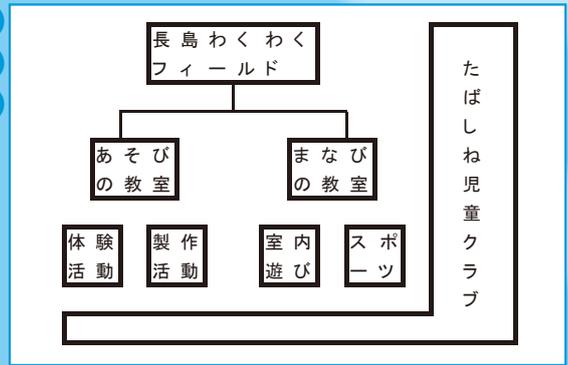
長島わくわくフィールド

関係する学校名

長島小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	0人	1人	41人	53日	19年度	有	無	有	
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				
	体育館、多目的ホール、和室、特別教室		無		連携型				
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	0人	1人	4人	無	19年度	有	無	無	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯

平成19年度より、毎週月・木曜日の2回、放課後の午後2時から午後4時まで、学校の体育館や特別教室、多目的ホールなどを利用して、スポーツ活動や創作活動などを実施している。主に、月曜日を「まなびの教室」、木曜日を「あそびの教室」として、放課後子供教室参加希望児童を対象に実施している。また、土曜日は町公民館を中心に自然体験や創作活動などの体験活動も行っている。

「あそびの教室」では、ドッジボールやバトミントン、縄跳び、鬼ごっこなど、低学年から高学年まで一緒に活動している。「まなびの教室」では、将棋やオセロ、昔遊びなど自由な活動を行い、また、季節ごとの創作活動としてクッキングや茶道、クリスマスリース作り、夢あかり作りなどを行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

子供たちは、活動日は直接学校から活動場所の体育館や特別教室に向かい活動を始めるが、児童クラブ「たばしね児童クラブ」に入所している子も、一度児童クラブに学習道具等を置き、指導員の方にわくわくフィールドに参加する旨伝えてから活動している。

活動場所は学校の体育館や特別教室等を利用しているが、学校側との共通理解や意思疎通も図られ、毎回の活動時には学校教諭や校長が活動を見学に来て子供たちの活動の様子を見ている。

【実施に当たっての工夫】

わくわくフィールドは、基本的に子供たちが自主的に自由に参加することができる活動であるが、活動を始める前には必ず参加記録簿にチェックをし、学習アドバイザーや活動ボランティアに声をかけてから始める。活動が終わる、又は途中で帰る際にもアドバイザーに必ず声をかけ、活動記録簿に帰宅のチェックをしてから帰るようにしており、子供の所在がはっきりわかるようにしている。

また、「まなびの教室」では学習アドバイザーに指導いただきながらテーマに沿って活動し、「あそびの教室」では活動ボランティアと一緒に体を動かしながら活動しており、子供たちは地域の方々に見守られ育てられているという意識や安心感を抱くことができるため、地域間交流や世代間交流も図られている。

● 事業を実施しての効果・成果

活動が長年継続して行われており、地域の方々の協力を得ながら安全な活動が確保されている。また、地域のボランティアも活動に参加することを楽しみにしており、季節ごとの創作活動や体験活動も実施することで、多くのボランティアの方々に携ってもらえることができている。地域のつながりが希薄化していると言われる現代社会において、子供たちにとっては、この活動を通じて地域の大人との関わりを持つきっかけとなり、世代を越えて一緒に活動することの楽しさや日常生活での安心感が生まれ、子供たちは地域の方々への感謝の気持ちが醸成されている。



体育館でボランティアの方々と一緒に体を動かす子供たち



地域の方に折り紙を教わっている子供たち

こんな活動です

子供が輝けば地域も輝く - 子供の居場所づくりから地域のつながりへ -

岩手県釜石市

活動名

鵜住居子どもひろば

関係する学校名

鵜住居小学校・栗林小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	9.3人	102日	19年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		仮設団地談話室(集会室)		無	連携型					
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図

【平成28年4月1日現在】
国庫委託「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」を活用し、釜石市が「一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校」に一部業務を請け負わせる形で実施。

- 釜石市(所管:教育委員会事務局生涯学習文化課)
↓ 一部業務請負
- 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
(選任・受け入れ)
 - ・地域コーディネーター(1名)
 - ・教育活動サポーター(3名)
 - ・ボランティア(適宜)
- (業務)
 - ・仮設住宅がある区域での安心安全な居場所づくり
 - ・地域性を生かした多様な体験活動の提供による学びの場の創出

活動の概要
「鵜住居子どもひろば」は、東日本大震災の甚大な被害により平成23年度から休止を余儀なくされ、学校や家庭から再開を求める声があったものの会場や多くの活動者も被災した中での再開は困難な状況にあった。そのような中、地元有志で結成された「一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校」において、仮設住宅等の狭隘な環境等の中でも子供らしく安心して生活を送ることを願い、平成24年度より放課後の居場所づくりを再開し、以後、コミュニティ活性化への寄与とあわせ、子供が企画・立案した「かまっこまつり」の開催や、地域住民の厚意により借用した土地を整備した「森あそび」等、地域との協働による居場所と学びの場づくりの醸成に努めている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

○かまっこまつり

「子供たちがやりたいことをやる！」をテーマに、小中学生が主体となり、お店や遊びを企画・運営するまつりを実施している。(ヨーヨーすくい、スポーツ体験、雑貨屋、飲み物屋等)

○森あそび

地域住民から借用した土地を活用し、木々に囲まれた自然豊かな環境で開放的に遊ぶことができる場(遊具を含む)を整備した。

【実施に当たっての工夫】

仮設住宅での実施当初は、地域住民から子供の遊び声がうるさいとの苦情が寄せられたこともあり、如何にして子供の居場所を地域と共に考え理解を深めていくかを模索していた。こうした中、立場の違いを乗り越えて「子供のため」と大人の力を結集するため、平成25年度に仮設住宅の住民や保護者、専門家、行政等による「子ども安全安心検討委員会」を発足させた。当委員会において、子供の現状と共に、子供と大人が視点を並べて共有体験をする場を設けることが先を見据えた子供のため、地域のためになることを共有したが、これらの過程から生まれたのが「かまっこまつり」であり、「森あそび」の経過とあわせ、先立っての地域とのより良い関係性を築いていたことが根底にある工夫である。

● 事業を実施しての効果・成果

「かまっこまつり」では、使用する通貨や商品、看板の作成、接客の練習に至るまで子供たちが主体となって準備から当日の運営までを行うことにより主体性を育てている。また、多くの地域住民が参加しており、顔が見える関係のもと地域ぐるみで子供を育てる環境の醸成につながっている。「森遊び」では、ひろばのある日は子供から来所するなり「いつ行くの〜？」と声が寄せられる等、自然豊かな環境で遊ぶ子供たちの姿が地域を明るくしているほか、子供たちもまた、広い空間で心や体が開放されることにより、発想力や新しい物事に取り組む力の向上につながっている。また、森は「くりりんのもり」の愛称で、他の子育て支援団体によるイベントが開催される等、地域を超えて親しみがもたれている場となっている。

● その他

2箇所の仮設住宅談話室(集会室)で実施しているが、この内1箇所は集約に伴い平成29年度より場所を変えて実施する(公共施設を予定)。充実した環境で子供との関わりによる地域のつながりの強化を図るとともに、大人の話ではなく、子供もまた復興や地域づくりを担う存在としてより表に立っていくために、当活動の定着・広がりが期待される。



(森あそび)
自然豊かな環境でいきいきと遊ぶ子供たち



(かまっこまつり)
練習を重ね美味しいクレープを焼く子供たち

こんな活動です

小中連携と地域連携の二本柱で、学校と地域の未来を育みます！

宮城県仙台市

活動名

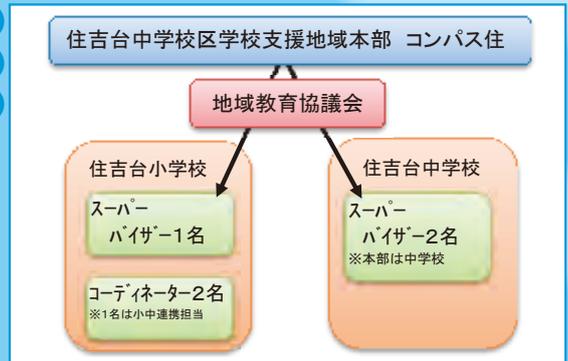
住吉台中学校区学校支援地域本部
コンパス住吉台

関係する学校名

住吉台小学校・住吉台中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 3人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 185人	学習支援 有	開始年度 22年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動の概要 平成22年度に「住吉台中学校区学校支援地域本部」として事業をスタートさせた。平成24年度より小学校からも学校支援地域本部の設置の要請があり、「住吉台中学校区学校支援地域本部」として活動を始め、平成26年度には名称を「コンパス住吉台」に改名している。今年度で7年目を迎える。

経緯 学校支援地域本部の活動を核として、小中連携に積極的に取り組むとともに、保護者、教師、町内会、民生委員など学校と地域住民のネットワークをより強固なものにする活動に取り組んでいる。子供たちに豊かな学習の機会を与えると同時に、学びを通じて地域住民のコミュニティ意識の醸成を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

<住吉台小学校>

- ・1年生の生活・学習サポーターによる授業・給食・掃除のサポート
- ・地域の「オオムラサキを育てる会」によるオオムラサキクラブの指導、3年生への授業
- ・地域ボランティアによる授業支援（3・4年総合学習、5年生米づくり、5・6年生ミシンボランティア）

<住吉台中学校>

- ・地域在住の作曲家とグループホーム管理者を招いての「職業人の話を聞く会」の実施

【実施に当たっての工夫】

- ・スーパーバイザー3名及びコーディネーター2名は、「住吉台中学校区学校支援地域本部コンパス住吉台」に所属している。
- ・小学校担当スーパーバイザー1名、中学校担当スーパーバイザー2名を置き、必要に応じて各担当と連携・協働して取り組んでいる。また、コーディネーターについても、小中どちらにも関わる体制をとることで、臨機応変な対応が可能になると同時に、小中の情報交換もスムーズに行えるように工夫している。
- ・中学生をボランティアとして小学校に派遣し、小学校サマースクール、新体カテスト、地域清掃、夏祭り等のサポートに取り組ませ、小中連携を推進している。

● 事業を実施しての効果・成果

平成22年に事業がスタートしてから今年度で7年目を迎える。子供たちや地域にも学校支援地域本部として浸透しており、コーディネーター（仙台市での呼称は「スーパーバイザー」）は「頼れる人」として広く認識されながら、学校と地域の中継役として活躍している。小学校と中学校が合同で作成する「住吉台行事カレンダー」によって小中連携が推進されたり、地域に関わる方々が広く参加する「しゃべり場ナイト」の開催によって地域住民のコミュニティ意識の醸成につながったりと、コンパス住吉台の活動によって、学校・地域の連携・協働は充実したものになっている。

● その他

（小学校）1年生の学習支援サポート（中学校）全学年・国語書写の指導 9クラスに3時間ずつ・計27時間



5年生米づくりの授業支援



中学校書写・学習支援

こんな活動です

登録ボランティア「ざおうっ子応援団」による地域全体で子供を育てる活動

宮城県蔵王町

活動名

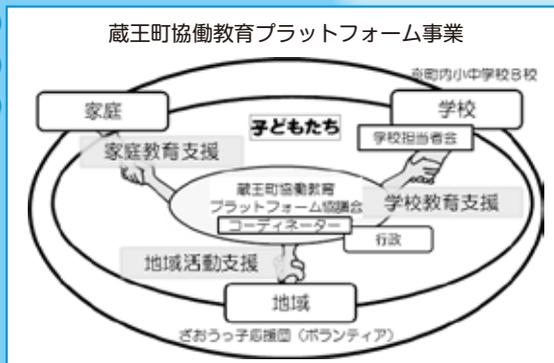
蔵王町協働教育プラットフォーム協議会による活動

関係する学校名

蔵王町立小中学校 全8校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	113人	有	24年度	有	無	有
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



《概要》

- ・ 家庭・地域・学校・行政の連携・協働により、地域全体で子供を育てる体制を整備。
- ・ 地域の教育資源（人材を含む）の発掘による地域の教育力の向上。
- ・ 地域住民の知識・技能を教育活動に活用し、地域住民の社会参加の機会を拡大。

《経緯》

平成17年度からスタートした補助事業「起業教育普及啓発活動事業」から、「コラボスクール推進事業」「学びあい支え合い」「蔵王町学校支援本部事業」を経て、平成24年度から「蔵王町協働教育プラットフォーム事業」として実施し現在に至る。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・ 母親クラブを中心としたボランティアによる「本の読み聞かせ」を町内全小中学校で週1回～月2回程度実施し、本との出会いや友達との共通体験の機会を提供。
- ・ 図書整備ボランティアによる「学校図書室の整備」を月1回程度実施。図書室にある本の修理や新しい本の補強等を実施。
- ・ ボランティアによる「登下校指導・見守り」を実施し、小学生登下校時に、児童が安全に下校できるよう指導見守りを実施。
- ・ 主として、町内在住で特別な技術・技能・知識を有するボランティアによる「学習支援活動」を実施。
- ・ 【(国語) 毛筆指導、【算数】そろばん指導、【社会】蔵王町の産業について、蔵王町の歴史(文化財)について、蔵王町の公共施設について、【理科】水の動き・町を流れる川について、【音楽】合唱指導、【家庭科】ミシン補助・指導、【総合的な学習】EM発酵液づくり、昔話・民話の伝承、太鼓演奏指導、性教育指導、国際交流・国際理解支援、福祉体験、人権教室、生け花教室、ジオパーク(地域を知る)学習(ほか)
- ・ 町内在住で特別な技術・技能・知識を有するボランティアによる「校外活動支援」を実施。
(水辺の楽習(環境教育・郷土教育)、登山指導(登山ガイド・事前学習)、スキー教室)
- ・ 町内事業所の協力を得て、町内中学生の「職場体験学習」を実施。事前学習として「マナー講座」も併せて実施。

【実施に当たっての工夫】

- ・ 登録ボランティア組織を「ざおうっ子応援団」と称し、リーフレットを町内全戸に配布するなどして活動の普及啓発を促進。
- ・ ボランティア研修会を開催し、ボランティアの資質の向上を図るとともに、活動別のグループに分かれての情報交換会を行い、互いに抱える悩みや課題、またその改善策などを共有。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ ボランティアによる(教員ではカバーしきれない)地域に根ざした学びや深く幅広い知識・技能による『学習の動機づけ』と『学習効果の向上』。
- ・ 地域の子供と大人が互いに顔見知りになることによる『見守り効果』と『地域全体で子供を育てる意識の向上』。
- ・ 活動に携わるボランティアが、自分の知識や特技を生かすことで、様々な場面において必要とされ、感謝されることによる『喜びや生きがい、自己有用感の創出』と『地域のマンパワーの拡大・発展』。

● その他

- ・ 町企業振興連絡協議会・町観光物産協会に加盟の企業等の協力(派遣先として)のもと、町内中学生の「職場体験学習」を実施。(民間企業・NPO・任意団体等との連携)
- ・ 総合学習における郷土教育のほか、国・数・社・理等の学習における学習支援など、ボランティアによる幅広い学習支援を提供。



総合学習「水辺の楽習」の様子



「読み聞かせ」の様子

こんな活動です

「夢田んぼ」がつなぐ、鶴巣地域と鶴巣っ子

宮城県大和町

活動名

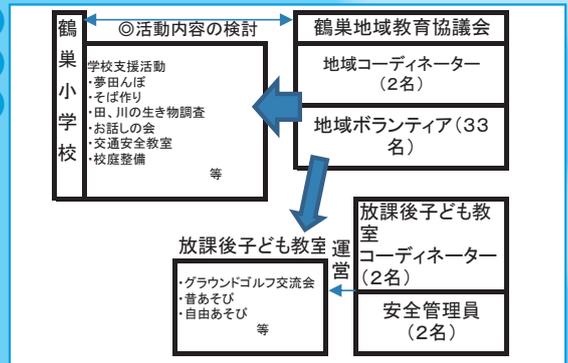
鶴巣地域教育協議会

関係する学校名

鶴巣小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 33人	学習支援 有	開始年度 17年度	国庫補助 有	ICT活用 有	企業・NPOとの連携 有
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



- 活動の概要**
- 平成 17 年度～コラボスクール事業推進校
 - 平成 19 年度 学校評議員会、外部評価委員による学校評価開始
 - 平成 20 年度 学校支援地域本部事業
みんなの広場「ゆうゆう」（協働推進事業）コラボスクール実施。
 - 平成 21 年度～学校支援地域本部事業鶴巣地域教育協議会みんなの広場を継承して実施。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

○「夢田んぼ」

田の学習は平成 12 年度から始まり、現在は地域住民から継続的に借用している「夢田んぼ」と称した田で、もち米を育成する学習を行っている。5 年生が主体となって田植え、草取り、稲刈り、脱穀までを行っている。田植えと稲刈りの際は、3、4、6 年生も参加し、低学年は見学を行う。

収穫祭では 5 年生が活動の発表を行う。収穫したもち米を使って地域ボランティアとの餅つきも行われる。又、婦人会の協力により、学年ごとに栽培された野菜を使った雑煮が料理され、参加者全員に振舞われる。全校生徒、教職員、保護者、地域住民と一緒に食事をし、会話しながら一年間の活動を振り返る。

【実施に当たっての工夫】

事業の案内や活動予定を年度初めにボランティアに知らせる。その後も、学校便り、保健便り、学級便り、学校ホームページを活用して情報を発信することにより、ボランティアや地域住民が田植えや収穫祭などの情報が得られるようにしている。

協働教育ニュースを年に 2 回、全世帯に配布していることに加え、昨年度からは、大切にしたい「4 つの言葉」の啓蒙に取り組んでいる。返事「はい」。あいさつ「おはようございます」。感謝「ありがとう」。迷惑をかけたらあやまる「ごめんなさい」の 4 つの言葉を大切にしよう呼びかけを行っている。

地域コーディネーターが主になって、ボランティアへの調整や田のメンテナンスを行い、児童が学習しやすい環境を整えている。

● 事業を実施しての効果・成果

児童と保護者が地域を知るきっかけになっている。地域住民にとって身近な農業に取り組むことで、地域ボランティアが自然に支援活動をする事ができている。兼ねてから地域にとって鶴巣小学校は「自分たちの学校」という意識が強くあったが、その思いは更に確かなものとなっている。

児童から協力いただく地域ボランティアへ敬意を表して言葉を交わすことで、お互いに気持ちの良い活動を行う事が出来ている。地域の方々の協力体制が整い、平成 27 年 9 月関東・東北豪雨の際には、吉田川が氾濫し「夢田んぼ」も浸水したが、地域の協力により復興活動が行われ、もち米を収穫することができた。

● その他

【学校支援活動】

企業、NPO 等との連携：JA あさひな、三井化学アグロ㈱、「田んぼの生き物調査」
宮城教育大学「川の生き物調査」

学習支援の詳細：児童に係る学習指導補助、メンタル面のサポート、特別な配慮を要する児童生徒の学習支援。

ICT（情報通信技術）活動内容の詳細：デジタル教科書の活用。

【放課後子ども教室】

企業、NPO 等との連携：㈱明治乳業「パンラッシーをつくろう」



夢田んぼでの稲刈



収穫祭（餅つき）

こんな活動です

地域の子供たちを、地域で育てていく活動

宮城県石巻市

活動名

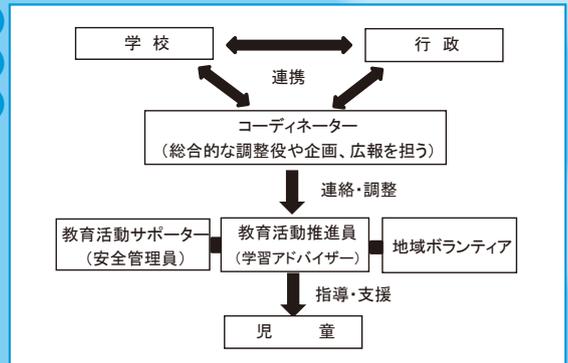
和 کوچک子クラブ

関係する学校名

和瀨小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	3人	27人	34日	25年度	有	有	有
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
 石巻市における「放課後子ども教室推進事業」は、平成25年度より和瀨小学校区をモデル地区とし、県の「放課後子ども教室推進事業」を活用しながら取り組んできた。本事業では、放課後等に子供たちの安全・安心な居場所を設け、地域の方々の参画を得ながら、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動を実施することにより、子供たちが地域の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するとともに「生きる力」の育成に取り組んでいる。運営スタッフやボランティアは、河南地域まちづくり懇談会和瀨部会を母体とした地域住民である。地域住民は教育への関心が高く、総合的な学習の時間でのゲストティーチャーなど、学校への協力が積極的である。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「和 کوچک子クラブ」は、毎週木曜日の放課後、学校に隣接する老人憩いの家を活動拠点として、主に以下の4つの活動を行っている。

- (1) 遊び（こま回し、お手玉、けん玉、竹馬、凧あげなど）
- (2) 学び（宿題や自主学習、紙芝居、民話、合唱など）
- (3) 体験活動（農業体験、神楽体験、しめなわ作り、灯籠作りなど）
- (4) 交流活動（お菓子作り、手芸、陶芸、ゲートボールなど）

そのほか、全員が集まるまでの間は宿題や自主学習などの学習活動も行っている。

地域の特色を生かした活動や、ボランティアの方々の特技を生かした活動など、普通の学校の授業ではなかなか味わえない体験活動を展開している。

【実施に当たっての工夫】

様々な発達段階の子供たちを、ボランティアだけで活動の支援をしたり、指導にあたりするのは容易ではない。そこで、縦割り班を編成し、異年齢交流を図ることで上級生が下級生の面倒を見るようにしている。また、各班にボランティアを配置することにより、担当する班の児童掌握や健康観察など、活動における役割を明確にしている。

児童とともに活動することによって、班の子供たちの性格や行動が把握でき、子供たちとの関係を深められるようにしている。子供たちも、班の担当ボランティアが固定することで、顔と名前を覚え、安心して活動に取り組んだり、気軽に相談をしたりすることができるよう配慮している。

● 事業を実施しての効果・成果

毎週木曜日の放課後、多くのボランティアに見守られながら子供たちは安心して活動に取り組んでいる。縦割り班でグループを編成しているのも、自然と上級生が下級生の子供の面倒を見るようになり、思いやりの心が育ってきている。地域ボランティアの方々との触れ合いからも挨拶や言葉遣いに気を配る子供たちが増えてきた。また、なかなか学校ではできない直接体験や本物に触れる経験を通して、学習意欲が高まっている。

「和 کوچک子クラブ」が子供たちとボランティア、ボランティア同士、保護者とボランティア、それぞれをつなぐ場として機能している。子供たちとの触れ合いに喜びややりがいを感じて参加しているボランティアの方々が多い。

● その他

- ・ 企業との連携・・・地域の自動車整備工場や木材店を見学し、地域にある産業について学んだりしている。
- ・ 学習支援・・・ボランティアは14時30分に集合し、放課後子供教室が始まる15時までの間を学習の時間とし、宿題を見てあげるなどの学習支援を行っている。
- ・ ICT活用・・・ビデオ放映をする際にプロジェクターなどを活用し、児童に分かりやすく伝えるよう工夫をしている。



【農業体験】 脱穀の様子



【水辺の生物調査】 用水路での釣りの様子

こんな活動です

そだてよう 手をとりあって 中川っ子のための学校応援団

秋田県仙北市

活動名

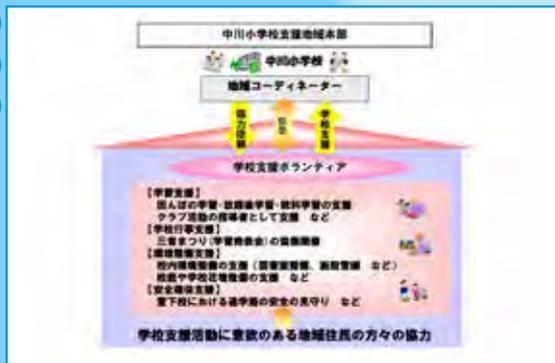
中川小学校支援地域本部

関係する学校名

中川小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 101人	学習支援 有	開始年度 22年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動の概要 平成22年、地域の教育力の低下が指摘、懸念される中、地域に潜在する教育力を学校支援に生かすべく、学校と地域の連携体制を構築した。その中で、多様な形態の教育支援を可能とし、児童と向き合う時間の拡充を図るべく本事業を開始した。

経緯 以来、本事業の地域内住民への普及啓発活動、学校支援ボランティア募集に係る広報活動、人材バンクの作成等を経て、学習や体験活動の支援、環境整備等、多様な学校支援活動を実施し、継続中である。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・ 田んぼの学習支援「ニコニコ米栽培・販売」
地域の農家やボランティア、保育園等との協力により、全校田植え・稲刈りやパック詰めを実施。また、秋田市（隔年で東京）に児童たちが出かけ、店頭販売を実施
- ・ 放課後学習支援「まなびー教室」
児童が自ら進んで学ぶ機会及び基礎・基本の定着を図る機会とすべく、5月～12月の間に月1回（夏休み中は2回）開講
- ・ 伝統芸能継承支援「三省タイム」（民謡、手踊り）
4年生以上の児童で構成し、教育課程のクラブ活動として実施
- ・ 地域と合同で行う学習発表会「三省まつり」
児童の学習成果の発表とともに、地域住民の活動成果の発表や、相互交流の場となっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・ 本事業が7年にわたり継続し、年々活発化してきたのは、核となるコーディネーターの充実した活動の賜物と言える。登録ボランティアとの連絡、調整、手配がきめ細かく充実していること、学校との密接な連携体制が事業成功のかぎとなっている。
- ・ 本事業を支えるのは「豊富な地域人材」である。100人超の登録者とネットワークを形成し、維持する上で、PTA組織の「地区委員」を活用している。また、登録ボランティアは全員が何らかの活動に参加している。
- ・ 市の地域活性化事業による「中川地域運営体」をはじめとして、社会福祉団体、商工業団体等、諸団体との連携体制を構築している。
- ・ 活動の様子を、学校公式ブログ、学校ホームページ、学校報等を使って、随時発信している。

● 事業を実施しての効果・成果

- (1) 子供たちにとっての効果・成果
 - ・ 学力の向上
 - ・ コミュニケーション能力の向上
 - ・ 地域への理解度、関心度の高まり
- (2) 学校にとっての効果・成果
 - ・ 教員が授業や生徒指導などにより力を傾注できる環境
 - ・ 生徒指導上の課題解決
- (3) 地域住民にとっての効果・成果
 - ・ 地域教育力の向上、地域の活性化
 - ・ 地域住民の生きがいづくりや自己実現
 - ・ 地域住民自身が地域課題の解決方法を探ろうとする意識付け

● その他

- ・ 本事業も7年経ち、2人のコーディネーターも60代となるなど、組織全体が高齢化してきており、支援者の若返り拡充が求められる。
- ・ 今後の展望として、学習支援の充実を図りたい。現在、改訂が進められている新指導要領において、「アクティブ・ラーニング」「英語教育」「道徳教育」がキーワードとなる。これに合わせ、ICT活用支援を含めて人材の発掘に努め、次代の教育に対応できる学校支援地域本部にしていきたい。



田んぼの学習支援
「ニコニコ米栽培」



放課後学習支援
「まなびー教室」

「地域と共に、地域のための」コミュニティ・スクール

秋田県由利本荘市

活動名

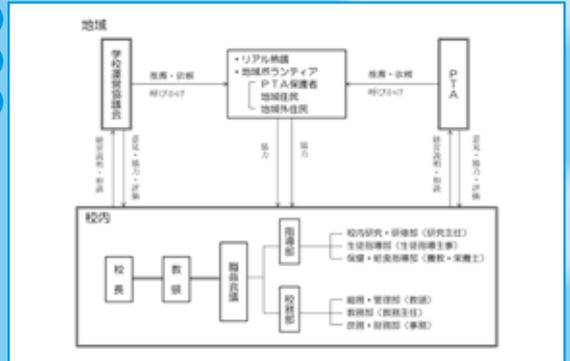
矢島小学校学校運営協議会

関係する学校名

矢島小学校

基本データ	学校支援活動	●	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 40人	学習支援 有	開始年度 24年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	●	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 19人	年間開催日数 22日	開始年度 19年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
			実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
			由利本荘市立矢島小学校		有	連携なし				
土曜日の教育活動		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	●	指定日 平成24年9月13日					委員数 24人	児童生徒数 186人	学級数 8学級	

体制図



活動の概要・経緯 矢島小学校は、平成24年9月、由利本荘市教育委員会より、コミュニティ・スクールの指定を受け、市第1号のコミュニティ・スクールとなった。平成19年度から放課後子ども教室事業に取り組むなど、「地域を愛し、地域から愛される学校づくり」を推進してきた。この取組をより確かで強力なものにしたいと考え、学校支援地域本部事業及びコミュニティ・スクールの導入により「地域住民の学校運営参画」「地域力を活かした学校支援」「学校力を生かした地域づくり」「学校と地域の共同事業」を4つの柱として取り組んでいる。学校と地域が力を合わせることによって、互いに信頼し合い、それぞれの立場で主体的に地域の子供たちの成長を支えていく、そんな学校づくり、地域コミュニティづくりを進めていきたいと考えている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・ 地域住民の学校運営参画
保護者、地域住民、学校教職員による「矢島の子供たちに期待すること」をテーマにした熟議
- ・ 地域力を活かした学校支援
「子ども見守り隊」、クラブ活動（主に和文化）指導、技能教科のサポート、総合的な学習の時間のサポート、読み聞かせ
- ・ 学校力を活かした地域づくり
クリーンアップ活動、地域のお祭り（八朔まつり、雪祭り）への参加、「由利本荘市ひな街道キッズおもてなし隊」
- ・ 学校と地域住民の共同事業
矢島高校跡地を利用して地域住民と共同で行う「ひまわりプロジェクト」
- ・ 放課後子ども教室
自主学習や折り紙等の工作活動、体育館でのスポーツ活動

【実施に当たっての工夫】

- ・ 学校運営協議会を開催し、学校教育目標の具現化に向けた参画や連携・協働を行い、学校の課題解決や活性化に向けた意見交換をしている。また、学校運営協議会委員数名が学校評価に関わり、学校運営改善に向けた提言を行っている。
- ・ 地域力を活かした学校支援のために、学校支援地域コーディネーターと連絡を密にして、人材リストを作成したりボランティアとの連絡調整をしたりしている。また、学校と地域の共同事業を推進するために、老人クラブ、保育園、高等学校、地域の事業所等と連携・協働を強化している。
- ・ 放課後子供教室では、子供たちへ積極的に声かけすることで、一人一人の小さな変化を察知しながら適切な対応ができるよう心がけている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ 子供たちの様子を学校日より、コミュニティ・スクール報告書、地域コミュニティだより等で知らせるとともに、地域の方々が「ひまわりプロジェクト」の一環である「ひまわり商品販売」、「ひな街道キッズおもてなし隊」等で、子供たちが地域で活躍している様子を見たり聞いたりすることで、地域の関心や支援が学校に向けられ、学校づくり、地域づくりにつながっている。
- ・ 子供たちが保育園からお年寄りまでたくさんの方々と接する活動があり、思いやりや協力して活動する大切さを理解することにつながっている。
- ・ 授業サポートの方の指導スキルが年々アップし、授業の効果的で効率的な進め方につながっている。

● その他

- ・ 学校と地域の共存共栄を目指した学校づくり・地域づくりの中核にコミュニティ・スクール及び学校支援地域本部事業を位置付け、学校・地域の教育的機能が有効に発揮される環境づくりを目指していく。
- ・ 子供への教育的効果と地域の活性化への貢献という視点で事業内容を見直し、より有効的に機能する体制づくりを検討していく。



ひまわりの種とメッセージを風船につけて飛ばしたひまわりフェスタ



矢島の子供たちに期待することをテーマにした熟議

こんな活動です

地域の団体や企業が、それぞれの特徴を活かし、協力して育てる南学区の子供

秋田県大館市

活動名

南中学校区学校支援地域本部

関係する学校名

南小学校・南中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 50人	学習支援 有	開始年度 23年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動の概要
 平成23年度に南中学校区学校支援地域本部を立ち上げ、小学校と中学校の同一のコーディネーターが、地域や企業による学校支援と、学校による地域貢献の橋渡しを行っている。学校支援の基盤は、「南中学校区地域教育協議会」で、南小学校と南中学校を支える体制が整っている。学校への財政面の支援を「南学区教育振興会」が担っている。学区内に二井田公民館、真中公民館があり、それぞれ、学校行事への協力と、学校の地域貢献や地域行事への児童生徒の参加の橋渡しを行っている。地域企業による職場訪問や職場体験の受け入れ、講師派遣など、手厚い学校支援がある。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・地域と小中学校が連携・協働して行う合同クリーンアップ活動、地域住民や福祉施設入居者と触れ合う地域交流ボランティア
- ・二井田公民館・真中公民館が主催する事業への児童生徒の参加奨励
- ・PTA会報を学区内の全戸に、学校報を公共施設に配付
- ・地域ボランティアの協力で行う「さつまいも夢プロジェクト」や稲作体験（小学校）
- ・地域住民と児童が学校区内を一緒に歩いて確認する危険箇所点検（小学校）
- ・市社会福祉協議会と連携・協働し、町内会長・民生児童委員と協議して行う除雪ボランティア活動（小学校高学年、中学生）
- ・地域住民の代表が地域のおさと住民の思いを伝える「ふれあい夢集会」（小学校）
- ・多数の地域企業や地域出身者の協力で行う「一人一職場体験」、「先輩訪問」、「ようこそ先輩」（中学校）

【実施に当たっての工夫】

- ・地域コーディネーターが、小学校と中学校の要望を把握し、地域ボランティアや団体、企業との間でバランスを取りながら、学校支援活動や地域貢献活動の橋渡しをしている。また、二井田公民館と真中公民館の行事や意向を把握し、学校の行事や部活動との兼ね合いを調整しながら情報提供を行っている。
- ・学校や公民館で行われる各種の活動には、できる限り地域の大人が多く加わるように、日時や会場、内容の周知に努めている。
- ・ふるさとを大切にする観点から、児童生徒が、地域出身の志のある大人にふれて、地域を思う気持ちを強くすることができるように、様々な人脈を通じて、学校で語ることができる人材を常時探すようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・各種の協働活動は、児童生徒には、地域の大人に認められることで自己有用感が増して新たな活動の意欲が喚起されたり、多様な人間性にふれることで自分を見つめ直したりする機会となっており、活動に関わる大人には自らの生きがいを見いだす機会となっている。
- ・児童生徒が地域の多様な職業にふれる活動は、児童生徒のキャリア発達を促すと共に、体験を提供する大人には地域の職業人としての誇りを呼び起こしている。
- ・地域に古くからある「南中学校区地域教育協議会」や「南学区教育振興会」を地域と学校の協働活動の礎としていることから、住民が、これまで続けてきた学校を核とした地域活動に自信をもち、更に発展させる意欲につながっている。

● その他

- ・今後も、地域コーディネーターを中心に、関係団体との連携・協働をさらに深め、地域により密着した活動を展開し、「地域で子供たちを育てる」という意識を更に高めていきたい。
- ・児童生徒数が減少しており、小中学生が全くいない地区で活動が滞る事態が生じているため、対応を検討中である。



さつまいも夢プロジェクト 苗植え
南小学校



地域企業の協力による一人一職場体験
南中学校

山形県小国町

活動名

おぐに放課後子ども教室「めっちゃ」

関係する学校名

小国小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	50人	35日	19年度	有	無	有
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
 平成19年度に立ち上げ、活動は今年で10年目を迎えた。毎年10～15名ほどの地域住民が「めっちゃスタッフ」となり、学校を会場として、放課後の子供たちに安心・安全な居場所と豊かな体験の場を保障している。結成当時は、現在のような学校・地域連携協働体制が未整備であったため、教職員からは地域住民が校舎内で活動することに対して不安の声もあがった。しかし、地域スタッフと学校代表、教育委員会が、子供を育てる協働者としての思いを共有しながら、地域コーディネーターを中心として何度も話し合いや試行錯誤を重ねることによって、現在のような地域住民主体の「おぐに放課後子ども教室めっちゃ」を築いてきた。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 『地域の方から地域を学ぶ』…消防署見学、県社山散策、座禅体験、ステンドグラス作りなど、各方面の「地域のプロ」を活動の輪に招き入れながら、子供たちに、自分たちが住む町の自然や人と出会うきっかけを与え、郷土愛を育む活動を取り入れている。キッズチャンバラ、リングカントリー等では、総合型地域スポーツクラブ(NPO法人おぐにスポーツクラブYui)から講師を招いて子供たちとの交流を図っている。
- 『親子でしてほしい遊び・ここでしかできない遊び』…木端や牛乳パックを使った工作、料理、運動など、家に帰って親子や友達でまねできる遊びと、アイスクリーム作り・サッカーなど大勢でなければできない遊びとを織り交ぜている。多種多様な遊びを取り入れながら、子供たちの創意工夫を原動力に、地域スタッフもそれぞれの特技をいかして一緒に楽しんでいる。

【実施に当たっての工夫】

- 『50人を2班に分けて』…年々増加する参加希望児童に十分な活動を保障するため、活動日を2回に分け、1回25人単位としている。
- 『子供と一緒に大人も』…子供の主体性を大事にし、試行錯誤の時間を保障している。スタッフ自身も子供と一緒に活動することを楽しんでいる。
- 『意見を活かし改善を加えながら』…定期的に行うスタッフ会議では、それぞれの気づきを大切に、改善を加えながら皆で会を成長させている。スタッフ日誌を用いて学校と子供の様子について情報交換をしている。

● 事業を実施しての効果・成果

小国町では「めっちゃ」の他にも放課後子供教室があり、いずれも地域住民が主体となって充実した活動を展開している。活動後には、「家で家族ともやってみよう」「お父さん、お母さんにも見せたい」という声が聞かれたり、中学、高校生になった子供たちも町内で元気にあいさつしたりするので、地域スタッフは子供たちの成長を感じ喜んでいる。また、学校の教員も、時間があるときには活動の様子を見に来て子供に声をかけたり、スタッフと言葉を交わしたりする等、地域とともに子供を育てるという意識が醸成されている。このように、この事業は子供、家庭、地域住民、学校のそれぞれをつなぎ、地域に明るさをもたらしている。



包丁、うまく使えるかな？
 地域のおいしいちゃん、おばあちゃんと料理体験



見て・聞いて・さわって・小国の自然を感じよう！
 みんなで県社山散策

こんな活動です

放課後の子供たちの学習と体験をサポートする、地域主体の放課後子供教室

山形県東根市

活動名

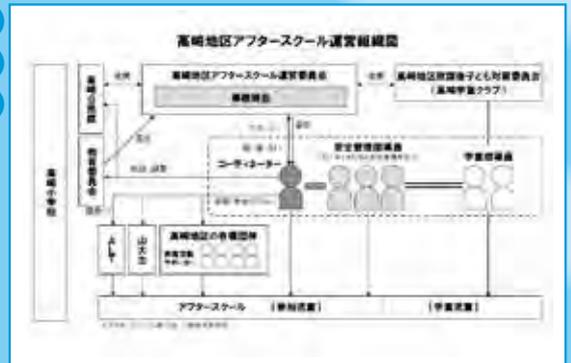
高崎地区アフタースクール

関係する学校名

高崎小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	50人	77日	27年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		児童会室 他		有	一体型					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯
 高崎地区アフタースクールは、小規模特認校制度を導入した高崎小学校の魅力ある学校づくりの一つとして立ちあげられ、平成26年10月から半年の試行を経て、平成27年度より本格的に稼働している。地域の自治会代表者、学校関係者、教育委員会、地域公民館、児童クラブ関係者など幅広い関係者で組織されている「高崎地区アフタースクール運営委員会」が企画・運営に当たっており、一体型として実施している。活動は、コーディネーターが中心となってALTや大学生、地区内の各種団体と調整をしながら、様々なプログラムを提供している。

● 活動の特徴・工夫 ●

【特徴的な活動内容】

- ・プログラムは体験系と学習系がある。
- ・体験系では、主に地域の人たちによる昔遊びや書道教室が行われている。また、大学生や市体育協会等から外部講師を招き、ダンス・カラーリング・タグラグビーなど、多様な活動を実施している。
- ・学習系では、教員OBや大学生などによる宿題のアドバイスや数字ゲーム、スライム作り教室が開催されている。また、平成27年度より高崎小学校に重点的に配置しているALTによる英会話教室が実施され、高崎地区アフタースクールの特徴的な活動となっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・小規模校の特性を生かし、大規模校では難しい全児童を対象にした活動ができるように工夫しており、参加には申込制をとっているが、実際には全児童が参加している。
- ・活動の円滑な運営を目的として、学校及び放課後児童クラブ関係者と情報交換を行っており、プログラム作りに反映させている。また、講師補助兼子供たちの見守りを担う「安全管理指導員」を配置し、安全面に配慮している。
- ・一体型として、放課後児童クラブ（高崎学童クラブ）の子供たちと指導員と一緒に活動している。

● 事業を実施しての効果・成果 ●

- ・地域住民等の協力を得て、週2回の実施で様々な体験や学習の活動を提供している。
- ・この高崎地区アフタースクールの取組は、地域住民、児童、保護者に定着し、現在では高崎小学校の大きな魅力の一つとなっている。小規模特認校制度により学区外から通学している児童は13人に上り、全員が楽しく活動に参加している。
- ・地域で運営することで、地域の人たちが地域の子供たちの教育に関わる機会の創出となっており、「高崎の子供たちのためになることを！」の意識が高まっている。

● その他 ●

- ・東根市体育協会との連携により、ニュースポーツや体操教室等の活動を実施している。
- ・地元企業と連携した活動を実施している。平成27年度については、光輪精工の工場見学を行った。



ニュースポーツ（カラーリング）



ALTによる英会話教室

こんな活動です

北塩原村「学校の応援団」 - 笑顔いきいき みんなで子育て -

福島県北塩原村

活動名

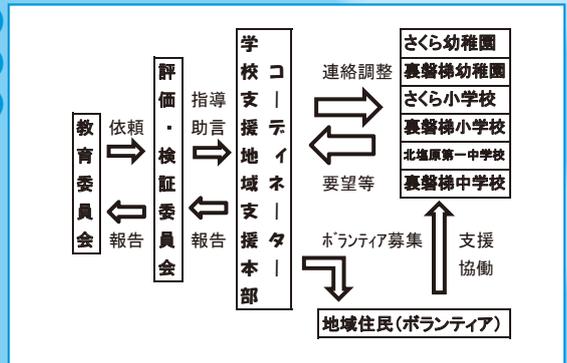
北塩原村学校支援地域本部

関係する学校名

さくら幼稚園、裏磐梯幼稚園、さくら小学校、裏磐梯小学校、北塩原第一中学校、裏磐梯中学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	0人	2人	93人	有	23年度	有	無	有
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所	学習支援		放課後児童クラブとの連携					
	土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
 地域の人々が個々の特性をいかして教育活動を支援することで、地域住民の学習成果活用の機会拡充及び地域教育力・地域コミュニティの再生を図り、地域全体で学校を支援することを目的としている。
 平成23年度から準備を進め、平成24年度から本格的に「学校の応援団」事業をスタートさせ、平成27年度で5年になる。村としても「笑顔いきいき みんなで子育て宣言」を行い、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで地域の子供を育てている。年間のコーディネート件数が約300件、登録ボランティアが93名、ボランティア実績のべ1612人は、村人口の約64%以上が学校を支援していることとなる。この活動は、域内はもちろん県内各地域の学校支援本部と比較しても群を抜いた地域ぐるみの素晴らしい実績である。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

●裏磐梯幼稚園…読み聞かせ（年に3回）、祖父母参観 ●さくら、裏磐梯児童クラブ…子ども見守り隊（通年）、図書ボランティア（通年）、自然体験教室、祖父母参観、チャレンジスクール ●裏磐梯小…図書ボランティア（通年）、交通教室、自転車教室、自然に親しむ会、スキーツアー、スキー教室 ●第一中…文化祭・異世代間交流活動 ●裏磐梯中…技術科（木工、パソコン）、図書室環境整備などである。
 平成26年度は裏磐梯幼稚園、さくら小での読み聞かせが始まり、裏磐梯中の図書室環境整備など、特に図書ボランティアに力を入れて活動している。また、裏磐梯小での総合学習、裏磐梯幼稚園での祖父母参観など新たな支援もスタートし、事業の活動の幅が広がっている。

【実施に当たっての工夫】

●学校支援事業は、学校からの要請のもとに「学校支援ボランティア」を派遣し応援するものだが、受け身になって待つのではなく、学校へ足を運ぶごとに先生方とコミュニケーションを図り、学校のニーズを把握している。また、学校側に様々な活動を積極的に提案し、学校が必要としている活動を選択してもらうことで支援につなげている。
 ●ボランティアの方に関する情報は常に収集しており、誰がどんな事が得意か、今年はこの事をやってみたいなど、ボランティアとのコミュニケーションも大切にしている。●ボランティアの方が支援しやすいように、事前にコーディネーターが何度か学校と調整を行ってから、具体的な支援方法についてボランティアの方に説明している。●平成28年度からは事業拡大のためコーディネーターを2名に増員している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・平成23年度から事業を開始し、年間12回のコーディネート件数、22人のボランティア登録、延べ40人のボランティア実績であったが、年々事業を拡大し、平成27年度は、年間約300件のコーディネート件数、93名のボランティア登録、のべ1612人のボランティア実績と毎年、質量ともに充実した活動を展開している。地域の子供たちは地域で育むという意識が高まり、地域教育力の向上に大きく貢献している。
- ・平成27年度からは村内全ての学校で図書ボランティア活動が行われるなど読書活動推進に向けた支援も充実している。
- ・見守り隊活動に加え、朝のあいさつ運動、ごみ拾い活動など地域ぐるみの活動が展開され、地域の活性化につながっている。
- ・地域の伝統文化、自然など地域材を活用した支援により、学校と地域が協働で子供たちに郷土愛、思いやりの心を育てている。

● その他

(NPO・企業と連携) 民間の「もくもく自然塾」、「磐梯山ジオパーク協議会」と連携し、小学生の自然体験活動のガイド等をお願いした。
 (学習支援) 理科の昆虫講師(ジオパーク協議会等)、社会の地域の地理・歴史講師(地域の各団体)、英語の英会話講師(元英語教師住民)



裏磐梯小学校 月に一度の読み聞かせ
全校生徒が参加します



さくら小学校自然体験教室 1・2年生
(五色沼自然探勝路)

こんな活動です

みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ …地域一体の子供教室！

福島県大玉村

活動名

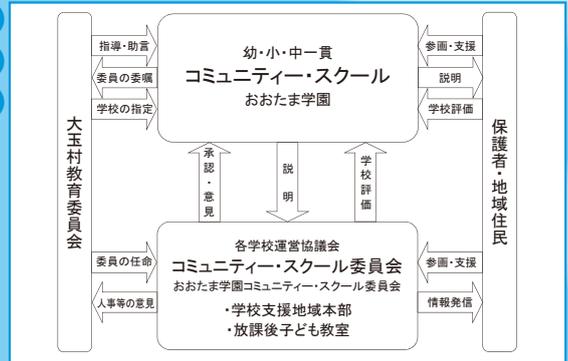
大玉村放課後子ども教室

関係する学校名

玉井小学校、大山小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	78人	無	21年度	有	無	無	
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	2人	30人	年間開催日数	21年度	有	無	無	
	放課後子供教室	実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		大玉村農業環境改善センター(和室)・大山公民館(和室)		無	連携なし					
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
	0人	2人	30人	無	21年度	有	無	無		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		
	平成23年4月1日					25人	888人	43学級		

体制図



活動の概要

- ・「みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ」という教育理念のもと、豊かな体験活動を重視し、地域の特色と豊かな人材を生かした事業を展開している。「玉井子ども教室」と「大山子ども教室」の2つの放課後子供教室があり、毎週金曜日午後3時から午後6時まで同時に開催している。両教室とも開設されて8年目を迎え、放課後の安心安全な居場所として子供たちや地域に広く浸透した活動となっている。
- ・評価・検証委員会が年3回開催され、学校関係者や地域の代表などが子供たちの豊かな放課後のために協議を行っている。また、よりよい運営のために、評価・検証委員が放課後子供教室の実際の活動を参観する機会を設けている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・学校や家庭ではできない体験を味わうために、ものづくり・スポーツ・畑での野菜作り活動と収穫した野菜を使ったおやつ作り・交流活動・文化活動などをテーマとした多彩なプログラムを、コーディネーターが中心となり企画している。また、地域のボランティア、施設利用サークルの方、教員、各団体の指導者など、地域の人材を積極的に活用した体験プログラムを展開し、質の高い体験活動を提供している。さらに縦割りによる班活動を積極的に取り入れ、異学年交流とリーダーの育成を図っている。
- ・学校との連携・協働を積極的に図り、プリントの配付や下校の連絡、情報交換、活動場所の提供などを円滑に進めている。

【実施に当たっての工夫】

- ・放課後子供教室便りを年3回発行し各幼・小・中学校、ボランティア、参加児童に配付したり、保護者もボランティアとして活動に参加する機会を設けたり、文化祭では作品を出品したり、教育フォーラムで活動紹介をするなど、積極的に放課後子供教室での成果を地域に発信している。
- ・2学期末に子供及びボランティア、保護者にアンケートを実施し、事業の見直しとニーズの把握を行い、次年度の事業改善に生かしている。
- ・保護者ボランティアへの積極的な参加を呼びかけ、放課後子供教室への理解と協力を深めている。また、このことが、保護者の具体的な声を聞く良い機会となっている。
- ・ボランティアへ活動の流れを記載した「進行表」を事前に配付することで、当日の活動がスムーズに進行している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・大玉村放課後子ども教室は開設から8年目を迎え、子供たちや地域にすっかり定着浸透した活動になっている。
- ・多彩なプログラムと豊かな人材の活用等により質の高い体験活動を提供していることから、子供たちや保護者に好評で、より一層の期待が高まっている。
- ・1年間の様々な体験活動や交流活動、異学年による縦割り班活動などを通して、集団活動での連帯感や責任感などが生まれ、ジュニアリーダーとしての資質が高まっている。地域住民へのあいさつなど、地域ボランティアとの交流活動の成果が表れている。



玉井子ども教室
(大正琴体験)



大山子ども教室
(豆腐入り団子作り)

こんな活動です

地域が見守り育てる川内っこ —遊・学・スポーツ・ものづくり・交流活動—

活動名

関係する学校名

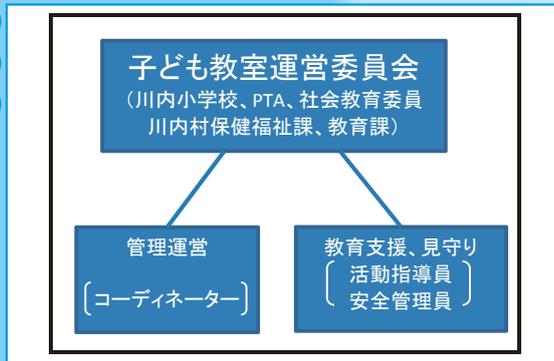
福島県川内村

川内村放課後子ども教室

川内小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	35人	194日	25年度	有	無	無	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		なかよし館、村民体育センター、教育委員会親庭等		無	連携なし					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員会	児童生徒数	学級数		

体制図



【活動の概要】

- 活動時間は学校終了後 18 時迄、まず学校での学習の補充問題や発展問題などを行い、その後自由活動を行っている。
- 月ごとに読書やスポーツ教室、高齢者とのふれあい等を行うとともに、七夕会、クリスマス会などの活動を行っている。
- また、夏休みは 8 時半から 17 時半迄開室し、プールや自由活動の時間を設定している。

【経緯】

- 帰村に当たっての保護者との協議により、放課後の児童の安全な活動のため、全児童を受け入れる放課後子供教室を設置し、避難先（郡山市）の仮設住宅脇に建設した、ドイツより寄贈された「コミュニティセンター」を川内村に移設し「なかよし館」と名付け子供教室の活動場所としてオープンした。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 福島大学では、「ふくしま未来学」を川内村と連携・協働して実施しており、受講している学生が村民との交流を企画・実施している。昨年は、「川内オリンピック」を開催し放課後子供教室の児童も参加した。また、イベント以外でも大学生との交流活動を行っている。
- 月ごとに特別教室として、村内施設を利用し「読書の日」、「村内探検」、「フットサル教室」を実施しており、地域の方が講師を務めている。また、老人クラブとの「高齢者ふれあい教室」や社会福祉協議会での「デイサービスクリスマス会」を開催している。さらに、夏休みには村の「もりたろうプール」にて水泳教室も開講している。
- 村外や県外の団体等より特別教室や交流会の申し出があり、学習や交流活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- なかよし館の他に、隣の村民体育センター及び教育委員会の裏庭で活動し、常に活動スタッフの目が届くよう人員を配置している。
- スタッフミーティングを月に 1 回開き、子供教室の状況や学校の要望等について協議し、児童一人一人の状況や施設の状況などの情報を共有し対応できるようにしている。
- 高齢者とのふれあいなど、地域の方々との交流を定期的に設定している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 子供たちからの挨拶が、子供教室以外の場所や地域においても実践されており、明るい生活環境ができてきた。
- 老人クラブ等との交流会を行うことにより、地域の方々との知り合いになり、児童の安全面においても効果が表れている。
- また、地域の方々も、放課後子供教室の活動に関心をもつ方が増えてきており、活動支援ボランティアとしての登録を図ってきたい。
- 夏休みは、村外や県外の団体等による特別教室が開催され、積極的に体験や交流活動を行っている。
- 平成 27 年度は、全校児童 35 名が参加するとともに、児童に対する共通した立場での指導や交友関係に対する対応など、学校との連携・協働を密に図りながら活動することができた。



「デジタル絵本」の読み聞かせ



「橋をつくってこわそう」
模型づくりと実験

こんな活動です

地域人材と教育力を活用した「うしく土曜カップ塾」「放課後カップ塾」

茨城県牛久市

活動名

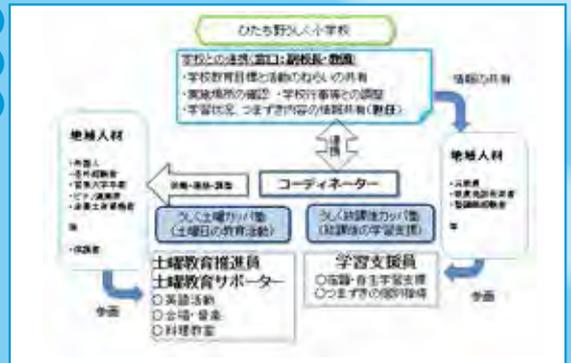
ひたち野うしく小学校「うしく土曜カップ塾」「うしく放課後カップ塾」

関係する学校名

ひたち野うしく小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	0人	1人	0人	子供の平均参加人数	26年度	有	無	無
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
	土曜日の教育活動	0人	2人	117人	無	26年度	有	無	無
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
 土曜日の教育活動「うしく土曜カップ塾」は、地域の方々の参加・協力により体験活動や学習を実施し、地域全体で子供たちの成長を支えていくことを目的とした事業である。ひたち野うしく小学校では、「子供たちに豊かな体験をさせたい」という保護者の要望を受け、市内最初のモデル校として平成26年10月より開始した。また同時に、学習習慣の定着や基礎学力の向上を目的として、放課後の学習支援「うしく放課後カップ塾」も開始。元教員や教員免許所有者、塾講師経験者等が学習指導員となり、宿題・自主学習の支援やつまづいている児童の個別指導をしている。コーディネーターの調整のもと学校と連携・協働を図りながら、学校施設内で実施している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「うしく土曜カップ塾」は1年生～6年生の希望者を対象として、土曜日の午前中に、学校施設（ワークスペース・音楽室・家庭科室等）で「英語活動」、「合唱・音楽」、「料理教室」を実施。学校と地域をつなぐコーディネーターの調整のもと、外国人や在外経験者、音楽大学卒者、ピアノ演奏家、栄養士有資格者などの多様な経験や技能を持つ地域人材が土曜教育推進員となり、豊かな体験活動を展開している。

「うしく放課後カップ塾」は4年生～6年生の希望者を対象として、週2日、平日放課後16時～17時30分に図書室で実施。学習指導員が児童の学習状況やつまづき内容を学校（担任）に情報提供してもらうなど連携・協働することにより、効果的に支援・指導できるようにしている。

【実施に当たっての工夫】

「英語活動」は、より多くの希望者が「話す」「聞く」「書く」活動をバランスよくできるように、複数の土曜教育推進員を確保し、4クラスで実施している。

各活動の安心・安全な実施のため、保護者や地域住民を土曜教育サポーターとして配置している。特に「料理教室」は、1つの班にサポーターを1人配置し、低学年や料理未経験児童でも楽しく、安全に活動できるようにしている。

多くの地域人材の協力を得ることができるよう、土曜教育推進員や土曜教育サポーター、学習支援員は有償ボランティアとし、国庫補助（「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」）を活用して運営している。

● 事業を実施しての効果・成果

「うしく土曜カップ塾」により、豊かな体験活動や学習の機会を提供することができた。「合唱・音楽」では、学校のクラブ活動と合同発表会をするなど学校とのよい連携の機会となった。地域住民や保護者が土曜教育推進員やサポーターとして積極的に関わっており、児童が地域とつながる場にもなっている。土曜日の教育活動のよい先事例となり、市内全小学校での土曜日の教育活動実施につながった。

「うしく放課後カップ塾」により、「分らなかった〇〇ができるようになった」等参加児童にとって有意義な学習の場となっている。また参加費は無料であり、経済的な理由や家庭の事情により、家庭での学習が困難な児童も参加しやすい仕組みとなっている。



「英語活動」の様子



「合唱・音楽」活動の様子

こんな活動です

地域ボランティアの方々による中学校区児童への土曜学習教室

茨城県かすみがうら市

活動名

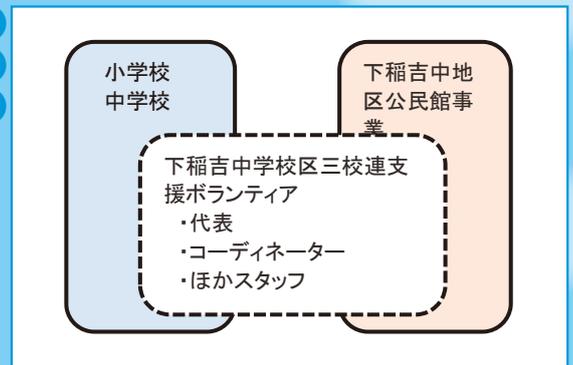
いなよし学習広場

関係する学校名

下稲吉小学校・下稲吉東小学校・下稲吉中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動概要 「いなよし学習広場」は「下稲吉中学校区三校連支援ボランティア」に委託して実施している。当団体は、かつて補助事業であった学校地域支援本部により集まったの方々を中心となっており、補助事業が終了した後も、学校の必要に応じて自主的に活動するために任意で集まった組織である。多くのボランティアスタッフが様々な地域活動を実施していることにより、児童生徒の学力向上や地域の環境浄化に関し、多大なる貢献をいただいている。また、今年度からは地区公民館事業へと位置付けたことにより、行政との連携・協働もよりグレードアップしているところである。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

ボランティアスタッフのメンバーは大学生から70歳代までと、幅広い年代の方々に構成されている。地域住民が「まずは自分ができることから始めよう」というスローガンをもち、通学路での立哨活動や部活動の支援、新学年への指導補助など多様な活動をしている。様々なノウハウをもった約70名のスタッフが所属しているため、幅広い活動が展開できている。「いなよし学習広場」は学習支援を中心としているが、登山などのレクリエーション活動も実施するなど、団体の特性を生かして、学習支援にとどまらず体験活動も含めたバランスのよい活動が実施できている。

【実施に当たっての工夫】

活動を継続的に安定して実施できるよう、スタッフの人件費は全て無償で実施されている。これは、団体自らが考え地域貢献を第一に考えた結果である。また、学習を支援するスタッフは、退職したエンジニアや工学博士なども含まれ、豊富な人材体制となっている。学習支援を行うに当たり、団体の中で教え方の勉強会等を開催するなど、より良い事業実施に向けて、向上心を持って取り組んでいる。

● 事業を実施しての効果・成果

学校からの誘いにより教室に参加している児童・生徒もいるが、一定の成績向上が見られている。それは、児童・生徒本人のみならず、支援しているスタッフの喜びでもあり、児童・生徒にとっては意欲が高まり、スタッフにとっては励みとなるなど、相乗効果が生まれている。また、市内には3つの中学校区があるが、このような教室は現在1か所しか実施できていない。当活動が模範的な活動として市内で話題となることが増え、他の地区においても実施が望まれている。そのような点において、市内全域のボランティアに対する考え方や地域で必要とされている活動の方法などを考える機会を提供する点においても、多大な影響を及ぼしている。



土曜学習の様子



校外学習の様子

こんな活動です

～ 地域から学校へ、学校から地域へ～ ふるさとの風土で育む人づくり、まちづくり

栃木県栃木市

活動名

都賀地域アシストネット推進本部事業

関係する学校名

合戦場小学校、家中小学校、赤津小学校、都賀中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	4人	926人	無	24年度	有	無	無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯

栃木市では、学校・家庭・地域の連携・協働を組織的に発展させ、より効果的に学校支援や地域の絆づくり等を図る教育システムとして、とちぎ未来アシストネット（以下「アシストネット」という。）を、平成24年4月より、本格的にスタートさせた。

これを受け、都賀地域においても、都賀地域アシストネット推進本部（以下「推進本部」という。）を公民館におき、同時に小・中学校長4名、公民館長、地域コーディネーター4名、地域住民の代表9名、計18名による地域教育協議会を設置、年2回の協議会を開催し、地域のアシストネットに係る事業効果、課題の抽出及び今後の方針について検討を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

核家族化の進行等により、人付き合いが希薄になっている子供を健全に育てていくためには、学校・家庭・地域の連携・協働した環境づくりが必要である。しかし、学校だけでは地域の教育力・教育資源を適切に把握し活かすことは難しく、また、地域も学校教育とどう関わっていくのか手立てが分からないという現状がある。このような中、推進本部を社会教育施設である公民館に置くことで、自治会や育成会等地域で活動する団体が連携・協働して、学校における教育活動の支援に取り組み、地域の一体化につながっている。また、本地域では公民館事業を行う際に、学校、地域コーディネーターと連絡を密に行い、子供たちと地域の大人が交流する事業である都賀満喫ウォーキング、盆踊り、まるつが（祭り）及び夏休みこどもフェスタ等の運営に中学生が地域の大人と一緒に活動している。

【実施に当たっての工夫】

アシストネット活動を周知するため、公民館だよりや各学校だよりなどを活用し、事業の周知を図ると共に新規ボランティアの発掘に取り組んでいる。

「地域から学校へ」「学校から地域へ」の双方向の取組を推進するため、公民館と学校が連携・協働し、事業について学校の掲示板を活用して生徒に周知し、生徒が募集要項をよく理解したうえで応募したり、学校から中学生に地域行事への参画を呼び掛けたりしている。なお、実行委員会会議は午後7時以降に行うため、生徒が出席できるよう保護者に送迎の協力を得るなど、安全管理についても配慮している。

● 事業を実施しての効果・成果

推進本部では、地域の教育力・教育資源を学習支援として積極的に活用し、地域の方と連携・協働で「開かれた学校」づくりのために環境整備を進めている。また、中学生が地域行事に参画する活動を推進し、学校支援の「地域から学校へ」から、双方向の取組となる「学校から地域へ」の活動が進められている。このことが、ふるさとの風土で育む人づくり、まちづくりにつながり、地域ぐるみで子供たちの「生きる力」を育むと共に、地域活動に参加した中学生の、地域の将来を担う新たな人材育成の場となっている。また、双方向の取組により、地域の大人と子供が共に学びあい地域コミュニティの形成に寄与している。



地域行事の試食ブースでピザを提供する都賀中学生



式典のイベントでゆるキャラの誘導をする都賀中学生

こんな活動です

地域の特性を生かした体験活動を通して、子供たちに豊かな心を育む！

群馬県沼田市

活動名

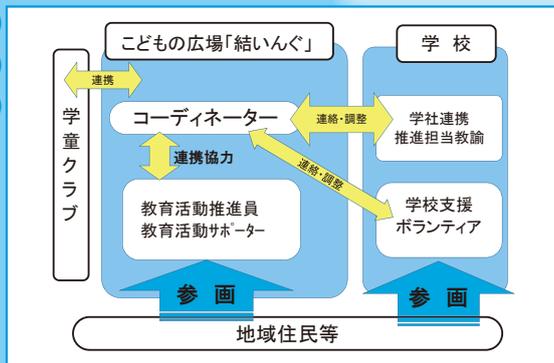
こどもの広場「結いんぐ」
(白沢小放課後子ども教室)

関係する学校名

白沢小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	50人	無	16年度	無	無	無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	27人	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
		白沢公民館		無	連携型				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	0人	1人	27人	無	16年度	有	有	有	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯

平成16年に地域の各種機関・団体と幅広く連携し、支援ボランティアの協力を得て、こどもの広場「結いんぐ」の活動がスタートした。学校・家庭・地域社会が連携し、良き伝統「結い」の心を生かし、地域の子供は地域で育てることを目的にするため、「結いんぐ」と名付けられた。公民館を核とする子供の安心・安全で楽しい居場所づくり、また地域の人々の学びを生かし、子供に豊かな体験活動の場を提供することを目的に活動が行われ、現在に至っている。

また、「結いんぐ」は、学校支援センター（※）の機能も兼ねており、「結いんぐ」の活動が核となって白沢小・中学校と地域を結びつなぐ役割を果たし、地域と学校が連携・協働し、地域全体で子供の成長を支えている。

※学校支援センター：地域住民の参画により学校の教育活動を支援する仕組み

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

平日の活動は物作りが中心で、地域の文化祭に向けて、リースや傘袋ロケット、マフラーなどの作品作りや、におい当てゲーム、ハルーンアートなど多様な活動を行っている。

休日は、年4回ほど、親子体験教室として、そうめん流し、味噌まんじゅう作りなどの親子料理教室や、北毛青少年自然の家での野外活動等を行っている。

また、「結いんぐ」のコーディネーターが白沢小・中学校の学校支援センターコーディネーターも兼ね、小学校では運動会の盆踊りの講師を地域の方々にお願したり、中学校の職場体験学習では学校と事業所とのつなぎ役となったりするなど、小中学校と連携・協働して充実した学校支援活動を展開している。

【実施に当たっての工夫】

- ・活動後は毎回、振り返りの時間を設けて、教育活動推進員や教育活動サポーターが情報交換を行っている。
- ・白沢小学校、教育活動推進員、教育活動サポーター、学童クラブ指導員や行政等、「結いんぐ」の活動にかかわる関係者が連携・協働して情報交換を行い、子供の様子を伝えたり、学校からの要望などを聞いたりしながら、子供教室と学校が同一歩調で子供を育てる環境づくりに努めている。
- ・「結いんぐ」は12名で運営されている。コーディネーター（1名）が学校との連絡調整、事務担当（1名）が参加者募集のチラシやお便りの作成、会計担当（1名）が会計事務、連絡調整担当（2名）が各種機関との連絡調整を行っている。その下で、教育活動サポーター（7名）が実際の活動にあたっている。
- ・緊急時の保護者との連絡には、SNSを活用し、スムーズに連絡ができるよう工夫している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・学校は地域の協力者や子供教室の関係者と情報交換の機会を多くもつことで、よりよい信頼関係を築いている。そのため、学校の要望に応じて、子供たちのために、協力しようという地域の方の意識が年々高まっている。
- ・子供教室を通して、上学年の子が下学年の子の面倒を見て仲良く一緒に活動するなど異学年同士の交流が多く見られる。また、小さい子を優先する等、集団でのルールを守りながら活動することで、子供の規範意識が育ってきている。
- ・地域の特性を生かした体験活動や地域の人とかかわる機会が増えたことによって、子供に郷土を大切に思う気持ちが育ってきている。
- ・親子体験教室では、親子で楽しめる体験活動を毎年工夫して企画・実施し家庭教育支援の一助となっている。

● その他

台風などの自然災害やインフルエンザの流行による緊急時には、保護者への連絡・調整の手段としてLINEの連絡網を活用している。



放課後子ども教室「脳トレ」



親子体験教室「そうめん流し」

こんな活動です

広がる学校支援の輪「高瀬小学校支援ボランティア」

群馬県富岡市

活動名

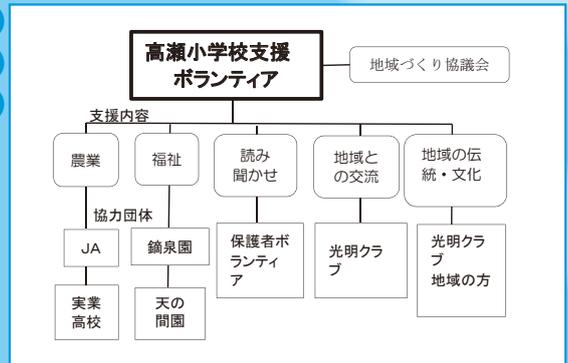
高瀬小学校支援ボランティア

関係する学校名

高瀬小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	1人	5人	34人	無	17年度	無	無	有
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				

体制図



活動の概要・経緯
以前よりあった高瀬小人材バンクを整理活用し、スクールサポートボランティアバンクを立ち上げ、児童の実情や願いに応じたよりきめ細かな指導ができるよう、地域連携年間計画を作成した。その後、平成17年度より学校支援センターを設置し、高瀬という地域の教育力を活かして、学校教育のより一層の充実を図ろうと努めている。平成17年より2年間にわたり、文部科学省から富岡実業高校・南中学校とともに「みんなの専門学校プロジェクト」推進事業実施校の指定を、平成19年には、県教育委員会より「学校支援センター運営推進事業」の指定を受けた。活動にかかわる人々の層が年々広がりを見せ、スクールサポートボランティアを核として、地域にあるJAや老人福祉施設、実業高校との交流など特徴的な取組を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 総合的な学習の時間では、地域のJAの協力によるお米つきから・どろんこ遊び・代掻き・田植え・稲刈りまでの活動を行っている。さらに、郷土や地域への誇りと愛情を育む学習として、地域の協力を得て富岡製糸場を中心とした「ふるさと富岡の学習」を実施している。
- 地域の遺跡を活用した学習や伝統文化の体験活動を実施している。
- 富岡実業高校との交流学習により、自分の未来を思い描くきっかけの一助となっている。

【実施に当たっての工夫】

- 児童が地域の文化祭や敬老会の行事に積極的に参加したり、一緒に活動したり、地域の施設に出かけたりと児童と地域の人々との交流を深めている。
- 高瀬小学校支援ボランティアの取組を学校通信や学級通信、学校ホームページで紹介したり、公民館と協力して館報に記事を掲載したりと地域への情報発信を行っている。
- 学校の教育活動に協力してもらうだけでなく、管理職が高瀬地区地域づくり協議会のメンバーとして活動していく中で、学校の取組をPRしたり、地域の人の意見を聴く機会をもったりと情報交換を行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 高校生から高齢者まで、たくさんの人とかかわりを持つことで児童が良い影響を受け、地域の人々の協力により教育活動が充実したものとなった。
- 人手が必要となる活動を中心に多くのボランティアを配置し、専門性が求められる場面で専門的な知識を持ったボランティアに支援をしてもらえることで教職員も学ぶことが多い。
- 学校の教育活動に関わることで地域の人にとって学校が身近なものとなり、児童と接することによるこびを感じる声もあがっている。

● その他

高瀬小学校支援ボランティア「できる人が、できる時に、できることをしていこう」を合言葉に活動をしている。

活動にかかわる人々の層が年々広がりを見せ、スクールサポートボランティアを核として、地域にあるJAや老人福祉施設、実業高校との交流など特徴的な取組を行っている。

学校支援センターとは、地域住民等の参画により、学校の教育活動を支援する仕組みである。



4年 総合的な学習の時間
「育てようお米」



2年 生活科
「野菜をそだてよう」

こんな活動です

伝統的な文化、工作、手作りゲーム、スポーツを中心とした体験的な活動

群馬県中之条町

活動名

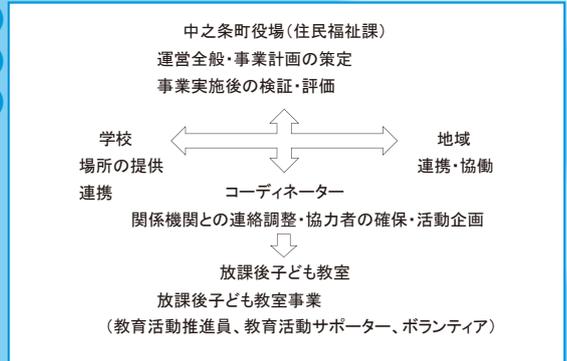
中之条町放課後子ども教室

関係する学校名

中之条小学校・六合小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	2人	68人	95日	19年度	有	無	有
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
		中之条小学校・伊勢町体育館・六合小学校		有	連携なし				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
 中之条町放課後子ども教室は、中之条小学校と六合小学校でそれぞれ活動している。両校共前身の地域子ども教室を受け継ぐ形で開始した。放課後児童の居場所づくり、異年齢交流、地域住民との交流を通じた社会教育のため、コーディネーターを中心に行政、地域、学校が連携・協働して様々な体験活動を児童に提供し、放課後子供活動の充実に貢献している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・町の伝統・文化の継承を考え、地域かるたを活用した活動の実施
- ・「初めての〇〇」といった子供たちにとっての初体験的な活動
- ・季節に応じた物作り（七夕飾りを駅に飾り付け）
- ・作って遊べる、使える物作り体験
- ・スポーツ活動を通しての異学年交流

【実施に当たっての工夫】

- ・活動ボランティアの募集、補充（地域への広報活動）
- ・専門的指導者の依頼
- ・季節にあった年間計画の作成
- ・活動前後の打合せ
- ・高校生ボランティアの活動支援

● 事業を実施しての効果・成果

- ・校区内地区・地域、学年の枠を超えた児童の幅広い繋がり
- ・家庭や授業ではできない貴重な体験的活動
- ・地域との連携及び教室への理解（協力・支援）
- ・ボランティアの生きがいづくり

● その他

- ・「宿題タイム」として、活動前に時間を確保し実施
- ・読書活動の推進として読書タイムの実施
- ・上級生が下級生に教える、子供たちによる教え合い



「ブーメランを作って遊ぼう」



昔遊び「弓矢を作って遊ぼう」

地域の人、歴史、自然から学ぶウルラ

埼玉県さいたま市

活動名

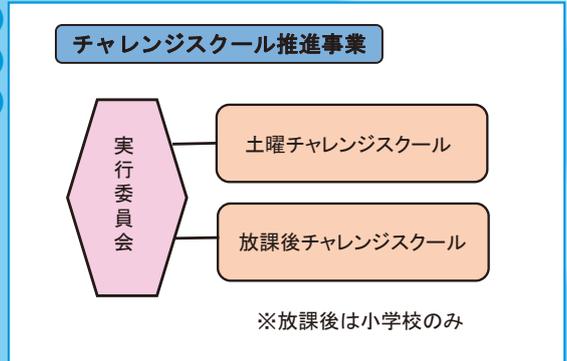
中島小チャレンジスクール・ウルラ

関係する学校名

中島小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	0人	1人	15人	65人	23年度	有	無	有
	放課後子供教室	0人	1人	65人	年間開催日数	23年度	有	無	有
	実施場所		図書室、体育館、図工室等		学習支援	放課後児童クラブとの連携			
					有	一体型			
	土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要
 地域の方にボランティアとして協力していただき、平成23年に中島小チャレンジスクール・ウルラ（略称 中島小ウルラ）として発足。全児童を対象に、月曜日の放課後及び土曜日の午前中に学習活動とレクリエーション等を実施しており、毎年月曜・土曜で合計120名を超える子供たちが参加している。
 ※本校のチャレンジスクールの愛称は「ウルラ」：ラテン語のフクロウを意味し「学問の神」「知恵の象徴」として崇められている。愛称、シンボルマークは子供たちに「知恵ある子」に成長してほしいという願いを含め、デザインともどもウルラのシンボルとして活用している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 月曜ウルラ：学習、レクリエーションの2コースに分かれての取組。学習コースでは宿題や予習復習など自習の他に、英会話、将棋も併設。レクリエーションは「みんななかよく」をテーマに異学年での活動を行っている（ドッジボール、縄跳び、バドミントン、折り紙教室等）。
- 土曜ウルラ：毎週土曜日を基本にレクリエーション、絵手紙、英会話、新聞から学ぶの4コースに分かれ、全員が年間を通して、全科目バランスよく参加できるようにしている。
- 子供たちの知的欲求に応え、ウルラの活動が一層充実したものになるよう、年間20回程度の特別プログラムを実施している（エクスリプリスの作成、縄跳び・鉄棒名人から学ぶ講座、地域の伝統行事から学ぶ体験講座、地域の自然から学ぶ講座等）。

【実施に当たっての工夫】

- 開設当初からの目標は、「学力を高める」こと。子供たちの興味関心を高め、異なる世代やたくさんの職業の方々との交流によりコミュニケーション力を得ることは何にも代えがたい力となっている。子供たちを身近で見守り、保護者とは違う目線で成長を手助けすることこそ地域の大切な力である。
- そのため、「地域の歴史や自然から学ぶ取組」（地域の誇る古墳や緑地に生息するジャコウアゲハの観察、森から学び自然を守る活動）や「伝統行事」（七夕でのマコモ馬の作成、正月飾りの作成、シュロバツづくり、それらを集大成した中島郷土かるたの作成）等を行い、子供たちにとって、地域の再発見、再認識、誇り、地域への愛着へと続くよう工夫している。
- また、地域の人の子供たちの支援者となっているが、特に、ウルラを卒業した子供たちが中学生となりジュニアスタッフとしてウルラに参加するなど、地域の中学校とも連携・協働しながら子供たちの身近な先輩がウルラの活動を支援している。指導に当たる年齢層は13歳から93歳までと幅広い。

● 事業を実施しての効果・成果

- 異世代や多くの職業の方々との交流や地域に関わる様々な活動を通して、子供たちは以前よりも地域への理解・愛着が強くなった。
- 子供たちに教えてくださるのは教師だけではない。地域の中にこそ地域の発展に力を注ぎ、支えてくださる方が大勢いる。地域の発展とともに地区外からの転入者も多くなる中、本地域の伝統行事や文化、習慣に関して理解とともに積極的な参加を得られれば望外の喜びである。
- 子供たちには、学ぶべきものは身近なところにあることを様々な活動や体験を通して知ってもらい、そして、その中でボランティアとして取り組む地域の方との会話や生き方を学んでもらいたい。それが本活動で一番大切なことであると考えている。地域の中で育ち、地域を愛する子供たちへ今後とも力を注いでいきたい。

● その他

株式会社ヤクルト本社による「健康教室」、SMBC コンシューマーファイナンス株式会社による「お金のお話」等多くの企業と連携・協働を取り、活動を充実させている。また、月曜ウルラでは、学習支援として自学自習の他、英会話もやっている。



中島小・ウルラ シンボルマーク



卒業生による音楽会

埼玉県さいたま市

活動名

大久保中学校「チャレンジスクール」

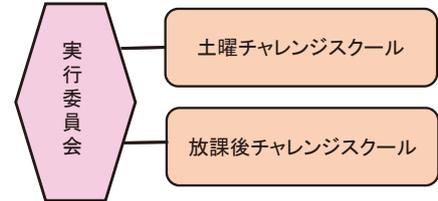
関係する学校名

大久保中学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	0人	1人	31人	子供の平均参加人数 24人	24年度	有	無	無
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所		学習支援			放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

体制図

チャレンジスクール推進事業



※放課後は小学校のみ

活動の概要・経緯
 平成24年度に開設。当初は夏休みの宿題を一緒に取り組むことから始めた。その後は「きっかけづくりを応援する」を合言葉に様々な生徒のニーズに応え、定期テストに向けた学習と受験を控えた3年生の学習の二本立てで実施している。また、PTAの活動にチャレンジスクールのお手伝いが位置付けされてからは、保護者にも関心を持ってもらえるようになり、登録生徒も毎年増加した。ボランティアの構成も、地域の人・卒業生・近隣の大学生と10代から70代まで各年代が揃い、生徒の成長を楽しみにしながら、チームワークと工夫で充実した活動を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 学習環境を整えて集中した時間にするため、テスト前の全体チャレンジと部活動引退後の3年チャレンジの2本立てで実施している。1日の流れは、始めの会で「天声こども語」や「天声人語」を全員で音読み、チャレンジノートへ取り組む教科や課題を書いて提出した後、学年別クラスまたはマンツーマンクラスに分かれ勉強をする。2時間の学習の後、さらに勉強したい生徒は「Good Job」カードを学習アドバイザーに渡し、30分延長学習ができるようになっている。この流れが生徒理解に役立ち、ボランティアとの関係を良好なものとした。学習内容は、5教科のテスト対策の他、理科の単元ごとの講座、大学生に聞く勉強の仕方講座などを実施。3年生は、受験勉強の仕方、基礎・基本の徹底、実力テスト対策などを、教科別にマンツーマンクラスと応用クラスに分かれ、充実した時間を過ごしている。
- また、チャレンジスクール開設時より、普通教室の利用、保護者会等における説明時間の確保、担任の先生方のフォローなど学校の積極的な協力があつた。これによってボランティアの意識も高まり、良いものを作っていこうという雰囲気になった。この環境が「参加して勉強しよう」という生徒の姿勢につながっている。

【実施に当たっての工夫】

毎回実施の前に、教室コーディネーターやアドバイザーのリーダーと打ち合わせし、前日にボランティアへ当日の役割分担と配置を発信している。また、動線を考え、間隔を開けながらコの字に机を並べた教室とマンツーマンの教室を別に準備、生徒の座席を毎回指定して、名前が分かるようにしている。また、始めの会の司会者、音読のリーダーを輪番制とし、各教室のリーダーに大学生をたて、年長者がフォローする仕組みを作って、チームで生徒を応援していけるよう努めている。

● 事業を実施しての効果・成果

授業だけでは理解が難しい生徒や家庭学習が困難な生徒が、諦めることなく学習に向き合う仕組みを、地域と学校が連携・協働して作りあげてきた。その結果、登録生徒も36→84名と増え、在籍数の4分の1となり定着した。生徒もボランティアと学習できるのを楽しみにし、ボランティアもやりがいを持って参加している。生徒からは集中して勉強ができる、分からないところが分かるようになった、勉強時間が増えたという感想を、保護者からは感謝の声を頂いている。また、なかなか教室に入れなかった生徒も参加するようになり、どの子も成長するきっかけづくりを目指して、今後も取り組んでいきたい。



じっくり向き合ってもらい学習する3年生



生徒の目線で声をかけ応援する

地域と学校で子供を育てる環境作り

埼玉県熊谷市

活動名
奈良っ子ふれあいメイト

関係する学校名
奈良小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		1人	1人	14.1人	54日	15年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		校庭、体育館、和室、研修室等		有	一体型					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



役職	(地域での役割)
運営委員	農業サポーター
運営委員	折り紙で遊ぶ会会長
運営委員	奈良加工研究会コスモス会長
運営委員	婦人会会長
運営委員	青少年健全育成会会長
運営委員	小学校校長
運営委員	小学校教頭
運営委員	小学校教諭
運営委員	小学校PTA会長
運営委員	子ども会会長
運営委員	おやしの会会長
運営委員	学生サポーター代表
運営委員	教育委員会指導主事
コーディネーター	中学校PTA会長
教育活動推進員	小学校PTA副会長
事務局	

活動の概要・経緯
 本教室は、市内でも有数の伝統ある教室である。また、埼玉県教育委員会発行『平成27年度「学校応援団」放課後子供教室実践事例集』に本市の代表として掲載される、模範的な教室でもある。具体的には、ビニールハウスの骨組みを利用したスイカの空中栽培が特徴の「農業体験教室」を行ったり、地域の「折り紙で遊ぶ会」の協力で折り紙教室を行ったりしている。7月には、学校でキャンプを行い100人以上の子供たちが参加した。秋には、親元を離れ地域の農業活性化センター（アグリメイト）に宿泊しながら学校に通学する「合宿通学」を、5泊6日の日程で実施している。合宿通学は、自治会連合会・健全育成会・奈良加工研究会コスモス・婦人会・親父の会・近隣の大学の学生サポーターの協力により、実施している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

11月に親元を離れ地域の農業活性化センター（アグリメイト）に宿泊しながら学校に通学する「合宿通学」を5泊6日の日程で実施している。合宿中は地域の方々や指導の下、自分たちで炊事・洗濯・清掃等を行っている。炊事では、郷土料理を扱ったり、各家庭のレシピで調理し味わうことで、郷土愛を深めている。また、教員を目指す近隣の大学の学生20人程度が学生サポーターとして、宿題の指導を始め、子供の生活を全面的に指導している。

【実施に当たっての工夫】

- ①「異年齢集団で寝食を共にする」
異年齢の子供たちと交流する機会が減少している中で、寝食を共にしながら共同生活を体験することで、子供たちのコミュニケーション能力や自立心を養うことにつながっている。
- ②「通学しながら日常生活にほぼ近い状態で生活する」
家庭において日常的に炊事・洗濯・清掃などを手伝う機会が減少している中で、この生活体験が自活へとつながっている。
- ③「ゆっくりとしたリズムで生活する」
特別なプログラムを設定せず、自主性を尊重し、ゆったりとしたリズムでの生活体験を繰り返すことで、基本的な生活習慣を身に付けている。
- ④「自ら考え工夫する」
子供との関わりでは、手出し口出しを最小限度にすることで、子供たちの自立性や自主性を引き出す。
- ⑤「日常の生活圏で行う」
学校と家庭と地域が一体となって子供たちを育てていくことで、合宿通学を通して、地域の教育力も増している。
- ⑥「熊谷の子どもたちは、これができます 4つの実践（朝ごはんをしっかりと食べる。呼ばれたら「はい」と元気よく返事をする。「ありがとう」「ごめんなさい」と言う。友だちをたくさんつくる。）と 3減運動（テレビの時間を減らします。ゲームの時間を減らします。スマートフォン・携帯電話やパソコンに触れる時間を減らします。）」を実践する場である。

● 事業を実施しての効果・成果

5泊6日という長期間にわたり共同生活をする中で、自らの壁を乗り越える経験を何度となく繰り返すことになる。その結果、子供たちの協調性を高めることができた。そして、地域の方との関わりや郷土料理作りを通して、郷土愛を深めている。また、基本的な生活習慣が身に付く基盤となり、自立性や自主性が増していくことで、学校生活や家庭生活においてよい影響が出ている。

学習支援の面では、下校した児童が会議室に集まって一斉に学習する時間を設けている。そこでは、上級生が下級生を指導したり、大学生が指導したりする姿が随所に見られる。特に添削指導まで丁寧に行う大学生の指導は好評で、児童がこれまで理解できなかった学習内容を定着させることができるなど成果を上げている。

● その他

合宿通学期間中に、学生ボランティアが主に宿題に対して学習支援を行っている。（5泊6日の期間中）



近隣の大学の学生サポーターによる宿題の指導



地域の方と学校職員が引率する登校風景

活動名

関係する学校名

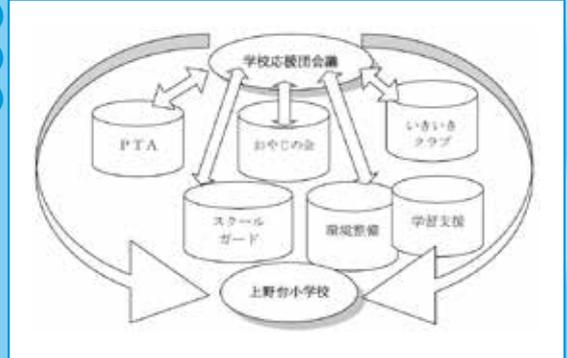
埼玉県ふじみ野市

上野台小学校学校応援団活動

上野台小学校

基本データ	学校支援活動	●	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 112人	学習支援 無	開始年度 20年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				
	土曜日の教育活動		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール		指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要
 上野台小学校学校応援団は、子供たちの健やかな成長を図るために、地域・保護者と協力し、より一層学校教育を充実させていこうと組織したものである。今の児童たちが30年後に「地域の一員として生きる大人」として育つことを見据え、学校を核として保護者・地域との相互性を高めている。この考えを基に、地域社会の文化を伝えること、地域の子供たちの安全を見守ること、学習環境を潤いのあるものにするなど「できる人ができる時にできることをする」を基本理念とし、学校応援団活動を行っている。学校・地域・保護者との交流を通して、豊かな心を育んだ子供たちを地域に送り出すことを目指している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

①年間4回の学校応援団会議

上野台小学校の教育を支え、活動に協力する団体ボランティアの代表が、相互の活動を理解し充実させるため、提案・検討を行う会議である。学校応援団の活動状況の相互理解をはじめ、活動を充実させるための計画・検討等を行っている。

②福島ひまわりプロジェクト

東日本大震災で大きな被害を受けた福島県からひまわりの種をいただき、そのひまわりを児童、保護者、花壇担当、いきいきクラブをはじめとする地域の方等と一緒に育てる活動である。育てたひまわりの種は児童が採取し、袋詰めして福島県や地域の方々にプレゼントしている。

③おやじの会の活動

平成15年度に始まった上野台小学校おやじの会では、父親の力で子供たちにできることを考え、活動している。現在は58人が参加している。主な活動は、運動会のテント張り及び片付け、校内警備、「ひかり祭」でのジャンボチャーハン作りと無料配布、卒業生への祝い餅などである。

【実施に当たっての工夫】

①学校応援団コーディネーターが中心となり、会議を主体的に行っている。連絡・調整の手段を整え、相互理解を深めることで新たな活動が始まった。花壇づくりは自主的な活動に発展している。

②ひまわりを育てるだけでなく、学校応援団活動を通して東日本大震災のことを考え、豊かな心の醸成を図っている。

③長く続けていくために、「無理をせず、できる人ができる時にできることをやる」ことをおやじの会のモットーとしている。

● 事業を実施しての効果・成果

年4回の会議で、どんな思いでどのような活動を行っているのかという相互理解を重ねることができ、様々な団体とのつながりを深めることができた。福島ひまわりプロジェクトなど、児童と地域の方が一緒に行う活動を重ねることで、一体感が深まった。おやじの会の活動は、子供たちの中に定着しており、「感謝の集い」を通して、地域への誇り、いつか地域に恩返しをしたいという児童が増えてきた。ボランティアの感想の中には、「地域のいろいろな方々が、子供たちのために様々な活動をしているのだと感じた。」「子供からお年寄りまで、様々な方々が活動と一緒にすることで、一体感が生まれた。これからも続けていきたい。」など、活動に関わる全ての人に効果があった。

● その他

今年度は、地域の方からいただいた「竹とんぼ」という詩に学校で曲をつけ、「感謝の集い」で子供たちが披露した。

これからも地域・保護者の皆さんとの交流経験を通して、地域の教育力を一つにし、「豊かな心を育んだ子供たちを未来に届ける」ことを目指す。



学校応援団会議



おやじの会による ジャンボチャーハン作り

こんな活動です

「学校や地域の活性化に向けた一助を」 —地域の力で学力向上を—

埼玉県上尾市

活動名

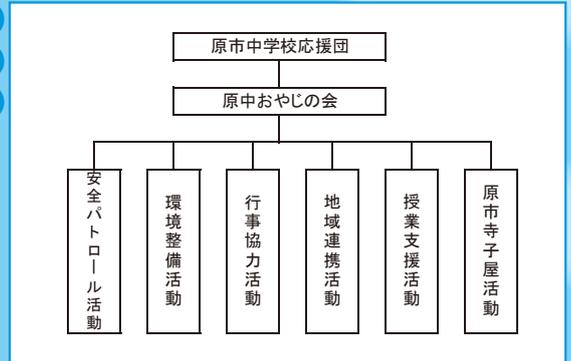
原市中学校応援団

関係する学校名

原市中学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 91人	学習支援 有	開始年度 16年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動の概要・経緯
おやじの会は、生徒指導上の課題を多く抱え、地域・家庭の協力も得にくい状況であった学校を助けるために、平成16年に発足した。おやじの会は、学校におやじ力を取り入れると共に、学校や子供たちの求めにいつでも応じられる応援集団を目指している。その後、平成20年に組織された原市中学校応援団の中心的組織として活動をし、平成27年度からは、生徒の学力向上に向け、「原市寺子屋」を開設・運営している。生徒たちの「勉強は必要だ。もっと学びたい。」という求めに応じ、隣接する「原市公民館」の講座室を借りて寺子屋を開催している。現在、おやじの会では、原市寺子屋の開催に際して、「原市寺子屋の運営」・「行き帰りのパトロール」・「寺子屋での学習ボランティア」の三つの役割を務めている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 原中おやじの会による原市寺子屋の開催
- ・平成27年度より、中学校に隣接する原市公民館の講座室を利用して実施している。
- ・毎週木曜日の午後6時から午後8時までの2時間、学習の場の提供と学習の支援をしている。
- ・参加希望者は約100人である。
- ・平成27年度参加延べ人数は、1,061人である。

【実施に当たっての工夫】

- ・生徒の実態を調査し、「学習の場」を提供することの必要性を明らかにした。
- ・行き帰りの安全確保のため、パトロールを実施するとともに、警察にも協力を依頼をしている。
- ・学校職員・おやじの会・PTAの他、近くにある高校・大学・学習塾などの協力を得て、生徒を支援している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・参加生徒は、学力向上の傾向にあり、成果は上がってきている。(平成28年度上尾市学力調査、県学力学習状況調査結果より)
- ・参加希望者についても、増加傾向である。
- ・地域の方に寺子屋で、進んで学習している生徒の姿を見ていただくことで、取組に対する賛同を得ている。その結果、ボランティアとして協力してくれる方も増えてきている。
- ・おやじの会による寺子屋での支援活動を通して、支援者と生徒との触れ合う機会が増え、支援者と生徒の親近感が高まった。

● その他

【学習支援】

- ・毎週木曜日の午後6時から午後8時までの2時間、原市寺子屋を開催し、学習の場を提供している。学校職員・おやじの会・PTAの他、近くにある高校・大学・学習塾などの協力を得て、生徒の学習を支援している。

【企業・NPOとの連携】

- ・サイエンススクール東大宮校、文研学院の講師に、原市寺子屋での学習支援をしていただいた。



第1回 原市寺子屋の様子



冬の学習の様子

こんな活動です

小学校の余裕教室を活用し、地域の方々と作る「安心・安全な居場所」です。

千葉県大網白里市

活動名

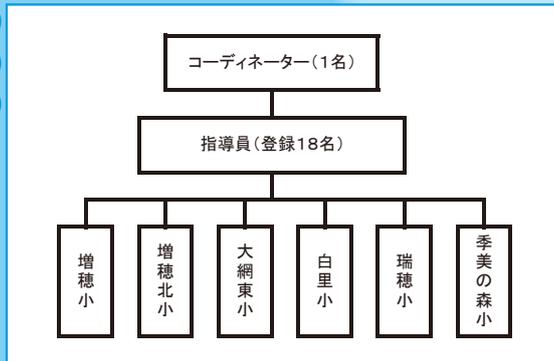
大網白里市放課後子ども教室

関係する学校名

増穂小学校・増穂北小学校・大網東小学校・白里小学校・瑞穂小学校・季美の森小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		1人	0人	14.6人	416日	19年度	有	無	無	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		各小学校の余裕教室		有	一体型					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要
 平成19年6月、放課後の余裕教室を活用し、児童の安全・安心な居場所を作ることが目的として、放課後子どもプラン運営委員会を設立。同10月から増穂小・増穂北小で開室。平成20年6月から大網東小・白里小で開室。平成25年5月から瑞穂小・季美の森小で開室。
経緯
 開室当初は週5日、日没の1時間前までの活動とし、児童が自ら帰る運用であった。平成25年からは市内でより多くの小学校での実施を目指し、週2日17時までとし、帰宅時の安全面から保護者迎えに変更。
 平成27年度以降は希望があれば学童保育の児童も参加できるようにし、一体型の運営にも取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 1日の活動の中で原則として、学習の時間、文化・交流活動の時間を設けて行う。
 - 学習活動・・・計算ドリルや漢字練習帳、その日の宿題など、子供たちの学習の支援を行う。子供たちが学習習慣を身につけることを目指している。
 - 文化・交流活動・・・おはじきなどの昔遊び、室内遊び、トランプ・将棋などのゲーム、工作、外遊びなどの異年齢での活動を通じて協調性を養うことを目指している。
- 地域のボランティアによる郷土芸能の体験、音楽鑑賞など、不定期での交流活動を特別プログラムとして行っている。

【実施に当たっての工夫】

- 放課後子どもプラン運営委員会では、市内児童の放課後の居場所作りとして、学童保育と放課後子供教室の運営について情報交換を行っている。平成27年度からは国の「放課後子ども総合プラン」に添って、一体型の運営を検討し、実施している。
- 参加は登録制とすることから、保護者が説明会に参加をし、事業の趣旨、活動内容、保護者へのお願事項等を理解してからの申込としている。
- 市内の6小学校を担当するコーディネーターが活動プログラムの作成、指導員の配置、学校との連絡調整を行い、各教室に配置された指導員が活動の支援を行っている。
- 緊急時の対応としては、指導員向けマニュアルを作成し、避難訓練を行っている。
- 指導員のスキルアップとして、年3回の研修会を開催し、災害時の対応や支援を要する児童への対応法など専門知識が必要なことについては、外部から講師を招いた講義を実施している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 平成27年度に実施したアンケートでは、児童・保護者ともに満足度8割以上であった。児童からは、「宿題をやさしく教えてくれる」ことや、「普段と違う友達ができただこと」など肯定的な意見が大半を占めた。また保護者からは、「下の子の面倒を見るようになった」「ルールを守るようになった」などの声が多く聞かれた。
- アンケート結果から、「学習習慣が身につく」など学習面の成果や、異学年交流により「協調性が身につく」「規範意識が高まる」など、人格形成の面で成果が見られたといえる。
- プログラムの中に普段家ではできない昔遊びや季節ごとの行事を取り入れることで、参加児童の興味関心は幅広くなり、総合的な学びの場としての効果があった。
- 波及効果として、親の時間の確保という意味で、子育て支援の面でも評価を得ている。

● その他

学習活動：子供たちは計算ドリルや漢字練習など、自分で内容を決めて、主体的に学習を行う。指導員は子供たちの学習活動のサポート役として支援を行っている。



学習の様子



音楽鑑賞でのふれあい

こんな活動です

『だめでもともと！』 第八中学校ブロック学校支援コーディネーターズ！

千葉県市川市

活動名

第八中学校ブロック学校支援地域本部

関係する学校名

平田小学校・鶴指小学校・大和田小学校・第八中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 5人	ボランティア登録数 137人	学習支援 有	開始年度 23年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動の概要
市川市では、地域連携推進事業“コミュニティサポート事業”が展開されてきた。平成23年度からは、事業の重点を『学校支援』に置き、学校支援活動を推進するために、コーディネーター養成事業を展開している。市川市立第八中学校は、平成23年度より、市川市学校支援コーディネーターモデル地区として指定を受け、研究を進めてきた。平成25年度から市事業として本格的に実施された後も、実践事例発表などを通じて市川市における学校支援コーディネーター推進のパイオニア的な役割を担ってきた。中学校ブロック（中1校、小3校）で連携・協働して学校支援活動に取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

中学生の2年時に行う「職場体験」では、コーディネーターが学校のニーズに合わせて、地域の事業所へ依頼している。また、理科室の器具整備や実験準備を行ったり、国語科「古典」の授業では、琵琶を演奏をしたり、日々の活動を通して生徒と密接に関わっている。

また、部活動やクラブ活動の支援、親の学習会の講師など教員の補助的な役割も果たしている。

【実施に当たっての工夫】

第八中ブロックは、第八中学校・平田小学校・鶴指小学校・大和田小学校の4校からなる。そして各学校にそれぞれコーディネーターが配置されているが、第八中学校ではコーディネーターを二人配置し、一人は統括チーフとして活動している。その特徴は各校のコーディネーターが一人ひとり単独で活動するのではなく、ブロック内のコーディネーターがチームを組んで活動している。ブロック内のコーディネーターは統括チーフを中心に、「第八中ブロック・コーディネーターズ」を組織。中学校ブロックという広い地域で、子供たちの成長に携わることで、第八中学校が地域と学校を結ぶ統括的な役割を果たしている。学校数プラス1の、5人による強力な連携・協働の下、学校支援、子供たちの健全育成、地域コミュニティづくり、地域住民による生涯学習社会の創造に取り組んでいる。

● 事業を実施しての効果・成果

「学校が変われば、地域も変わる！」中学校ブロック4校のコーディネーターが得意分野を発揮し、力を合わせて連携・協働することにより、活動の幅が大きく広がっている。ボランティア募集についても、人材ネットワークが広く、容易にボランティアを募ることが出来る。コミュニティクラブ、学習支援クラブ、放課後子供教室等、地域連携に関する様々な市事業にも関わっているため、それぞれの活動の幅も広がった。学校、地域で子供たちと触れ合い、成長を見守ることで、コーディネーターが“地域のおじさん、おばさん”となり、子供たちの成長の一助になっていることを学校・保護者・地域のボランティア様々な立場の方々を実感している。

● その他

平成29年度から「コミュニティ・スクールモデル校」として、第八中学校ブロック4校を研究モデル校に指定予定である。



平家物語
～琵琶を奏でよう～



理科の授業準備

こんな活動です

地域の支援で健やかに育て！ステップアップ牧中学区 ～学習・環境・安全の取り組み～

千葉県松戸市

活動名

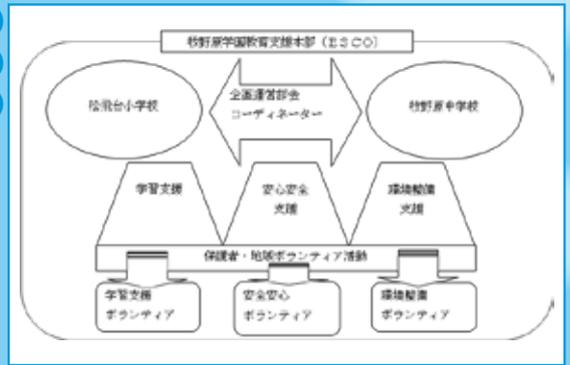
牧野原中学校区地域教育協議会

関係する学校名

松飛台小学校・牧野原中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 のべ972人	学習支援 有	開始年度 24年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



- 1. 学習支援活動** 全国学力・学習状況調査の結果等から、個別指導による基礎基本の定着を図るため、学習相談タイム（松飛台小学校）・数学学習（牧野原中学校）を実施。
- 2. 環境整備** ひまわりの栽培では、活動に参加したいが学校に足を運ぶことができないボランティアのために、育苗までを家庭で行うアイデアで実施。また、図書室の整備は課題が多かったが、今年度からは、ボランティアの方々に本の分類、本の補修、新刊本の紹介等の活動をしていただける体制をとった。
- 3. 登校安全指導** 14年前、牧野原中学校区の狭い路地や交差点が多い地域事情を踏まえて発足した防犯指導員が中心となり、現在も登校の見守り活動を実施している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 学習支援①学習相談タイム 昼休みに学習の理解に時間がかかる児童や長期に学校を休み授業を受けていなかった児童を対象に学習支援を行う。児童の様子について担任に報告。②丸付けボランティア ステップ算数（5校時開始前に10分間の算数学習）を支援。取り組んだプリントの丸付けや次のプリントを用意。（プリントは、440種類棚に用意。自分の力に合わせて取り組む。）
- ひまわり栽培 時期ごとにボランティア活動を実施。＜春季：育苗ボランティア＞種を里親に託し、自宅に居ながら学校を支援。＜夏季：育成ボランティア＞学校に来校し、土を耕し雑草を抜き、大輪の花を咲かせる。開花鑑賞会にて、斜面に咲いた花を愛でる。＜秋季：収穫ボランティア＞種を収穫し食用油に精製。食用油でコロッケを揚げ、ひまわりに携わった全てのボランティアとともに試食し、今年度の活動を振り返る。児童には、全国学校給食週間の期間に本校で採取できたひまわり油で揚げたコロッケを提供。
- お箸の持ち方支援 食育の一環として、児童が、正しい箸の持ち方についてボランティアの方から学ぶ。毎月11日「おはしの日」に地域の方々と会食し、交流を行う。
- 本の整理整頓「子供たちが本に親しめるように」本の整理、修理。本棚を分類ごとにタイトル付け。図書委員会による貸し出しの手伝い。展示コーナーの作成。

【実施に当たっての工夫】

28年度地域支援本部事業計画の作成に当たっては、ボランティアの種類・担当・連携者・月ごとの活動計画・ボランティア募集文書作成計画等を表に整理し、活動が一目でわかるようにした。ボランティアの募集方法は、保護者・自治会の方に「学校支援ボランティアの募集について」を配付し、24年度より、「学校支援地域本部事業」に取り組んでいることをお知らせし、家庭・地域・学校が結びつきながら、子供たちの成長につなげる活動であることを周知した。ボランティアの方々の自発的な活動となるように、1回目の話し合いを特に重視し、活動内容については、学校の実情を話しながら、共に考えるスタンスで取り組んだ。ボランティアの方のアイデアを大切に、できる事をできる範囲で取り組み、ボランティアの方の負担にならないようにして継続できるようにして、個々の活動日も設けるようにしてきた。活動を児童・保護者に知らせるため、中央廊下に掲示板を設置したり、ホームページに掲載したりし、多くの方々に活動を知っていただくように工夫してきた。

● 事業を実施しての効果・成果

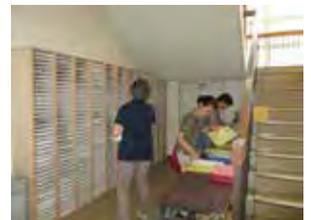
学習支援活動 小学校では、学習相談タイムで学習支援を行うことにより、つまずきによる苦手意識を軽減できるようになっている。また、丸付けボランティアによるステップアップ算数学習での支援を受け、児童は100点になるまでプリントに取り組むことによって既習内容の定着を図ることができた。中学校では、定期考査前や入試直前指導で補習を行い、学習会参加者は公立学校に全員入学することができた。

環境整備 ひまわり作戦により、校舎前の斜面が有効活用され、環境教育という視点も踏まえることができた。学校図書ボランティアでは、本の補修、分類表示、貸し出しのお手伝いをしていただくことにより、図書室の利用が増えている。お箸の持ち方支援ボランティアでは、児童が箸の持ち方に興味を持つことができ、正しい箸の使い方を意識するなど、食育と結びつけることができた。

地域連携 登校指導では、防犯指導員と子供たちが挨拶を交わしているため、子供たちとの関係が良くなっている。

● その他

3学期には、全校児童生徒による「感謝の集い」を行い、6年生が制作した刺し子や全校児童による歌のプレゼントなどをして、感謝の気持ちを伝えています。



ステップアップタイムに取り組む算数プリントの用意（プリントは440種類あります）



ひまわり作戦（2.8kgの種から約650mlの油が採れました）

こんな活動です

小中学校運営協議会の連合体が、地域総がかりでの学校支援活動を展開！

東京都八王子市

活動名

松木中学校区 3 校合同学校運営協議会

関係する学校名

松木中学校、松木小学校、長池小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 5人	ボランティア登録数 606人	学習支援 有	開始年度 22年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携 一体型				
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日 平成 22・23 年 4 月 1 日					委員数 29人	児童生徒数 1674人	学級数 52学級	

体制図



活動の概要・経緯

- ・新興住宅地が多い当地区で、松木中学校学校運営協議会、松木小学校学校運営協議会、長池小学校学校運営協議会の3つが、松木地区3校合同学校運営協議会を結成し、小中連携した学校支援活動を実施。
- ・各単体協議会の中に4部会を共通して作り、合同体では部会ごとに共同して支援策を立案し、実施。①中学校を会場に、地域祭り（浄瑠璃祭り）を開催。②長期休業中及び放課後の学習教室を主催。③各種検定（英検・漢検・数検）の準会場を運営。受験者募集等の案内、会場、支援スタッフの手配、事前学習会や当日の運営、結果発表など実務をすべて請け負う。
- ・その他、教職員との面談、先進校視察の合同実施、3校合同の教員研修会のコーディネート等

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ① 浄瑠璃祭り・・・毎年、地域連携部会が中心となり、松木中学校の敷地を使用し、地域住民、団体からの参加を募り、久しくなくなっていた「地域の祭り」を新たに復活させ、企画・運営を行う。27年度参加者 1601名。
- ② 夏休み・放課後学習教室・・・小学校では地域支援スタッフの講師による復習支援、中学校では募集講師等による受験対策を実施
- ③ 3校合同の教員研修会・・・28年度は「クラスの中の少数派の理解」をテーマに3校合同の教員研修の講師手配等をコーディネート。

【実施に当たっての工夫】

- ① 3校学校運営協議会の連携体制
委員の一部が3校兼務している。3校委員間の親睦を定期的に企画。3校PTAのOBが多く3校PTAとの連携の緊密化を図っている。
→互いの状況についてより良く知ることができ、効率よく運営することができる。
- ② 地域諸団体との連携
バザーや保育体験、職場体験を通じた、地域保小中の学校間連携も意識的に実施している。また行事を通じて地区青少年、地元警察署との連携・協働を企画している。3校おやじの会の結束を促進し、連携・協働を図る。
→様々な団体の視点を取り込み、子供たちを見守るネットワークを強化できる。
- ③ 教員の意見収集
委員と全教職員との面談を年1回実施し、教員の考え方を聞き、情報収集を行っている。
→教育の専門家として教職員を尊重し、一致協力して学校経営に当たることができる。

● 事業を実施しての効果・成果

- 1 3校連携の認知向上と行事への参加者増
「小学校（中学校）とよく連携している。」の肯定的評価 88%（保護者アンケートより）「学校は小学校（中学校）と一緒にやる取組に熱心に取り組んでいる。」の肯定的評価 82%。（生徒学校評価アンケートより）地域祭りや各種学習支援は年々参加者数を増やしながら、4～5年目の開催となる。
- 2 教員の声、地域の声
「様々な情報提供をする必要があるが、学校から保護者に言いにくいことも力強く伝えてもらえることは心強く感じている。」（教員）
「自治会や管理組合同士のつながりが無いこの地域で、防災などで学校を核に結び付きを作ってくれていることは本当にありがたい。」（地域）



浄瑠璃祭り



夏休み学習教室

こんな活動です

日新を誇り誇れる日新をつくる児童を育む スクール・コミュニティ

東京都府中市

活動名

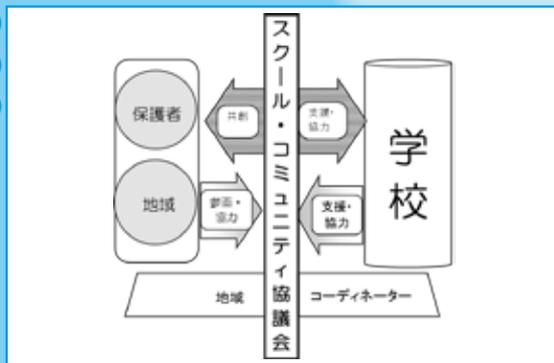
日新小スクール・コミュニティ協議会

関係する学校名

日新小学校

基本データ	学校支援活動	●	総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 3人	ボランティア登録数 48人	学習支援 無	開始年度 23年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
	地域未来塾		総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	●	総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 3人	子供の平均参加人数 35人	年間開催日数 220日	開始年度 18年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有	
	実施場所		府中市立日新小学校		無		連携型				
	土曜日の教育活動	●	総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 3人	子供の平均参加人数 485人	学習支援 無	開始年度 23年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
	コミュニティ・スクール	●	指定日 平成 年 月 日		委員数 17人		児童生徒数 485人	学級数 16学級			

体制図



活動の概要・経緯

本校のスクール・コミュニティは、平成23年度「府中市版コミュニティ・スクール」としてモデル校として、学校と保護者や地域の皆さんが共に知恵を出し合う、「地域とともにある学校作り」としてスタートした。その後、協議会を重ねながら、「地域や学校の文化・伝統を大切に、子供の未来を地域で育てること」を目標に、

- ①学校支援に向けた地域の力を結集すること。
- ②協働体制を構築して地域の特色を生かした学校応援団作りをすること。
- ③府中の伝統・文化に根ざした温かみのあるコミュニティ作りを進めること。

を実践し、地域コーディネーターを中心に、スクール・コミュニティ活動の充実・発展を推進している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

地域と共に学ぶ・・・日新小の伝統と文化「おもてなし」「おもいやり」「こころざし」「あたたかさ」
 ゲストティーチャーによる菊作り・相撲・茶道・華道・琴・三味線・尺八・もちつき・国際理解等の授業。
 地域と共に活動・・・文化センターまつりの参加、民生委員と福祉ボランティア活動、警察署とともに高速道路側面の清掃。
 放課後子ども教室とともに・・・夏休みの「ラジオ体操」、「肝試し大会」、2学期の「読み聞かせスペシャル」を共催で実施。
 地域コーディネーター・・・コミュニティだよりの発行、伝統と文化のパンフレット作成、学校便り等の配付と連絡調整。

【実施に当たっての工夫】

地域と共に学ぶ・・・ゲストティーチャーの確保、学校・地域との情報共有、連絡・依頼を適切に行う。
 地域と共に活動・・・PTAとの共催・連携・協働。民生委員、警察署、青少年赤十字、諸会社等との連絡・調整を行い、子供たちが実践する喜びや、楽しさを味わうことのできる企画・立案する。
 放課後子供教室とともに・・・学校の長期休業期間に生活リズムを整えるために「ラジオ体操」を行う。最終日には、「美化デー」を実施。新学期に向けた環境整備等を行う。
 地域コーディネーター・・・今後の小中連携授業を企画しつつ、広報を担当する。

● 事業を実施しての効果・成果

学校と保護者や地域の皆さんが共に知恵を出し合い、共に子供を育てようという意識と行動を共有することで、子供たちの豊かな「学び」と「育ち」を実現できるようになってきている。また、子供たちは地域を誇り、誇れる地域をつくる心が芽生えてきている。

今後も、子供が友達や他者を大切に、地域や社会を愛し、夢に向かい健康で努力できるよう日々関わりをもつようにするとともに、スクール・コミュニティ協議会の話し合いと活動実践を生かす。そして、ふるさと府中を愛し、世界にはばたく府中っ子として、日々新たに伸びようとする、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子供を育成することを目指していく。

● その他

放課後子供教室・・・NPO団体「府中YSS」スクール・コミュニティとの共催事業「ラジオ体操」「肝試し」「読み聞かせ」等



民生委員と介護老人保健施設の皆さんへ菊をお届けします。



地域の青少年対策委員会と共催の相撲大会。

こんな活動です

地域で創る「鷹南っ子ジャンプアッププラン」の取り組み

東京都三鷹市

活動名

鷹南学園コミュニティ・スクール委員会

関係する学校名

中原小学校、東台小学校、第五中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	0人	354人	無償	20年度	有	無	無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	0人	0人	0人	6人	28年度	有	無	無	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	指定日						委員数	児童生徒数	学級数
	平成 20 年 9 月 1 日						26 人	1269 人	45 学級

体制図

鷹南コミュニティ・スクール委員会

サポート部会

繋げる・高める

人材の提供や様々な体験機会を企画実行
より高いレベルでの達成実現に寄与する

評価部会

聞く・映す

学園を取り巻く様々な人達から声を集め、学校運営やCS活動等に反映させその実効性を検証する

広報部会

広める・伝える

学園及びCS委員会の考え方や活動についてよりわかりやすく且つタイムリーに発信する

学校・家庭・地域が連携し子どもたちの豊かな人間力・社会力を育む「鷹南っ子ジャンプアッププラン」進行中！！

- 活動の概要**
- 鷹南学園3校の子供たちの成長を学校・家庭・地域で力を合わせて応援するプラン（鷹南っ子ジャンプアッププラン）の作成
 - コミュニティ・スクール委員会で「育みたい鷹南っ子の姿」の熟議及び保護者向けのアンケート実施
 - 熟議とアンケートの結果から「鷹南っ子 生きる育みプログラム」の作成、実践
 - 「学習習慣の定着」「挑戦力、やりとげる力、協働する力」「バランスのよい体力向上」「いじめのない学園づくり」の4つのテーマを設定した。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 「熟議」や「ジャンプアップアンケート」の結果を受け、取り組むべき課題に沿った4つのテーマを掲げ実践している。
- 「挑戦力、やりとげる力、協働する力」のプログラムでは、メンタルトレーニングの専門家を招聘し、やる気アップやクールダウン、ドギマギ防止等のスキルを児童・生徒向けと大人向けに分けて行った。また、異文化体験では、外国人留学生との交流を通して、外国に関心をもったり、初めて会う人や異文化の人との交流に臆せず楽しめる体験を行った。

【実施に当たっての工夫】

- コミュニティ・スクール委員会が主体となり、学校と連携・協働しながら実施している。
- 「聞く」「考える」「やってみる」というサイクルにおいて、コミュニティ・スクール委員会では、毎年効果や手法を検証し改善しながら取組を継続している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 保護者・地域・学校と一体となり子供に携わることにより、「学力向上」と「中学校の安定化」が図られ、地域の安心感が高まった。具体的な数値としては、学園の中学校への進学率が増加した。（開園前の6年間の平均71.0%から開園後74.3%に増加）
- 地域行事に対して、コミュニティ・スクールが積極的に参画し、児童・生徒の参加も増加した。
- 鷹南学園コミュニティ・スクール委員会の成果として、平成27年度の全国コミュニティ・スクール研究大会で発表した。

● その他

- ・三鷹市では、各学園の活動を年間通して評価・検証するPDCAサイクルを確立しており、本事業についても、鷹南学園では、学園の評価・検証の中に位置付け、改善事項についても次年度に確実に具現化できるように取り組んでいる。



メンタルトレーニング



異文化交流

こんな活動です

日曜日の朝のグリーンキーパーから広がる学習ボランティアの輪

東京都板橋区

活動名

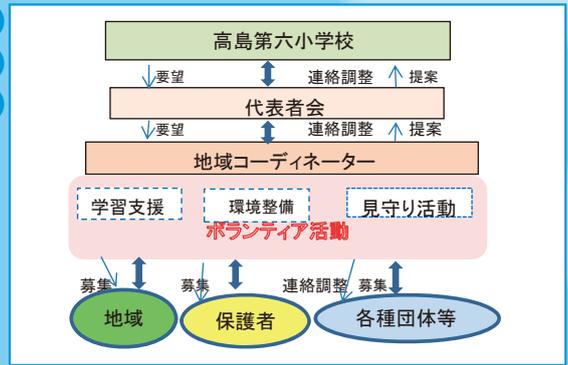
高島第六小学校 学校支援地域本部

関係する学校名

高島第六小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 800人	学習支援 有	開始年度 23年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員会	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
 【学習支援】【環境整備】【見守り活動】などのボランティア募集及び活動調整・補助、学校の要望による新しい活動への支援援助、ボランティア通信の発行など。校庭芝生化後、低調であった芝生整備活動について、本部開始を契機に、当時の学校長からの地域への積極的な声掛けもあって、ボランティア参加者が広がった。毎年、年度初めに年間計画を作成し、毎月1回、学校長・副校長・コーディネーターによるランチミーティングを開催し、計画の追加変更や状況の確認を行いながら活動内容を学習支援にも広げている。広報活動として、年間3回発行の「ボランティア通信」で活動の様子や直近のボランティア募集情報を掲載し地域の掲示板、店舗の軒先にチラシを設置している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ①グリーンキーパー 4月～9月にかけて、月2回日曜日の朝7時半から8時半まで、グリーンキーパーの活動をしている。地域の方や保護者・児童・教員合わせて70人位で、芝生刈りをしたり、雑草抜きをしている。
- ②学習ボランティア 月2回水曜日の放課後に「スーパーベイシックスクール (SBS)」と称して、補充学習教室を行っている。3～6年生の各クラスから毎回5名程度、計約50名の児童が、担任の勧めや保護者・本人の希望により参加して学習している。教科は算数と国語で、その児童にとって不得意な領域を学習支援ボランティアの方々が東京ベイシックドリルや1つ下の学年のフィードバック教材を使って個別指導で教えている。ほかに、「夏休み学習教室」として大東文化大学の学生を含む地域のボランティアによる5日間の補習教室を実施している。

【実施に当たっての工夫】

学校とボランティアを的確に結んでいくことを重視している。学校のニーズを把握し、対応していただくボランティアにしっかり伝えるとともに、実際の活動時にもお互いの意見を調整しながら常に改善を図り、より充実した学校支援を目指す。

PTAや町会との連携・協働を大切にしている点は当然として、学生や保護者、地域の方々にメールアドレスを登録していただき、直近のボランティアの募集や参加いただくボランティアの方に開催案内をメールで配信している。

● 事業を実施しての効果・成果

学校支援地域本部が設置されたことにより、学校の教育活動がコーディネーター、ボランティアなどに側面より支えられ、教員の負担が大幅に減少し、担任の先生が教育活動に専念しやすくなった。また、「学校と地域」、「学校と保護者」の結びつきがより深くなり、更にはボランティア活動を通して、「地域とPTA」もより近づき、それぞれの活動を相互にフォローする関係も生まれてきた。ボランティアを通して児童と顔見知りになり、街中でも児童を見守る大人の数も増え、地域も児童を育てるという感覚が一步前進しているのではないかとと思う。

● その他

学習支援については、「SBS」のほか、学校からの要望があった5・6年生の家庭科学習の授業補助を実施。調理実習や裁縫学習の日に学習ボランティアの方に指導補助をしていただいている。包丁や火を扱ったり、ミシンを使ったりする学習では、担任だけでは、安全面に心配があったが、複数の大人のサポートが加わることで、担任も児童も安心して学習に専念することができている。



みんなで取り組むグリーンキーパー



手厚く支援する放課後学習スーパーベイシックスクール

こんな活動です

地域の応援力 ～第三砂町中学校に通うすべての生徒のために～

東京都江東区

活動名

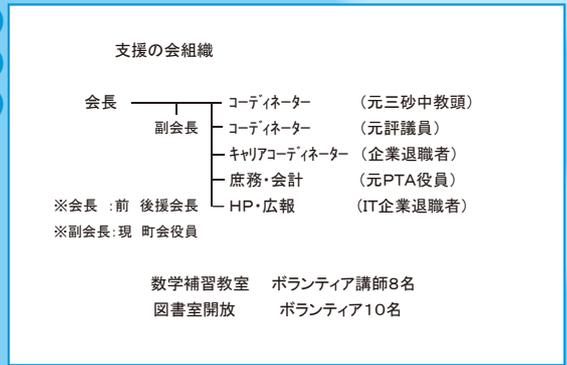
三砂中支援の会

関係する学校名

第三砂町中学校

基本データ	学校支援活動	●	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 6人	ボランティア登録数 8人	学習支援 有	開始年度 20年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	地域未来塾		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
			実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
	土曜日の教育活動	●	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 3人	子供の平均参加人数 45人	学習支援 有	開始年度 23年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	コミュニティ・スクール		指定日			委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要
 生徒たちの中学校生活が楽しく、卒業後も地域に楽しく居住することを目指し、平成20年度に三砂中支援の会を発足。
 ・居場所づくりの図書室開放は生徒同士の交流、地域の大人との会話、アート体験など（43日間）
 ・学習支援として、土曜日の数学補習教室、考查前学習（延べ66日+16日）
 ・チャレンジ支援として、検定試験（英検、漢検、数検）の事前学習（英検事前学習17日間、漢検は図書室開放時）
 ・働く目的、勉強の意義を教える現役企業人の講話によるキャリア教育（3年生クラス単位に実施）
 ・茶道部の地域イベントへ参加し、地域の大人や地域住民との交流（年2回実施、地域の方7～80人参加）

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 居場所づくりの図書室開放では、生徒同士の会話交流とともに地元の経験豊富な大人との地元の昔の話やニュースなど気楽な会話、将棋そして地元の大人の趣味を生かしてのアート教室体験などを行っている。
- 数学補習教室は、新1年生は算数スタンダードとして算数の総復習、そして土曜教室（毎週土曜日 1年生27回 2年生26回 3年生13回）、夏休み教室を実施。特に数学の苦手な生徒を先生と相談して参加させ実施している。
- 部活動支援として、なかなか発表の機会がなく、地元住民の方々との交流がない茶道部を地元商店街の歩行者天国に出店し、披露することで多くの方々と交流を深めることができています。

【実施に当たっての工夫】

- 居場所づくりの図書室開放から、学校、生徒の潜在ニーズを見つけ以下のとおり発展させることができた。
 【図書室開放→考查前学習→数学補習教室→英検漢検受験前学習→キャリア教育→部活動支援】
 生徒との交流を深め、徐々に拡大していったため、スムーズに実施・発展できた。
- コーディネーターの多方面の知識、人脈の特徴を生かして組織的に実施している。
 地元商店経験者、町会役員、大企業退職者、IT企業退職者、中学校副校長経験退職者の構成がとても良い。
- 学校の校長、副校長、先生との頻繁な意見交換、情報交換を行って計画、実施している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 支援の会の認知が学校内外に定着し、活動が安定的に継続している。
 ・図書室開放は考查前には多くの生徒が集まり、生徒同士で学習、交流している。
 ・数学補習教室は、1・2・3年生の土曜教室から、新1年生算数スタンダード教室、夏休み補習教室へと拡大。
 ・英検、漢検の合格者が数多く出ている（英検：27年度57人、26年度48人 漢検：27年度36人、26年度30人）。
 ・茶道部の地元商店街歩行者天国への出店も恒例となり、毎回70～80名の地元住民の方々との交流し、生徒と大人の方々との相互認識がされてきた。
 また、設営に当たり、地元町会、地元商店の協力が得られている。

● その他

- 現役企業人の講話によるキャリア教育（講師は毎年異なる）
 H28年 三菱商事、イオン、三井不動産
 H27年 三菱商事、富士ゼロックス、電通
 H26年 三菱商事、資生堂、ソニー、東レ
 H25年 日本電設工業（JR出身）、NTTファシリティ、三菱商事、コムシス情報システム（ドコモ出身）
- 数学補習教室を毎週土曜日実施 延べ66回（1・2・3年生は同日開催だが、教室は別々）
 1年生 算数スタンダードで実施（4月～7月） 20～30人 10回
 数学補習教室で実施（9月～2月） 10～15人 17回
 2年生 数学補習教室で実施（4月～2月） 6～10人 26回
 3年生 数学補習教室で実施（9月～2月） 6～10人 13回
- その他（考查前学習・英検事前学習）
 ・考查前学習（図書室を開放し、生徒同士の学習、ボランティア講師による学習指導を実施）
 16日間（6月、9月、11月、2月に各4日間実施）
 ・英検事前学習
 17日間（6月、7月、11月、1月、2月の英検試験前に実施）

○図書室開放の様子(①自習教室②アート教室③地域の方と談話)



活動の様子①

○茶道部の商店街歩行者天国参加の様子



活動の様子②

こんな活動です

学区内の豊かな教育環境を活かした地域協働学習の実施～学校・家庭・地域で共に育て、共に育つ「共育（ともいく）」の推進～

東京都町田市

活動名

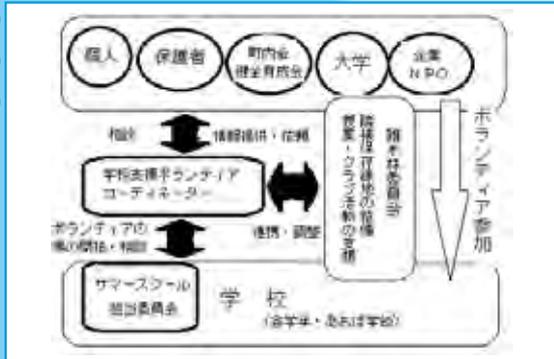
町田市立小山中央小学校学校支援活動

関係する学校名

小山中央小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 887人	学習支援 有	開始年度 22年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
 平成22年の開校とともに学校支援ボランティアコーディネーター（以下「VC」）が配置され、学校・VCの調整のもと学校支援活動の充実化を図ってきた。6年目の平成27年度には「学習支援活動」「環境整備」「登下校安全指導」「学校行事」などの分野で、保護者・地域等との連携・協働のもと、887名のボランティアの方が活躍し、保護者・地域・学校で共に育てる、共に育つ、「共育（ともいく）」をスローガンに、「地域と連携した学習」や、夏季休業中の「サマースクール」、雑木林（保存緑地）を活用した活動等を行ってきた。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

学区内の豊かな教育環境を活かし、以下のような活動を行っている。1年－七夕飾り、独楽まわし／2年－町探検、地域の畑で落花生栽培、昔遊び／3年－消防団の学習、酪農の学習、蚕育てと繭の糸取り／4年－組囃子連（伝承文化）、地域の畑で大豆の栽培、雑木林で椎茸の栽培／5年－バケツ稲の栽培、工場見学、キャリア教育／6年－茶道体験、味噌作り、邦楽体験、福祉体験／あおば学級－梅もぎ、夏季休業中に「サマースクール」を実施。多くの地域の方、保護者に講師を務めてもらっている。また、隣接した雑木林を保護者・地域・学校が協働で整備し、授業やクラブ活動等で活用している。

【実施に当たっての工夫】

年度初めに、VCの役割についてや、前年度の「地域支援による教育活動の記録」をもとに、各学年において地域の教育力がどのように活かされているか教師の共通理解を図る。その上で、教師の主体性を尊重した新年度の活動を調整していく。実施においては、打合せ・当日の内容・参加ボランティア数・気付き・教師の反省、感想等を「ボランティア活動記録」として整理し、継続した活動等の資料としている。講師には「写真ニュース」等を届けて感謝を伝え、良かった点・改善点などを伺っている。お世話になった方々をご紹介する「ボランティアNEWS」を発行、保護者配布と地域回覧をしてVCの活動の周知と学校支援に対する取り組みへの理解を図っている。

● 事業を実施しての効果・成果

教員からは「VCが関わることで、地域との連携による児童の体験的な学習がより充実し、学習内容への理解や新たな知識や発見を深めている」と評価されている。講師には、「楽しかった。子ども達から元気もらえた。写真ニュースが楽しみ」等、新たな学びややりがいを感じながら活動され、新たな講師人材を紹介していただくなど、学校や児童に関心をもってもらっている。保護者からも、サマースクールや体験学習が充実している、家庭での会話が広がるなどの反響がある。「ボランティアNEWS」を通して活動に関わった方を知り、地域の方が「自分も活動してみたい」と話される声も聞こえてくるようになっている。



「サマースクール」での「サッカー」・「親子でみそづくり」の様子
 ※写真ニュース



5年「バケツ稲の栽培」でのボランティア指導の様子

共に学び、共に創る地域の学校「瀬谷さくら小学校」

神奈川県横浜市

活動名

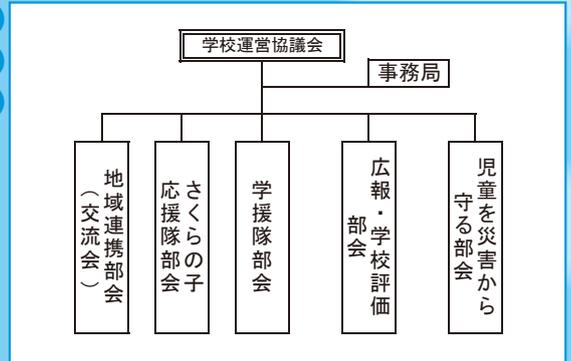
さくらの子応援隊

関係する学校名

瀬谷さくら小学校

基本データ	学校支援活動	●	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 5人	ボランティア登録数 201人	学習支援 有	開始年度 24年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
	地域未来塾		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携						
	土曜日の教育活動		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	コミュニティ・スクール	●	指定日 平成22年4月1日		委員数 12人	児童生徒数 441人	学級数 17学級				

体制図



活動の概要・経緯
活動拠点である瀬谷さくら小学校は、平成22年4月に下瀬谷、日向山の両小学校が再編統合し開校。以降、学校運営協議会を中心に、地域共同参画型の学校づくりを推進している。地域の高齢化が進む中でも、学区内の全ての地域からボランティアが登下校の見守り、学習支援（算数サポート、算数補充授業）等の地域学校協働活動に参加し、学校職員とともに子供たちの成長に寄与している。子供たちの地域への関わりにおいては、児童会代表が、地域懇談会で学校の取組を伝えるとともに、魅力あるまちづくりについて大人たちと意見交換を行っているほか、地域行事では子供たちが盆踊りやソーラン節を披露し、まつりが活気づいている。また、学校職員も地域行事の企画・運営に携わるなど、地域と学校が連携・協働し、よりよいまちづくりに取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

学校・地域コーディネーターを中心とした、学習支援方法の研修等の実施により、ボランティア人材を育成し、活動の拡充と継続に取り組んでいる。

<地域による教育支援>

- 算数学習サポート（授業時間に週1ないし2回実施、児童2人に対しボランティア1人程度）
- 算数補充学習（4～6年生を対象として、放課後に年10回程度実施）（2年生を対象として、毎週火曜日朝の15分間を利用し、かけ算や九九の学習を支援）
- 図書ボランティア（隔週の中休みに実施）
- クラブ活動支援（手芸、陸上、ボール、サイエンスクラブ等への支援）
- 授業への参加（全クラスを対象にボランティアが支援）
- 行事への参加（ズーラシアマラソン等）
- 1年生との交流会（昔遊び年3回）
- <子供たちの地域活動への参加>
- 夏祭りへの児童の参加（1年生：浴衣姿でやぐらの上で盆踊りに参加、5、6年生：オープニングセレモニーでのソーラン節披露及び地区ごとの屋台の売り子や宣伝のお手伝い）
- 下瀬谷鍋を食べよう会への参加（地場産の野菜でけんちゃん汁を作り、みんなでいただく。材料を切るころから児童も参加する。家庭科室等を地域に開放して実施）
- 特別合唱クラブによる地域の敬老会での合唱披露

<学習発表会>

地域住民を招き、総合的な学習の時間、生活科及び社会科等で、1年間を通じて学んだことを子供たちが発表。合唱、楽器の演奏などのプログラムによる児童音楽会（ミュージック広場）を年3回実施。地域に対して、子供たちの成長の様子を伝え、日頃の学校支援への感謝を伝えている。

<その他>

- 陸上クラブのちびっこ駅伝大会、瀬谷マラソン出場時の、地域による応援団の結成。
- 地域からの提案による学区周辺をマラソンコースとした、「さくらマラソン」の実施。（初年度：26年度、警察署から道路通行許可書の発行を受けて実施。）

【実施に当たっての工夫】

- 土曜参観等の機会に、活動の様子などをパネルにして掲示し、ボランティアを増やす努力をしている。
- 児童が参加する地域の行事に、学校教職員も参加し、子供たちの地域での活動の様子や大人たちとの関わりについて把握している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 算数学習サポートでは、マンツーマン指導により、子供たちの基礎学力の習得において効果をあげている。
- 算数補充学習では、苦手意識を持つ児童も、自分に合ったペースで学習ができ、効果をあげている。
- 支援活動に関わる方々と交流する中で、子供たちが自然に挨拶をしたり、感謝の思いを伝えるようになった。
- 休日や地域の活動においても、子供たちが支援活動に関わる方々と、名前で呼び掛けあうようになり、親しさが増した。
- 放課後や休日に児童同士で地域の福祉施設などに出かけ、地域の方々と交流が進んだことにより、地域の方から喜びの声が、学校にも伝えられている。

● その他

その他の地域による取組：昔遊びによる交流（生活科）、野菜作りなど農業体験支援、音楽鑑賞（箏の演奏）や演奏指導（ウクレレ）、合唱指導（カナリヤ会）などの体験活動への支援



算数サポート



ウクレレの体験

こんな活動です

まさに社会に開かれた教育課程を実現 - 潮田共学舎による地域学校協働活動 -

活動名

関係する学校名

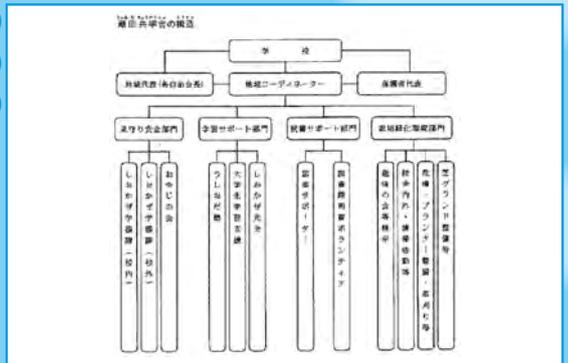
神奈川県横浜市

「潮田共学舎」による地域学校協働活動

潮田小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	5人	134人	有	24年度	有	有	無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	0人	2人	20人	有	22年度	有	無	無	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要
活動の拠点である潮田小学校は創立143年目を迎えており、地域や保護者は学校教育に対し大きな期待と信頼を寄せている。また、地域は学校や教育活動に対し、かねてより協力的で、地域ボランティアによる登下校の見守り活動（しおかぜ学援隊）、土曜日を活用した学習支援（うしおだ塾）等、の学校支援活動を実施してきた。平成24年度に、これらの学校支援活動を一体化し、ボランティア組織「潮田共学舎」（体制図参照）を発足した。命名にあたっては、潮田小学校の子供たちがよりよく成長すると同時に、地域や保護者が、共に活動をとおして学び、育つ学舎（まなびや）をつくらうとの願いが込められている。

活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

5名の地域コーディネーターと教職員（管理職、教務主任、児童指導専任教諭等）は、定例会において、学校とボランティアの両者にとって有意義で効果的な活動を実施するため、情報・意見交換を行い、組織運営に取り組んでいる。地域コーディネーターを中心とした運営委員会では、学校行事計画や各学年の教職員からの依頼をもとに、活動計画を立てている。保護者、保護者OB、地域住民、学生等で構成される学校支援ボランティアは150名を超え（含む「うしおだ塾」）、活動内容は多岐にわたる。特にこの数年間は、活動が充実し、子供たちの成長と、潮田小学校の教育活動を側面からサポートしている。

【運営委員会】

- 定例会開催（月1回）
- 学校支援ボランティア募集に係る広報活動（入学説明会、学校説明会、地域懇談会等で募集、随時受付）
- 「潮田共学舎ハンドブック」の作成
- ボランティア名簿の作成
- 学校支援活動の実施

【学習サポート部門】

- しおかぜ先生…1年生への学習支援及び見守り活動（4～5月）
- しおかぜアシスタントティーチャー…家庭科や理科の実習、実験の支援、クラブ活動の補助（4～2月）
- 夏季宿題教室における夏休みの宿題サポート（7月）
- 校外学習、遠足引率…グループ活動の見守り支援、学校行事（運動会等）への支援

【読書サポート部門】

- 図書サポーター…読み聞かせ、図書環境整備等の活動
- 学校図書館司書支援…学校図書館の活用支援（週1回）
- 定例会開催（月1回）

【栽培緑化環境部門】

- 美化、清掃活動…校舎内外の清掃及び美化活動
- 植栽芝栽培一般…花壇プランター等の管理、芝刈り及び散水等

【見守り安全部門】

- 安全見守り支援

【その他、地域活動への学校の参加等】

- 年度当初に全校児童とボランティアが参加し、「共学舎よろしくお願ひしますの会」、年度末に「共学舎への感謝の会」を開催
- 地区懇談会に全教職員が分担して参加し、地域の声を教育活動に生かす取組
- 臨海フェスティバル等の地域行事への子供たちによる特別クラブ「エイサー（沖繩民謡）隊」「チャンゴ（韓国打楽器）隊」「鼓笛隊」の参加
- 「まちとともに歩む学校づくり懇話会」（学区の町会長で構成）に教職員が参加し、地域による学校支援、学校の地域貢献について意見交換を行っている。
- 潮田大祭とその後の清掃活動への児童・教職員の参加

【実施に当たっての工夫】

- コーディネートの流れ（地域コーディネーターの調整と、「依頼カード」の導入により、教職員の負担軽減につながっている。）
- 1 教職員は、潮田共学舎による支援を希望する活動について、「依頼カード」（記入内容：日時、活動内容、人数、持ち物等、依頼内容等）に記入し、地域コーディネーターに提出
- 2 地域コーディネーターは、加入しているボランティアに、メールで依頼内容について情報提供
- 3 活動への参加を希望するボランティアは、その旨をメールで返信
- 4 地域コーディネーターは、活動できるボランティアの人数を確認し、調整
- 5 調整結果を学校に連絡

事業を実施しての効果・成果

【問題行動の激減、学力の向上】

- 多くの大人が子供の教育にかかわることで、学校内の問題行動（児童間トラブル等）が激減した。
- 学校運営が安定したことにより、子供たち一人ひとりへの手厚い支援が行われた結果、学力が着実に向上している。（客観的データ有。学校説明会等において保護者、地域に説明している。）

【教師の業務改善】

- 地域コーディネーターが、ボランティアの調整等を担うことにより、教職員の負担軽減につながり、子供たちと一人ひとりと向き合う時間がつくり出されている。
- 学習場面にボランティアが入ることで、教職員が学習指導に専念することが可能になり、授業の充実が図られた結果、子供たちの学力の向上に寄与している。

その他

【上記以外の学校支援活動の内容】

- 児童一人ひとりの個性や習熟度に応じた学習支援（入り込み指導、取り出し指導）

【土曜日の教育活動での学習支援の内容】

- 個別の学習支援（うしおだ塾：児童1名もしくは2名に対し、ボランティア1名が支援）

【学校支援活動でのICT活用】

- 学校ボランティアの募集、連絡等で無料メール配信サイトを活用している。



読書サポート部門の読み聞かせ



月1回の定例会で、よりよい活動になるために意見交換

子供に寄り添う地域をめざして

神奈川県川崎市

活動名

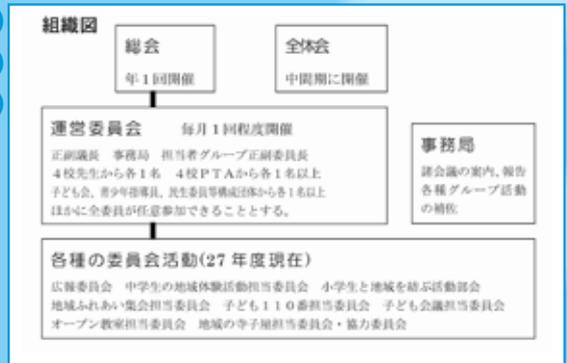
臨港中学校区地域教育会議
地域の寺子屋

関係する学校名

臨港中学校、大島小学校、渡田小学校、
田島支援学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日		委員数		児童生徒数	学級数			

体制図



活動の概要・経緯

○臨港中学校区地域教育会議は、市民が自らの責任として教育を行うための自主的・民主的組織として平成10年に立ち上がり、中学生の地域体験活動（職業体験、地域行事への参加など）の支援、小学生と地域を結ぶ活動、校区内の児童生徒の交流と教育集会の実施、子ども会議の実施、地域の防犯活動など多彩な活動に取り組んだ。

○平成26年度から川崎市が土曜日の教育活動の枠により「地域の寺子屋事業」を立ち上げるにあたり、立ち上げ初年度のモデル事業として、当該事業に取り組むこととなった。

活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 小学校2校で行う放課後の学習支援と、土曜日に行う体験活動をセットで実施している。
- 放課後の学習では、退職教員や地域の人たちが「寺子屋先生」となって、家庭学習の支援と学習習慣の定着を目指して、宿題やプリント学習を行っている。後半では、寺子屋先生達の特技を活かして、将棋や読み聞かせ、算数トランプなどを行っている。
- 土曜日の体験活動では「子供の生きる力を応援する」「良いものを次の世代に伝える」ことを方針として、その道のエキスパートや地域の人材に寺子屋先生として登場していただく。ここでは、校区内の中学校、特別支援学校にも声をかけ、保護者や地域の方も参加して、世代間での交流の場ともなっている。

【実施に当たっての工夫】

- 寺子屋事業のイメージキャラクター「寺っコ」を、看板やプリント、児童に持たせる参加カードなどに多用し、子供たちが楽しく、親しみを持って寺子屋に参加できるようにしている。体験活動の参加者には、寺っコシールのお土産も配布するので、参加する親子の楽しみになっている。
- 体験活動に続けて参加している子供には、参加の回数に応じた「生きる力」を評価して、参加10回毎に初段、二段と「認定証」を贈呈している。子供たちの励みにもなっている。
- 体験活動では、プログラムに応じて中学校の陸上部や美術部など各部活動との連携・協働も図っており、学齢をこえた交流の場になっている。

● その他

JAXA、日本数学検定協会、ジュニアマナーズ協会、JR東日本、学研、アジアキッズスポーツ協会、CCかわさき、放課後NPOアフタースクールなどの協力も経て、多彩なプログラムを実施しています。



放課後の学習支援の様子



地域の女性部のみなさんとうどんづくり

これまでの実績を活かした菅生地域ならではの寺子屋

神奈川県川崎市

活動名

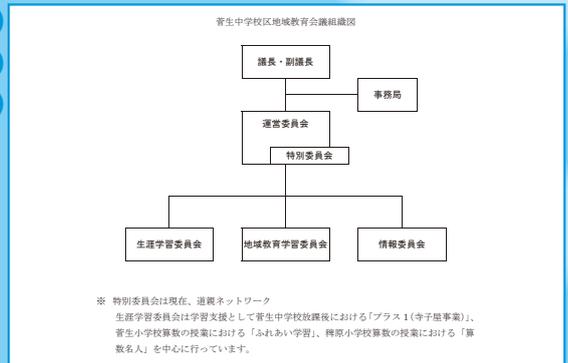
菅生中学校区地域教育会議
地域の寺子屋

関係する学校名

菅生中学校、菅生小学校、稗原小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所		学習支援			放課後児童クラブとの連携			
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯

○菅生中学校区地域教育会議は、市民が自らの責任として教育を行うための自主的・民主的組織として平成6年に立ち上がり、校区内の学校活動の支援、子供や地域が交流する集会の実施、子ども会議の実施、大人も子供も親しく声をかけ合える優しい地域を目指した「道親ネットワーク」活動、中学校や小学校での学習支援など、多彩な活動に取り組んできた。

○平成26年度から川崎市が土曜日の教育活動の枠により「地域の寺子屋事業」を立ち上げるにあたり、立ち上げ初年度のモデル事業として、当該事業に取り組むこととなった。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 中学校で行う放課後の学習支援「プラス1」と、土曜日にこども文化センターや地域の公民館を会場に行う体験活動をセットで実施している。
- 「授業についていけない子供をできるかぎりなくしていこう!」をテーマに、分からないところを分かるようにする、分かる楽しさを感じてもらい、地域の頼れる大人として接することをモットーとして、平成20年から中学校での学習支援「プラス1」に取り組んでいた。この活動を継承する形で、当該事業を実施している。
- 土曜日の体験活動では地域の世代間交流を目的としたお祭りや、こども文化センターを会場に行う「菅生こども大学」などを実施し、校区内や近隣の小学生や保護者、地域の方も多く参加している。

【実施に当たっての工夫】

- 中学生は通常の放課後や土曜日は部活動があって忙しいため、テスト前の部活動停止期間や長期休業中などに学習支援を実施している。
- 地域の大人が「寺子屋先生」として学習をサポートし、英語と数学を中心に、生徒一人ひとりに対応している。学校・教員との協働活動となっており、教員が直接支援に携わることはないが、会場の提供、寺子屋先生とのミーティング、生徒への声掛けなど、実施にあたって多くの協力を得ている。
- 体験活動においては、特に地域の人材を寺子屋先生として、茶道、パンづくり、野菜の収穫、外国の文化、護身術など多彩な活動を実施している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 学習支援については生徒の自主性に任せた参加としているが、全生徒の半分以上が参加している。
- ほとんどの生徒が目的を持って参加しており、生徒からは「分からないところが分かった」という声が多く寄せられている。
- 「保護者、地域住民、教職員等の大人である私たち一人ひとりが、子供を育てることにおける共同責任者である」という考えのもと、学力向上という地域の教育課題の解決に向けて、学校と地域が同じ目的を達成するパートナーとして活動している。
- 地域の交流を目的としたお祭りは、校区内の中学生、小学生、保護者、未就学児の子育て世代、地域の大人、シニア世代など多世代の交流の場となっている。



地域の農園で野菜の収穫体験



地域みんなの交流の場となる菅生手つなぎ祭り

人と人が育ちあえる地域の拠点づくりを目指して

神奈川県相模原市

活動名

根小屋小学校放課後子どもプラン

関係する学校名

相模原市立根小屋小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	38人	192日	20年度	有	無	有
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				
	低学年図書室		無		一体型				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要 放課後の子供たちの安全で健やかな居場所づくりのため、また、放課後子ども教室事業と放課後児童健全育成事業を効果的に連携・協働して実施するため、平成20年9月からモデル事業として開始し、モデル実施期間の終了後も継続して実施している。

活動の経緯 学校施設を活用し、「遊びの場」、「交流の場」、「体験の場」として、異年齢の子供同士の交流だけではなく、地域の方たちの協力のもと、卓球教室、よみきかせ、ハーブ教室、ラグビー教室、着付け礼法教室、将棋道場など、様々な活動を行っている。

● 活動の特徴・工夫 ●

【特徴的な活動内容】

- ・子供たちが考えた種目で学期ごとに記録を競う「ほうかごギネス」や造形ブロックを活用した「造形コンテスト」、地域の文化祭に向けた「巨大作品づくり」など、子供たちが楽しく自分のエネルギーを注ぎ込めるようなプログラムを日々展開している。
- ・近隣保育園との交流を行い、園児は学童期のプラスのイメージや安心感をもつことができ、小学生は「お兄さん・お姉さん」としての自信をもつ機会となっている。
- ・昨年度は延べ165人の地域の協力者（ボランティア）が主体的・積極的に子供たちと関わってくれたほか、卒業生もジュニアボランティアとして「後輩たち」に関わっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・子供たちに覚えてもらいやすいよう、また地域の協力者の方々が「事業のお手伝い」というイメージを払拭し、主体的に活動しやすいよう「さがみっ子サポーター」という愛称を付けた。地域の声を事業に直接的、積極的に反映していけるよう「さがみっ子サポーター会議」等、意見交換の場を設けている。
- ・放課後子ども教室には多くの在籍児童が参加しているため、小学校とは事業開始前に、それぞれの人間関係をそのまま双方へ持ち込みやすい。小学校とは事業開始前に、毎日、情報交換の時間を設け、必要に応じてケース会議、児童指導、保護者対応など連携・協働して行っている。小学校の様子を知ることで、放課後の子供たちの理解が深まり、そのことが日々の活動に生きてきている。

● 事業を実施しての効果・成果 ●

- ・根小屋小学校は全校児童が100人程度だが、日々、30人を超える参加があり、「一度帰宅すると、友達の家が遠くて遊べない」、「ここにいれば誰か遊び相手がいる」など、子供たち自身が放課後子ども教室に参加することにメリットを感じてきている。
- ・地域からは「元気をもらえた」、「子供たちと挨拶する機会が増えた」、「ここで関わった子供たちがいる他の地域行事にも参加しやすくなった」との声があるほか、地域全体を盛り上げていけるような活動を放課後子ども教室から発信していけたらいいのではないかと提案がある。
- ・小学生だけではなく、中学生たちも巻き込みながら、子供たちの育ちに関わりを持つ場として切れ目のない支援を目指していきたい。

● その他 ●

特定非営利活動法人 相模原市ラグビーフットボール協会（さがみ津久井ラグビスクール）によるラグビー教室の開催。



近隣保育園との交流や日常的に係りを持ってくださる中高生～シニア世代の地域の協力者の皆さん



地域の協力の元で実施している「読み聞かせ」「着付け」「ラグビー」などの活動

地域と協働して、子供たちの郷土への愛着を育む、安全な文化行事を企画

活動名

「かえで Papas」地域支援活動

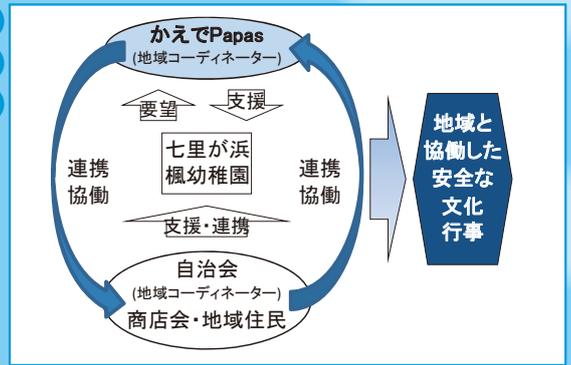
関係する学校名

学校法人清栄学園 七里が浜楓幼稚園

神奈川県鎌倉市

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		5人	8人	160人	無	18年度	無	無	無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	実施場所					学習支援	放課後児童クラブとの連携		
	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯

幼稚園の在園児の保護者が中心となり、幼稚園行事のバックアップ、地域全体の子供たちの安全と子供の郷土愛を育む安全な環境作りのため、行事の振興活性化、子供の安全見守りを目的として平成18年(10年目)に発足。
 地域の子供たちが自分の育った地域を愛し親しみを感じるため、地域住民と連携・協働して、公園やプロムナードの清掃や草むしり、海岸清掃を実施。
 地域の夏祭りでは、かえでPapasを中心とした保護者たちがそうめん流しを行い、地域住民は箸とお椀をもって参加している。
 また、子供たちのゲームコーナーの担当、舞台の企画、進行、参加など、夏祭りに彩を添えている。
 ハロウィンでは、自治会と商店会とPapasを中心とした保護者と子供たちとの合同の企画によりハロウィン行進などを行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

子供たちのボランティア精神の育成と公共のマナーの気付きのため、幼稚園の行事として実施している公園やプロムナードの清掃、草むしり、海岸清掃が、今日ではその活動が地域の方に認知される園の行事に成長している。
 幼稚園の行事として実施していた、そうめん流しは、地域との連携・協働が深まり、自治会からの要望により、夏祭りのメインイベントとなっている。
 また、夏祭りでの活動の広がり、子供たちのゲームコーナーの担当、舞台で子供たちや地域の大人たちのサークルの発表を企画、進行、参加するなど、夏祭りをより楽しく盛り上げている。
 さらに、同様に幼稚園の行事として園の子供と保護者で仮装行列とお菓子配りを実施していたハロウィンは、今では自治会や商店会からの協力で、10月最後の土曜日実施と位置付け、地域全体の行事となっている。

【実施に当たっての工夫】

幼稚園在園中に保護者間が交流することにより、良好な関係を築けるように、子供と保護者のイベントを企画する工夫をしている。
 保護者間の関係が良好になることで、地域住民との調整が円滑になり、安全に楽しめる行事を作り上げ、結果、地域全体で子供たちを健全に育成しようとする姿勢が浸透している。
 幼稚園と地域住民で実施行事ごとに企画協議(年間15回程度)を行い、安全に行事を行うために、連携・協働を図るほか、日常的に情報交換を行う中で、幼稚園と地域住民の意見を活動の運営に反映させている。
 自治会の広報紙に夏祭りや清掃に参加、協力していることが紹介され、地域住民に活動が認知され、円滑な行事の運営に繋がっている。

● 事業を実施しての効果・成果

子供たちに安全で楽しい地域の夏祭りを提供しようとする地域住民の総意を実現している夏祭りとなっている。
 子供たちが夏祭りや行事を主体的に楽しめる姿勢を持つことに繋がっている。
 地域のボランティアの協力を得て地域住民との協働活動を継続し、地域の子供たちと住民のため、地域活性化に貢献する活動となっている。

子供たちが自分の育った地域を愛し、親しみを感じてもらうという理想的な地域を作りたいという思いを持ち、地域の子供たちと住民のために、夏祭りですうめん流しや子供たちのゲームコーナーを担当するなどの活動が、幼稚園の活動と地域住民とのパイプ役的存在となり、地域住民の地域行事への積極的な参画を推進し、幼稚園と地域住民との協働活動を推進していく土壌を創り上げている。

幼稚園と地域住民との関係が密になることで、地域住民に保護者や地域の子供たちの健全育成姿勢が浸透している。

● その他

「かえでPapas」は、幼稚園行事のバックアップだけでなく、地域コーディネーター(8名:かえでPapasのメンバー4人、自治会副会長、子供会、行事体育、防犯役員)を核とする会員が中心となり、地域と幼稚園との関係を一層緊密にし、互いに協力しながら園児の心身の健全な発達を図るとともに、会員相互が広く研鑽を深め、子供たちが自分の育った地域を愛し、親しみを感じるため地域住民と協働する活動を積極的に組み入れている。

地域コーディネーターが幼稚園との情報交換をおして、活動の内容、行事の日程等の調整を行い、幼稚園や地域の行事、公園やプロムナードの清掃や草むしり、海岸清掃に協力している。



夏祭り



ハロウィン

こんな活動です

「地域とともに感動を！」 —粘り強く継続し、故郷早通に輝き続け！—

新潟県新潟市

活動名

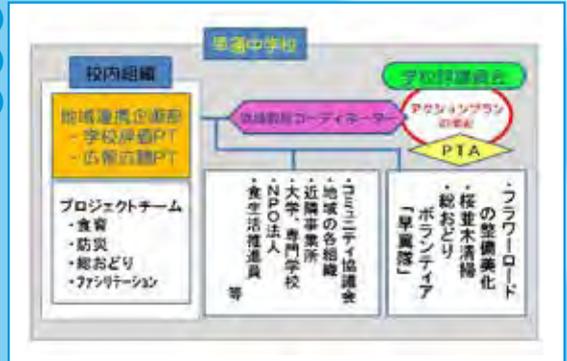
早通中学校学校支援地域本部

関係する学校名

早通中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 133人	学習支援 有	開始年度 24年度	国庫補助 有	ICT活用 有	企業・NPOとの連携 有
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動概要 本地域は数年前までいわゆる「学校の荒れ」を抱えていた。その際、学校と地域は、共に子供を見守り育て、次世代を担う人材の育成と地域の教育力の活性化を図る必要があると考え、学校と地域が連携・協働する横断的な活動を進めてきた。

- 生徒の居場所、学習の場、大人との交流の場を地域団体の協力で設置・運営。
- 住民の高齢化、地域防災力の低下など、地域課題の解決に生徒が主体的に関わり体験的に学ぶ活動の推進。
- 生徒と地域住民の連帯感や一体感を喚起する交流活動を通じた、生徒の地域愛と自己肯定感の醸成。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 地域の教育力を生かした学校支援活動の充実
 - ・地域と協力して運営する学びの場「アーリーロード」で、放課後・土曜日の学習支援。
 - ・地域の協力によるグリーンカーテンづくりを通して環境について学ぶ「学校緑化プロジェクト」の実施。
- 地域と学校が連携・協働する地域貢献活動、交流活動の推進
 - ・高齢者福祉、防災など地域課題の解決に、生徒が主体的に貢献する「食育プロジェクト」、「防災学習プロジェクト」の企画、運営。
 - ・訪問・交流を通して生徒の自信と地域の誇りを育み、今では県内外に地域のよさをアピールする存在となった「早中総おどり」。
 - ・地域に根ざす郷土愛を軸として企画運営するキャリア教育の推進。

【実施に当たっての工夫】

- 校内組織体制の拡充
 - ・継続性があり発展が期待される活動に重点を置き、活動の精査整理を行って、短期・中長期的なプランを策定し全校体制で実施。
 - ・地域の願いや期待を受けて地域の教育力を柔軟に取り入れ、多彩な教育活動を展開するため、校務分掌に地域連携企画部、広報広聴プロジェクトチームを設置。
- 地域コーディネーターを介した地域ネットワークの拡充整備による、生徒、学校、地域の Win-Win の関係の構築
 - ・地域の行政機関による地域への広報拠点とする協力体制の確立と NPO、大学、専門学校等の指導協力体制の整備
 - ・地域の団体、施設の協力による学習発表機会の提供

● 事業を実施しての効果・成果

- 地域住民と触れ合う体験・発表の機会拡大に伴い、生徒が地域に元気、勇気、感動を与え、地域が生徒を賞賛する場面が増加。
 - ・生徒は地域の期待を実感し、郷土への愛着が喚起。
 - ・教職員の96%が「自己肯定感が醸成されている」と回答するなど、地域住民から認められることにより生徒の自己肯定感が醸成。
- 中学校の取組に注目し、中学校が地域づくりの核と受け止める住民が増加
 - ・学校支援ボランティアの90%が「学校や生徒の役に立っているという実感がある。」と回答するなど、地域住民の教育に関わる意識が高まり、「家庭が育て、地域が鍛え、学校が磨く」雰囲気醸成。
 - ・早通の未来を担って欲しいという地域住民の願いから、生徒と様々な立場の大人との交流が拡大。

● その他

- 企業、NPOとの連携：【防災学習】新潟NPO協会、地域防災力センター、【食育学習】山津水産（株）、にいがた製菓・調理師専門学校、食生活改善推進員、他
- 学習支援：放課後学習の場「アーリーロード」で、地域住民と新潟医療福祉大学の学生がボランティアとして学習支援。
- ICT活用：地域防災訓練で防災に関する啓発情報をプレゼンで発表。早通中学校公式ブログ「はやどり！まるどり！早通」で情報を配信。



「食育プロジェクト」
地域の方々に向けた紙芝居発表



「総おどりプロジェクト」
総おどり園児バージョンを園児に教える活動

こんな活動です

学校関係者評価と合同学校運営協議会で学校・家庭・地域の教育力を高める。

新潟県聖籠町

活動名

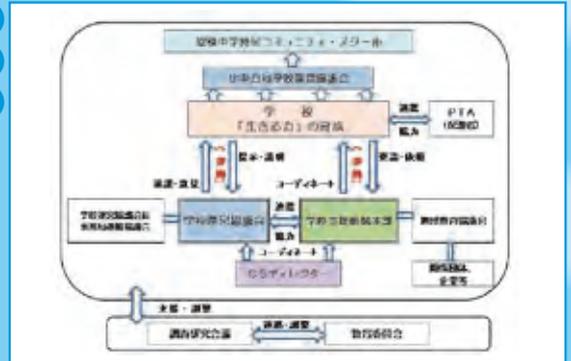
聖籠町学校運営協議会

関係する学校名

聖籠町立小中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 3人	ボランティア登録数 163人	学習支援 有	開始年度 21年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所			学習支援	放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日 平成20年4月1日					委員数 53人	児童生徒数 1230人	学級数 46学級

体制図



- 活動の概要
- ・各学校運営協議会 年間6回
 - ・小中合同学校運営協議会 年間3回
 - ・学校関係者評価委員会 年間2回
 - ・調査研究会議 年間4回
 - ・学校関係者評価研修会 年間2回
- 経緯

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 1 学校・家庭・地域の教育力を高めるコミュニティ・スクールの持続的・発展的体制の確立
 - (1) 熟議による学校関係者評価の取組
 - (2) 学校関係者評価結果を学校運営改善や教育施策等に反映
 - (3) 委員の成就感や有用感を満たす活動の計画
- 2 本町が目指す「たくましく未来を切り拓く子ども」を育てる有効な合同学校運営協議会運営の工夫
 - (1) 町が目指す子供像を具現する合同学校運営協議会の在り方を工夫

【実施に当たっての工夫】

- ・外部の講師を招聘し、研修会を開催している。
- ・学校運営協議会委員は、偏りがないように「保護者」「地域住民」「当該指定学校の校長」「その他教育委員会が適当と認める者」で構成している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・前年度からの計画的・継続的な研修により、学校評価、学校関係者評価への理解が深まった。また、自校における課題を明確にして、課題解決に自信を持って取り組む委員の姿が見られ、PDCAサイクルによる学校運営の改善が図られた。
- ・他校の学校関係者評価から、自校の学校関係者評価を振り返り、学校評価、学校関係者評価の改善に向けての意欲が促された。
- ・研修会や各校での学校運営協議会、学校関係者評価により「熟議」が充実するとともに、課題を鋭角的にとらえ、より具体的な改善策を探り出す委員の力が向上した。



小中合同学校運営協議会のワーキングの様子



小中一貫教育を目指して取り組んでいる上越市直東学園運営協議会との交流会の様子

こんな活動です

「オール刈羽で子どもを育てる」を合い言葉に、学校とともに歩んでいます

新潟県刈羽村

活動名

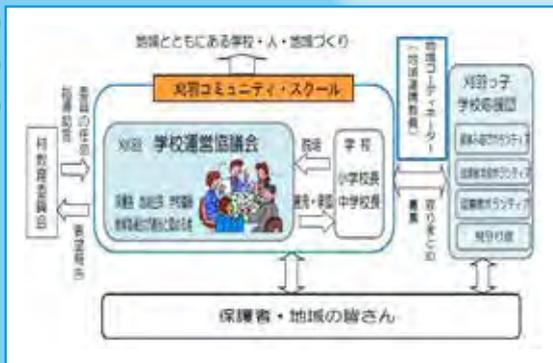
刈羽村学校運営協議会

関係する学校名

刈羽小学校、刈羽中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	0人	地域コーディネーター数	1人	ボランティア登録数	100人	学習支援	有	開始年度	26年度	国庫補助	有	ICT活用	無	企業・NPOとの連携	無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	0人	地域コーディネーター数	1人	ボランティア登録数	100人	子供の平均参加人数	10人	開始年度	27年度	国庫補助	有	ICT活用	無	企業・NPOとの連携	無
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	0人	地域コーディネーター数	1人	ボランティア登録数	120人	年間開催日数	7日	開始年度	27年度	国庫補助	有	ICT活用	無	企業・NPOとの連携	有
		実施場所		公民館		学習支援		放課後児童クラブとの連携		連携型							
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	0人	地域コーディネーター数	1人	ボランティア登録数	120人	子供の平均参加人数	10人	開始年度	27年度	国庫補助	有	ICT活用	無	企業・NPOとの連携	有
	コミュニティ・スクール	指定日		平成 26 年 4 月 1 日		委員数		18人		児童生徒数		346人		学級数		17学級	

体制図



活動の概要・経緯

「刈羽村学校運営協議会に関する規則」の策定等の指定準備を進める（H25）。
 学校運営協議会を年4回開催。地域と子供の関わりを柱に熟議・行動化を進める。有識者による講演や先進地視察研修等により委員の自覚の向上はもとより、協議会機能の活性化に努める（H26）。
 学校運営協議会を年4回開催。地域の挨拶運動や刈羽甚句による地域活性化を柱に熟議・行動化をより活性化。7月には全国大会で、これらの取組を発表する。また、中学校にコミュニティ室「fureai」を設置し、地域の人々の活動・交流の拠点とする。「コミュニティ・スクール通信」の発行や村内ケーブルテレビの活用により、取組の周知やボランティア募集等の広報活動を展開（H27）。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 活動のねらい ①熟議・協働により、「刈羽を愛し、刈羽を担う児童生徒」を育成する ②コミュニティ・スクール（以下CS）により、子供も元気にもなり、地域の大人も元気になる ③コミュニティ室の運営と情報発信により、刈羽CSの輪を広げ、着実に地域に根付かせる。
- 特徴的な活動 ①地域の挨拶運動 ②小・中学生による刈羽村伝統芸能「刈羽甚句」の継承 ③学校の教育活動への地域の人々の参画・協力 ④村行事への生徒の参画 ⑤コミュニティ室を拠点とした子供と地域の人々、地域の人々同士の「絆づくり」

【実施に当たっての工夫】

- ①学校と地域をつなぐ人材を学校運営協議会員に委嘱した。②CSが地域に着実に根付くように、学校運営協議会員で、活動のねらいを共有化し、熟議する。③熟議から生まれた企画を実現、中学校体育祭で刈羽甚句を生徒と地域の人々が輪になって踊った。④職場体験学習など地域連携の核となる教育活動に、学校運営協議会員をはじめ地域の人材が企画段階から加わる。⑤村民運動会など村の行事に、生徒が企画段階から加わることににより、「刈羽を担う」意識を育てる。⑥コミュニティ室の運営をはじめ、地域コーディネーターを地域連携の柱とする。⑦コミュニティ室でのふれあい活動など、地域住民による自主的な運営の場を設ける。

● 事業を実施しての効果・成果

- ①「刈羽を愛し、刈羽を担う児童生徒の育成」を目指し、学校運営協議会委員が学校運営のパートナーとなっている。子供や地域への願いや思いをもって熟議し、活動内容が深まっている。②CSにより、子供も元気なり、地域の人々も元気になっている。児童生徒は地域の人々との活動を楽しみ、ありがたいと感じ、地域の人々は児童生徒に感謝され、大きなやりがいを感じている。③笑顔でボランティアに参加したり、自主的に活動を進めたりする地域の人々が増えた。活動内容が深まり、裾野が広がっている。④コミュニティ室の設置、「コミュニティ・スクール通信」やケーブルテレビ、会合等での情報発信により、村民の理解も深まっている。CSは、新しい心地よい風となり、地域の活性化につながっている。

● その他

- 学校支援活動の内容は、主に小・中学校における授業補助。実績として、小学校生活科の野菜づくりや身近な生き物調べ補助、小学校理科の植物栽培補助、中学校技術・家庭科（家庭分野）のおもちゃ製作や裁縫活動補助等がある。



体育祭「刈羽甚句」



体育祭「刈羽甚句」



コミュニティ室 fureai

こんな活動です

中学生の思いを地域へ！ 学校と地域が連携・協働して牧を熱くしよう！

新潟県上越市

活動名

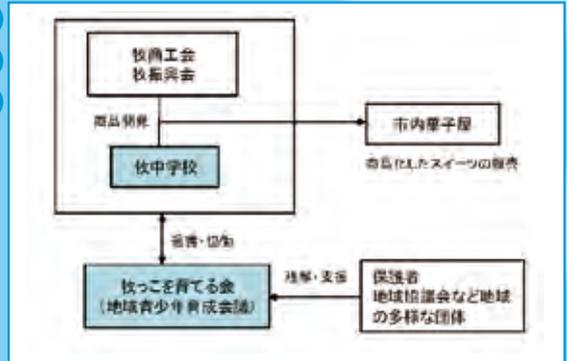
牧っこを育てる会

関係する学校名

牧中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 10人	ボランティア登録数 45人	学習支援 無	開始年度 21年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日 平成24年4月1日					委員数 11人	児童生徒数 32人	学級数 4学級	

体制図



活動の概要・経緯

- 平成25年度の牧中学校3年生が「牧を熱くしよう！」という強い思いをもち、総合的な学習の時間を中心に、地域の活性化について考えていた。牧商工会による牧のどぶろくを使った「どぶろくスイーツ」の発売に当たり、中学生との連携・協働の可能性を提案した。
- 平成26年度の3年生が、牧商工会企画の「スイーツコンテスト」をきっかけに新しい「どぶろくスイーツ」を考案した。そのスイーツは、「牧の清流」として商品化され販売されている。
- 平成27年度からは、「牧っていいね！」の思いを込めたTシャツ & ポロシャツやゆるキャラを地域に普及させながら、地域の活性化を図っている。
- このようにして、「牧っこを育てる会」では、中学校の総合的な学習の時間における中学生のアイデアを核とした地域ぐるみの活動を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 「どぶろくスイーツ」開発への思いや製造過程、中学生ができることを考える講演会の開催
- 「どぶろくスイーツ」販売促進のためのPR活動への参加
- 新しい「どぶろくスイーツ」の考案
- 牧振興会主催の行事でのボランティア活動
- 高齢化地域での元気をお届けする「よさこい出張披露」
- 「牧っていいね！」のTシャツ & ポロシャツの普及
- 故郷の地である「牧区」を知るための、故郷探検と大人との交流活動

【実施に当たっての工夫】

- 牧商工会や牧振興会、地域協議会、事業所などと連携・協働を進めながら、中学生と大人の協働の可能性を考え、地域に開かれた教育課程づくりのきっかけを模索中である。
- その年度の3年生を中心に全校生徒で取り組むことで、「牧を熱くしよう！」の思いが下級生や地域に広がっている。
- 市内すべての中学校区単位で実施している「中学生まちづくりワークショップ」においても、「牧を熱くしよう！」という目標の下、牧区地域の大人と生徒が、地域の活性化方策について話し合いを行っている。
- 牧区の行事をはじめ、各種たよりやホームページなど、様々な場面で中学生の思いや取組を広く紹介することで、地域全体に「牧を熱くしよう！」の取組を広げ、地域全体で「牧っていいね！」という思いを共有しようとしている。



地域の方の思いを聞く会

● 事業を実施しての効果・成果

- 生徒自身が大人の思いを聞く機会を設けたり、実際に一緒に活動したりすることで、生徒の地域への愛着や自分たちにできることを探そうとする意欲が深まっている。
- 保護者や地域の教育活動への理解が広がっている。
- 単年度で終わることなく、「牧を熱くしよう！」「牧っていいね！」が引き継がれることで、学校全体、地域全体の一体感が育まれつつある。

● その他

- 牧振興会(NPO)とは、「牧っこ秋まつり」「牧っこ雪まつり」「ともしびの回廊」など、まちづくり行事に授業日として参加したり、休日ボランティアとして参加している。今後も更なる連携・協働の可能性を考えたい。
- 各関係者や団体がそれぞれの立場で協力する中、生徒たちの思いである「牧を熱くする！」様々な活動を介し、内外ともに「牧っていいね！」と言われる故郷を作りたい。



新しい「どぶろくスイーツ」考案

こんな活動です

地域の人と触れ合い、地域を学び、地域の良さを再発見する ～ふるさと学習～

富山県高岡市

活動名

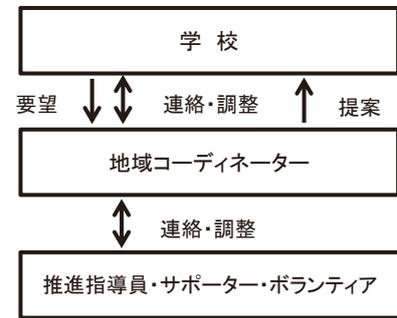
川原小学校区土曜学習

関係する学校名

川原小学校

基本データ	学校支援活動	総合コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	総合コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	総合コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	総合コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要 平成26年度より、高岡市の学習モデル事業として活動を開始。地域について学ぶ「ふるさと学習」や、「学習支援」等の多様なプログラムを実施している。地域コーディネーターが中心となり、学校や公民館、PTA、地域の諸団体、地域の方々等の幅広い協力を得て、活動を実施している。活動の講師は、日頃から学校教育に協力していただいている方や地域で各分野で活躍されている方が中心となっている。基本的に、小学校と公民館を活動場所としている。

主な活動内容（親子参加型）

- ・ふるさと学習
- ・学習支援
- ・料理教室
- ・カローリング
- ・ものづくり教室
- ・能楽教室
- ・茶道教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「ふるさと学習」は、地域の伝統文化・歴史等を学ぶ内容となっており、地域の特色を活かした活動となっている。地元の神社の祭礼である「母衣武者祭」を見学した際は、住民の方から祭りの由来を教わり、祭りで使用される兜を実際に被る貴重な体験をした。また、校区内の高岡銅器や工芸の工房を見学した際は、作家の方から直接説明を聞き、作品のできる工程や高岡銅器の歴史を学び、芸術作品に触れることができた。

「学習支援」では、参加者が宿題等の教材を持ちより、分からないところを聞く自習学習方式で実施している。実施にあたっては、地元の大学生が指導員として、たずさわっている。自主学習後に「ものづくり教室」を実施することで、メリハリを付け、双方の活動に集中して取り組めるように工夫している。

【実施に当たっての工夫】

日程や内容は、学校・PTA・地域コーディネーター・地域の方で、相談して決めている。また、PTAと協力して活動しており、安全管理・司会等の仕事を分担している。活動内容によっては、子供だけでなく、保護者や地域の方にも参加を募って、親子参加型の体験教室を行っており、子供ばかりでなく、親も学んだり、交流したりすることができる場となっている。

基本的に、1回あたり、9時～12時までの3時間の活動としている。放課後子供教室と比べて、活動時間が長いので、じっくりと取り組むことができた。活動の最後に、参加者に感想カードを記入していただき、活動内容の改善に努めている。

● 事業を実施しての効果・成果

参加人数は、プログラムによってかなり幅があるが、充実した活動がおこなわれている。ふだん学校では、体験できないプログラムが多く、子供たちが地域の文化を愛し、見識を深めるきっかけになっている。保護者の参加・協力もあるので、親子で川原校区の良さを再発見する機会になっている。また、地域の方にとっては、子供たちのことを知ってもらえる場になっている。

土曜日に一人で過ごしている子供の受け皿としても有効に機能しており、土曜日における教育環境が豊かになったと考えている。また、土曜学習のプログラムがきっかけで、放課後に実施している能楽教室に参加するようになった子供もいる。

● その他

平成19年度より「川原小学校区放課後子ども教室」で行ってきたプログラムのうち、体系的なもののみを土曜学習として実施し、発展させてきているものである。



母衣武者祭見学



工房見学

こんな活動です

地域に支えられる「舟橋子どもかがやき教室」

富山県舟橋村

活動名

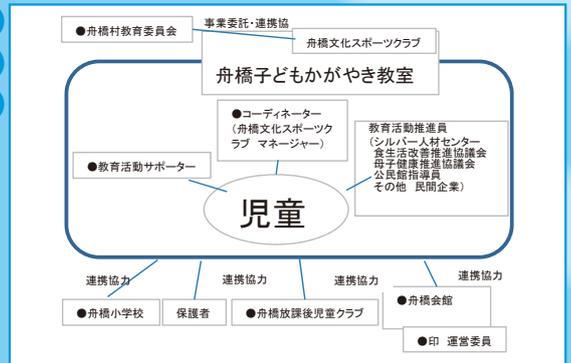
舟橋子どもかがやき教室

関係する学校名

舟橋小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	40人	28日	19年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		舟橋小学校(体育館) 舟橋会館(伏魔・ホール)		有	連携型					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯
 開設から舟橋村教育委員会が総合型地域スポーツクラブ「舟橋文化スポーツクラブ」に事業委託している。舟橋文化スポーツクラブのクラブマネージャーが教室のコーディネーターを務めている。4, 8, 3月を除く、毎週月曜日の15時から1時間を原則として活動している。舟橋文化スポーツクラブのスポーツ教室・シルバー人材センター・食生活改善推進協議会など、村の社会教育団体から教育活動推進員を招き、年間を通じて多種多様なプログラムを行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「キンボール・スポーツ教室」 舟橋文化スポーツクラブで定期開設しているキンボール・スポーツ教室の指導者を招いて毎年複数回行っている。

「昔遊び」 シルバー人材センターの協力・指導のもと、最近やらなくなった昔ながらの遊び（平成27年度は紙飛行機作り）を行っている。

「体操教室」 今年度より本村の児童の体力向上を目指し、舟橋村教育委員会の体力向上推進事業の一環として行う。民間運動教室のインストラクターが講師となり、休み時間に児童同士でできる遊びを紹介している。

【実施に当たっての工夫】

事業委託している舟橋文化スポーツクラブは、本村において社会教育の中心的な団体である。クラブマネージャーがコーディネーターをすることで、他の団体との連携・協働が協力的に進めることができている。そのため、多岐にわたる講師を教育活動推進員として招くことができ、プログラムの内容が充実し、児童が興味関心の高い状態で活動できている。今年度より、舟橋小学校の保護者総会時に参加児童の保護者説明会を行っている。主旨・ルール・マナー等を保護者との共通理解を図ることで、怪我が起きた時の対処や、参加費の徴収の徹底ができ、教室運営がしやすくなっている。

● 事業を実施しての効果・成果

開設10年目になり、月曜15時の「舟橋子どもかがやき教室」は定着している。特に低学年の児童は、クラスの5割が登録しており、自宅・放課後児童クラブに帰宅する前の居場所になっている。プログラム内容も多岐にわたっており、児童は毎回興味関心をもって活動している。本村唯一の放課後子供教室ということで、地域の諸団体等が協力的であり、地域コミュニティの場としても活用できている。近年は、教育活動サポーターの複数体制が確立し、共通理解のできた安全体制で運営している。小学校・放課後児童クラブとは、舟橋子どもかがやき教室の運営委員会を通して、助言を受け、個別の児童に対する指導に生かしている。

● その他

学習支援は、プログラム終了後に時間が余った場合、帰宅まで宿題に取り組むなどの学習の時間を設けている。



キンボール・スポーツ教室



昔遊び（紙飛行機作り）

地域の伝統芸能・産業を継承！

石川県金沢市

活動名

森山町小学校支援地域本部

関係する学校名

森山町小学校

基本データ	学校支援活動	●	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 95人	学習支援 無	開始年度 26年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所			学習支援	放課後児童クラブとの連携				
	土曜日の教育活動		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール		指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



- 活動の概要**
- ・ 地域教育協議会（年4回開催）
 - ・ 学校支援ボランティア活動は学習支援、環境整備、学校行事支援、安全指導等を行っている。
 - ・ もともと学校と地域が連携・協働していたこともあり、事業開始から3年目だが、地域の力をより効果的に活用している。
 - ・ 地域と学校が連携・協働して取り組みを行うことで、地域と学校の絆がより深まった。
- 経緯**

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

学習支援において、3年生から6年生を対象に、地域の伝統文化・産業の継承をしており、地域にある金箔・加賀友禅・焼物・和菓子等の金沢を代表する伝統工芸業を営む地域住民の協力を得て、金沢の伝統産業に触れる機会を多く設けている。

- ・ 3年生 和菓子づくり、茶道（校下のお寺でのお茶会）
- ・ 4年生 金沢箔・沈金（金銀箔工芸の見学）
- ・ 5年生 郷土食（郷土食材での創作料理）、もみじ太鼓
- ・ 6年生 加賀友禅の卒業証書台紙

【実施に当たっての工夫】

地域の伝統文化産業に携わる職人さんなどに、児童の年齢に合った作品作りを体験してもらうための協力を依頼。
また、職人さんより直接伝統文化産業が抱える問題を伝えてもらうことで、児童には「自分たちができること」を考えるきっかけづくりをする。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ ボランティアを積極的に活用することで、多くの住民との関わりを作ることができた。
- ・ 児童がボランティアと共に体験活動を行う事で、この地域に住む喜びと誇りを持ち、成長する機会を得ることができた。



加賀友禅卒業証書台紙作り



和菓子とお茶体験

こんな活動です

小学校裏の雑木林を子供たちの居場所にした放課後子供教室です。

石川県白山市

活動名

はくれない森の放課後

関係する学校名

白嶺小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		1人	0人	12人	22日	21年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		白山市瀬戸中		無	連携型					
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
	1人	0人	15人	無	21年度	有	無	無		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図

白山麓ぶなもり自然塾

地元の住民で、自然について詳しい人たちや子供たちの活動を温かく見守る人たちにより構成している。
主なメンバーは6人で、活動内容によって、随時住民等の協力をいただきながら活動を行う。

(連携)

白嶺小学校、白嶺っ子クラブ(放課後児童クラブ)、尾口ホテルの会など

活動の概要・経緯
豊かな自然の中で子供たちを育むことを目的として、平成21年度から放課後や週末の子供たちの居場づくりを行っている。当初は、小学校のすぐ近くにある豊かな雑木林を誰もが訪ねることができる場所にしたいという思いから、子供と大人と一緒にツリーハウスを作ったことが始まりである。その後、シンボルとなっているツリーハウスを基地にして定期的に遊ぶ空間や時間を確保するため、放課後子供教室の実施につながった。住民による「白山麓ぶなもり自然塾」を結成し、現在は、毎週水曜日の放課後に子供たちと地元の人たちとが関わりながら自由に遊ぶ活動を展開している。また、週末にも月1・2回程度、同様の活動を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

地域に広がる自然の中で子供たち自らの発想による遊びをねらいとしている。大人がきっかけを作り、子供が考えて遊ぶという姿勢により、子供たちは自由な発想で遊びを作り出し、主体的に活動に取り組んでいる。主な活動として、昆虫採集や木の実集め、木の家作りなどが挙げられる。これらの活動を通して、季節の移り変わりを敏感に感じ取っている様子である。また、週末の活動では、フィールドを拡大し、ホテルやギフチョウ、アサギマダラなど地域に棲む生き物の観察などを行っている。

【実施に当たっての工夫】

目の前に豊かな自然が広がっていても、そこでどのように遊んでよいかわからない子供もいることから、大人の側から遊びをしかけたり、遊びやすい雰囲気を作り、子供たちの反応を確認しながら環境づくりを行っている。毎年参加し、このフィールドをよく知っている子供も増えてきたことから、地図とコンパスを持たせて歩く活動や、コンロを使ってお湯を沸かすなどの活動を組み込み、子供たちが新たな発見をするようにしている。また、子供たち同士で知識を伝え合うことができるよう導いている。

● 事業を実施しての効果・成果

子供たちが自分で考えて活動に取り組むように仕向けていることから、子供たちに自主性や主体性が生まれてきている。さらに、異学年の友だちと遊ぶことにより、社会性や道徳性も育まれている。また、地元の自然に触れる活動を通して、子供から親や他の友だちにその良さが伝えられ、参加している子供自身だけではなくその家族もこのフィールドを訪れるようになり、多くの人が地元の自然に愛着を持つようになってきている。



「何かいる！」
毎回発見がある。



焚き火をしながら
おやつも作る。

こんな活動です

児童の豊かな人間性と地域創造力の育成をめざした「ふるさと歴史教室」

石川県七尾市

活動名

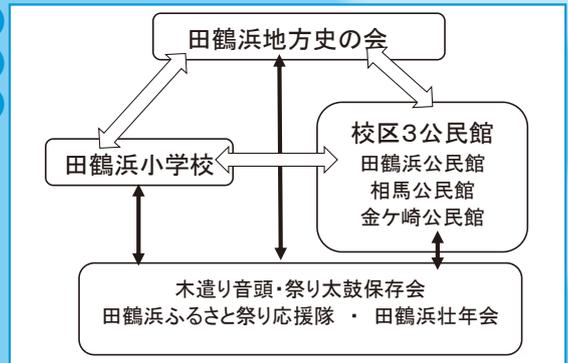
浜っ子「ふるさと歴史教室」

関係する学校名

田鶴浜小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動概要
 当活動は、田鶴浜の歴史や伝統文化等を次代の担い手である子供たちに語り伝えることによって、子供たちが地域を理解し、地域を愛し、地域に貢献する心が育成されることを期待して、平成20年度に「ふるさと歴史教室」として開設。
活動日時 田鶴浜小学校の総合的な学習の時間を活用し授業時間帯に組み入れる。定期講座は毎月1回（土曜授業）
内容 田鶴浜の歴史・文化・民俗・伝統芸能の学習、現地研修、歴史銘板作成、体験活動、歴史検定等
参加者 田鶴浜小学校5,6年生（6年生が全講座に参加、講座内容によって5年生も参加、保護者・地域住民も参加可）
指導者 田鶴浜地方史の会会員（郷土史に関心のある地域住民（元教員、元会社員、自営業、主婦等））

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 「静」の座学だけでなく「動」の活動として、学習した内容を実際に確認するため、「現地研修」や「体験活動」を行う。現地研修では、地域の人材（公民館長や地域の住民）を講師に迎えるなど、地域との連携・協働を図る。
- ふるさと歴史検定を開催し、80点以上の児童には合格認定証を渡す。
- 児童が学んだ史跡等を、地域住民にも伝えるため、「ふるさと田鶴浜・歴史銘板の里101選」を地域住民と一緒に設置。現在22選設置。
- 児童は、市主催の「ふるさと伝統芸能子ども発表会」で、ふるさと歴史教室で学んだことを発表する。

【実施に当たっての工夫】

- 学校及び田鶴浜地方史の会代表の2名の統括コーディネーターが、年度初めに方針（趣旨、活動内容、目指す児童の姿）について確認し、その後、学級担任と地域コーディネーターが綿密な打合せを行い講座を開催。
- 講座の内容は、年度終わりに児童が書く「思い出の記」を参考に決定。
- 平成27年度からは、主講座を土曜授業に組み入れ、余裕を持った活動時間を確保したり、保護者・地域住民への参加を呼びかけている。
- 郷土に残る史跡や資料をもとに郷土の歴史について学び、教科で学んだ歴史内容を深めている。また、教科で学んだ内容を歴史教室で確かめるなど、教科との連携を工夫している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ◇地方史の会や公民館、地域の各種団体との交流を継続してきたことで、顔見知りが増え、児童の挨拶もよくなった。特に高学年児童の郷土愛や母校愛が目に見えて育ち、学校にも校区にも活気がみなぎり明るくなった。
- ◇講師は、地方史の会会員が交代で当たるが、ほとんどの会員が教壇に立って教えたという経験がなく、分かりやすく教えようと一生懸命に話す姿は、児童にとって新鮮であり、感想等を聞くと感謝の気持ちが深まっていることが分かる。
- ◇保護者、地域、教育関係機関の理解と協力も得られ、児童も地方史の会会員も励みになっている。
- ◇児童の受講姿勢は立派で目が輝いている。私語はなく、メモをとる姿、質問に答える姿、自分や現代と比べて感想を述べる姿から児童の「やる気」「本気」「実践力」が評価できる。



現地研修

田鶴浜発展に尽くした長家菩提寺（東嶺寺）での法話



戦争と平和を考える講座

こんな活動です

豊かな体験活動をととした、子供たちの安全で健やかな居場所づくり

活動名

富士川町放課後子供教室
「わくわく体験教室」

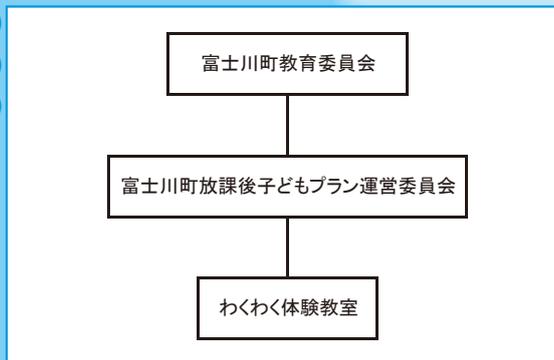
関係する学校名

増穂小学校、増穂南小学校、鯉沢小学校、
増穂中学校、鯉沢中学校

山梨県富士川町

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	1人	25人	55日	19年度	有	無	無
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				
	大ホール、ホール		無		連携なし				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯

- ・子供たちの安全で健やかな居場所の提供を行う。
- ・豊かな体験活動をととして、地域の大人や地域の子供たちとの交流を図り、学びの場とする。
- ・地域の方や教員 OB を講師として依頼し、子供たちに様々な体験活動の場を提供している。
- ・各講師や活動場所等の日程調整はコーディネーターが行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・教員 OB などを講師として依頼し、学校では体験のできない科学実験教室をととした子供たちの交流と、体験学習活動を実施している。
- ・日本の伝統文化（琴、茶道）を体験するとともに、年間を通した練習と、発表を行う伝統文化体験教室を行っている。
- ・自然体験型の環境学習と、異年齢集団での宿泊体験を行うことのできる場を利用した自然体験教室を行っている。
- ・町内の朗読活動団体と合同でステージ上での朗読発表体験教室を行う中で、地域との交流を図っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・地域の方に講師を依頼し、地域の子供たちと大人の交流を図っている。また、地域の人材を活かすことで、経費の削減にもつながっている。
- ・子供たちが普段できないような様々な体験活動ができるよう、講師とコーディネーターがプログラムを相談しながら、日々工夫を図っている。
- ・宿泊体験のある自然体験教室では、安心・安全な事業実施のため、事前に説明会を実施して保護者と直接相談を行っている。
- ・町内小学生から中学生まで幅広く募集を行っている活動が多く、異年齢の交流にもつながっている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・富士川町として合併する以前から長年続いている教室が多く、毎年参加し続けている子供たちが班やグループの中心となって活動を行うことで、リーダーシップの育成にもつながっている。
- ・地域の方々が講師となっているため、地域の大人との交流の場としての役割を担っている。また、小学校1年生から中学校3年生まで、多くの子供たちも参加しているため、異年齢集団の交流の場としての役割も担っている。



伝統文化子ども教室 合同発表会



わくわく科学教室の様子

地域と支える子供の学び、子供の育ち

山梨県甲府市

活動名

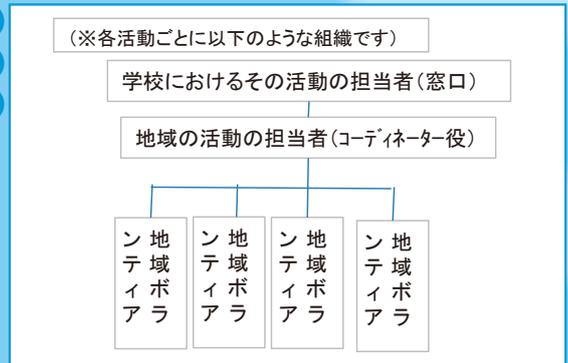
中道南小学校地域による応援団

関係する学校名

中道南小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 159人	学習支援 有	開始年度 21年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援			放課後児童クラブとの連携		
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動の概要
 「中道ふるさとハイキング」は、縦割り班にまとまった児童が、地域を学び巡る学習で、保護者や地域住民との関わりをとおして、思考力・判断力や社会性を高めていく活動である。「放課後学習教室」は、平成26年9月より活用を開始した家庭学習ノート「南小がんばりノート」の取組とともにスタートし、地域在住教員OBの支援による、学習内容の定着を目指した学習支援の場として現在に至っている。その他、地域安全パトロール推進協議会による見守り活動や甲府空襲を題材に地区公民館に寄贈された紙芝居を活用して、地区文化協会読書部のメンバーが、全校平和集会の中で「読み聞かせ」を行う活動などがある。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「中道ふるさとハイキング」は、全校児童が地域の歴史、文化、自然、産業、生活などに触れることのできる体験活動である。8つの縦割り班が保護者や地域の協力を得ながらコースや検証課題設定のための事前学習に取り組み、当日は学区内の史跡や寺院、畑などを訪ね、課題を検証していく極めて特色ある活動となっている。「放課後学習教室」は、希望制であるが、3年生以上のほとんどが参加し、地域教員OBと当該学年の教師と一緒に指導に当たり、放課後の時間の有効的な活動となっている。平和集会の「読み聞かせ」は、焼夷弾により実際に負傷した体験をもつ中道地区文化協会読書部のメンバーが、実話をもとに作成された紙芝居をスクリーンに投影しながら、平和の尊さを語るものである。また、地域安全パトロール推進協議会のメンバー57名による子供たちの見守り活動も行われている。

【実施に当たっての工夫】

「中道ふるさとハイキング」では、地域住民・団体等との関わりも増え、地域の大人との人間関係の深まりや個のコミュニケーション能力の向上に効果が期待されている。「放課後学習教室」については、地域教員OBが学校教職員と個別の児童の状況を把握、共有し、指導対象の学年や児童を原則的に固定しながら、見通しを定めた継続的な指導が行われるよう工夫されている。いずれの活動も、地域の方々の得意分野を活かす形での協力を得ている。

● 事業を実施しての効果・成果

「中道ふるさとハイキング」では、多くのボランティアの方々の協力を得たことで、地域の方々とのふれあいが深まるとともに、身近にある地域の産業を知り、理解を深めることができた。併せて地域の自然や歴史、施設等にも目を向けさせたことにより、これらを地域素材として各学年のこれからの学習に活かしていくことができるようになった。「放課後学習教室」への児童の感想は「わからないところを教えてもらえてうれしい」「難しい問題にチャレンジできるのがよい」など、また保護者の評価は、「家で学習に取り組むようになった」「補習をしてもらえてありがたい」「手厚い指導に感謝している」などが報告されている。また、この機会を活かして地域在住の教員OBには、学校の実態や課題、経営方針などを理解してもらい、総合的な視点から協力を仰いでいる。

● その他

「放課後学習教室」は、活動内容の選択肢を広げるため、「放課後子供教室」として展開を始めている。



中道ふるさとハイキングの様子



地域教員OB協力の「放課後学習教室」

こんな活動です

異年齢集団の交流の中で、豊かな体験ができる教室

山梨県上野原市

活動名

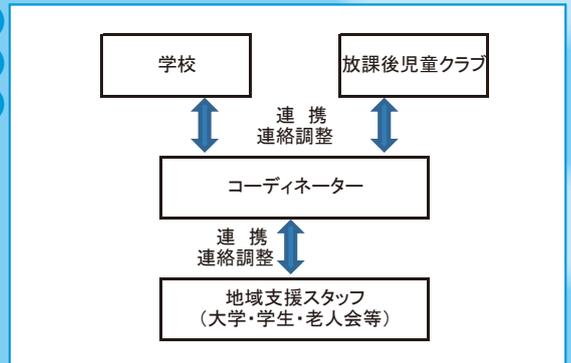
上野原市放課後子ども教室
「しまだクラブ」

関係する学校名

島田小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	30人	13日	24年度	有	無	無	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		体育館、コミュニティセンター、野球場等		有	一体型					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動概要 平成 22 年度に放課後子どもプラン運営委員会を立ち上げ、平成 24 年度より島田地区にて実施。学校以外にも周辺に活動できる施設があり、スクールバスも入っていないことから当地区での開催となる。実施回数も年々増え、参加者も増えており（学校児童の約 7 割が参加）、地域の老人会や地域の人材発掘を行い講師を依頼することで、地域内にも浸透してきている。平成 28 年度は、夏休み中の学習支援や地元講師による空手教室・英会話教室など幅広い内容となっており、地域の子供は地域で育てる、という姿勢が地域に根付き始めていると感じられる。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

地域の老人会との交流をはかり、グラウンドゴルフや敬老の日のプレゼント作りを実施する事で、継続的活動ができています。当初より、市内帝京科学大学こども学科の学生に教育活動推進員として活動してもらい、毎回多くの学生が参加し学生企画のゲームや教室のサポートをしている。子供たちにとっては、良きお姉さん・お兄さんであり、世代交流が図れるような取組を実施している。また、地域おこし協力隊による周辺の河川敷の自然観察や、自然体験施設のネイチャーゲーム等も実施し、身近にある自然に触れ合う体験学習も行っている。その他には、警察署による自転車教室や消防署による防災教室・防災サバイバル体験といった活動も実施し、子供たちに生活面でも様々な体験活動ができるよう取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

- ・学校の一斉下校時に実施することで、子供たちが参加しやすいように計画している。
- ・周辺の公共施設を有効利用し、普段はできない様々な体験ができるようになっている。
- ・学校や放課後児童クラブとの連携・協働を図り、放課後子供教室参加後、児童クラブに戻る子供たちの流れが、スムーズに行われている。
- ・活動が夕方 5 時以降になる場合は、保護者の迎えをお願いするなど、安全面にも十分配慮し運営している。
- ・教室の始まりと終わりのあいさつを心がけ、毎回今日の感想を発表するなど、子供たちの自発性を育むことにも力を入れている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・異なる学年の子供たちとの交流や、大学生・地区の老人会の方と接することで、豊かな人間関係が培われている。
- ・年間を通じ、様々な文化活動・体験活動が実施されるため、子供たちは意欲的に取り組み、楽しく過ごすことができている。
- ・保護者からも大変良い経験をさせてもらっているという感想をいただいております、効果を感じている。
- ・地域の方にとっては、「子供たちに教える」という教育力の向上にもつながっている。

● その他

- ・夏休みには、「寺小屋」として課題への取組や独自のプリント集を作成し、子供たちに学習支援を実施している。



学生と一緒にネイチャーゲーム



地域の老人会とのグラウンドゴルフ

地域とともに「自律した学習者」を育てる

長野県大町市

活動名

大町市立美麻小中学校

関係する学校名

美麻小中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数
	平成 26 年 4 月 1 日					13 人	95 人	13 学級	

体制図



活動の概要
 自律した学習者が育つ小中一貫教育を充実させ、「ふるさと美麻を愛し、語り、想い続ける児童生徒」を育てるために、平成26年度より小中一貫教育学校及び美麻コミュニティ・スクールをスタートさせた。地域の方々が、小中一貫教育学校の学校づくりに参画すると共に、同時に組織された「美麻学校支援隊」が、願いを共有しながら、児童生徒の学びの支援に積極的に取り組んでいる。
 これにより、学校と地域は、「よりよい学校づくりが美麻の地域づくりの活性化につながる」という関係のもと、一体となって児童生徒を育てることができている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・小中一貫教育の学校づくりや、旧市内全域から通学を可能にする小規模学校特認校制度導入と山村留学生の受け入れにより、全国や市内全域、美麻地区から集まる児童生徒が、支え合い互いに成長し合う学校づくりを進める。
- ・地域の方が、総合的な学習の時間「美麻市民科」での支援を行い、地域学習の充実を図る。地域について学んだことは、児童生徒が地区の文化祭で発表したり、地域づくりへの提案も行っている。
- ・アメリカにある姉妹提携校K8スクールへの交流訪問や受入について、その手配や事前学習の講師を地域のボランティアが行っている。交流は、児童生徒にとっては貴重な体験となっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・学校運営協議会委員が各支援部のリーダーを兼ねたり、学校支援コーディネーターも会議に参加することで、協議の内容が支援に生かされるようにしている。
- ・委員は、行事や学校支援ボランティアにもできる限り参加するようにして、実態に即した学校関係者評価や次年度への提言ができるようにしている。
- ・ボランティア向けの研修会を年2回実施し、共通理解を深める。
- ・地域と学校を結ぶ学校支援コーディネーター（地域の方）と教職員の調整を行う地域連携コーディネーター（教員）を配置し、二人が連携することで、学校支援活動の充実がより図られる。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・小中一貫教育をはじめ、様々な美麻小中学校の特色が地域や家庭に理解され、学校・家庭・地域の一体感のある教育が進められている。
- ・学校運営協議会で学校運営の方向が理解され、学校支援隊に学習等様々な教育活動や環境整備の支援をしてもらうことで、教職員はこれまで以上に授業づくりに専念することが可能になっている。
- ・地域の方は、児童生徒の学びを支えたり、学んだ児童生徒が成果を地域に発信したりすることが、地域の活性化につながっている。
- ・児童生徒は、地域の方とふれ合い、地域のことをより深く学ぶことで、地域への愛着を育むことが出来ている。



総合的な学習の時間では、地域の方にアドバイスをもらいながら活動を深めています。



遠足に多くのボランティアの方に参加していただき、地域の学習もしています。

こんな活動です

心豊かでたくましい青木村の子供の育成 - 今こそ子供に社会力を -

長野県青木村

活動名

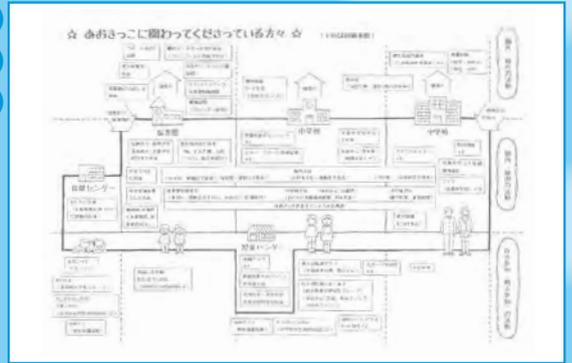
青木村を愛する活動
青木村立青木小学校

関係する学校名

青木小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 4人	ボランティア登録数 120人	学習支援 無	開始年度 19年度	国庫補助 無	ICT活用 有	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要
 村では「一人の子どもを育てるには村全員が関わらなければならない」という意識のもと、(1) 多くの人が子どもに関わり、子どもたちの『社会力』を育てる(2) 心豊かな、たくましい青木っ子の育成(3) 青木村に誇りの持てる子どもを育てることを目標とし、保・小・中の連携と一貫教育を背景に、村教委、PTA、公民館、保育園・小・中学校、児童センター、大学・高校、地域サークルが連携・協働する「青木村はつらつプラン」を立ち上げた。その中で本校は、書写や音楽の授業、放課後の寺子屋、総合的な学習の時間での米作り・義民太鼓、地域体験としての農村体験等、学校支援ボランティアが定期的に関わる活動を継続している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

村の教育目標の重点項目である、「保小中一貫教育」・「多様な他者や自然とのかかわり」・「学力・体力の向上」・「子どもと向き合う時間の確保」・「一人一人を大切に教育」のこれら5つを学校運営の重点に据え、「あかるい子・かしこい子・たくましい子」の学校目標の具現に努め、村と歩調を合わせた教育活動を展開している。特に「多様な他者や自然とのかかわり」では、「寺子屋」と称する学習支援活動を活発に行っている。水曜日を除く平日の4日間、宿題や課題を中心に放課後の30分間を「寺子屋」の時間に充てている。ボランティアは現役のPTAやPTAのOBなど8名が登録されていて、日常的に4名ほどが学習支援を行っている。設立当初からかかわっているボランティアは、「自分の子どもが卒業しても他のお子さんの学習支援をさせていただき、生活に張りがあります。」と語っている。

【実施に当たっての工夫】

「寺子屋」の時間は、宿題以外にも担任から補充学習が必要な児童個々に課された課題をボランティアと一緒に解いたり、ヒントを出したりする個別指導の時間ともなっている。また、本校では低学年・中学年・高学年で下校時刻がまちまちであることから、低学年の児童は寺子屋で宿題をやりながら、高学年の兄や姉を待っている姿が見られ、児童センターの役割を果たしているようすも見られる。さらに、全ボランティアと全職員は、学期に一度、「寺子屋」に通う児童のようすなどについて情報交換を行っている。また、教頭や学級担任が必要に応じてボランティアと連絡を取り合い、日程や時間調整、児童のようすについての情報交換など、日常的な連携・協働が図られ、「寺子屋」の活動がスムーズに運営されている。

● 事業を実施しての効果・成果

農村体験やおおきこホームステイ、地域サークルの方による日常の授業支援などにより、地域に対する興味が高まり、理解が深まった。とりわけ、おおきこホームステイでは「堀内さんちはおしゃべりがおおく、みんなおこらずやさしい人たちです。いきてゆくのによくだつさぎょうばかりでした。(5年生)」、「子供が『参加する』と言ったの聞いて、人との関わりを楽しんで感じられるようになったのかと思いきや嬉しく感じました。(4年生保護者)」などの感想が寄せられた。ある学校支援ボランティアは、「『村の子は村で育てる』』という意識のもと、学校外でも子供たちに声をかけたり、見守ったりすることが多くなった」と語っていた。

● その他

高学年の児童一人一人にタブレットを配付し、日々の授業はもちろん、ドリル学習にも活用している。



農村体験



学習支援(書写)

地域全体の子育てで、大人も子供も輝く「ひろば」

長野県岡谷市

活動名

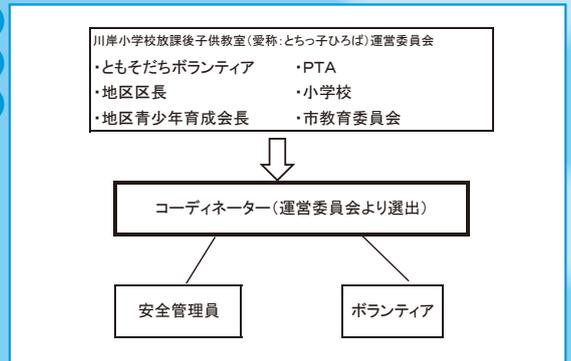
川岸小学校『とちっ子ひろば』

関係する学校名

川岸小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	2人	50人	23日	21年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		プレイルーム、体育館、図書館、家庭科、図工室、絵画教室		無	一体型					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯
 現在岡谷市は市内7小学校のすべてで「放課後子供教室」を行っているが、とちっ子ひろばはその中でも他校に先駆けモデル校として平成21年12月発足し、以来活発な活動を継続している。地域住民を中心とした交流活動により、未来を担う子供たちの健やかな育ちと参画する地域の方々の生き甲斐の両面に繋がる事業として成果をあげている。また、運営に際しては学校、行政とも連携・協働を取り合い、協力する体制を確立している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

とちっ子ひろばで取り組んだ3B体操や手品、腹話術などの内容を、地区の芸能祭や、年度末の終了式で発表する機会を設けることにより、教室に参加するだけでなく、自己表現の楽しさを学べるようにしている。

地元企業であるセイコーエプソン(株)を退職した方による水晶時計の組み立て教室を開催してもらい、「現代の名工」に選ばれた職人を講師に招くなど、地場産業についても理解を深められる取組を行っている。

続けて参加する気持ちを促すため、年度末に皆勤賞の表彰を行っている。
 友達と仲良くする、挨拶をするなどのルールを「とちっ子ひろば6つの約束」としてまとめ、教室開始時に全員で唱和し、決まりごとを守る意識付けに役立っている。

【実施に当たっての工夫】

講師として参画している地域の方は元々ある特技や趣味を活かして活躍している。

ボランティアスタッフとして児童の保護者が参画し、保護者側の意見も取り入れている。

年度末に児童へアンケートを実施し、アンケート結果を次年度の活動へ反映させるようにしている。

学校の個別懇談の日に合わせて長時間の教室を開くなど、学校ととちっ子ひろばの双方にメリットがあるように日程やメニューの調整を行っている。

学童クラブ利用児童についても登録し、参加が可能である。

● 事業を実施しての効果・成果

アンケートの声に、楽しく遊ぶだけでなく友達作りや色々な人に出会えてよかったと感想が寄せられた。

子供同士の交流の輪が広がるだけでなく、スタッフと子供が顔なじみになり、とちっ子ひろば以外で出会った際も挨拶が出来るようになった。

ルールを守る大切さを理解し、子供達が自分の行動に責任を持てるようになった。

スタッフが工夫して教室を開設していることに対し、子供達が感謝の気持ちを表し、その様子を見たスタッフも教室へ携わることへの喜びを得ることが出来ている。

● その他

(NPO法人との連携について)「腹話術・手品教室」はNPO法人腹話術友の会の方に指導をお願いし、教室を開設している。教室で使用する腹話術の人形や、手品の道具も手配していただいている。



イルフ童画館学芸員の指導で羊毛フェルトのクリスマスオーナメントを作りました



川岸地区食生活改善協議会(すずしろの会)の協力でカレー会を毎年行っています

こんな活動です

地域と一体となった安全・安心子供見守り活動

岐阜県岐阜市

活動名

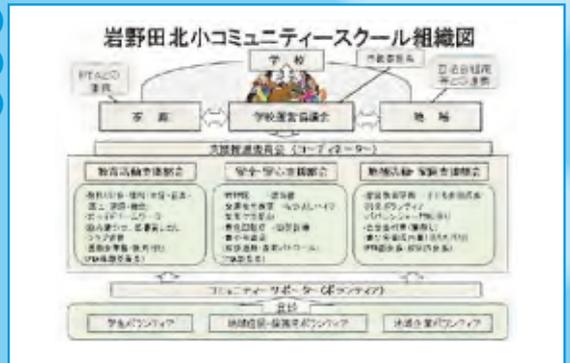
岩野田北小学校学校運営協議会

関係する学校名

岩野田北小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	
	平成 22 年 4 月 1 日					10 人	534 人	20 学級	

体制図



活動の概要・経緯
 支援推進委員会の三部会（教育活動支援部会、安全・安心支援部会、地域活動・家庭支援部会）それぞれの活動における安全安心にかかわる分野については、STEP隊（Safety Town Escort Patrol）が中心となって担っている。毎日の登下校見守りから児童との日常的なふれあいやあいさつ等の基本的な生活習慣の育成、授業での講師や各種行事での安全指導に至るまで、幅広く学校の教育活動や児童の成長を支援している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・児童の登校時には、通学班の集合場所から学校まで、安全指導をしながら同行するとともに、常にあいさつ等の声をかけながら子供たちとの交流に努めている。下校時には、通学路の要所で立哨指導を行っている。
- ・低学年児童の道路の歩き方訓練や交通安全教室等における安全指導、中・高学年児童の様々な校外学習や高学年の地域探訪、全校ハイキングなど、児童が学校外で活動する場合には常に同行し、安全確保に協力している。
- ・地域安全・安心マップを作成し、保護者に配布するとともに、危険箇所については定期的に確認し、警察や行政機関に改善を要望し、地域における児童の安全確保に努めている。
- ・常に学校と児童の指導方針について確認し、同一步調で指導や支援にあたっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・安全・安心にかかわる「ステップ隊」の活動だけではなく、クラブ活動の指導者や、地域の歴史や地域探訪、平和学習の講師なども務め、児童とのかかわりを深めている。
- ・蛍光色のスタッフジャンパーやベスト、見守り活動のシートを自家用車に着装するなど、防犯や事故防止に努めている。
- ・コミュニティ・スクールの活動を地域に広めていくために、所属する各種団体の会合等で広報活動をしている。
- ・児童と地域住民の関係が深まるように、地域防災訓練への学校参加の企画にも取り組んでいる。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・活動での交流や年度末に行う「感謝の会」等を通して地域の方々による支えを実感することで、感謝の気持ちや地域の一員であるという自覚がはぐくまれ、ふるさととなる地域に愛着をもつ児童が増えている。
- ・自治会連合会やまちづくり協議会、各種団体との連携・協働も深まり、従前の地域活動に加え、地域防災訓練への学校参加や子供たちを中心に据えた夏祭りなどの新たな活動が生み出されつつあり、学校を核とした地域づくりにつながっている。

● その他

コミュニティ・スクールの安全・安心支援活動を応援するため、各種団体の協力により、下校時等に青色パトロールカーによる巡回活動も行われるようになった。学校職員も警察の実施する講習に参加して資格を取得し、地域一体となった活動を展開している。



毎日集合時から校門まで、五十の通学班を見守りながら同行する登下校。



園バスや自家用車による送迎から、自分の足で長い距離を歩いて登校するようになった一年生対象の道路の歩き方訓練。

こんな活動です

将来の担い手育て ～学校と地域が共通の願いを持って共に育む～

岐阜県白川村

活動名

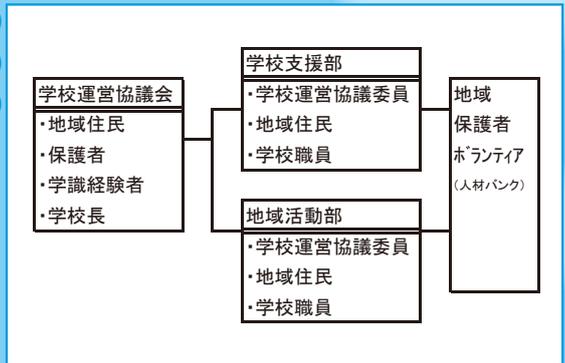
将来の担い手育て

関係する学校名

白川小・中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		
	平成 25 年 10 月 1 日					12 人	小 82 中 51 人	小 8 中 3 学級		

体制図



活動の概要
 小学校統合により地域から学校が失われ地域教育力が低下し、学校と地域の繋がりも希薄化。村は人口減少と共に伝統芸能や文化財等の継承者不足に不安を感じる。今後の村のことを考えると、担い手となる子供たちに村への夢と誇りをかかせる機会が必要であり、同時にその担い手育てに関わる地域の教育力が重要となる。そこで地域と学校が共通の願いをもち、責任と役割を明確にして共に将来の担い手を育てていくことにした。この取組により、希薄化しつつあった学校と地域の繋がりを深め、低下しつつあった地域の教育力を再度向上させることもねらった。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

～学校教育の場、地域活動の場でそれぞれが取り組める担い手育て活動を、責任と役割をもって取り組む～

【地域行事・地域活動の見直し工夫改善】

子供たちをお客さま扱いせず、地域の一員として活躍する場の位置づけ、大人と子供の関わりを意図的に築く活動の見直しを行う。

【学校教育の場に地域の力を吹き込む】

「結タイムズ」としてふるさと学習を、「夢タイムズ」としてキャリア教育を、「あいタイムズ」として英語学習を地域と連携し進めている。3つの学習を関連付け、より深く学べるカリキュラムを工夫する。英語学習では、ふるさと学習と関連付け、英語で地域を紹介する活動を取り入れていく。また、授業以外でも、民謡指導、クラブ活動講師、ゲストティーチャー等の「白川びとから学ぶ」と題した地域主体の学びの時間を授業以外の枠で15分間設け、キャリア教育に繋がる学びを定期的に位置付ける。

【実施に当たっての工夫】

- ①共通の願い、願う姿に向けた活動内容、活動の責任と役割などを明確にし、CSの基盤を固める。また、常にねらいや目的に立ち返り活動を進める。
- ②地域活動部拡大会議として地域行事に関わる方を集めた大会議を行うなど、地域の主となる社会教育団体も共通の願いを確認し取り組む。
- ③学校教育の場にどのような地域の力を吹き込めるか部会で熟議し人材バンク等を整備する。
- ④成長していく子供たちの姿を、学校と地域で確認し合い、CSの価値や意味を実感してもらう。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・子供たちが村について学び考える機会が増えたことや、地域の中で活躍する場が増えたことで、村を思う気持ちが高まり進んで貢献する姿が増えてきた。
- ・学校と地域が共通の願いをもち取り組んでいることで、どの場においても成長した子供たちの変わらぬ姿が見られるようになってきた。
- ・担い手育てとして地域の方が積極的に学校教育に関わる機会が増え、「協力」ではなく「責任もって育む」姿が多く見られてきた。
- ・子供を核とした地域行事の見直しが広がり、地域でどのように責任をもって子供たちを育てていくべきか考え実践する姿が増えてきた。
- ・地域力による子供たちの成長を教職員が実感できた。そのため更なるステップとして、ふるさと学習カリキュラム作りを協働で進めている。

● その他

小・中一貫した教育をめざし、小・中学校合同の学校運営協議会を立ち上げ活動を行っている。

平成 29 年度から義務教育学校としてスタート予定。



「白川びとから学ぶ」
川魚の捌き方編



「地域行事・活動改善」
女性会ぞうきん縫い作業編

こんな活動です

学習・スポーツ・体験・交流活動を通して子供たちに安全・安心な居場所を

岐阜県関市

活動名

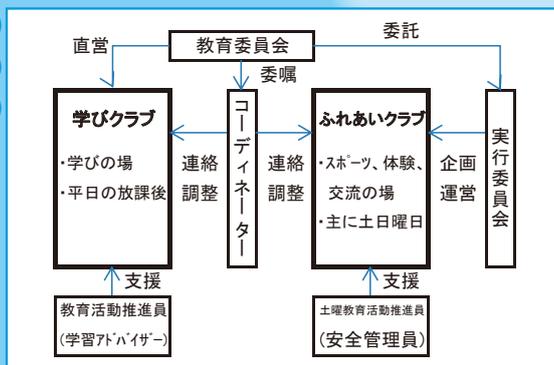
集まれ!せき放課後学びクラブ、ふれあいクラブ

関係する学校名

安桜小学校 他

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	10人	19人	295日	20年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		図書室 他		無	一体型					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
	0人	12人	39人	無	20年度	有	無	無		
コミュニティ・スクール	指定日						委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
 放課後対策として従来より関市留守家庭児童教室（放課後児童クラブ）を実施しているが、放課後は元より学校休業日においても子供たちの安全で健やかな居場所づくりを推進させるために平成20年度より本事業を実施し、本年8年目を迎える。学びクラブは、1週間に1回程度、小学校の余裕教室（主に図書室）を活用して、放課後に読書及び自主的な学習活動のできる場を提供する活動を行うものである。ふれあいクラブは、1か月に1回程度、小学校の運動場もしくは体育館又はふれあいセンター、生涯学習センターその他の安全で多様な活動ができる場所を活用し、小学校の休業日に地域住民の参画を得て、スポーツ、体験、交流活動等のできる場を提供する活動を行うものである。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

学びクラブは、教育委員会の直営にて実施しているが、ふれあいクラブは校区ごとに組織される実行委員会に事業委託して実施している。この実行委員会は主に、小学校長、PTA・青少年育成・自治会・社会福祉協議会等各種団体の役員、主任児童委員等の地域住民で構成されており、その活動プログラムには、例えば、地元に根付くお寺の探究や身近な自然を訪れてのアウトドア体験など地域の特色を活かしたものが組み込まれている。また、ふれあいクラブ独自に行うプログラムだけではなく、地域で行われる夏祭りや文化祭に参加して多くの地域住民との交流が図られるように企画されていることも、ふれあいクラブの特徴的な活動の一つである。

【実施に当たっての工夫】

学びクラブでは、主に宿題や読書を行っているが、子供たちが飽きることなく楽しく過ごすことができるようにコーディネーターがそれぞれ工夫しながら活動している。例えば、七夕の時期には短冊に願い事を書いて飾ったり、牛乳パック等の廃材を利用して簡単な工作をしたりするなど、伝統や季節感を大切にしながら子供の興味関心に応じた活動を仕組んでいる。

ふれあいクラブでは、コーディネーター同士が指導者（講師）情報を共有するなど積極的な情報交換に努めているため、活動内容のマンネリ化を防ぐことができ、また、子供たちに特に好評であったプログラムは複数の校区での開催が可能となっている。中でも、学校の先生が講師を務める科学実験教室や航空教室は人気が高い。

● 事業を実施しての効果・成果

子供たちが「楽しい!!」と言って笑顔で活動に取り組む姿は、学びクラブやふれあいクラブが子供たちにとって安全・安心な居場所となっていることの表れだけでなく、コーディネーターや活動推進員の方々の充実感・幸福感に繋がっている。

学びクラブは、授業終了時から下校時刻までが開設時間であるためどうしても対象が低学年に限定されてしまうが、ふれあいクラブは全学年を対象に活動できるため、普段の学校生活ではあまり経験することのない異学年間の交流を図ることができる貴重な取組と言える。さらには、地域住民とふれあう機会が与えられ『地域の子供は地域で育てる』という機運が徐々にではあるが高まりつつある。



自主学习に黙々と取り組む
（放課後学びクラブ）



ボール遊びを通じてコミュニケーション作り
（放課後ふれあいクラブ）

こんな活動です

生徒の「自己有用感」を高める、地域住民の積極的な学校教育への参画

岐阜県岐南町

活動名

岐南中学校 学校支援活動

関係する学校名

岐南中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 77人	学習支援 無	開始年度 24年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援			放課後児童クラブとの連携		
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日 平成 28 年 9 月 1 日					委員数 15人	児童生徒数 657人	学級数 21学級

体制図



活動の概要
 <一位会> 昭和52年に、当時のPTA本部役員経験者を中心に結成。「岐南中学校の全ての子供たちを幸せに、健やかに育てる」という願いのもと、現在まで奉仕活動と学校支援活動を継続して行っている。
 <学校支援ボランティア本部> 一位会の活動を基本に、これまで以上に地域や学校との連携・協働を強化して活動を行うため、平成24年に学校支援ボランティア本部を設置。転入者が多い地域性のため保護者や地域住民の連携・協働が弱いという課題があったが、本部を設置することで、組織的な活動が仕組めるようになり、保護者、生徒、学校ともに地域との関わりを深めている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

①生徒指導にかかわる取組
 ・校外パトロールや地区懇談会への参加、「岐南町あいさつ運動」等への協力をとおして、生徒の健全育成を支援している。

②キャリア教育にかかわる取組

学校が行う「ふれあい講座」の運営を支援している。特に講座講師（美術、外国文化など全25講座開催）の選定や依頼等において、地域とのつながりを生かした支援を行っている。各自の興味関心に応じて学びを深めるとともに、新しい人との出会いがあり、全校生徒にとって楽しい時間となっている。その他部活動の支援補助等も行っている。

【実施に当たっての工夫】

①地域人材の確保

・活動の様子を定期的に広報することで、住民の活動への理解を深めている。特に生徒の笑顔やボランティアのやりがいを伝えることで、活動に参加する地域住民の増加につながっている。

②地域で中学生が活躍できる場づくり

・中学生が地域で活躍する場を意図的に準備することで、中学生に対する地域の理解が深まり、中学生自身も地域住民の一人であるという自覚を深めている。本部では、コーディネーターを中心に事前の調整や事後の価値付けを丁寧に行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

生徒の心の安定が生まれ、落ち着いた学校生活が送れるようになってきている。授業や部活動、地域行事など、様々な場面で地域住民と関わることで、各自のがんばりやよさを価値付けてもらったり、頼りにされることが、生徒たちの自己肯定感や自己有用感の高まりにつながっている。本部の活動により、生徒たちは学校と地域のどちらにも心の居場所を持てるようになってきている。

地域住民にとっても、学校支援ボランティア活動をとおして新たな人間関係を構築することができ、地域住民の連携・協働が弱いという地域の課題克服にもつながっている。



地域の方から将棋を学ぶ
（ふれあい講座）



全員参加、サツマイモの苗植え

こんな活動です

講座「なかま」を中心にして、地域の絆で子供たちを育成

愛知県名古屋市

活動名

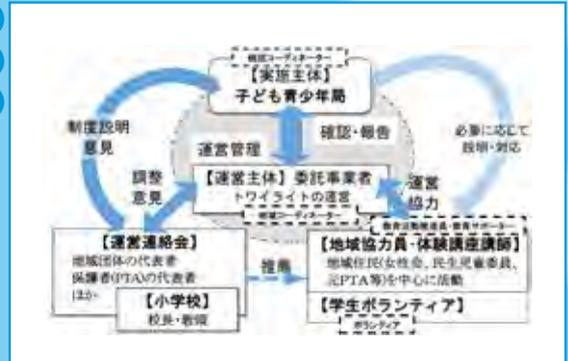
老松小学校トワイライトスクール

関係する学校名

老松小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	4人	14.3人	290日	17年度	有	無	有
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
 名古屋市の実施する放課後子供教室として、平成17年度より、年間を通じて平日と土曜日に活動している。トワイライトスクールは小学校の余裕教室を活用しており、学校との連携のもとに運動場や体育館などを使用して活動することもある。トワイライトスクールでは、子供たちの居場所づくりとともに、自由遊び、学びの活動、体験活動を通じた異学年交流、世代間交流の場としている。地域ボランティアによる運営補助や体験活動講座の講師として、子供たちに様々な体験の機会と居場所を提供している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 地域の特色を生かしたり、地域住民との交流を図ったりする講座「なかま」…地域の昔話の紙芝居の読み聞かせ、地域の方による史跡めぐり、人権擁護委員による人権意識を高める学習、地域の方や警察と連携・協働した防犯教室、子ども110番スタンプラリーなど
- 地域行事への参加・地域と連携・協働した取組…地域主催の「ふれあいミニ運動会」への参加、地域で開催される祭り「老松フェスタ」での作品展示と見学、地域の高齢者の方との「ふれあい給食会」など
- 子供中心の時間「せいかつ」…月2回、講座でどんなことを大切にしているか、またどんな遊びをしたいのかなど話し合う時間を設定し、子供の意見や考えを大切にしている運営の工夫
- 学習習慣の定着を図るため、日々の生活の中で「学習タイム」を設定

【実施に当たっての工夫】

- 地域や学校との連携・協働を図るため、地域の代表者や学校関係者を構成員とした運営連絡会を定期的に開催
- 地域と密接につながる活動の内容を毎月の「トワイライトたより」に掲載し、学校の協力により全保護者に配布
- 子供の様子についてや緊急時の対応などについて、スタッフ同士で情報交換を行うため、定期的な会と臨時の会を随時開催
- 「帰りは笑顔で」をキャッチフレーズに、1日の中でどの子にも必ず声をかけるなど、一人ひとりを大切にしている毎日の取組

● 事業を実施しての効果・成果

地域の団体が主催する行事に参加するために、地域の方が講師となり、子供たちは事前の準備から進んで参加している。地域の方、保護者や運営スタッフからいつも温かく接していただいていることにより、「自分は大切な存在なんだ。そして、役立つ存在なんだ」という自己肯定感が育っている。こうした活動を継続的に行ってきたことにより、子供に自主性・社会性・創造性が育つとともに、子供を中心として、地域と学校と保護者の絆が深まっている。



講座「なかま」での人権学習



ふれあい給食会

こんな活動です

地域の力を発揮した講座が魅力！放課後教室は子供がワクワク！

活動名

関係する学校名

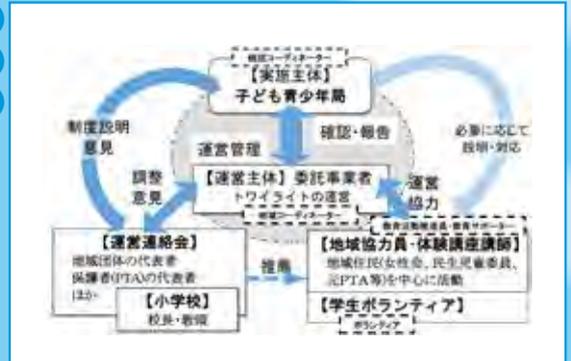
愛知県名古屋市

北一社小学校トワイライトスクール

北一社小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		1人	2人	28.2人	292日	19年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		名古屋市立北一社小学校		有	連携なし					
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要
 名古屋市の実施する放課後子供教室として、平成19年度より実施している。子供たちが集団の中で、できるだけ自由に遊びを創造して楽しめる環境を作り、子供たちの興味関心を引き出している。学習の時間においても、できるだけ子供同士で教え合いをしたりすることで、集団で楽しく学習する時間を作り、子供たちの「自主性」「社会性」「創造性」といった『生きる力』が育む環境づくりを行っている。運営指導者がコーディネーターとなり、地域協力員や体験活動講師、学生ボランティア等、地域の方々等の積極的な協力を受けながら、毎月20回以上の体験活動を実施し、年間延べ5,276名の子供が参加している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 子供たちがやってみたいこと話し合う「子ども会議」での声をもとにした、茶道・空手・お菓子教室などの体験講座を実施
- 地域にある戦争と平和に関する資料館での体験講座、近隣の図書館での読み聞かせ講座への参加、学校部活動と連携・協働してプロバスケットボール選手を講師とした体験講座などの実施
- 地域の消防団の方を講師とした応急処置や心肺蘇生法などの学習、地域の女性会の方々と一緒にクリスマス飾りや正月飾りづくりなど
- 「ミニミュンヘン」のような小さな町づくりという内容で、子供たち自身で話し合い、企画・実施する『北一社子どもCITY』の開催

【実施に当たっての工夫】

- 学び合い学習プログラム『モンスタークエスト』…ゲーム感覚でわからない問題を楽しく見える化し、自分の学習の問題点をみつけて、今後の学習計画に反映するさせ、子供同士で教えあい・学びあいをする仕組み
- 「ヒヤリハット事例」の作成…運営の中でスタッフが危険だと感じた場所や事柄などを事例集として集約し、スタッフ間の情報共有及び危険防止のために活用

● 事業を実施しての効果・成果

普段は教室という限られた場所で活動をしているが、学校との連携・協働により、校庭や体育館を使用できている。校庭や体育館では、元気いっぱい遊ぶことができるため、子供たちの笑顔の数も増えた。高学年の子も多く参加するようになり、高学年の子たちを中心に子供たちだけでトワイライトの過ごし方について、話し合いが進められるようになってきている。異学年の交流、大学生、地域や講師の方など、普段関わることが多くはない大人とも関わる機会が多いため、コミュニケーションをとる練習もできている。低学年の子供たちは、自分の考えていることや思いをしっかりと言葉にして表せるようになってきた。



ハロウィンお菓子作り講座



消防団の方による防災講座

こんな活動です

保護者や地域の力を生かした、共働支援

愛知県豊田市

活動名

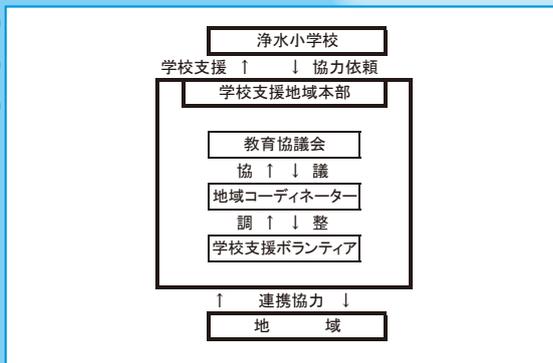
浄水小学校支援地域本部

関係する学校名

浄水小学校

基本データ	学校支援活動	●	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 165人	学習支援 有	開始年度 27年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
	地域未来塾		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	●	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 2人	子供の平均参加人数 18人	年間開催日数 133日	開始年度 27年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有	
	実施場所				学習支援	放課後児童クラブとの連携					
	多目的教室、運動場、体育館				有	連携なし					
	土曜日の教育活動	●	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 2人	子供の平均参加人数 20人	学習支援 有	開始年度 27年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有	
コミュニティ・スクール		指定日				委員数	児童生徒数	学級数			

体制図



活動概要 平成 27 年度に学校支援地域本部を設置し、保護者や地域のボランティアによる学校支援活動と、子供のための教育活動を行っている。校内に、地域支援室を設置し、地域コーディネーターを配置し、学校と保護者・地域のつながりを行っている。保護者と地域の人々が、学校に気軽にかかわりをもつことができるように、「できることを・できるときに」の精神でのボランティア活動を主体としている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ①豊かな土曜日のための活動：土曜学習（各種講座を6 4回開催、自主学習の支援）
- ②放課後の子どもの居場所づくり「ほっとタイム」：平日の授業後、学校内で学習、読書、運動や遊びをして過ごすことができる。
- ③学校支援活動：ボランティアによる環境整備や学習、学校行事、交通安全等への支援・読み聞かせ、クラブ講師、校外学習引率、ミシンボランティア、除草・植木の剪定・花壇整備、図書館整備、書初め手本書き、浄水フェスタ大道具作り、登下校の見守り、など

【実施に当たっての工夫】

- ①学校支援活動を「できることを・できるときに」行なうボランティア活動とすることで、保護者が気軽に活動参加することができ、学校への理解が進んでいる。
- ②学校施設を積極的に有効活用し、通常の教育活動以外に、放課後や土曜日・長期休業中に子供のための多様な活動を取り入れることで、子供の個々の技能を伸ばし、地域講師との交流により、人と関わる力を高めることができる。

● 事業を実施しての効果・成果

- ①子供が、親以外の大人と関わったり近所とは違う交流もでき、勉強になっている。
- ②保護者がボランティア活動に参加するようになって、子供たちの様子を直接目で見ることができる上に、学校活動の幅が広がった。
- ③学校支援地域本部ができてから、より子供と学校、親と学校のつながりが深まった。
- ④高齢者との関わりなどにより、子供の考えが変わったのでとてもよい。

● その他

- ①企業・NPOとの連携・協働（放課後：ボランティア団体 mama's smile）（土曜日：ボランティア団体 mama's smile）
- ②学習支援（学校支援：保護者による社会科授業の引率）（放課後：地域住民・大学生による学習支援）（土曜日：地域住民・大学生による学習支援）



五年生のミシンの授業を前にミシンの調整をするボランティア



三年生の学区探検に引率するボランティア

こんな活動です

地域の人や団体等がネットワーク化をして、地域全体で継続的な学びを展開。

愛知県西尾市

活動名

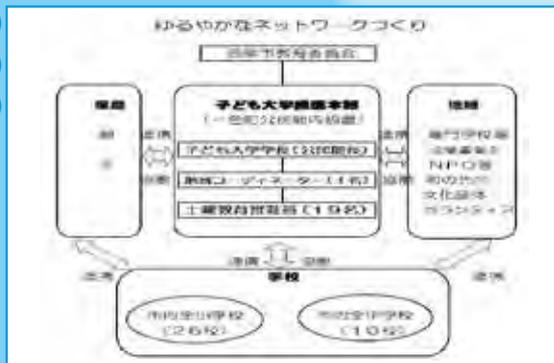
一色町公民館 子ども大学

関係する学校名

西尾市内全小中学校 (36校)

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数			

体制図



活動の概要・経緯
 学校週5日制が始まった平成14年度に、地域で子供たちを育てることを目的として開設し、本年度で15年目となる。土曜日の子供の居場所づくりとして、また、学校では学べないことや、自分の好きなことに取り組んで欲しいとの願いから、市内の全小中学生を対象に土曜日（講座によっては日曜日等）に、各種講座を実施している。講座は、一定期間に複数回実施する一般講座と、1、2回実施する特別講座がある。一般講座で出席率が7割以上の受講者には修了証を交付し、学習の励みにしている。また、5講座以上を修了した子には、子ども大学学長（公民館長）から、卒業証書を授与している。平成27年度末で修了証受領者2,587名、卒業者131名。応募者は年々増加している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・町の先生や文化協会・ボランティア団体など、地域の身近な方々が「子ども大学」の講師となり、学校では学べない自然・文化・芸術活動などを展開している。参加者は、幅広い学問分野を学んだり、体験活動によって様々な技能を身に付けることができおり、地域全体で連携・協働して子供を育てる取組となっている。
- ・子供たちへのアンケートの結果等を踏まえて毎年講座内容を見直し、大変豊富で多様な講座編成となっている。
- ・市内全域の子供たちを対象として行われ、講座終了時には講座修了証を発行している。また、5講座以上の修了者には、子ども大学の卒業証書を授与している。
- ・子ども大学の卒業生は、市内の多くの場で活躍しており、子ども大学は、地域の生涯学習の基盤となる取組となっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・小中学生を対象とした一般講座と、親子を対象とした特別講座を設け、対象に応じた多様な講座を用意している。
- ・各講座の開講式では、受講者や保護者に、子ども大学や各講座の趣旨を説明し、活動内容の周知を図っている。
- ・活動報告の場として、毎年「一色町公民館フェスティバル」に参加し、展示発表を行っている。
- ・特別講座は親子参加型の講座で、料理や工作、天体観察など、親子の絆を深める活動を展開している。
- ・東海・東南海地震の被害想定地域にあるため、地域と学校が連携・協働し、子ども防災ボランティアの養成や親子で防災意識を高める講座を継続的に実施している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・小中学生を対象とするため、上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を目標とするなど、学校をこえた異学年交流の場となっている。
- ・クッキング講座では、受講者の声として「料理に興味をわき、家でも手伝いをしたい。」「僕の将来は、料理屋になることです。」などの感想があり、技能を高める貴重な体験活動の場となっているとともに、講座がきっかけとなって、後に管理栄養士となる夢が叶った子もいるなど、子ども大学がキャリア教育の場ともなっている。
- ・近年、中学生の参加も多くなり、講師の補助として、下級生の指導に当たる場面も増えてきている。
- ・子ども大学の卒業生の中には、17講座以上を受講した子も多くおり、子供たちの興味・関心の幅が広がっている。



おじぎの仕方を学ぶ（レッツ茶道）



茶わんづくり（子ども陶芸教室）

こんな活動です

～地域の子どもは地域で育てる～ 放課後の安全な遊び場として

愛知県瀬戸市

活動名

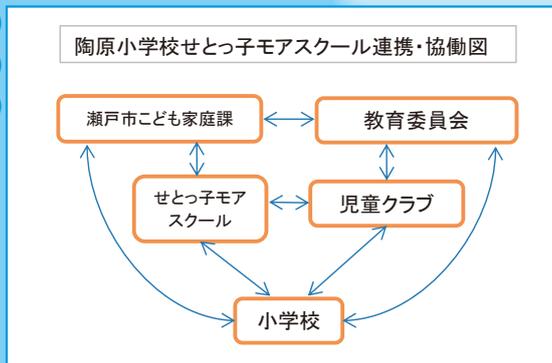
陶原小学校せとっ子モアスクール

関係する学校名

陶原小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	20人	233日	18年度	有	無	有
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	余裕教室		有		一体型				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
平成18年度に瀬戸市の「せとっ子モアスクール」の第1号として開設し、平成28年度で、11年目を迎える。小学校1年生から6年生までを対象に、学校授業日の下校時刻から午後5時30分まで、子供たちの安全な遊び場づくりのための活動を行っている。異年齢の児童が、遊びや学習の空間を共有することによって他者とのかわり方を学ぶとともに、地域社会の中で心豊かで健やかに育つよう、多種多様な学習・体験活動の場を提供している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

図書室を活動場所としているため、子供たちは宿題をしたり、おもちゃで遊んだりするほか、恵まれた環境を生かして読書を楽しんだりしている。また、ボランティアの特技を活かし、バルーン教室や絵画教室、書道教室やアロマ教室などの多彩な体験活動プログラムも行っている。年に1度、公民館と連携・協働して、「公民館フェスティバル」に子供たちが作った作品を出展したり、普段の活動の様子を撮った写真を展示するなどして、「せとっ子モアスクール」の取組を地域に紹介している。

【実施に当たっての工夫】

地域社会の中で、子供が心豊かで健やかに育つように、また、たくさんのボランティアの協力が得られるよう、地域の方を教育活動推進員に置き、人的なネットワークを広げながら、活動の幅を広げるようにしている。活動の内容については、子供たちが色々なことに興味や関心を持ったり、挑戦できるものとなるよう心掛けている。スタッフ間で話し合いの時間をもち、様々なアイデアを出し合いながらプログラムを考え、実践している。

● 事業を実施しての効果・成果

瀬戸市で最初の放課後子供教室としてスタートしたため、開校当初は地域の認知度も低くボランティアの登録も少なかったが、コーディネーターが地域の方に声をかけることで、口コミでボランティアの方が増え、地域と学校とのつながりがより強まった。また、どのような活動を行ったら子供たちが楽しみ、面白いと感じ、来てくれるのかをボランティアの方と常に考えながら実施し、内容を検討してきた。季節感を取り入れた行事やワークショップを実施したり、外部講師などを招くなどして活動を幅広くしてきた結果、子供たちが様々なことに興味・関心を持ち、楽しみながら参加することができている。

● その他

- ・ NPO法人こどもの社に運営を委託し、地域力の復活や地域での子育てを目指し、運営を行っている。
- ・ 毎月外部講師を招いて、英会話活動を行っている。



ヨガ教室



アイロンビーズ工作

こんな活動です

地域が連携・協働する子供教室 ～体験を通し豊かな人間性と創造性を育む～

愛知県東海市

活動名

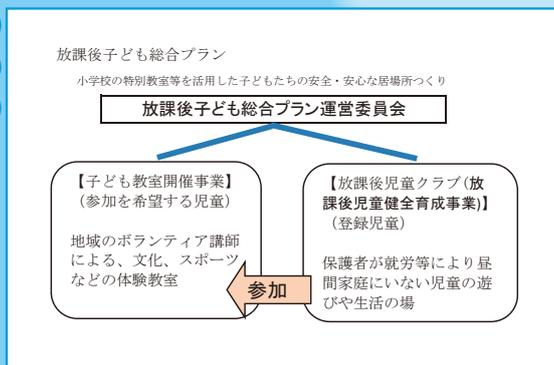
緑陽小学校子ども教室

関係する学校名

緑陽小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	16.7人	95日	19年度	有	無	有
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				
	特別教室、体育館等		無		一体型				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



- 対象** 緑陽小学校1～6年生 **●活動日** 概ね平日1日と土曜日
- 活動時間** 平日は小学校の授業終了後から最終下校時まで。土曜日は午前9時30分から12時までの間で教室開催に必要な時間。
- 活動概要と経緯** 安心、安全な子供の居場所作りとして地域子ども教室として開設された。平成19年度より放課後子ども教室として、放課後や週末等に、子供たちが安全で安心して過ごせるよう、小学校の特別教室等を活用し、地域の方々の参画を得て、子供たちにスポーツや文化活動の機会を提供している。参加希望者の募集は、毎月学校を通して配布する募集チラシにより行っている。体験教室の内容によっては、人数制限を設けたり、材料費(実費)を徴収する。

●活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 地域のボランティア講師による、複数回開催するプログラムが多い。
平成27年度例： 銭太鼓教室(3回)、囲碁将棋教室(14回)、卓球教室(16回)
- ビュンビュンごま、からくりカード、折り紙手品、光の万華鏡作りなど、コーディネーター自身の知識や経験等を活かしたプログラムも行っている。
- 土曜日には、2～3種類の体験教室を開催し、子供たちに様々な体験の場を提供している。

【実施に当たっての工夫】

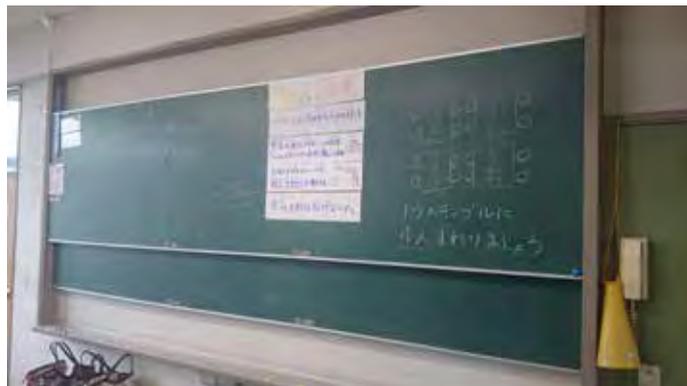
- 教室開催時には、子供たちの安全面や支援を考慮し、1教室にボランティア講師以外の指導員を1名以上配置している。
- コーディネーターや指導員は学校との連携・協働に努め、随時連絡や情報交換を行うことで、教室開催日や場所等の調整を行っている。
- 子供たちが多様な体験をできるように、コーディネーターが様々なボランティア講師と連絡をとり、多様な体験プログラムを提供している。
- コーディネーターや指導員は随時、児童クラブと連携・協働して情報交換するとともに、児童クラブ登録児童の子ども教室への参加を呼びかけている。

●事業を実施しての効果・成果

- 子供教室は、子供たちに安全で安心な居場所を提供するとともに、家庭や学校ではなかなかできない多様な体験の場を提供している。
- ボランティア講師の特技や趣味を生かした教室がたくさんあり、講師自身も教室を楽しんでおり、生きがいとなっている。
- 「工作等の活動に集中して取り組んでいるときの子供たちの真剣な眼差しが良い。」とのボランティア講師の声や、「子供が体験してきたことを嬉しそうに話してくれるので、子供教室に参加させて良かった。」との保護者の喜びの声がある。
- 地域の方が指導員やボランティア講師として関わりをもつことで、子供が地域に目を向けるようになった。



変わり絵教室



バルーンアート教室の説明

こんな活動です

学習等多岐にわたり支援を行い、教育活動の充実を図る「ほめほめ活動」

三重県名張市

活動名

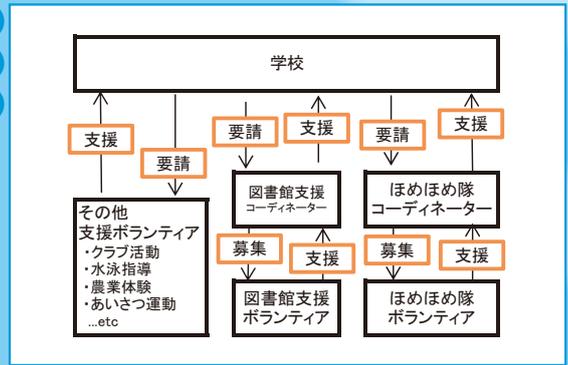
百合が丘小学校 学校支援地域本部

関係する学校名

百合が丘小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 2人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 91人	学習支援 有	開始年度 22年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要
 平成22年度より、青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会の教育文化部に百合が丘小学校学習支援「ほめほめ隊」を位置付け、学校の要請に応じて、地域のボランティアが教室に入って学習の支援をし、助言したりする中で良いところを誉め、子供たちの自己有用感を高めるよう働きかけている。この活動は、他の分野での支援活動に影響を及ぼし、図書館支援（本の読み聞かせ、図書の装備等）、クラブ活動、水泳指導、農業体験（米づくり、ぶどうづくり、さつまいも・ひょうたんなどの栽培）、あいさつ運動、登下校の安全指導等、多数の地域住民が子供たちのためにできることを見つけてかかわっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

百合が丘小学校学習支援「ほめほめ隊」は、教員のアシスタントとして教室に入り、授業の中で理解できずに困っている児童に声をかけ、教員の指導がいきわたるよう取り組んでいる。算数や、家庭科の調理実習・ミシン、図工、書写等に支援をいただいている。昨年度の総支援時数は、1477時間にのぼり、1日平均7.2時間となっている。3年生は、総合的な学習の時間のなかで「ぶどう学習」に取り組み、本年度で23年を迎える。ぶどうの産地である青蓮寺地区のぶどう畑でジベレリン処理、袋かけを体験し、8月には親子でぶどう収穫祭を楽しむ。

年度末には、ボランティアを招いて「ありがとう集会」を実施し、児童がクラブ活動で学んだ和楽器などを披露すると共に、感謝のメッセージを伝えて交流を図っている。

こうした活動により、地域全体にあいさつ運動の輪が広がって、地域の皆さんより子供たちに少しずつ声をかけてもらえるようになった。また、気になることがあれば注意していただいたり、学校に情報を提供していただいたりできるようになった。

【実施に当たっての工夫】

ボランティアと学校の意思疎通を図るために、支援の中で感じたことをノートに記録し、校長が必要に応じて担任に伝えたりコメントを書いたりしている。また、学期に1回懇談会を持ち、意見交換を行っている。ボランティアを募集するに当たっては、地域の広報誌、学校だより、ボランティア説明会を実施している。また、青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会理事会に校長が出席して、学校の様子や地域への協力要請を行っている。



授業の中で、ほめほめ隊の方が、子供にアドバイスをしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 明るく、大人と積極的にコミュニケーションを図り、地域で挨拶ができる子供が増え、地域とのつながりが深まり好循環を生み出している。
- 児童の学力の向上に大きく貢献している。○図書館の利用が促進され、平成27年度の図書の貸し出し数は、一人平均31冊となった。（市内平均18冊）○教員自身も支援をしていただいていることにより、勤務時間の軽減を図ることができている。また、ボランティアの献身的な働きかけは、教員の教育に対する意欲をさらにかき立てることにつながる。ボランティアにとっては、子供から元気をもらおうとともに、生きがいとなっている。

● その他

企業などとの連携については、あいさつ運動に57に上る企業・店舗・団体等に賛同・連携していただいている。例えば、スポーツクラブでは、あいさつや礼儀を大切に、学校と同じ歩調で取り組んでいただいている。そのほか、企業や店舗等の職員は積極的に地元の子供たちに声をかけてくださり、子供たちと地元の人との距離が縮まっている。



ぶどうの収穫祭にて、ぶどうの栽培について教えて下さった山口さんにお礼の手紙を渡している。

「めざす学校像・子どもがかがやく学校」は地域とともに

三重県四日市市

活動名

中部西小学校区学校参画委員会

関係する学校名

中部西小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数
平成 18 年 4 月 1 日						10 人	379 人	16 学級	

体制図



活動の概要・経緯

- 組織・運営 学校参画委員会 年間5回開催（内、拡大委員会4回）
- 活動概要
 - ・参加参画型授業
 - ・ふれあいパトロール（月1回）程度
 - ・まちかど音楽会
 - ・防災教育 等

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・参加参画型授業の取組
保護者・地域・サポートスタッフが「参加型授業」「参画型授業」など、様々な形態で子供の学習を支える存在となっている。「参画型授業」では、授業計画の段階から教師とともに検討を行うことによって、教師の授業改善にむけた、新たな視点を得る機会になっている。
- ・ふれあいパトロール
地域と保護者の方が、登下校の挨拶運動や交通安全指導など、子供を見守り、育てる活動を実施している。
- ・まちかど音楽会
子供たちが地域に出かける発想から、校区の特徴である商店街を会場として「まちかど音楽会」を開催している。当日は、地域の方や保護者もスタッフとして関わっていただき、地域総がかりで取り組んでいる。
- ・防災教育
地域の防災担当の方をゲストティーチャーに招き、自治会と連携・協働した防災教育を実施している。
- ・郷土資料室の活用及び充実
校内の空き教室を利用し、郷土資料室を設置している。学校参画委員会内の郷土資料整備委員は、郷土資料室の整備、管理をしているが、ゲストティーチャーとして「中部西小学校の昔と今」の学習に、講師として関わっている。
- ・老人会の方々とのふれあい
地域の老人会の方々にグランドゴルフを教えてもらい、一緒にプレイしたり、戦争体験を語ってもらうなどの活動を実施している。

【実施に当たっての工夫】

- ・子供たちへの指導・支援に係る専門分野・活動分野の代表を含む拡大委員会を設置し、教育活動を支援できる体制を整えている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・学校評価保護者アンケートで「参加参画型の教育活動や体験活動は充実している」の項目に対して、96.5%の肯定的な意見をいただくことができた。
- ・郷土資料室を活用した学習では、子供たちがますます自分たちの学校に対して愛着と誇りを持つことができた。
- ・「まちかど音楽会」では、最後尾が見えないほどの大観衆の中での発表となり、子供たちにとって大きな達成感につながった。



保護者や地域の方々に御協力いただき、商店街を会場としてまちかど音楽会を開催している。



校内に設置された郷土資料室を活用し、地域の方から昔の生活について説明をもらっている。

こんな活動です

子供たちや事業に関わる全ての人々がいきいきと輝くことができる人づくり

三重県いなべ市

活動名

放課後子ども教室「ほくせい」

関係する学校名

いなべ市内小中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	2人	41人	108日	24年度	有	無	有
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員会	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
 発足当時、いなべ市内では1か所しか放課後子供教室事業を行っておらず、市内の約半分の地域に事業を展開できていない状況であった。市内全域での事業展開を目指すため、平成24年4月に放課後子ども教室「ほくせい」を設立し、市内全域の保育所、小・中学校を対象に、地域の子供たちが放課後や休日に「地域の学校」として過ごすことができる環境を整備。体験学習やスポーツ、地域の人たちとの交流を通じ、心豊かに育まれることを目的に事業を運営し、設立時から着実に参加者を拡充している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

通常の土日祝日に行うレギュラスクール、学校の長期休業時に行われるオープンスクールでは、地域の方を講師に招き、文化・芸術分野、自然科学分野等に加え、後世に伝えたい地域の伝統や個々に伝えたい技や知識を講師の許容される範囲で教室を開催している。また、教育委員会の委託事業としてコーディネーショントレーニングを民間スポーツクラブに委託し、手薄な運動分野において、運動神経や基礎体力の向上といった部分を補っている。この委託事業については、市内の他の放課後子供教室と共同で開催しており、参加する子供たちが幅広く交流を深める場にもなっている。

また、年に一度開催している「こどもまつり」では、青少年市民会議や市子ども会連合会と共同で事業を実施することにより、放課後子供教室事業に参加した事がない子供たちの発掘ができ、参加者を拡充している。

【実施に当たっての工夫】

地域の方、民間スポーツクラブを講師とした教室に加え、市内青少年育成市民会議、市子ども会連合会との合同企画として「こどもまつり」を開催。市内の青少年育成事業に携わる他団体と協力、連携することで「青少年の健全育成」という同じ目的を持つ団体間の共通認識ができるとともに、団体間での新たな人材の発掘につながった。また、事業の定期報告会開催時には、講師に加え、保育所、学校長、教育委員会事務局が参画し、意見交換等を行うことで幅広い年齢層の事業参画、中学生のサポーター参加等につながっている。

● 事業を実施しての効果・成果

教室や体験活動を通じて約束事を守り、礼儀作法、社会のルールを守る子供の育成、意欲的で自己肯定感の持てる子供の育成等を目標に事業を展開しているが、参加した子供たちの感想や保護者からの感想から目的は達成できていると考えている。子供と同様、保護者や教室の講師、「こどもまつり」実施時のボランティアスタッフなど大人も子供と同様に、体験や発見、感動を事業に参加することで自己発見、自分磨きができる場所となっている。



夏のオープンスクール【森の広場博物館】での様子。地域にある【いなべまちかど博物館】の方が毎年子供たちのために御協力くださり開講している。



年に一度行っているこどもまつりの様子。レギュラスクール【和太鼓教室】に参加している子供たちが舞台発表をしている。

こんな活動です

できることを できるときに できることから 様々な学校支援への取組～志の集まる学校へ～

滋賀県長浜市

活動名

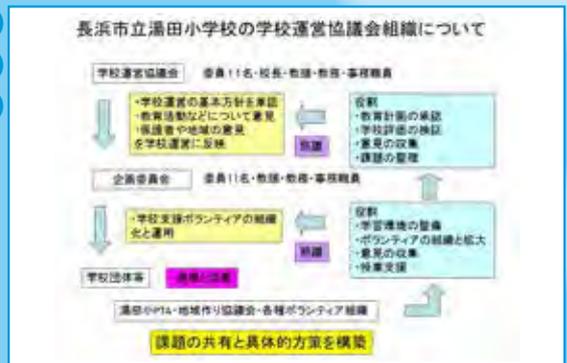
地域とともにある学校づくりの推進

関係する学校名

湯田小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	
	平成 24 年 4 月 1 日					11 人	530 人	19 学級	

体制図



活動の概要
 子供たちが健やかに成長できる地域社会を実現するためには、学校だけでなく、家庭や地域と連携・協働した取組が重要と位置付け、学校や家庭、地域が自らの役割と責任を果たし、地域全体の教育力の向上をめざすことが必要と考え、取り組んでいる。具体的施策では、地域住民等の学校運営への積極的な参画と、学校支援ボランティアの連携・協働を図り、地域と共に進めるよりよい学校づくりを展開していく観点で取組を進めた。
 特に、地域連携イベントである「湯田小フェスタ」では、金融教育やキャリア教育などの観点を取り入れ、地域の人たちと共に作り上げる事業となった。子供たちだけでなく、関わった人たちの意識も年々高まってきている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

将来地域を支えていく子供たちの教育を、学校と共に「地域の子供は、地域で育てる」の気概を持てるような地域づくりにも取り組んでいる。

前述の「湯田小フェスタ」では、学校運営協議会やPTAのメンバーから金融教育やキャリア教育などの観点を取り入れた活動をしたいとの思いも活かせる事業を行った。子供たちの学習発表だけでなく、フリーマーケット等の運営や地域の人たちと共に取り組んできた「お米づくり」からの「五平餅販売」など、子供たちだけでなく、関わった人たちと共に作り上げることができた。

【実施に当たっての工夫】

湯田小フェスタは、学校運営協議会やPTA、地域の方々など様々な人の思いを伝える場としても位置付けたいと考えた。そのために、事前のPRなどを行い、多くの人の参画を求めた。

地域の伝統や自分の仕事に関わるブースの運営を行うことにより、子供たちとの関わりを持つことも参加された方々にとって有意義な取組となった。子供の活動にも、計画段階から関わっていただいた。それに伴い、子供たちも自発的な活動が増え、大きな変容につながった。

また、前年にも関わっていただいた方々は、前回の反省を活かしての計画をされていた。こうしたPDCAをうまくマネジメントすることができたため、よりよい取組につながったと考える。

● 事業を実施しての効果・成果

熟議を行った結果、学校運営協議会委員および関係者の意識の変革につながった。学校支援の取組から、共に育つ地域づくりへシフトする重要性を認識することができた。

また、中学校区内の各小学校ごとに熟議を行ったことで、今までの小学校校区から中学校区へ「地域」というもののとらえ方の広がりや変容がみられてきた。その結果、中学校区内の小学校が「学校での約束」の共通化を図る動きや、それを中学校区への生徒指導等へつなげることが可能であることなど考えを広げることができた。また、防災や福祉の分野との連携・協働が不可欠であるとの思いも共有できた。

● その他

今後の「地域とともにある学校づくり」は、中学校区との連携・協働が不可欠と考える。そのためには、関係者による「熟議」や研修会の開催等を通じて、関わる多くの人が当事者意識を持つことができるよう意識の向上を図りたい。また、課題解決に向けた具体的な実効策を計画し取り組んでいきたい。また、上記湯田小フェスタへの地域住民だけでなく、中学生の主体的な参加・参画についても一層取り組んでいきたい。



金融教育・キャリア教育と地域連携の取組 (湯田小フェスタ)



浅井中学校区の委員による熟議

こんな活動です

『学校・家庭・地域の協働による温かい学びの創造』 洛央いきいきコミュニティ

京都府京都市

活動名

洛央小学校学校運営協議会
(洛央いきいきコミュニティ)

関係する学校名

洛央小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	
	平成17年10月13日					10人	567人	19学級	

体制図



活動の概要・経緯
平成17年10月13日に、地域に開かれ、地域に根ざした学校を核とする真の「地域ぐるみの学校づくり」を進めるべく、学校運営協議会を設置した。このことにより、地域や保護者が教育活動に参画しやすくなり、地域の教育力を洛央教育に取り入れ、学びをインパクトの強いものにすることができ、教育活動の活性化に繋がると考えた。活動概要としては①『学びコミュニティ』は英語・読書・理科・音楽・伝統文化教育等の学びの活動を支援している。②『安全コミュニティ』は通学路や学校内での安全を見守る活動が中心である。③『チャレンジコミュニティ』は体験活動を通して子供たちのコミュニケーション能力の向上と社会生活のマナーの高揚を図るとともに、7学区民の交流をより深めることに繋がっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

<おはなしバスケット>主に1、2年生を対象に読み聞かせや紙芝居、ブックコマースナルなど、本とのふれあいを通して読書の楽しさを伝え、子供たちに読書に親しもうとする態度を育てている。

<おもしろサイエンス>『おもしろサイエンスフェスティバル』を支援ボランティアが担当教員と一緒に企画・実践し、大人も子供も一緒になって科学を楽しんでいる。子供たちの大好きな科学実験やものづくりを楽しみ、自然探究への関心や意欲の促進を図っている。

<うたおんぶ>金曜日の朝に、ボランティアが各学年の教室へ行き、音楽やダンスに親しむ態度を育てている。24年度より幼小連携のプログラムの一つとして幼稚園児と2年生との交流会の中でも歌やダンスの紹介をしている。

<学校安全ボランティア>来校者をチェックしながら安全に気を付けている。子供たちとボランティアとが顔見知りになり安心して学校生活が送れるよう支援している。

【実施に当たっての工夫】

『洛央いきいきコミュニティ』の中心に理事会を設け、コミュニティ総体にあたるボランティア活動組織と連携・協働している。『洛央いきいきコミュニティ』は現役PTA会員や小学校段階の子育てを終えた比較的若年層の委員で構成し、地域の自治連合会長などを主なメンバーとする「学校評議員」は、学校と『洛央いきいきコミュニティ』の顧問的存在として位置づけている。

● 事業を実施しての効果・成果

学校運営協議会の設置から10年となり、子供たちや保護者・地域住民相互の交流が深まった。また、保護者・地域住民は洛央教育の推進を自分たちのものとして捉えることができ、学校の教育活動への関心がより高まり、愛着が持てるものになった。また、学校の方針や考えが保護者・地域住民に以前にも増して、伝わりやすくなったと感じられる。更に学校に対する信頼とあたたかい絆ができてきたことを教職員も感じている。これは教職員の意欲の向上にも繋がっている。今後学校運営協議会が更に発展していくために、新しい人材の補充と育成を図ることや新たなプランや改善点を出し合えるように心がけていくことが大切であると考えている。



おもしろサイエンス「おもしろサイエンスフェスティバル」



わくわく伝統文化「友禅染め体験」

こんな活動です

地域の力で子供たちのまなびを支援 - 自学自習の習慣や学力の定着を図る -

活動名

関係する学校名

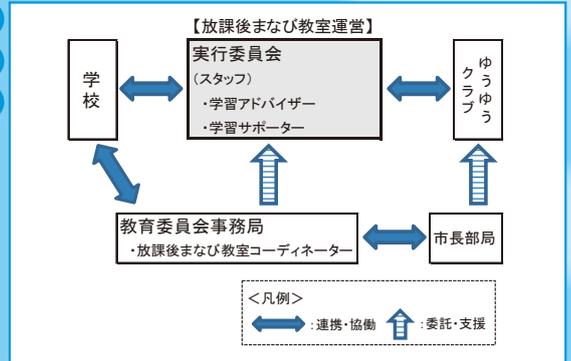
京都府京都市

嵯峨小学校放課後まなび教室

嵯峨小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	44.3人	176日	19年度	有	無	無	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		教室		有	一体型					
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯

- 放課後における児童の自学自習を中心とした学習習慣の定着と安心・安全な居場所の充実を図るため、平成19年度に開設。
- 平成19年度の開設当初から、授業実施期間中は週5日（月曜日～金曜日）実施しており、平成27年度は176日実施している。
- 教室に来た児童は、参加カード提出後、まず宿題や自分で決めた課題等に取り組み、それが終わると読書、ゲーム等をして過ごしている。
- スタッフは、小学校の元校長及び元教諭を中心に地域の方々約10名で構成されており、ローテーションを組み、連携・協働して安定した教室運営を行っている。
- 校内及び隣接施設において、ゆうゆうクラブ（放課後児童健全育成事業）が実施されており、連携・協働を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- スタッフは、挨拶を大事にしており、教室に入ってきた児童に自ら声掛けを行うように心掛けている。
- 教室に来た児童は、参加カード提出後、宿題や自分で決めた課題等に熱心に取り組んでいる。宿題等の後は、読書、ゲーム等をし、安心して教室での時間を過ごしている。
- スタッフは、教室環境を整え、児童を見守るとともに、学習の支援等を行っている。
- 学校の管理職、学級担任も時折、児童の見守り支援を行っている。
- 校内及び隣接施設において、ゆうゆうクラブが実施されている。放課後まなび教室登録児童のうち約3割がゆうゆうクラブにも登録しており、放課後まなび教室での活動後、ゆうゆうクラブに通っている。

【実施に当たっての工夫】

- 支援が必要な子供には出来るようになるまで個別対応を行うなど、スタッフが、個々の児童に応じた丁寧な対応を心掛けている。
- 自主的な学習習慣を身に付けられるように、学年ごとの学習用プリントを分かりやすい場所に多数用意したり、頑張ったことをシールで評価するカードを作成したりしている。
- 児童の状況等について、実行委員会、スタッフと学校の管理職、学級担任等が連絡を取り、連携・協働を図っている。
- 二つの教室を、ゆうゆうクラブに行く児童等が使う教室と、それ以外の児童が使用する教室とに分けて使用している。
- ゆうゆうクラブに参加する児童のため、黒板にゆうゆうクラブへ移動する時間を表示したうえで、時間になれば声掛けを行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- スタッフの個々の児童に応じた丁寧な対応により、児童は、宿題をしかりと仕上げることが習慣化されるだけでなく、「分かる喜び」、「達成感」等を感じることができている。また、児童自ら学習に向かえるような配慮をスタッフが行うことで、児童が、自主的な学習習慣を身に付けてきている。さらに、スタッフは、学校と連携・協働しながら、ノートの整理、字の書き方等の支援も適宜行っており、成果が出ている。これらの結果として、当該児童の学力向上に寄与している。
- スタッフが、児童との信頼関係の下、挨拶や約束を守ることを大事にする取組を進めてきた結果、児童がしっかりと挨拶をできるようになり、約束事を守れるようになってきている。



放課後まなび教室での学習



学習用プリントを選ぶ児童

こんな活動です

支援者をうまくコーディネートして学校のニーズに応じた地域学校協働活動を実施しています。

京都府城陽市

活動名

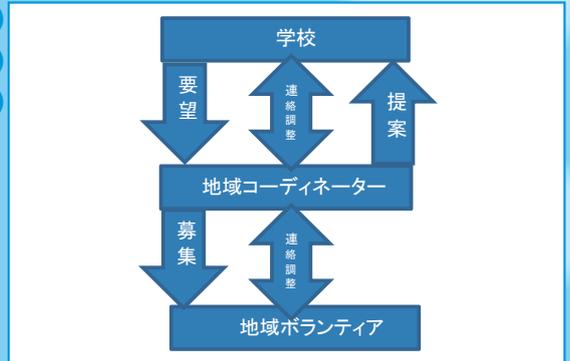
西城陽中学校学校支援地域本部

関係する学校名

西城陽中学校 寺田西小学校 今池小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 38人	学習支援 有	開始年度 22年度	国庫補助 有	ICT活用 有	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 3人	子供の平均参加人数 10人	開始年度 27年度	国庫補助 有	ICT活用 有	企業・NPOとの連携 無
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯

地域の力をうまく活用し、学校のニーズに応じた学校支援を推進することを通し、学習環境をしっかりと整え、子供たちの豊かな学びや健やかな成長に寄与することを目的に平成22年に西城陽中学校学校支援地域本部を発足し、地域の力を学校支援に活かすシステムを構築。

学校・家庭・地域社会を巻き込んだ『社会総がかりではぐくむ教育』という視点での取組の必要性に着目し、地域が支援できる体制作り、地域と学校とのネットワーク作りを目指して各活動を展開し、地域から支援を受ける。地域コーディネーター2名（学校支援地域本部事業）と地元住民38名の登録ボランティアで構成され、活動内容によって大きく3つの支援（学習支援、図書支援、環境支援）に分けて事業を展開。また、地域の小学校にも支援の輪を広げ、学校・地域・家庭の連携・協働による教育活動を推進。地域コーディネーターが学校と地域との架け橋となり、相互の情報の共有を図りながら学校のニーズに応じた支援を展開。必要に応じて会議を持ち、各取組相互の連携・協働を進める中で、学校の活性化が図れるようお互いに協力。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

図書支援→図書室の本の整理、修理、ディスプレイ等、隔週の木・金曜日に2時間程度活動。登録ボランティア数は20人程度。

環境支援→校内の花壇づくり等、毎週火曜日に1・2時間程度活動。登録ボランティアは15人程度。6月と11月にあるPTAが行う「花いっぱい運動」と連携・協働しながら活動。

学習支援→1年生の放課後補習（英語）における学習支援を主に水曜日1時間程度実施。登録ボランティアは3人程度。今年度から、地域未来塾においてICTを活用し学習支援を充実させる予定である。

【実施に当たっての工夫】

図書支援→図書室の司書と連携・協働しながらの取組。小学校では児童と一緒に作業。

環境支援→PTA 等他団体と協力しながらの取組。

学習支援→学校の先生と連携・協働しながら学校のニーズにあった支援を実施。

支援の広がり→地域の小学校にも支援の輪を広げて、西城陽中学校区としての学校支援を実施。

● 事業を実施しての効果・成果

地域住民の方が日常的に中学校に入ってくることにより、地域に開かれた学校作りに寄与。また、多くの地域住民に学校に関心を持ってもらい、学校・地域が一体となって、より良い教育環境を作り、学校の活性化を図る。

地域からの支援により本校の学校経営方針である、心を育てる 知恵を磨く 自らを生かすの構築に大きな成果。

● その他

今年度から、ICTを活用し地域未来塾事業として学習支援を充実させる予定である。



学習支援・環境支援



図書支援・環境支援

こんな活動です

地域とともに歩む竹野小学校 ～竹野活性化委員会との連携～

活動名

竹野活性化委員会
竹野小学校学校支援活動

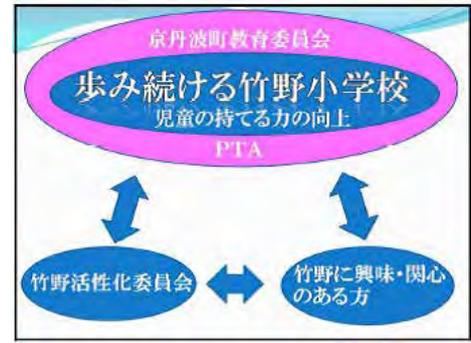
関係する学校名

竹野小学校

京都府京丹波町

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	36人	無	24年度	無	無	無
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



- 活動の概要・経緯**
- 平成23年度に第1回竹野活性化検討会議（各区長、PTA会長、地元議会議員、校長等）が開かれ、今後の方向性を検討する。
 - 竹野小学校は、平成24年度に京都府教育委員会指定「土曜教育実践教育研究指校」を受け、地域と連携・協働しながら土曜活用を年6回実施したり、運動会を地域と一緒に開催したりする。併せて、平成24・25年度に京都府教育委員会指定「京の未来創造校」～学校・家庭・地域社会の連携協働の在り方～を受け、オープンスクール等に取り組む。
 - 平成25年度に竹野活性化委員会が設立され、平成26年度には、京都府教育委員会の指定は終わったが、「学校・家庭・地域社会の連携協働の在り方」研究発表会を竹野活性化委員会と共催で開催するなど、引き続き地域連携を通して児童の表現力等の育成に努めている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 「竹野サロン出前発表会」…地域住民が気軽に集える場所「竹野サロン」（毎週木曜日オープン）にて、年間5回学年別に児童が学習に関する発表会を実施
- 「音楽と地域連携」…児童の美しい歌声を地域の場で発表することにより、児童が地域住民から褒められ自己有用感を高めることができている。そのことが、他の教科学習においても大きな成果をもたらしている。
- 「知る区ロード」…2回実施したうち、1回目は児童と地域住民が地元を探索した。2回目は、「竹野サロン」に来ておられない（来ることができない）お年寄りの家を訪問した。お年寄りにとても喜んでもらったことにより、児童は達成感を味わった。
- 「6年生と共同で卒業制作」…地元の陶芸家の協力を得ながら校舎の軒下にパン窯を作成した。地元住民や卒業生を招き、火入れ式をした後に、ピザやクッキーを焼いて窯の完成を祝った。
- 「バス出前授業」…地域を支える路線バスを学校と近隣の施設に出向かせ、バス内の優先座席や車いすの固定等についての学習や地域を支える路線バスがなくなったらどうなるのか考えた後すぐに、「ようこそ1年生遠足」として路線バスに乗って地域の公園に向かった。バスには地域住民も一緒に乗車し、学習したマナーを実践した。
- 「学校説明会」…移住希望者向けの学校説明会を開き、校舎などの設備だけではなく、京丹波町子育て支援の優れた施策の紹介や地域活性化の拠点としての役割も紹介し、家族連れに移住先としての魅力もPRした。
- 「ふるさとノート」…1学期終業式に、活性化委員会が作成した「ふるさとノート」を全校児童に贈った。ふるさとを思う心を育てるために、ノートの表紙には校章と全校児童の写真をあしらひ、裏面には竹野地区の人口や面積、歴史などを掲載し、夏休みからの活用を期待している。また、先述の学校説明会の参加家族にも配布した。

【実施に当たっての工夫】

- ・竹野小学校のホームページに、竹野活性化委員会ホームページをリンクさせ、頻りに更新することにより、取組の情報を発信するとともに、竹野のよさを外部発信し、竹野地区に興味・関心をもつ人を増やし、地区以外の人にも事業に取り込もうとしている。
- ・活動の案内チラシを小学校と活性化委員会連名で作成し、児童と地域に配布している。
- ・小学校と活性化委員会が連携・協働を密に取り合い、地域住民と参加できる創意工夫のある新しい事業を展開している。
- ・学校支援活動だけでなく、移住希望者への学校説明会を共同で行うことにより、地域の活性化にも繋げようとしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・地域住民との様々な交流を通して、児童は、地域の一員としての意識を高めるとともに、コミュニケーション能力が育成されている。
- ・児童が地域住民から感謝されたり、褒められたりすることによって自己有用感を高め、学習意欲や社会性が向上する等、教科学習においても成果を表している。
- ・創意工夫のある多様な学校支援活動が地域の特色となり、移住希望者が見学に来るなど、地域の活性化に繋がっている。

● その他

地元（京丹波町）教育委員会指定事業「地域と連携した学校教育推進事業～学校を核とした地域創生事業～」の指定を竹野小学校が受け、今後も創意工夫のある多彩な事業展開が期待される。



「竹野サロンでの交流」



「学校説明会」

こんな活動です

地域人材を活用した魅力ある実践に向けて

京都府長岡京市

活動名

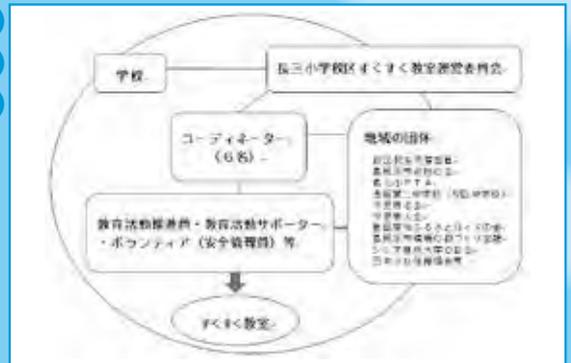
長三小学校区すくすく教室

関係する学校名

長岡第三小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	1人	80人	56日	19年度	有	有	有
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



- 活動の概要・経緯
- ・平成19年度から「京のまなび教室推進事業」として活動を開始している。
 - ・組織、運営については、地域在住の幅広い関係者の協力を得て、効果的な運営が行われており、学校との連携・協働も円滑である。さらに、地域の各種関係機関と連携・協働し活動範囲を広げている。
 - ・活動においては、校区コーディネーターが地域の実情や子供の実態に応じた各種活動を計画立案するとともに、多くのボランティアを集め、創意ある活動を展開している。
 - ・コーディネーターを中心とした組織体制を整備し、運営している。また、本活動が地域社会の絆を強める取組となっており、地域の教育力の向上にもつながっている。
 - ・学習活動や体験活動が多様で児童の興味関心を高めるものとなっており、ボランティアや数多くの団体が活動に関わっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・そろばん教室、英語教室、茶道教室等の他、苧掘り、しめ縄づくり、茶摘みから製茶など地域の高齢者等の協力を得て多様な教室を実施している。
- ・長岡第二中学校生徒による吹奏楽、バスケットボール、ラグビーの「体験指導」を受けるなど、地域内で小・中学校の連携・協働に努めている。
- ・校区内の農業生産者に協力を得て、花菜、茄子など季節の野菜の収穫を体験している。また、しめ縄づくり用の「わら」のため、特別にもち米を作っていただくなど年間を通して協力体制ができています。
- ・小学校のHPで活動内容や活動報告を行い、また体験で作成した作品等を小学校内に掲示する等の協力を得ている。

【実施に当たっての工夫】

- ・月に1度コーディネーターを中心とした運営会議を開催し、季節に応じた多彩な学習ができるよう協議するとともに、児童の様子を交流している。
- ・PTA 会員や地域自治会の役員が教室の運営スタッフとして参加し、活動に対する協力体制が強い。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・児童とボランティアの関係が良好であり、多くの地域住民や保護者が活動に参加しているため、児童が地域と学校を結ぶ架け橋になっている。また、地域住民の交流や地域の教育力向上の一助にもなっている。
- ・子供の大切な課外活動の場として、保護者や児童の中で認知されており、毎回の教室に多くの児童が参加している。



長岡第三小学校 HP にて活動紹介の様子



活動例（茶摘み、英会話、そろばん等）

こんな活動です

異学年の子供同士が認め励ましあって活動する教育環境 作りに主眼を置き活動

大阪府大阪市

活動名

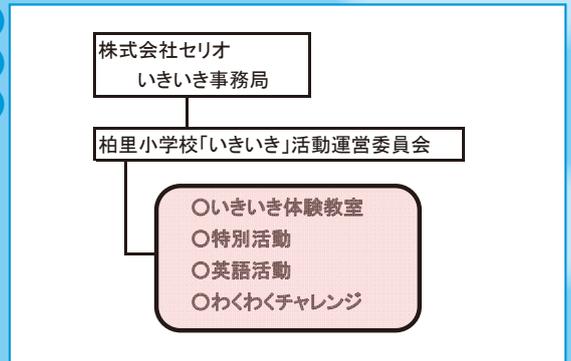
柏里小学校「いきいき」活動

関係する学校名

柏里小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	58人	286日	4年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		余剰教室、運動場、体育館		有	連携なし					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員会	児童生徒数	学級数		

体制図



- 活動の概要・経緯**
- 毎日の遊びとは別に毎月必ず多種多様なイベントを企画し実行することにより、いきいき活動室の平均的な参加率を上回り、また高学年の参加が増え、目的としている異学年交流が出来上がっている。
 - 毎日終りの会の時に英語を使ったゲームや歌を歌い、また本部よりネイティブの外国人が指導することによって学習支援を行っている。
 - 宿題OKカードを活用することにより、宿題を必ず済ましてから遊ぶ風土を確立し同じく学習支援の一助になっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 通常日常のめり絵、折り紙、けん玉、うつつ絵、将棋、カブフ、ドッジボール、サッカー、一輪車、こままわし、ミニバスとは別に、毎月催しもの決めて1年間実施している。4月) 新1年生歓迎会、5月) こま大会、6月) 紙飛行機飛ばし大会、7月) 七夕まつり、料理教室、ハンドベル練習、8月) 親子交流会、夏休みお楽しみ会、ハンドベル練習、9月) けん玉大会、10月) オセロ大会、11月) 全校作品展、12月) クリスマス会、1月) 冬休みお楽しみ会、凧作り、2月) 豆まき、カルタ大会、3月) 6年生お別れ会、新1年生体験参加。などによって、登録児童の参加率が他のいきいき活動室の平均より高くなっており、また高学年の参加率が増えている。年末に参加児童保護者に行ったアンケートでも「色々な企画をしてもらい楽しめた」というご意見をたくさんいただいた。
- また宿題OKカードを活用し宿題を必ず済ませる意識作りも活動室の伝統となっている。

【実施に当たっての工夫】

- 日々、月次のMTGを通して責任者のみならず関っている全ての指導員が意見、案を持ち寄り楽しい企画を作り上げ、また実行に当たってもそれぞれがきちんと役割分担を決めて参加することにより安心・安全に楽しく行うことが出来る。
- 学年ごとにばらばらに来校するが宿題OKカードを導入することにより、先に終わった低学年が後から来た中学年を邪魔することなく学習する癖作りが醸成された。
- 毎日英語活動を行うことにより多文化、多言語にも興味を持ち楽しく学べる環境作りが構築された。

● 事業を実施しての効果・成果

放課後や土曜日、長期休業中に安全な学校内という場所での楽しい数々の遊びや催しものを通し、要支援児童、要介護児童分け隔てなく、活動室が目標としている異学年の子供同士がお互いを認め合い、励ましあい元気に毎日活動する場所となっている。またそのことを長年維持継続発展させるため、指導員同士の日々、月次のMTGの実施や、本部主催による毎月の研修への参加によって活動内容の活性化や支援児童への対応の強化、事故対応などの安全管理への意識の向上に取り組めたものとする。

● その他

今後本部のバックアップも含め同じような取組、その為の準備、心構えを他の活動室にも水平展開し活動室全体の底上げを行っていき、今まで以上に安心・安全に楽しめる活動室作りを行い児童の参加率向上を目指す。



クッキングイベント風景



万博公園野外活動風景

大阪府大阪市

活動名

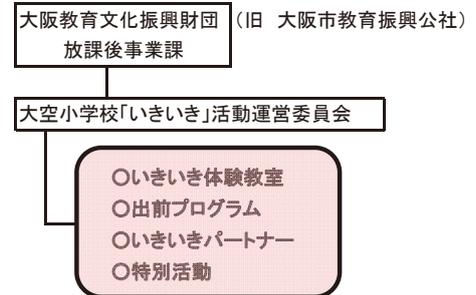
大空小学校「いきいき」活動

関係する学校名

大空小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	2人	65人	288日	18年度	有	無	有
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
	余裕教室・運動場・体育館		無		連携なし				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



- 活動の概要・経緯
- 集団活動の体験を通して友達付き合いの仕方を身につけさせる活動。
 - 『みんな遊び』の機会や場を日常的・継続的に設定。
 - 子供の自主性や異学年との関わり合いを大切にして活動できる環境の整備。
 - 地域の『いきいきパートナー』との交流

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 多様な活動を企画・実施している。その一例として、夏休みに子供たちが楽しんで参加できるように、次のようなバラエティに富んだ活動を、子供達とともに計画し実施した。
- ・いきいきミニ夏祭り・スタンプラリー・ボンボン玉づくり・すごろく大会・大空ファーム収穫・手づくりかるた大会・魚釣り大会・海の生き物づくり・いきいきパートナーとわらべ歌遊び・読み聞かせ・紙芝居・壁面制作・アドベントカレンダー制作・スタンプラリー・Tバッティング・大カルタ・ドラえもんボール投げ・ガラス玉さがし・陣地取り・ドラえもんビンゴ・ゲーム（無くなった物なあに）・マジック・スーパーボールすくい・シールさがし・玉入れ・折り紙・コマづくり・新聞切り・水遊び

【実施に当たっての工夫】

1. 時を逃さず場に応じた指導・支援を行うこと
2. 指導員として個の理解を進めつつ子供の思いや願いを大切にすること
3. 指導員が同じ目標を持つこと
4. 指導員が同じ目線で子供を見つめ指導・支援を行うこと
5. 子供達がお互いに思いやりの心で接している姿を見ること

● 事業を実施しての効果・成果

- 遊びのルールを自分たちで決めることで、自分だけが楽しむのではなく、参加者みんなが楽しめるルールを作るにはどうすればよいかを意識して考えられる子供に育ってきている。また、そこには、個の特徴にも心を配ったルールも生まれてきた。仲間外れがなく、ハンディも関係がない。そこには、思いやりという心が育ってきた子供達の姿がある。

● その他

- ストリートダンス協会と連携・協働し、ダンス教室を開催した。
- エフエム大阪ヒューマンネットと連携・協働し、「紙芝居とミニコンサート」を実施した。



「大空ファーム」でのじゃがいも収穫のようす



「いきいきミニ夏祭り」
水遊び、スーパーボール、すくい、ビー玉つかみ等

こんな活動です

地域全体で子供たちにとって安全・安心な居場所作り

大阪府茨木市

活動名

茨木小学校区放課後子ども教室

関係する学校名

茨木小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	93人	161日	20年度	有	無	有
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要
 茨木小学校区放課後子ども教室は、平成20年度に始まり、放課後や週末に安全で安心な居場所を確保・提供すること、また、地域の方々の協力を得て運営を行い、様々な体験をしたり、地域の活動にふれる機会をつくることを目的に、コーディネーターを中心とする実行委員会の強い連携・協働により、充実した活動が日常的・継続的に実施されている。
 ●活動日：月曜日から土曜日まで週6日（春・夏・冬休みは活動なし）
 ●活動内容：自由遊び、自主学習、講座（アロマクラフト・囲碁・裏千家・英語教室・絵入りカレンダー・音楽で遊ぼう・キックベース・サッカー・書道等全17講座）※水・土実施

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・毎回の活動を放課後児童クラブと連携・協働する「一体型」の実施。
- ・学校や放課後児童クラブとの連携・協働を進めるために、実行委員会会議の出席・避難訓練の合同実施・日常の積極的な情報交換に力を入れて取り組んでいる。また、自由遊びの支援や見守り（月～金）には放課後児童クラブの指導員も協力している。
- ・安全管理について、管理体制の強化と意思疎通を図るため、安全管理委員会を開催している。意見交流を通して、更なる意識の深まりと共通理解を得て、毎日4～5名体制で一人一人の子供たちと笑顔で向き合い温かく見守りを続けている。また、小学校の災害マニュアルを参考に放課後子供教室の災害マニュアルを作成している。
- ・活動実施にあたって、受付には保護者の方、自主勉強・自由遊びの見守り・講座には地域の方（大学生含む）が協力している。幅広い世代の方々にスタッフとして参画していただき、地域全体で子供たちの成長を支えている。

【実施に当たっての工夫】

- ・避難訓練について、事前に学校や放課後児童クラブと実行委員会会議で役割分担等の調整を行い、訓練を実施している。また、子供たちの動きや流れを把握・確認するために、小学校主催の防犯避難訓練にスタッフが参加している。
- ・多くの地域の方々に関心を持ってもらえるよう、秋の地区文化祭では、特設コーナーを設け、作品展示や活動紹介を行っている。また、地区福祉委員会との情報交換会に出席したり、保護者の方を対象にした説明会を実施し、周知に努めている。更に、放課後子ども教室通信（活動の様子等を掲載）を年3回各学期末に作成し、全児童に配布および公民館等に設置している。

● 事業を実施しての効果・成果

参加児童から「いつも遊んでくれてありがとうございます。放課後が楽しくてずっと行きたいと思います。」、保護者から「いつも子供が楽しく参加させていただいています。他のクラス・学年のお友達と遊び、校庭でも思いきり体を動かすことができるので、とても喜んでます。子供たちが放課後に安心して遊ぶ場があることに感謝です。」、スタッフから「子供たちの元気な笑顔は私たちをいつも癒してくれます。」との声が寄せられている。また、登録・参加児童数及びスタッフ参加人数も年々増加しており、児童・保護者・地域の方々にとって、茨木小学校区放課後子ども教室は必要不可欠な存在となっている。

● その他

学校や放課後児童クラブ関係者、地域ボランティア、地域団体、保護者等たくさんの方々との協力を得て、運営している。



安全管理委員会



宿題教室

こんな活動です

顔の見える関係作りを！一つながりあう未来のために

大阪府門真市

活動名

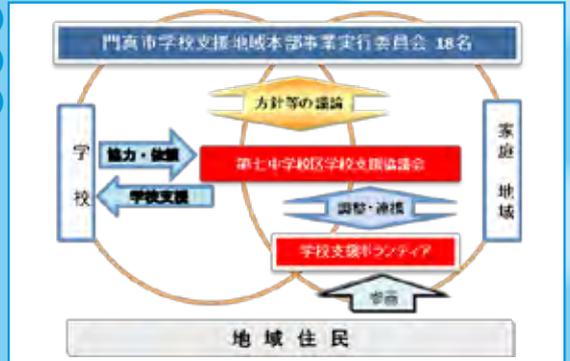
門真市立第七中学校区学校支援協議会

関係する学校名

第七中学校、二島小学校、五月田小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	0人	地域コーディネーター数	4人	ボランティア登録数	26人	学習支援	無	開始年度	20年度	国庫補助	0	ICT活用	無	企業・NPOとの連携	無
	地域未来塾	統括コーディネーター数		地域コーディネーター数		ボランティア登録数		子供の平均参加人数		開始年度		国庫補助		ICT活用		企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数		地域コーディネーター数		子供の平均参加人数		年間開催日数		開始年度		国庫補助		ICT活用		企業・NPOとの連携	
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携											
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数		地域コーディネーター数		子供の平均参加人数		学習支援		開始年度		国庫補助		ICT活用		企業・NPOとの連携	
	コミュニティ・スクール	指定日						委員数		児童生徒数		学級数					

体制図



- 活動の概要・経緯**
- 平成20年度より活動開始。
 - 学校と連携・協働した取組や、学校やPTAから依頼があれば、それに応えられるような活動を積極的に企画、実施。
 - 成人の日に中学校で「新成人の集い」、六月下旬には小学校で「七中校区フェスティバル」を毎年継続して開催することにより、第七中学校区（五月田校区・二島校区）の二校区間の交流や、地域コミュニティへの若い世代の参加を促している。
 - 学校支援コーディネーターが放課後子供教室のコーディネーターも兼ねて運営している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 第七中学校を卒業した新成人が母校の体育館に集まり、地域住民、教職員、保護者等で手作りの「新成人の集い」を行っている（平成26年度より。今年度で三年目）
- 毎年六月下旬に小学校で「七中校区フェスティバル」を開催。継続することで第七中学校区（五月田校区・二島校区）の二校区間の交流や、地域コミュニティへの若い世代の参加を促している。
- 「古川下り」…門真の歴史を学ぶことを目的に、田舟を修復し、古川を下って天満市場まで門真れんこんを売りに行く体験事業を学校と連携・協働して実施（平成21年度）
- 「やさい作り（ひだまり畑）」…食育の一環として小学校の一角で、学校・家庭・地域が参加した「野菜作り」を実施。収穫した野菜を調理して校区内の夏祭りの参加者に配布。（平成22年度～24年度）
- 宮城県女川町の方を迎え、「あらためて考える命の大切さ一人と人のつながり」と題した道徳教育公開講座を学校と連携・協働して実施。
- 「福島県生徒交流事業」…福島県の中学生と校区の子供たちがグループワークを行い、発表会を開催。交流会や自治会館での宿泊を通して互いの絆を深めた。

【実施に当たっての工夫】

- 学校・家庭・地域のつながりを深めていくことが重要と考え、会話や情報共有を大切に、チームとして子供たちを育む環境作りを行っている。
- 「新成人の集い」は、新成人の実行委員たちと学校支援協議会が連携・協働し、会議を重ねて準備。当日は子供たちに関わっていた小・中学校の先生、保護者、地域住民らも集まり、思い出ビデオを見たり、紅白餅をつくなどして、成人のお祝いを行う。
- 「七中校区フェスティバル」では、200名を超えるボランティア（保護者・新成人を含む地域の人々）が会場警備や模擬店を担当。
- 地域を交えた道徳教育公開講座で女川町の方々とお話したり、学校の求めに応じ、多岐に渡る活動を実施。
- 「学力を支える家庭・地域の力」をテーマにした講演会を開催する等、学校・家庭・地域がつながりを大切にした取組を進めている。

● 事業を実施しての効果・成果

学校・家庭・地域がつながることは、学校にとっても地域にとっても大切なことだと考えて取り組んでいる。小さな頃から地域の大人が子供たちを見守る環境があれば、犯罪に巻き込まれる可能性も減り、思春期を迎えた子供たちの非行防止にもつながり、子育てにおいても、人とのつながりで救われることが多々ある。それらは、落ち着いた学校生活の基盤となっている。また、成長した子供たちが人々とのつながりや地元の良さを再認識し、次代の地域（PTA、自治会等）を担うことを期待している。学校・家庭・地域の様々な人が集まり、一緒に事業を行うことで、そんな思いやつながりが徐々に広がってきている。



7中校区フェスティバル



新成人の集い

こんな活動です

熟議を通して、学校・地域・家庭が連携・協働し活動する西宮の教育連携協議会

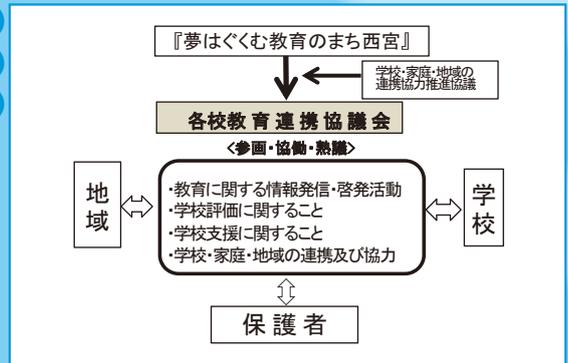
兵庫県西宮市

活動名
西宮市教育連携協議会

関係する学校名
市内小・中学校 61 校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 0人	ボランティア登録数 7965人	学習支援 有	開始年度 21年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所		学習支援			放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要
平成 21・22 年度の 2 か年をかけて市内全ての小中学校に設置した「教育連携協議会」は、学校評価などをもとに「目指す子供、学校、地域の像」を定め、その達成に向けて、学校・家庭・地域が連携、協力して取り組むための熟議の場である。子供のよりよい生活や学習環境づくりなど、子供に繋がる様々なことを、地域と学校がコラボレーションし、子供の育ちに地域全体が関わる活動を通じて、学校だけでなく地域も活性化する、地域とともにある学校づくりの仕組みである。この「教育連携協議会」を中心に、地域の学校教育活動への参画と協働を促進する「教育連携事業」を積極的に実施している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・教育連携協議会は、年間を通じて学校経営方針・子供の様子（生活・学力・友人関係）・学校行事について話し合っている。また、年度末には学校評価を行い結果を公開している。
- ・教育連携協議会の委員は青少年愛護協議会・自治会・スポーツクラブ 21 など地域団体の代表、PTA 役員、教職員等で構成。教育連携協議会の場を使って学校を取り巻く諸課題の解決に向けての取組を協議することにより、地域の人々のつながりを深めるネットワークの構築を目指している。
- ・教育連携協議会での議論を経て、学校や地域の実情に応じた取組が行われている。主な取組として「昔あそび」「学校と地域が行う津波避難訓練」「地域の夏祭りの手伝いを呼びかける地区別生徒集会や一夏一善活動」「幼保小中高生が出演する地区コンサート」「地域の人と中学生が討論する中学生フォーラム」「小中合同協議会」などを実施している。

【実施に当たっての工夫】

- ・統括コーディネーターが年間を通じ、全ての学校を 2～3 回訪問し、活動の状況を聞き取りしながら、課題に応じた助言や他校の様子などを情報提供を行う。また、教育連携協議会等に参加することもある。
- ・協議会の委員を対象に全体研修会・報告会を実施して教育連携協議会の在り方や活動についての意識の向上を図っている。
- ・事業実施後に評価・検証を行うことにより、地域の声を教育連携協議会に届け、保護者や地域に対して開かれた学校づくりを図っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・子供たちは地域の方と触れ合うことが多くなり、地域とのつながりを深めるきっかけとなった。
- ・教育連携協議会を開催することで、学校のニーズと地域の考えを交流する場ができた。今まで十分に情報交換できていなかった内容でもしっかりと話すことができるようになった。
- ・地域の代表である委員に学校に来てもらうことで、学習の様子や子供たちの様子を丁寧に見てもらうことができるようになった。その結果、学校に対する信頼が築けている。

● その他

「夢はぐくむ教育のまち西宮」を理念として、教育連携協議会をさらに充実していく。



安井小学校
教育連携協議会・会議風景



上ヶ原中学校地区別生徒集会
地域の方と生徒の交流の様子

こんな活動です

伊丹市内全域で学校支援ボランティアが学校を舞台に活躍中!!

兵庫県伊丹市

活動名

伊丹市学校支援活動

関係する学校名

伊丹市立小学校 17/17 校、中学校 8/8 校、特別支援学校 1/1 校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	2人	692人	有	20年度	有	無	無
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	2人	11人	22人	21年度	有	無	無
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール			指定日	委員数	児童生徒数	学級数			

体制図



活動の概要
 平成 20 年度より、学校・家庭・地域が一体となり、社会総がかりで子供を育てるために学校支援活動の体制を整え、市内全小中学校（小 17/17 校、中 8/8 校・特別支援学校 1/1 校）で実施している。平成 27 年度は図書・環境整備・学習支援の各ボランティアに 416 人の登録があり、平成 28 年 11 月末では 692 人の登録があった。本市では体制図のように、教育委員会事務局に地域コーディネーター（2 名）を置き、学校との連絡・調整及びボランティア登録者の人材バンク管理を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ① 図書活動：読み聞かせや図書の修理・貸出業務などを支援している。学校支援本部事業が始まる以前より、各学校において PTA の方々を中心に学校に合わせた図書活動を継続的に行っている。10 年を超えて活動している団体もある。
- ② 環境整備活動：学校花壇の整備や学校樹木の剪定を行っている。花壇の整備は、市内で活躍されている環境ボランティアや PTA が協力して活動しており、高木剪定は、本格的な技術を持ったボランティアがスキルを活かしている。
- ③ 学習支援活動：学校の業間休みに、小学 2 年生を対象に九九検定を行っている。市内の学校を退職された校長・教員等がボランティアとして、授業で九九を習得しきれなかった児童たちを中心に担任と連携・協働して行っている。

【実施に当たっての工夫】

各学校の要望とボランティアの活動内容が沿うように、地域コーディネーターが学校と調整している。事業が開始され 9 年目であり、HP、図書館本館（ことば蔵）で活動報告の展示、年に 2～3 回のボランティア通信により、活動の交流及び市民への周知に取り組んでいる。また、ボランティアの資質向上を目的として、どなたでも気軽にスキルを身につけられる養成講座を開催している。図書に関しては、本市の図書館と連携・協働し、図書の修理や読み聞かせの方法についての講座を開催し、環境整備に関しては、本市の公園担当課と連携・協働し、活動している学校において花壇の作り方や剪定方法についての実践的な講座を開催している。

● 事業を実施しての効果・成果

本事業の目的としている「学校・家庭・地域が一体となって社会総がかりで子供を育てる体制を整えること」を実現するために、多くのボランティアの協力がある。学校支援のボランティア活動をきっかけに、地域の学校において、地域住民が今まで培ってきたスキルを活かした活動を行うことができています。また、地域住民や保護者が学校で活躍する姿を子供たちが見ることは、子供たちの学校生活の活力につながっている。学習支援は、担任の先生と連携・協働で実施することで、基礎的な学力の定着につながり、また学習意欲の向上の後押しとなっている。



業間休みを活用した退職校長による小学 2 年生の九九検定



ボランティア養成講座図書の修理

こんな活動です

地域・学校園・各種団体の協働による次世代の地域防災を担う子供の育成

奈良県奈良市

活動名

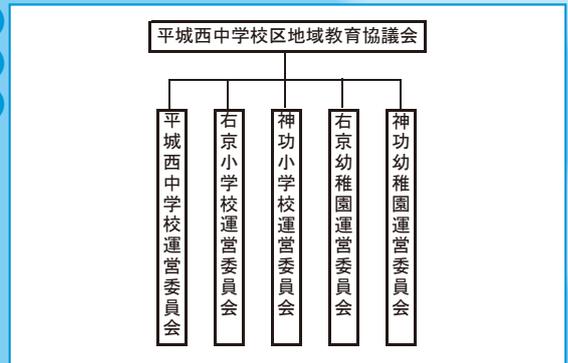
平城西中学校区地域教育協議会

関係する学校名

平城西中学校、右京小学校、神功小学校、右京幼稚園、神功幼稚園

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	7人	77人	無	20年度	有	無	有
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要
 平城西中学校区地域教育協議会は、平成20年に組織し、9年目となる。地域の少子高齢化が進み、ベッドタウンという地域特性ゆえ核家族が多数を占めており、子供たちが家族以外の大人とふれあう機会が減少しているという当初の課題から、「地域で活動するいろいろな人と会うことで、地域のことを知り、その願いと受け継ぐ」ことを目的に、取り組み始める。
 各校園の代表コーディネーターが集まり連絡調整を図り5つある校園の活動を効率的にすすめる体制づくりが行われてきた。
 「防災」をテーマとして、地域とともに取組を行い、園児・児童・生徒は様々なプログラムを体験することで、地域の連帯感を高め、災害時において的確に行動できる素養となっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「防災」を共通のテーマにして校区の実情に合わせた防災体験や防災・減災意識を高める取組を、保幼小連携と小中一貫教育を絡めながら11年間の子供たちの育ちを共有している。小学校では防災図上訓練、地域防災訓練、親子防災体験プログラム、中学校では、多数の児童・生徒・地域住民が参加して防災セミナーが行われている。

地域ボランティア活動は、環境整備・図書室整備などで定期的かつ熱心に活動が行われている。図書ボランティアにおいては北部図書館の協力を得て研修会を開催し、ボランティア開拓の取組をすすめている。

また、教職員とコーディネーターの合同研修により、地域学校連携の方向性を見いだしている。

【実施に当たっての工夫】

防災教育においては、消防署の協力のもと、心肺蘇生術、応急処置、消火、消防車の放水、担架運搬、三角巾利用、防災食体験などの体験活動だけでなく、防災学習（ビデオ、講話）、グループセッションなどを行い、より深める工夫がなされている。

ボランティア活動については、環境整備ボランティアが植栽の剪定を行う前段階として、校内を実習会場として地域住民向けに「庭木の手入れ勉強会」を開催するなど、人材開発も進んでいる。

図書ボランティアでは北部図書館の協力を得て「図書ボランティア研修会」を開催し、図書管理や貸し出し手続などのノウハウを研修している。

教職員とコーディネーター等の地域住民との合同研修を開催している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ①地域コーディネーターを中心としてボランティア活動とともに取り組むことにより、学校園・園児児童生徒・地域住民・関係団体間の連携・協働や相互理解を深めることができた。
- ②地域ボランティアとの活動が子供たちにとって、地域を知る機会になった。
- ③ボランティア活動への参加が地域住民の能力発揮の場を広げている。
- ④環境美化の活動により学校や地域がきれいになると共に地域の安心安全につながった。
- ⑤防災の取組を通じて地域や安全について考える機会をもち、地域の人々の関心が広がった。
- ⑥教職員とコーディネーターの合同研修会により、地域学校連携の目的を基本から互いに学び、本音の話合いができ、目指す方向性を確認することができた。

● その他

防災セミナー協力企業等

- ①アルファフーズ株式会社…防災食・非常食などUAA食品のサンプル提供
- ②株式会社黒潮町在話製作所…防災備蓄缶詰サンプルの提供
- ③ミドリ安全奈良…避難用品・非常用仮設トイレ等展示説明
- ④DMAT（災害派遣医療チーム）…活動紹介
- ⑤DPAT（災害派遣精神医療チーム）…活動紹介
- ⑥日本赤十字社奈良県支部…活動紹介
- ⑦奈良市北消防署…非常時活動体験
- ⑧奈良市消防団平城分団…非常時活動体験・放水体験



平城西中学校区
防災セミナー 2016



平城西中学校区教職員
地域教育協議会合同研修会

こんな活動です

「地域の中で笑顔輝く平和っこ」の育成を目指してつながる学校と地域

活動名

奈良県大和郡山市

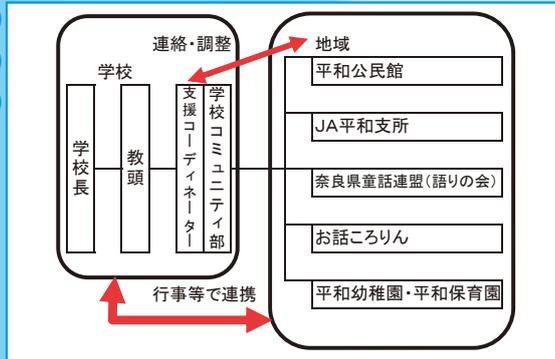
平和小学校コミュニティ

関係する学校名

平和小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	3人	90人	無	25年度	有	無	無
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	3人	8人	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
		3階図書室及び体育館		無	連携なし				
放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	1人	3人	8人	30日	23年度	有	無	有	
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



- 活動概要・経緯**
- 「開かれた学校づくり」を目指し、校務分掌に「学校コミュニティ部」を設置する。
 - 学校長が支援コーディネーターに任命した教職員が、各団体との連絡調整を行う。
 - 学校コミュニティ部の担当は、支援コーディネーターの連絡調整を受け、各行事の案件を作成、提案する。
 - JA 平和支所の青年部の方々との農業体験、奈良県童話連盟（語りの会）の方による語り部童話会、近くの平和幼稚園、平和保育園との保幼小交流、また平和公民館のクラブ員の方々との交流と、様々な地域の方との交流を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 「語り部童話会」は、阿礼祭の一環として行われ、子供たちに昔話を語っていただく行事であり、昭和5年から続いている。今年で第87回を迎え、本校の教育の大きな柱となっている。
- 交通見守りボランティアが登下校中に、通学路に立って、子供たちの安全な登下校を見守っている。
- 平和公民館の平和水彩画クラブや書道クラブ、三味線クラブとの交流はスタートして3年目であり、作品展示や発表会など双方向の取組が進んでおり、学校や市の広報を通じた活動でテレビ放映や県主催の事業での発表にもつながった。
- 小学校6年間を見通し、各学年がそれぞれの団体の方と話し合い、お互いに触れ合える内容を、年々より良いものにしていった。
- 3学期には、「ボランティアさん感謝の集い」を実施し、卒業を控えた6年生が演奏を披露したり、「農業体験」で収穫したお米で作った料理をご馳走したりするなど、学校から地域へ感謝の気持ちを伝えている。

【実施に当たっての工夫】

- 担当が個々に行っていた連絡調整を支援コーディネーターが担うことで、各団体に対する学校の窓口が一本化され、明確になった。
- 校務分掌を見直し、新たに「学校コミュニティ部」を設置することで、校内体制がスリム化され支援コーディネーターの連絡調整を受けての案件づくりや提案が図られるようになった。
- 開かれた学校を目指した活動を広げていくため、支援コーディネーターが各団体とのパイプ役となっている。

● 事業を実施しての効果・成果

- お互いの思いや意見を出し合う事前の打合せを細かく行うことで、当日の活動がより充実したものになってきている。
- 地域の方が様々な交流を通じて学校教育活動に参加して下さることで、児童と地域、教職員と地域との結びつきが以前より深まってきた。
- 本校の研究主題である「道徳性を育む」に関わって、各交流は児童の「感謝」「郷土愛」を高めるだけでなく、活動における自信や喜びの気持ちから自尊感情を高めることにもつながっている。



語り部童話会
(真太神社にて)



平和公民館
水彩画クラブ交流

地域と子供が双方向につながる学校コミュニティづくり

奈良県五條市

活動名

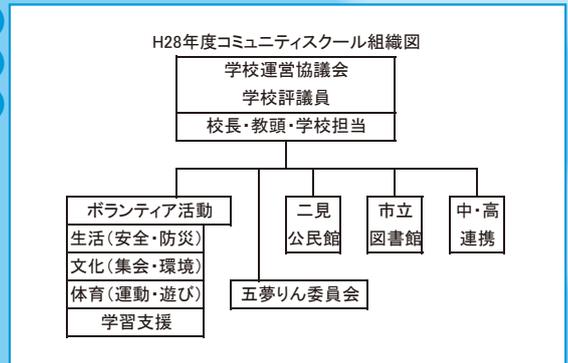
五條小学校コミュニティ協議会

関係する学校名

五條小学校

基本データ	学校支援活動	●	0人	1人	46人	有	25年度	有	無	無
	地域未来塾		0人	1人	15人	105日	25年度	有	無	有
	放課後子供教室	●	実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
			校内各教室		有	連携なし				
	土曜日の教育活動		0人	1人	15人	105日	25年度	有	無	有
コミュニティ・スクール	●	指定日		委員数	児童生徒数	学級数				
		平成 28 年 4 月 1 日		8人	174人	10学級				

体制図



活動の概要・経緯
 学校が好きで、地域を愛し、ふる里五條に誇りをもつ子供たちを育みたい。そのような思いのもとに、地域と学校・子供たちを繋いでいく橋渡しとして、様々な形で地域ボランティアの方々に学校に関わっていただくコーディネートでH25年度より積極的に進めていった。また、ボランティアの方々に学校に来ていただくばかりではなく、子供たちが地域へと踏み出して積極的に関わり、役に立ち、自分らしさを発揮して活躍する場作りにも力を入れている。このような取組の流れをベースに、H28年度から学校運営協議会を発足し、組織的に活動を進めている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

登下校時の見守り活動やあいさつ運動、囲碁将棋、軽スポーツ、家庭科や英語、書写、放課後学習教室などの学習支援、レクリエーション活動、図書室の環境整備や読み聞かせ活動、花植えや木々の剪定等環境整備支援、学校行事支援、陸上・水泳クラブ等、多岐にわたって地域ボランティアの方々に学校の支援をお願いしてきた。それにより、子供たちは常に地域の方々に見守られ、支えられて学校生活を送っていることが実感できている。同時に、子供たち自身が地域へと一歩踏み出し、地下道や歩道橋、公園等、学校周辺のクリーン活動、地域公民館との共催による親子ふれあい教室、秋祭りでの和太鼓演奏、地域の方々とともに地元の史跡について調べたことを解説しながら歩く歴史ウォーク、金管バンドの演奏会、その他様々な市や地域の行事への積極的な参加を行っている。地域と子供たちが双方向に関わり合う経験を積み重ねていくことで、五條の子としてここに育ち、誇り高く地域の一員となっていく将来像が育まれていくと考える。

【実施に当たっての工夫】

学校の取組の方針や各種行事への理解と協力を得るため、学校運営協議会やPTA役員会等で熟議するとともに、配布物や学校ブログ等を活用して保護者、地域住民の方々への情報発信を積極的に行っている。また、地域の方々に参観いただく行事を計画的に設定している。ボランティア募集は、校区内各地区の自治会等の協力を得ながら、広く呼びかけている。

● 事業を実施しての効果・成果

この事業を通して、卒業生OB等、多くの方が個人でボランティアに参加することにより、真摯に学校のことを思い、各自の特徴を生かした多岐にわたる支援をしていただけるようになった。また、日常的に様々な地域の方々と接しながら生活するという学校スタイルが確立されたことで、子供たちの活動意欲の高まりや、多くの人々に見守られながら学校生活をしているという心情が育っている。同時に、子供たちが地域の活動に積極的に参加していくことで、地域との繋がりを深めるとともに地域の伝統行事や地域の歴史に興味を持ち、体験的に学ぶことからふる里への思いを深める児童が増えている。

● その他

地域ボランティアを中心に、学習支援に地域の方たちが多く参画している。



ボランティアによる遊び活動



地域のクリーン活動

地域と共生・共同、地域に根ざした学校作り

奈良県

活動名

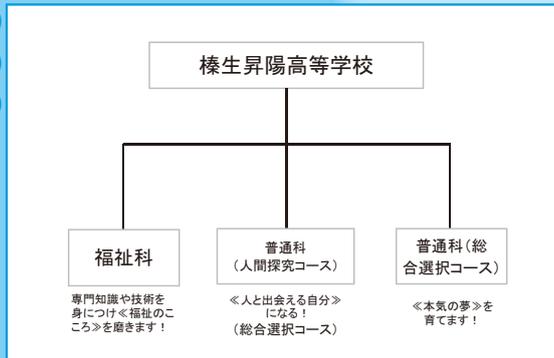
奈良県立榛生昇陽高等学校

関係する学校名

榛生昇陽高等学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 0人	学習支援 無	開始年度 28年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動の概要・経緯 本校は奈良県の北東部山間部に位置し、統合もあったが創立90年を超え、長年地域に愛されている全校生徒約600名の小さな高校である。教育課程は、福祉科・普通科（人間探究コース・総合選択コース）から成り立ち、それぞれ独自の学習を展開している。学校の位置する宇陀市は昨年市制10周年を迎えたが、過疎・高齢化という問題に少なからず直面し、様々な行事において人手が足りなくなっているのが実情である。地域における様々な伝統行事・イベントにおいて、本校がボランティアの活動範囲を拡大していくことが、地域との共生・共同に対して大きなベクトルになっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

本校の特色を効果的に活用し、地域の要望と直結出来る内容に応じて様々なボランティアを展開している。その中身は、地域の抱える問題にストレートに繋がりがやすく、活動も多岐にわたる。福祉科においては、市内にある福祉施設を定期的に訪問し様々な支援活動を実施している。人間探究コースにおいては、市内の保育所・幼稚園を定期的に訪問し交流を深め、子供が参加する行事には運営スタッフとして参加している。また生徒会も、地域の行事やイベントに運営から協力し連携・協働を深めている。

【実施に当たっての工夫】

基本的な考え方として、学校と地域がお互いにプラスになるような活動を目指している。本校生徒が、地域に様々なボランティアを展開することによって、地域の願いを単に叶えるだけでなく学校は地域から学び、地域は学校に愛着を持ち、それぞれが共生でき新たな活性化を生む。それぞれの活動では、事前に地域とコミュニケーションをとり、「何がどれだけ必要か、実施することでどれだけ教育効果はあるのか」を明確にしていく。例年あることでも参加する生徒は変化するが、活動は極力マンネリ化は避けいろんな方向性を模索しながら展開するようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

年間の取組は、大きなもので30を超え、今や本校の取組は地域のルーティンになりつつある。「少子高齢化」の一つのバイオニアになればと考えている。地域が元気になることは本校の活性化に繋がるということを肌で感じる事が出来た。生徒たちを様々なボランティア活動を通して「地域の応援団」として位置付け、その活動は市内全体に輪が広がり、町ぐるみで学校を支援しようとする機運が広まっている。



地域のお祭りボランティア



福祉科の生徒によるハンドケア体験

こんな活動です

学校・家庭・地域が一体で、子育てや地域づくりを推進する学社融合事業

和歌山県田辺市

活動名

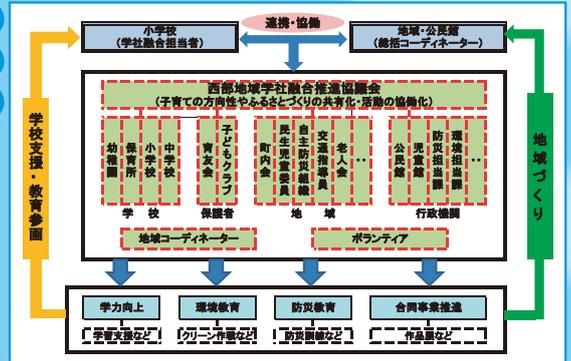
西部地域学社融合推進協議会

関係する学校名

田辺第三小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 100人	学習支援 有	開始年度 23年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動の概要
田辺第三小学校と西部公民館では、平成23年度から3年間、文部科学省の補助事業を活用し、「学校支援地域本部事業」を立ち上げ、学校・家庭・地域が連携・協力し、地域ぐるみで子供を育てていくための体制づくりに取り組み、現在でも、西部地域学社融合推進協議会として、その組織体制が引き継がれている。

経緯
同協議会は、公民館長、公民館主事（コーディネーター）及び学校の担当者をはじめ、自主防災組織や老人会、児童館など地域の各機関や団体などから幅広い人材で構成されており、学習支援ボランティアによる学習支援や学校を核とした地域づくりに取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

学力向上では、学習支援ボランティア（OK先生）が学校の授業に参加し、昔の暮らしや遊び、俳句学習・ミシン学習など、普段の授業で馴染みがない学習支援を行っている。

環境教育では、ナショナルトラスト発祥の地である天神崎の環境保全や地域の自然のよさを知り、学習に生かすため、地域の方々と一緒にクリーン作戦や生き物学習を行っている。

防災教育では、近い将来発生が予想される東海・東南海・南海地震などに備え、地域の方々も加わり、学校と地域が共に防災学習を進めることで、地域の方々の防災意識を高めるため、防災訓練や防災学習発表会などを行っている。

【実施に当たっての工夫】

- ◆西部地域学社融合推進協議会
西部地域学社融合推進協議会を設立し、各町内会長から構成される町内会連絡協議会をはじめとする地域の各種団体や、市の関係機関が参画し、地域と行政が一体となった事業を行っている。
- ◆学習支援ボランティア（OK先生）
 - ①地域人材の活用について、授業者が計画したものを地域コーディネーターに伝え、日程調整を行う。
 - ②事前打合せ会を行い、授業のねらいを伝え、当日の役割分担を行う。
 - ③授業後、反省や課題を話し合い、感想やお手紙などで交流を図る。

● 事業を実施しての効果・成果

子供にとっては、地域の人材を活用した授業で専門的な知識に触れ、学習意欲の向上と郷土愛を育むことができました。

学校にとっては、地域の方に支援をいただくことで専門的な知識を習得でき、学習活動を広げ、深めることができたとともに、児童のニーズに即したきめ細かい指導を行うことができ、学習効果が高まった。

地域にとっては、生涯学習の視点から、地域の方々から自らの学習成果や経験を生かす場として、学校や子供からも多くのことを学び、生きがいづくりにつながった。

それぞれの活動を通し、学校・地域・家庭の結びつきが強くなり、地域の絆が深まり、地域の教育力の向上と伝統文化の継承・地域の活性化につながった。



天神崎クリーン作戦の様子



そろばん学習の様子

こんな活動です

「みんな竹矢の子」プロジェクト

島根県松江市

活動名

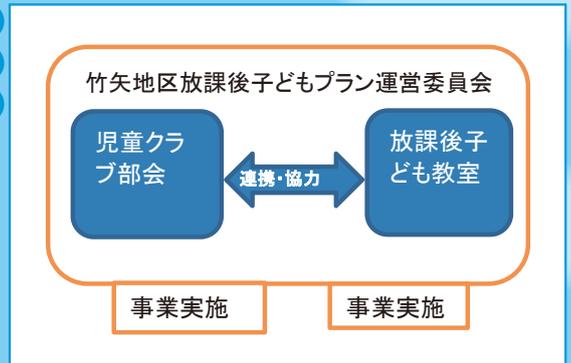
ちくや子ども広場

関係する学校名

竹矢小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	42人	78日	19年度	有	無	無
		実施場所			学習支援	放課後児童クラブとの連携			
		松江立竹矢小学校(教室・体育館・校庭)・専用施設			無	一体型			
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要
 ちくや子ども広場の開設に当たり、「ちくや子ども広場検討委員会」を設け、既にあった「放課後児童クラブの運営委員会」に新設する子ども広場の運営委員会の機能を加えた、一つの組織「竹矢地区放課後子どもプラン運営委員会」(事務局は公民館)を設立し、平成19年度から活動を始めた。開設に当たり、保護者の意向を知るためのアンケート調査や、PTA地区懇談会にて松江市教育委員会及び公民館長から保護者へ説明をした。本格実施前に、夏休み版の子ども広場を開き、子ども広場への理解を深めてもらうことに併せてスタッフの募集を行った。
 「みんな竹矢の子」という考えのもと、「子ども広場」と「児童クラブ」に所属する児童が共に過ごせるよう、両スタッフが定期的に情報交換しながら支援している。(※子ども広場：松江市における放課後子供教室の名称)

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 子ども広場の安全管理員が児童クラブの指導員と連絡を密にしながら児童の見守りをしている。
- ・子ども広場、児童クラブのどちらの子供も同じ場所で、同じ指導と見守るスタイルを確立している。
- ・学校と連携・協力のもと、施設使用については柔軟に対応している。(雨天時には特別教室を借りる等)
- ・遊び場所、遊びプログラム、教材の共有や見守りを子ども広場のスタッフと児童クラブの指導員とが連携・協働している。
- 公民館や地域の農業従事者ボランティア団体と連携・協働した農業体験や近隣のお寺の住職に怪談を話してもらうなど地域の資源を活かしたプログラムを実施している。

【実施に当たっての工夫】

- 児童クラブと子ども広場の運営委員会を1つの組織とし、事務局を公民館に置いている。
- 子ども広場のスタッフと児童クラブの指導員との情報交換会を定期的に開催することにより、課題や問題を共有している。
- 子ども広場のコーディネーターが児童クラブ、学校、保護者、地域との連絡調整や情報発信をきめ細やかにっており、風通しが良い。

● 事業を実施しての効果・成果

- 一体型で実施する良さ
 - ・子ども広場と児童クラブの児童が一緒になって遊ぶ機会を創出できた。
 - ・子ども広場のスタッフと児童クラブの指導員との情報交換会を定期的に開催することで、課題把握や問題点の共有が可能となり、児童に対する理解が深まるとともに、様々な対応が迅速かつ適切に行われるようになった。
- 地域とのつながり
 - ・児童やその親が一緒になって公民館主催事業(プール遊び、ペットボトルロケット大会出場、かるたとり大会、七夕会、クリスマス会)に参加するようになった。
 - ・お寺や神社のお話会や清掃活動などの地域活動に子供たちが参加するようになった。



花いっぱい大作戦



たけおつあんに集合

こんな活動です

ふるさと学習支援! 「心豊かにたくましく生きる 新庄っ子」

岡山県新庄村

活動名

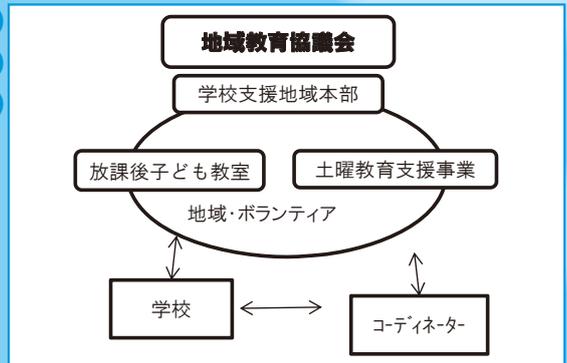
新庄村学校支援地域本部

関係する学校名

新庄小学校・新庄中学校

基本データ	学校支援活動	●	総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 26人	学習支援 有	開始年度 20年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
	地域未来塾		総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 5人	子供の平均参加人数 207日	年間開催日数 20年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有	
	放課後子供教室	●	総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 5人	年間開催日数 207日	開始年度 20年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有	
	実施場所		新庄村公民館		有		放課後児童クラブとの連携		連携なし		
	土曜日の教育活動		●	総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 22人	学習支援 無	開始年度 27年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	コミュニティ・スクール			指定日			委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯
新庄村は、「新庄っ子「宝」憲章」（平成14年）を制定している村であり、条例には「歴史と文化と、美しい自然に恵まれた新庄を誇りにもち」とある。新庄小学校、中学校においては、授業や総合的な学習の時間において、「新庄村を愛する子供の育成」に力を入れてきたが、単発的であった学習をさらに深めるため、平成27年度は「新庄小中学校ふるさと学習」として、学期毎の活動を明確にし、年間の学習を継続性のあるものとして実施した。そして、ふるさと学習には、多くの村民ボランティアの力が必要なことから、地域コーディネーターが学校と地域を結び付け、さらに、学んだことを学校から地域に発信することができた。また、地域教育協議会により地域と学校が目指すビジョンの共有を図り、活動に生かしている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「傘踊りを学ぼう」

- 新庄小学校5・6年生が新庄村傘踊り保存会の方から傘踊りを教えてもらう。踊りだけでなく、いつから踊られているのか、歌詞の意味は何か、など子供の質問にも答えてもらい、傘踊りについての理解を深めている。
- 習った傘踊りは、4月の「がいせん桜まつり」、10月の「秋のがいせん桜まつり」で披露し、観光客に人気の演目となっている。
- 【チャレンジ米づくり・郷土の産業】
- 小学校全校児童で、田植えから稲刈り、脱穀を経て、「ひめのもちづくり」までの年間通じた学習を行っている。
- 学習内容を劇にまとめて学習発表会で発表したり、作った「ひめのもち」をボランティアの方や高齢者の方に配ったりしている。
- 【地域資源を活用した土曜日教室】
- ふる里を知り、ふる里を愛する子供を育成するため、新庄村の豊かな自然、歴史、人々の営みを教材化し児童生徒に学びの場としている。京山公民館、京山ESD推進協議会との共催ということもあり旭川の上流域・下流域の交流にもなっている。

【実施に当たっての工夫】

「傘踊りを学ぼう」

- 新庄村傘踊り保存会の高齢化が進み、ボランティアから継続した傘踊り指導に対する不安が持ち上がったことがある。その解決方法として、初回指導（4月）の補助を中学1年生にお願いしている。新しい制服を着た中学生は恥ずかしそうにしながらも、児童へ指導する姿は頼もしい。いずれは、傘踊り保存会の会員として、後輩の指導を担ってくれるものと期待している。
- 【チャレンジ米づくり、郷土の産業】
- 米づくりでは、どうして新庄のお米が美味しいのか、ハデ干しをするのは何故なのかと、その意味を考え、水を大切にすることが自然を利用した農業について、それぞれが関係していることを学んで欲しいと考えている。
- ボランティアは農業のプロばかりで、「おじいちゃん、おばあちゃんすごい」と言われることは、ボランティアの励みとなっている。

● 事業を実施しての効果・成果

新庄小学校、中学校でふるさと学習に力を入れることで、子供が地域に愛着を持ち、理解を深めることが出来ている。また、子供の姿勢や素直な驚きが、支援してくれているボランティアへの励みとなり、地域を元気にしてくれている。

「ふるさと学習」についていえば、空白の世代ともいえる30代～40代が、児童生徒の親世代と重なっている。学習発表会などで子供が新庄村について学んだことを劇や壁新聞で発信してくれたことにより、「子供から新庄を教えてもらいました」と話す保護者もいた。地域に伝わってきたことを途切れることなく、次世代へとつなげる取組として、今後も行っていきたい。

● その他

放課後子供教室では、プリント学習で個別に学習支援を行い、子供の様子を適宜学校と情報交換している。



「傘踊りを学ぼう」



「チャレンジ米作り、郷土の産業」

こんな活動です

地域が子供を元気にし、元気な子供が地域を活性化する!

岡山県玉野市

活動名

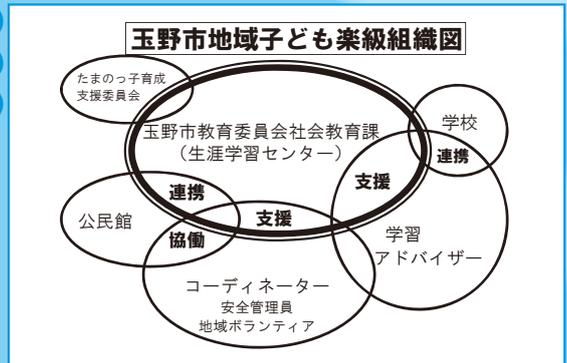
玉野市地域子ども楽級

関係する学校名

市内全小学校 (14校)

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	25人	20人	1482日	15年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		市内各小学校・各公民館等		有	一体型					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯

- 地域で子供を育てる体制を構築し、学校・家庭・地域の教育力の向上を図る。地域の協力を得ることで、豊かな体験活動や交流活動を通じ、心豊かでたくましい子供、地域に誇りをもつ子供を育てることを目的としている。また、子供の学習への興味・関心を高めるために、算数の基礎基本の習得のための支援を行っている。
- 本事業は、平成15年度に11楽級からスタートし、平成16年度から委託事業に、平成19年度からは国の補助事業になり、市内全小学校14楽級での開級となった。平成22年度からは、算数の復習や基礎・基本の習得の学習支援を行うおさらい会を全小学校区で開催している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 子ども楽級
 - ・休業日や放課後等に子供たちが自主的に参加し、公民館や小学校等を利用し、自然体験やスポーツ、伝統文化継承活動、世代間交流など地域に根ざした活動を行っている。
 - ・コーディネーターの他に子供が安全で安心して活動できるように、地域住民や社会教育団体員を安全管理員として配置している。
- おさらい会
 - ・毎月1～2回程度、希望する小学3年生を対象に、放課後、余裕教室で算数の基礎基本習得の学習支援を行っている。
 - ・地域の住民等を学習アドバイザーとして1おさらい会につき数名配置し、その内まとめ役となる代表アドバイザーを委嘱している。

【実施に当たっての工夫】

- 各公民館が各楽級の事務局となり、コーディネーターと連携・協働して地域ぐるみで運営する。
- おさらい会では退職教員等を代表アドバイザーとして配置し、学校との連絡・調整、学習アドバイザーとの指導内容等の確認を行うことにより、支援の充実を図る。
- 年3回の公民館長・コーディネーター連絡会、年2回の代表アドバイザー連絡会を実施し、研修や情報交換を行うとともに、人材や機材を有効に活用して運営の充実を図る。
- 学校関係者、協力団体関係者、行政関係者等で構成する「たまのっ子育成支援委員会」を設置し、活動プログラムの企画、事業実施後の検証・評価等を年2回の委員会で検討、共通理解を図り、各楽級での具体的な方針に生かしている。
- 子供、保護者、関係者にアンケートを継続的に行い、結果を検証することにより、次年度からの事業実施に生かす。

● 事業を実施しての効果・成果

- 子ども楽級については、事業実施から13年が経過し、放課後や休業日の子供の居場所づくりだけでなく、地域とのつながりをおして、子供が学校や家庭だけではできない様々な体験活動を行うことができた。
- おさらい会については、毎年在籍児童数の60%を超える子供が登録している。アンケート結果から、「算数が好きになった・分かるようになった」という回答が多く、基礎基本の習得の一助となっている。
- 指導者（コーディネーター、安全管理員、アドバイザー）を地域住民が担い、子供を核とした活動に参加することにより、地域の子供は地域で育てる気運の醸成や、地域住民の絆づくり、生きがいにつながっている。

● その他

おさらい会…月2回程度、原則、平日の放課後に希望する小学3年生を対象に、算数の基礎基本習得の学習支援を行う。



寒さに負けるな！運動遊び



おさらい会

こんな活動です

地域活性化にも寄与！学校・地域が連携・協働し子供の育ちを支援

岡山県備前市

活動名

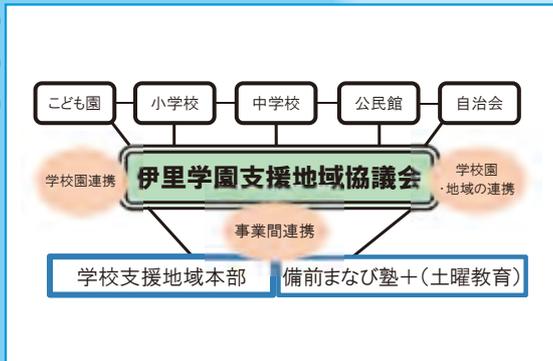
伊里学園支援地域協議会

関係する学校名

伊里認定こども園、伊里小学校、伊里中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	2人	70人	有	23年度	有	無	有
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	0人	1人	30人	有	25年度	有	有	有	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
 当該地域では、1990年代に幼児期から高校卒業までの子供の育ちを支援するため「伊里学園連絡協議会」が組織され、保幼小中高と公民館、自治組織との連携・協働による支援活動を行ってきた。県立高校移転後、学校支援地域本部事業の導入に伴い現名称に変更し、活動が継続されている。当該組織は子供の学習支援、見守り活動、家庭教育支援など多岐にわたる地域人材活用による教育支援活動や学校園間の連携・協働による合同避難訓練実施、公民館で実施される「備前まなび塾+」（土曜教育支援事業）での人材交流など、地域の教育と人づくりのコアとなり機能している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

学校支援地域本部では、授業支援・環境整備支援・登下校見守り支援だけでなく、「赤ちゃん登校日」等の家庭教育支援にも支援の幅を広げ幅広い支援を行っている。また、中学校内には学校評議員や公民館長等を含むシニアスクールの組織「ふれあい学級」が設置され、児童・生徒の学習支援や学校と地域人材をつなぐコーディネート活動、また学級生が中学生と共に授業を受けたり、グロスターティーチャーとして授業に参加したりするなど、双方向の活動を行っている。また、公民館と学校園が連携・協働し、公民館や自治組織主催の地区文化祭や体育会に小中学生が参画する一方で、学校園の行事に公民館や公民館で活動する地域住民が参画するなど、ここでも双方向の活動が恒常的に行われている。

こうした活動に大きく寄与しているのが伊里学園支援地域協議会とその参画メンバーである。15年間を見通した子供の育ちを支援することを目的に設置され運営を続けてきた組織であるが、継続的な活動を通じ、地域の人と人がつながり、地域の活性化にも大きな役割を果たしている。

【実施に当たっての工夫】

協議会に参画する各主体の代表者が総会や理事会・役員会などの定例的な会議で、子供や地域の目指す姿や年間の活動方針等を共通理解した上で活動を実施している。個々の活動については、学校の地域連携担当教職員、公民館長、学校支援地域本部コーディネーターが中心となって連絡・相談・調整を行い実施に至っている。

● 事業を実施しての効果・成果

学校園と公民館・自治会等とそれぞれの行事へ相互乗り入れ等連携・協力することにより、少子高齢化による参加者不足を補うだけでなく、年齢を超えたつながりが生まれ、相互に顔のわかる安全・安心な地域づくりにも効果が見られる。

また、学校園行事の連携・協働や共同開催により、子供たちの異年齢の交流も生まれ、今後導入を予定している小中一貫教育にも効果が期待されている。

● その他

地域の民生委員や「NPO法人子どもたちの環境を考えるひこうせん」と連携・協働して、地域の乳幼児をもつ保護者と乳幼児を招いた「赤ちゃん登校日」を実施している。



地区体育会には中学生が係員として活躍



週末は「備前まなび塾+」で地域の方が小中学生に学習支援

こんな活動です

まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト ～ まちぐるみで子供の健やかな成長を図る! ～

広島県広島市

活動名

広島市立二葉中学校 学校協力者会議

関係する学校名

二葉中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	60人	有	24年度	有	無	無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	0人	84人	24年度	有	無	無
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
	市内各小学校・各公民館等		有	一体型					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



本事業は、学校評議員制度の類似制度として、本市が全市立学校に設置している学校協力者会議に委託して実施している。

活動の概要・経緯
本校は、学校・家庭・地域の連携・協働をより一層充実させるため、平成24年度より、広島市が実施する「まちぐるみ『教育の絆』プロジェクト事業」の指定を受け、「家庭・地域による教育支援活動」及び「学校による地域貢献活動」を実施し、家庭・地域と協力して子供の健やかな育成を図る取組を行なっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 1 家庭・地域による教育支援活動
地域の方等を学習支援者として毎週1回の定期的な放課後学習会や夏季休業中の学習会等を実施している。
- 2 学校による地域貢献活動
中学生が家庭・地域と連携・協働して地域清掃活動（クリーンマイタウン二葉）、地域緑化活動、地域行事でのボランティア活動等を実施している。

【実施に当たっての工夫】

- ・学校協力者会議に配置したコーディネーターが、学校と家庭・地域の連絡・調整を行うとともに、各活動の企画・運営を行なっている。
- ・学習会では、参加生徒にアンケートを実施し、その感想・意見を学習会に反映するとともに、学習支援者がミーティングを行い、よりよい学習会の在り方や個々の生徒への学習支援方法等を協議している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 1 家庭・地域による教育支援活動
学習会で、一人一人に寄り添った学習支援を行なうことで、生徒の学習意欲や学力が向上するとともに、学習習慣が定着しつつある。
- 2 学校による地域貢献活動
保護者や地域の方から褒められたり、感謝されたりする体験を通して、生徒の自尊感情が高まっている。

● その他

<学習支援について>

毎週木曜日と定期テスト期間等に放課後学習会を実施しており、全校生徒の約半数が、教員が作成したワークシートによるドリル学習や、各自が持参した問題集等による自主学習に取り組んでいる。
生徒と学習支援者が問題を一緒に考えたり、生徒同士が教え合ったりすることで、生徒は、「気軽にサポーターの先生に聞くことができるので、分からないところが少なくなった。次回も参加したいと思った。」「友達みんなが教えてくれてうれしかった。」「学校で1時間勉強でき、家での勉強時間も増えたのでよかった。」など、分かる喜びを実感し、学習意欲や学力が向上するとともに、学習習慣の定着が図られている。



地域の方等を学習支援者とした放課後学習会



地域清掃活動（クリーンマイタウン二葉）

こんな活動です

2つのコミュニティと3つの学校が連携・協働し地域全体で子供を育てる取組

広島県廿日市市

活動名

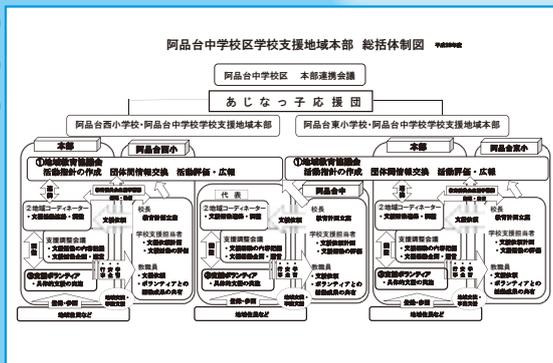
阿品台中学校区学校支援地域本部
阿品台東小学校・阿品台中学校学校支援地域本部
阿品台西小学校・阿品台中学校学校支援地域本部

関係する学校名

阿品台東小学校、阿品台西小学校、阿品台中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	15人	131人	有	24年度	無	0	0
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	18人	38日	27年度	無	0	有
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	0人	1人	18人	38日	27年度	無	0	有	
	実施場所		学習支援	連携なし					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	0人	1人	18人	有	27年度	無	0	有	
コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



平成24年9月、子供たちのための地域の応援団活動としての、学校支援地域本部設立に向けた話し合いが行われた。その後数回にわたる会合を経て、両小学校に中学校が連携する形で平成25年2月7日に「阿品台東小学校・阿品台中学校学校支援地域本部」及び「阿品台西小学校・阿品台中学校学校支援地域本部」の2本部が設立された。校区・コミュニティの地域割が異なる中、中学校1校、小学校2校の連携・協働を重視して組織され、その後約3年半にわたり地域と学校の着実な協力体制により支援活動が行われており、地域の子供は地域でも育てるという思いを具現化した活動となっている。あわせて平成26年11月より阿品台東小学校・阿品台中学校学校支援地域本部の支援活動として木曜塾（放課後子供教室）が開設され、成果をあげている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 東西各コミュニティが主体となった2つの本部が、小学校への支援からスタートし、その活動を中学校へ拡充し、両本部が合同で中学校の支援も行い、中学校区としての活動に取り組んでいる。
- 学習支援
 - ・国語（書写）、算数（計算）、音楽（リコーダー演奏）、図画・工作（カッター、彫刻等の使い方）、家庭科（調理実習、手縫い、ミシン縫い）等の作業を伴う学習の支援、読み聞かせ
 - ・生活科（どんぶりゴマづくり、昔あそび）、総合（安全マップづくり）、校外学習等体験的な学習の支援
 - ・部活動の支援
- 放課後、長期休業中の支援
 - ・木曜塾（阿品台東小）… 宿題や学習プリントを中心とした補充学習の支援を市民センターにおいて、毎週、木曜日の放課後に行っている。
 - ・阿品っ子教室、宿題やりきり教室（阿品台西小）… 土曜日や長期休業中に市民センターにおいて実施し、放課後の居場所づくりに取り組んでいる。
 - ・補充学習（阿品台中）… 教科別グループによる補習
- 環境整備
 - ・AC活動の支援（3校合同の地域のクリーン作戦）

【実施に当たっての工夫】

- 組織体制の工夫
 - 2つのコミュニティと校種、規模、実態の異なる3校が「連携」と「個別化」を大事にし、機能的な運営を行うための体制づくりを進めた。
- 実働するための会議の工夫
 - 各本部の会議の実施とともに、中学校にも代表者をおき、中学校への支援に関する会議を行うことで、児童・生徒の実態に応じた支援が行われている。また、両本部会長が支援者として中学校で活動することで、情報の共有化を図ることに努めている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 本年度より、中学校の支援体制を整え新たな体制となり、小・中を通じて、学習支援者が関わることにより、子供たちにとって、安心した学校生活となっている。また、小・中のどちらにも関わる支援者がいることから、支援の一貫性も図られている。さらに、支援者との関わりや言葉から、ものの考え方や価値を学ぶ経験もできている。
- 中学校区として一体となった活動に取り組むことにより、コミュニティがそれぞれ培ってきた地域力が融合し、地域全体のまちづくりに資する活動となってきている。



書写の学習支援



ふれあいルームで、支援の振り返り

こんな活動です

児童生徒が安心安全な学校生活を送るための地域ボランティアによる支援

広島県北広島町

活動名

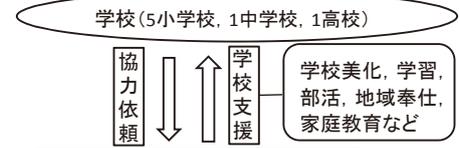
千代田地域学校支援連絡協議会

関係する学校名

川迫小学校・八重東小学校・本地小学校・壬生小学校・八重小学校・千代田中学校・千代田高校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	1人	6人	218人	有	20年度	無	無	無
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



千代田地域学校支援連絡協議会

構成団体等
千代田ブロック校長会【千代田ブロック研究会】・千代田ブロックPTA 連合会・青少年育成推進協議会（千代田支部）、学校支援コーディネーター、ブロック内地域振興会、公衆衛生推進協議会千代田支部他、趣旨に賛同する団体及び個人

活動の概要・経緯
中学校を中心に生徒指導上の問題が多発する千代田地域の学校実態を変えるため、平成20年度から22年度に実施した文部科学省委託事業（学校支援地域本部事業）を契機に、23年度以降は支援体制を整えるためにボランティア団体「千代田地域学校支援連絡協議会」を組織し、保護者・地域を巻き込んだ地域全体で学校を支援し、児童生徒が安心して学校に通え、本来の学校教育活動に専念できる学校を目指して日常的な支援活動や事業（一斉清掃活動、講演会等）を継続・実施してきた。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

本協議会の活動は、大きくは以下の6事業である。

①小中高校7校の児童生徒とともに地域ボランティアで実施する、今年度で8回目となる「一斉ボランティア清掃」、②生徒指導上の課題克服に向け、地域・家庭・学校の担う役割を明確にし共通の認識で取り組むことを目的にはじめた「ともに千代田っ子を育てる会」（6回実施、現在は「千代田っ子フェスティバル」として2回実施）、③各学校への支援活動として、諸行事への参加・支援、学校環境整備活動、教科・総合的な学習の時間、特別活動等でのゲストティーチャー、④「赤い羽根ESD支援プロジェクト」の支援・推進、⑤情報交換会・研修会を開催し、意識・取組の共有化、実効ある連携等について町教育委員会、各学校、地域・青少年育成協議会の代表が意見交換する、⑥各小学校児童の登下校の見守り活動、中学校生徒への挨拶運動等の実施。

【実施に当たっての工夫】

活動に当たっては本協議会のスローガン「家庭で育て 地域で鍛え 学校で磨く」の入った幟旗（各学校3本ずつ所有）を立てて、雰囲気の高揚を図っている。また、スタッフ用のベストも作成し自覚と責任を促している。上記で挙げた活動のうち②の事業は、当初は組織の強化、地域・保護者啓発に重きを置き、大学教授による子育て講演会、地域・保護者・学校関係者によるパネルディスカッションなどを行っていたが、各学校の代表児童生徒による「主張」の内容に加え、一昨年度からは、学校間の連携・協働、学校と地域の連携・協働を更に深めるために「千代田っ子フェスティバル」とイベント名を変え、児童会や生徒会も企画に関わり、各学校の児童生徒が自校の取組を様々な形で千代田地域全体に発表し、最後に参加者全員で合唱するなど、地域の状況や児童生徒の状況に対応した内容へと変えていくよう工夫しながら取り組んでいる。

● 事業を実施しての効果・成果

協議会の活動は成果をみせ、学校を支援する地域の結びつきは強まり、学校支援サポーターとしての地域の支援は、充実した学校運営、また児童生徒の学力向上、生活力向上に大きな力を発揮している。地域と学校、地域とPTA、地域と児童生徒、学校間の関係が密になることで「地域ぐるみで子供たちを育てる」理念が浸透し取組の輪が広がることにより、児童生徒は安定した学校生活を送ることができ、千代田地域の課題であった多発していた生徒指導事案は激減し、学力・運動能力も大きく向上してきた。

● その他

次のとおり様々な学習支援を受けている。

読み聞かせ・図書室のポップづくり・花田植え・太鼓・花笠踊り・昔遊び・大豆等野菜や米づくり
地域の仕事見学・職業学習：例えば石材店・警察・薬剤師・看護師など



一斉ボランティア清掃活動



千代田っ子フェスティバル

学校、家庭、地元が一体となって、子供の育ちを応援

広島県庄原市

活動名

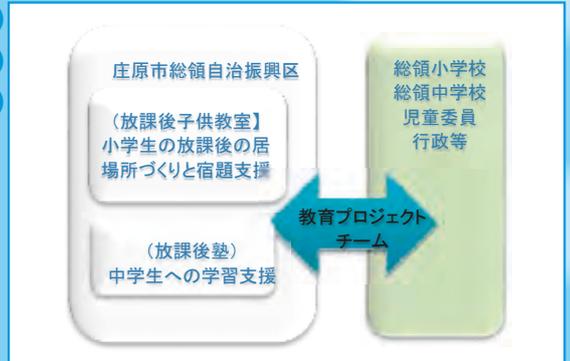
総領自治振興区子供事業（教育プロジェクト事業）

関係する学校名

総領中学校・総領小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	11.3人	225日	26年度	無	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		庄原市総領自治振興センター		有	連携なし					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯

総領小学校区では、保護者が昼間家庭にいない児童を対象に放課後児童クラブを開設していたが、利用児童の減少により、平成26年度、全小学生を対象に「放課後子供教室」へ移行した。

それに伴い、市から子供教室の運営を受託した総領自治振興区が教育プロジェクトを立ち上げ、小学生対象のそろばん教室や、地元で学習塾が無いため、中学生の進学を目的とした学習支援事業である「放課後塾」も実施した。

当初は個別に学校と連携・協働していたが、平成27年度に協議会を設立し地域と小中学校が連携・協働して事業を展開している。

また、安心安全な活動拠点となるよう緊急対応マニュアルの作成や避難訓練を実施しており、さらに、一日の時間割を定め、活動の最後には清掃活動を設けて参加児童の規範意識を高める取組を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 放課後子供教室
地域の老人会等とも連携・協働をしながら、伝統食講座などの体験活動の提供や、高齢者との交流会などを実施している。平和学習として、放課後子供教室で平和メッセージを作成し地域住民を招いた交流会で発表したり、戦争体験者の詩の朗読を聞き、意見交換等を行っている。
また、長期休業中は地元の大学生や高校生がボランティアとして参加し、一緒にプログラムを行ったり、勉強を教えたりしている。
- 放課後塾
中学生を対象に、進学を目的とした英語・数学の学習支援、夏期講習による理科・社会の学習支援、英検クラスを実施。
- 家庭教育支援として保護者対象にスマホ対応などの研修会や、学校と連携・協働して地域住民全員を対象とした小中学生への期待と大人の支援に関する教育講演会を実施。
- 高齢者より伝承された「とうろう菓子」や地域の歴史については、地元の観光イベント「節分草祭り」で展示したり、観光ガイドをすることにより成果発表している。

【実施に当たっての工夫】

- 活動内容
地域の有資格者による体操教室・そろばん教室を始め、退職教員による学習塾や、高齢者による戦争体験談を聞くなど、地域の教育力を生かした活動を実施している。
学習塾ではNPO法人とも連携・協働し、夏季講習の充実を図るとともに、貧困対策として要保護・準要保護の保護者世帯は無料とする。
- 運営体制
毎学期に1回、保護者、学校、講師、コーディネーター等による連絡調整会議を開き、関係者の連携・協働を深め、円滑に事業を実施している。また、活動日誌を作成し、ボランティア間で情報共有している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 住民参加による事業実施による地域の教育力の向上
- 放課後塾参加生徒の成績向上。中には、顕著に成績の向上が見られた者もある。
- 教育プロジェクトチームの設立による包括的な事業展開

● その他

【連携企業・NPO】

みよし子育て・学び支援 あすなる

【学習支援内容】

- 中学生対象の学習支援（放課後塾）
 - 開設日時：毎週水・木・金曜日に1時間程度／指導者：退職教諭（ボランティア）／開設場所：総領自治振興センター／
教科：英語・数学
 - 開設日時：夏期講習として8月中旬の3日間に4時間／指導者：NPO みよし子育て・学び支援 あすなる／
総領自治振興センター／教科：社会・理科
- 小学生対象の学習支援内容
 - 学習支援（毎日）：教育サポーターによる宿題の指導
 - 体操教室（月1回）：有資格の地元住民（ボランティア）
 - そろばん教室（月2回）：有資格の地元住民（ボランティア）



放課後塾



高齢者との交流

地域ぐるみで子供を見守り育てる「あったかネット」

山口県岩国市

活動名

地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成～あったかネットの取組～

関係する学校名

岩国市立川下中学校 川下小学校 愛宕小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 100人	学習支援 有	開始年度 25年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日 平成25年6月25日					委員数 11人	児童生徒数 489人	学級数 19学級

体制図



活動の概要・経緯
川下中学校区地域協育ネット協議会（あったかネット）は平成25年度に設立され、中学校の学校運営協議会を核に小学校関係者、自治会、社会福祉協議会、商工会、学識経験者等で組織して地域ぐるみの活動を展開している。本協議会には、「知」「徳」「体」の三つのプロジェクト部会を設けて、機能的な運営に努めている。「知」のプロジェクトでは、地域を知り地域で学ぶ取組を、「徳」のプロジェクトは、地域に貢献し、豊かな心を育む取組を、「体」のプロジェクトは、安心・安全な地域をつくり、健やかに育つ取組を実施している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・地域マップづくり（地域を知り、地域で学ぶ活動）、校区内クリーン作戦（地域に貢献し、豊かな心を育む活動）、地域あいさつ運動（安心・安全な地域をつくり、健やかに育つための活動）など、児童生徒が、保護者や地域の方々と一緒に活動することを重視した取組となっている。
- ・従来より行われてきた地域行事が「あったかネット」との連携・協働により、地域の課題解決に結びつく一助となる活動へと高まり、学校と地域にWin-Winの関係が構築されてきた。

【実施に当たっての工夫】

地域の実態を踏まえながら、多くの地域住民やボランティアの参画を得るための活動を企画していることや地域への周知を図るため、ネットの通称やイメージキャラクター「ほっとちゃん」を選定し、幟旗、卓上旗、着ぐるみ製作などを行い、PR活動にも力を入れるなどの工夫が見受けられる。また、校内にコミュニティルームを設置し、協議会や地域団体の会議の場として開放するとともに、会議終了後には、授業の様子を参観していただく機会を設ける工夫をしている。さらに、地域への情報発信として「ほっとちゃん通信」の発行（全世帯配付）や「あったかネットHP」（3校の学校ホームページよりリンク）を開設している。

● 事業を実施しての効果・成果

児童生徒の感想に「自分が住んでいる地域にもいっぱい魅力があった。」「いつも見守ってくれている地域の方に感謝したい。」など、地域とのつながりを意識したものが多く見受けられるようになった。また、地域の方々との交流の場が増えたことにより、大人から声を掛けってもらったり感謝されたりする機会も多くなり、子供たちの自己有用感や自己指導能力を高めることができている。

また、地域協育ネット協議会の場で、家庭との連携・協働を強めることを考えていきたい旨の意見が、地域からも出されるなど、学校支援の気運が更に高まってきている。

● その他

○学習支援

中学校では、夏季休業中に補充学習「川下塾」を実施し、地域住民、中学校の卒業生、小学校教員、保護者、大学生、高校生等が指導に当たっている。また、各小学校においても同様の学習会（指導者は教員や中学生等）、読み聞かせや授業時における学習支援が行われている。



地域あいさつ運動



避難訓練（津波想定）

こんな活動です

元気な学校、活力ある地域づくり ～ 地域貢献の充実 ～

山口県宇部市

活動名

上宇部中学校
学校運営協議会

関係する学校名

宇部市立上宇部中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日 平成 26 年 4 月 1 日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要
平成 24 年度に文部科学省からコミュニティ・スクールの研究指定を受け、設置に向けて 2 年間の研究に取り組んできた。
平成 26 年度より学校運営協議会が設置され、地域・保護者との Win-Win の関係づくりに取り組んでいる。
平成 27 年度は、学校運営協議会を 4 回開催し、教育目標や経営方針、学校評価、地域・保護者との連携・協働について話し合った。
また、小・中合同の学校運営協議会（夢たまごネット協議会）を年 3 回開催し、「学習支援」、「健康安全」、「環境美化」、「地域連携」の 4 つの部会に分かれ、共通テーマである「地域を愛し、地域に愛される児童・生徒の育成」に向けた取組事項について協議した。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

上宇部中学校では、「地域を愛する子供の育成」という観点から、地域貢献に力を入れている。
地域の運動会や文化祭、夏祭りなどに生徒が運営ボランティアとして準備や片付けなど地域の方と一緒に活動しているほか、月 1 回の部活動単位による地域の清掃活動を行っている。
また、地域の老人施設での交流会には、吹奏楽部、茶道部、家庭科部、放送部が参加し、地域と連携・協働した活動を行った。
昨年 12 月には、地域のふれあいセンターが主催する「元気まちづくり in かみうべ！」の研修に中学生が地域の方とともに参加し、中学生ならではの発想でまちづくりについて意見交換を行った。

【実施に当たっての工夫】

地域のふれあいセンターや各団体との連携・協働を強化し、地域主催行事の準備や運営、人材の発掘等についての情報交換を密に行った。
また、部活動単位での地域清掃活動では、毎月清掃活動期間を設け、各部が取り組みやすい日程を組んで実施するなど、部活動の顧問が先頭を立て活動の推進をしている。
さらに、来校者を増やす仕掛けの一つとして、ふれあいセンターが中心となって実施している生涯学習講座「上宇部学び舎・まなびーや」への中学生の参加、教職員の講師引き受け、会場の提供等により地域の方が学校に来やすい環境づくりに取り組んでいる。

● 事業を実施しての効果・成果

地域の方との関わりの中で、あいさつや言葉遣い等の生活習慣が大きく改善され、地域の方から褒められる場面も多くなり、生徒の自己有用感がかなり高まった。
「まちづくり」研修では、参加した生徒一人ひとりが地域の課題や今後の在り方について改めて考え、地域づくりに積極的に関わろうとする姿勢が見られるようになった。
地域行事の準備・運営等、清掃活動に参加する生徒が増え、地域の方から感謝の声が多く聞かれるようになった。それが様々な面で生徒の意欲向上につながっている。
生徒の地域における活動が、住民による地域活動の活性化を促すなど、学校と地域の Win-Win の関係づくりが進んでいる。



校区夏祭り運営ボランティア



「元気まちづくり in かみうべ！」

こんな活動です

「行きたくなる学校」に! ～学校・家庭・地域が一体となって育む柳東っ子～

山口県柳井市

活動名

「行きたくなる学校づくり」をめざしたコミュニティ・スクールの活動

関係する学校名

柳井市立柳東小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 50人	学習支援 有	開始年度 20年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
	地域未来塾	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 50人	子供の平均参加人数 有	開始年度 20年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 20人	年間開催日数 10日	開始年度 27年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		コミュニティ・ルーム、図書室		有	一体型					
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 20人	学習支援 有	開始年度 27年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
コミュニティ・スクール	指定日 平成20年4月1日					委員数 12人	児童生徒数 225人	学級数 10学級		

体制図



活動の概要
以前から地域課題としていた「地域のネットワークづくり」に取り組むため、平成27年度より、学校運営協議会の委員の見直しを図った。これにより、「学校・家庭・地域のネットワークづくり」を効果的かつ協働的に行うことが可能となった。従来の学校を支える「応援団」としてのさまざまな組織・団体を、コミュニティ・スクールの枠組みで再構築していくことによって、学校を中心とした地域づくりと学校応援団の自然な広がりが見られるようになってきている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

いつでも、だれでも自由に学校を訪れ、授業参観することができる「学校の自由参観」が、「学校運営協議会」主催で行われている。これは、「学校を内部から知ってもらうこと」、「児童のさまざまな顔を知ってもらうこと」、「教職員と地域住民がお互いの顔を知ること」を、家庭と地域と学校が連携・協働していく第一歩としようとする共通認識からである。来校を促すきっかけとして、外国語活動のある日を回覧で知らせていくことから始め、地域住民が来校しやすい「具体的な情報提供」を重視した。

学校と地域とが、地域全体のネットワークの中で個々の活動の意義やねらいを練り合い、連携・協働した活動を仕組むことで、個々のベクトルを「地域を揺り動かす原動力」として束ねることができる。その一つとして行っているのが、地域の文化会館、保育園、高齢者施設と同日開催の行事「はれるんフェスティバル」である。これによって、校区を中心とした地域の人の流れと交流・つながりを生み出し、地域活性化を図ることはもとより、これからの地域課題解決への原動力となる地域全体の教育力の向上をねらっている。

【実施に当たっての工夫】

「各団体の中心となる人と人をつなぐネットワークづくり」を最重要視し、学校運営協議会の委員を一新して、学校に関わる各種団体の長・委員をメンバーとした。これによって、機動性と即効性に富んだ活動が可能となった。学校運営協議会委員は、「柳東芝生の会」、「学校支援ボランティアコーディネーター」等の学校支援団体の責任者でもある。即ち、学校運営協議会が、「学校応援団の協議の場」ともなっている。協議会は、年間6～7回行われ、地域への依頼や情報提供は、学校長名ではなく、柳東小学校学校運営協議会名で自治会回覧に掲載される。幅広い立場の人と人をつなぐことが、地域の活性化を促す重要な要素となると考える。

● 事業を実施しての効果・成果

来校者が増加したことが一番の成果である。これは、保護者に加え、地域住民の来校者が増えたことによる。今でも、「本当にいつでも学校に行ってもよいのか。」という地域からの問合わせもあるが、これは、地域住民が学校というものを「地域の大切な存在」として捉えている証拠であり、今ではその問いに地域住民自らが誘い合せて来校するという形で応えてくれている。子供を核として、年代を問わず同じ場で交流することのできるネットワークづくりが推進されていることは、今後、地域が高齢世代と若い子育て世代とで二分する中、互いの自己肯定感を高め合える存在として尊重し合える地域風土の醸成へとつながると考える。

● その他

平成27年度より、ボランティア団体「花育の会」及び地域住民による「放課後はれるん教室」を月に2回開催。主に1年生と5年生（両学年とも自主参加）を対象とし、学習指導及び学習支援を実施。内容は、プリントを用いた繰り返し学習による基礎学力の定着、学校の授業で理解が十分でない内容の復習、読み聞かせや素読・暗唱による豊かな心の育成を主としている。1年生児童については、児童クラブに在籍している児童も多く、児童クラブ指導員とも連携・協働を密にして実施している。



芝生の上でみんなで食べるお弁当



ゲストティーチャーによる「ひょうたんづくり」

地域の宝である子供を育む地域ぐるみの学校支援活動

徳島県阿南市

活動名

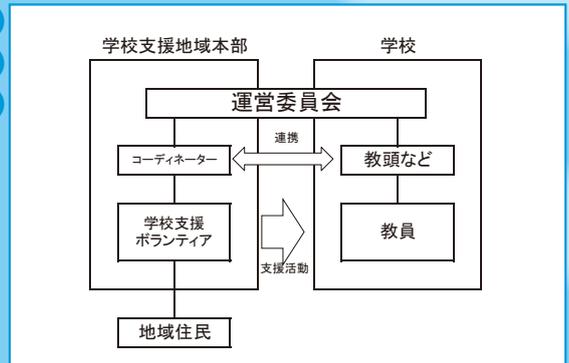
阿南第一中学校区学校支援地域本部

関係する学校名

阿南第一中学校・長生小学校・宝田小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 131人	学習支援 有	開始年度 21年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動の概要・経緯

- 子供を取り巻く社会環境は大きく変化し、学校が抱える課題は複雑化・困難化している。また、地域の教育力の低下や家庭教育の充実の必要性が指摘されており、教員のみならず社会総掛かりで対応することが求められている。平成21年に阿南第一中学校区学校支援地域本部を立ち上げ、地域の教育力の向上をめざし様々な支援活動を続けており、阿南第一中学校、長生小学校、宝田小学校の3校が支援を受けている。地域の方々は学校教育に対して大変協力的で、学校支援ボランティア登録者は131人で活動の大きな原動力となっている。また、学校支援地域本部運営委員会委員は7名であり、PTA役員、コーディネーター、社会教育団体メンバー、学校長により組織されている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 阿南第一中学校区学校支援地域本部では、地域住民の参画により地元へ根ざした特色のある活動が行われている。絵本の読み聞かせや花・野菜の栽培指導、環境学習・防災学習などでの学習支援、交通安全教室の企画運営やふるさとのおよさを伝える「ふるさと発見ウォーク」でのポイントの設置やお接待、阿波踊り指導など学校行事の際のお手伝いが挙げられる。また、樹木の剪定・草刈りなどの環境整備活動も熱心に行っており、特に200日に及ぶ登下校時の通学路の安全指導の実施は、子供の安全安心な学校環境づくりに大いに貢献いただいている。
- 中学校では、適切なアドバイスによる「健やかな体」「豊かな心」育成のための部活動支援が行われており、生徒や保護者からの信頼も厚く、全国大会出場など大きな成果をあげている。

【実施に当たっての工夫】

- 各学校からの要望を聞き、ニーズを明らかにした上ですぐに支援ボランティアを派遣している。
- 季節や時期に応じた支援活動を多方面にわたって計画実施しており、内容も非常に充実している。
- 様々な活動は学校だけでなくHP、公民館などで保護者や家庭に対して広報している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 地域の方々の温かな見守りの中で、多種多様な体験を提供することで、子供たちは元気に活動できている。
- 様々な世代のボランティアと活動することで、子供たちからは「私たちのためにいろいろと準備してくれてうれしかった」「これからも会ったらあいさつしようと思う」などの感想もあり、地域とのつながりを感じることができている。
- ボランティアの方々からは「子供たちが、真剣に話を聞いてくれたり喜んでくれたりするので、私たちのやりがいになる」と話されるなど、子供たちとふれあうことが楽しくて、励みや元気の素となっている。
- 学校側としても、地元へ根ざした温かな教育支援体制の構築が、豊かな学校教育の実践につながっていると大いに評価している。



絵本の読み聞かせ



交通安全教室

こんな活動です

地域の教育力を生かした「三好市楽しく学ぶ英語教室・絵画教室」

徳島県三好市

活動名

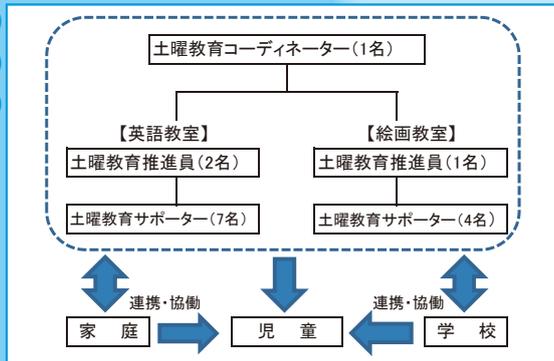
三好市楽しく学ぶ英語教室・絵画教室

関係する学校名

三好市内全小学校

学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所			学習支援	放課後児童クラブとの連携			
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	1人	45人	有	27年度	有	有	無
コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯

- 子供たちに多様な学習の機会を提供する土曜学習として二つの教室を開講している。英語教室は、小学3・4年生を対象としており、ALTが指導にあっている。英語に慣れ親しみコミュニケーション能力を養うとともに、関心を高め、積極的に英語を使おうとする態度を育成することを目的としている。絵画教室は、小学5・6年生を対象としており、元小学校長が指導にあっている。学校とは違った場所で絵画に親しみ、感性や発想力を育みながら、絵を描く喜びを少しでも多く味わってもらうことを目的としている。また、両教室とも多様な経験や豊富な知識・技能を持つ地域の方々の協力による活動支援を展開することで、地域全体での子供たちへの教育支援活動の推進を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 英語教室では、三好市ALTのネイティブスピーカーにより簡単な英会話を学んでいる。また、コミュニケーション力を育むために歌や手遊び・ゲーム・英語劇などの練習を通じて楽しみながら英語力を身につけたり、季節の行事やアメリカの歴史・文化・生活を英語で表現したりするなど、国際色豊かな活動を実施している。さらに音声や映像による英語の習得を目的としてICTを活用している。
- 絵画教室では、テーマに沿って静物画・人物画・風景画などを水彩画で描いている。3原色を混ぜて自然な色合いを出すこと、立体感を出すための明暗のつけ方、デッサンの練習など基本的なことについても学習している。制作活動に対して個人差があるため、指導者とボランティアが連携・協働を図りながら個々の能力を引き出す支援を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- 小学校での英語の教科化を見据えスムーズに移行できるように、英語教室の対象学年を小学校3・4年生としている。
- 両教室とも子供たちの学習意欲を引き出し、やり遂げたことへの達成感を感じ自信が持てるように様々な賞を設けている。
- 子供たちが楽しく活動に参加できるように、学校と連携・協働を取りながら年間計画の立案や打ち合わせを行っている。
- 子供たちの1年間の学習の成果を披露する合同発表会を年度末に企画し、多くの保護者が参加している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 子供たちの1年間の学習の成果を披露する場として、合同発表会を企画した。英語教室では、英語劇「桃太郎」と英語歌に挑戦した。絵画教室では、1年間取り組んだ個性豊かな作品を約60点展示することができた。
- 学校とは違った場所で活動でき、他の学校の友だちと交流できるため、子供たちは楽しく参加している。また、不登校気味の児童が活動に楽しく参加している様子も見受けられ、教室が友だちとふれあう場所となった。
- 子供たちにとっては、地域に対する理解が深まりボランティアへの関心が高まるきっかけとなった。また地域の方々にとっては、これまでの経験や培ってきた知識・技能を生かす場が広がることとなった。



(英語教室) アメリカの文化を学ぶ



(絵画教室) 人物画のデッサン

こんな活動です

学校・家庭・地域が連携・協働し、地域の宝である子供を育む学習支援活動

徳島県つるぎ町

活動名

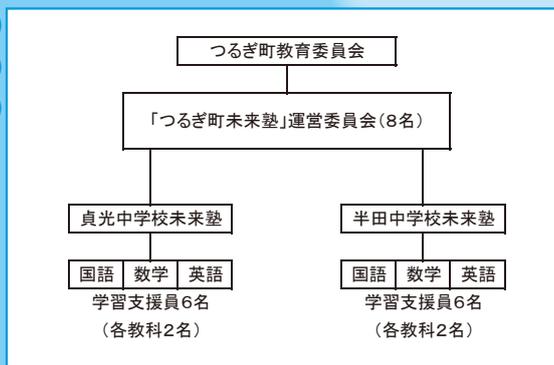
つるぎ町未来塾

関係する学校名

貞光中学校・半田中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 0人	学習支援 有	開始年度 27年度	国庫補助 有	ICT活用 有	企業・NPOとの連携 有
	地域未来塾	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 0人	子供の平均参加人数 78人	開始年度 27年度	国庫補助 有	ICT活用 有	企業・NPOとの連携 有
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動の概要・経緯

・中学生の学力の低下を防ぐには、学校の授業だけでなく家庭学習も充実させる必要があると考え、平成27年10月より「つるぎ町未来塾」を実施している。未来塾で補充学習を行い、家庭学習にありがちな「できない」「やらない」という問題の解消を図るとともに、個別指導を行うことで生徒個々に応じた解決策を見つけ、学習の効率を上げることを目的としている。平成27年度は、教員OB・大学院生などが中心となり学習支援を行った。平成28年度は、個別指導を充実させるために、民間教育事業者と連携・協働し、従来の学習支援員とともに各教科2名で学習支援を行っている。また、ICTを活用することで学習環境を豊かにし、学習支援を更に促進している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・民間教育事業者と提携することで、学習支援のポイントを明確にした。さらに、毎回行うチェックテストの結果・学習の進み具合・授業態度・出席状況などをまとめ、毎月学校と保護者に対して学習報告を行っている。保護者から学習支援の方法などについての要望も聞きながら、学習支援員で話し合い、生徒個々の実態に応じた方法で学習を進めている。
- ・ICTを学習に取り入れることで、自分で学習内容がどのくらい理解できたかを確認するとともに、既習内容の見直しができる。英語ではリスニングに活用し、正確な発音やアクセントを繰り返し学習でき、数学では空間図形の単元などで活用することで理解を深めることができる。

【実施に当たっての工夫】

- ・開催日が土曜日であるため、部活動に参加している生徒は欠席することがある。昨年度は、連絡なしでの休みが続いた場合のみ保護者に確認の連絡を入れていたが、今年度は、休みの連絡を義務付けたため連絡なしで休む生徒が少ない。
- ・町内で生徒や保護者に会った場合に積極的に言葉かけを行っている。未来塾への要望などが聞けたり、生徒の家庭での様子がうかがえたりして、生徒理解を深め未来塾での学習活動につなげるきっかけともなっている。
- ・学習支援や生徒への対応などについて話し合う、学習支援員会を定期的に開催している。意見を述べて話し合う中で、互いの考えを理解し合いながら学習方法のレベルアップを図ったり、生徒への対応などについて共通理解を図ったりしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・学習塾の先生が教えてくれるということで希望者が増え、多くの生徒が授業に真面目に取り組んでいる。授業態度が著しく悪い場合は、所属する中学校へ状況を報告するとともに、共通理解を図りながら対応している。
- ・学校と保護者に学習報告を行うことで、生徒各自の学習上の弱点がはっきりしてきた。今、何をすべきかについて生徒や保護者にデータをもとに伝えている。弱点克服について親子で考え、自分で克服するための努力をしている。また、学習報告を受け取る際に、少しでも成績がアップした報告を受け取りたいという思いで目標を掲げるなど、学習に対して意欲的に取り組もうとする生徒も出てきている。



つるぎ町未来塾・貞光教室



つるぎ町未来塾・半田教室

こんな活動です

子供や学校のために何かしたいという気持ちと学校のニーズをつなぐ活動

香川県高松市

活動名

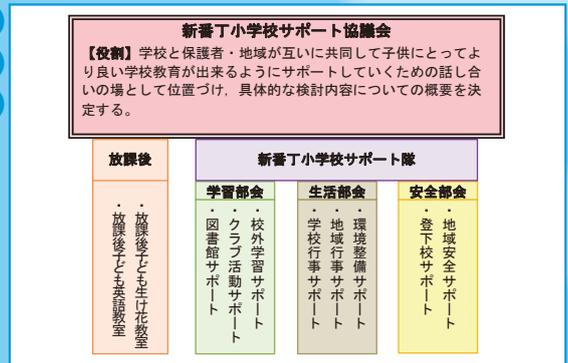
新番丁小学校サポート協議会

関係する学校名

新番丁小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 3人	地域コーディネーター数 24人	ボランティア登録数 102人	学習支援 有	開始年度 21年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 2人	子供の平均参加人数 18人	年間開催日数 16日	開始年度 27年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		高松市立新番丁小学校 多目的室、英語活動室		有	連携なし					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯
本校は、三つの小学校が統合して、平成22年4月に開校した学校である。統合前の「新しい学校づくり協議会」を母体に、平成21年10月に「新番丁小学校サポート協議会」が発足した。一つの小学校校区に三つのコミュニティがあるという状態からくる課題を克服し、地域の中の学校、地域に根ざす学校づくりをめざしていこうとするものであった。発足当初は3地区の住民や子供・保護者のふれあい交流活動を中心にして、旧校意識を転換し、新たな新番丁小学校の校風と歴史を築くことを目的とした。同時に、学校と保護者・地域が互いに手を取り、子供たちにとってより良い学校教育ができるよう学校支援体制を構築していった。それ以降、現在に至るまで活動を拡充・継続している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

本校は高松市の中心部に位置し、学習素材が豊富に存在する反面、自然とのふれあいや体づくりの点に課題がみられる。学校課題を受けてサポート協議会がサポート活動の企画立案・連絡調整等をする。例えば、地域に働きかけ「ホタル観賞の夕べ」や「花火大会」を開催したり、スポーツインストラクターを招聘して親子運動教室を開講したり、専門学校の実習とタイアップして、歯磨き指導や卒業記念DVD制作を行ったりしている。また、総合的な学習の時間「高松学習」では、訪問場所や説明人などについて学校の相談に応じ、地域の歴史・文化・伝統の継承と児童の学習をつないでいる。また、地域の老人会に依頼し、日々の登下校の見守り活動、昔遊び交流活動、昔の道具（七輪）の体験活動を実施している。

【実施に当たっての工夫】

サポート協議会のメンバーは、三つの地区の各種団体の代表、学校評議員、PTA代表、学校関係者で構成され、香川大学生涯学習教育研究センター長と高松市教育委員会担当指導主事がオブザーバーとして参加している。メンバーによる人的ネットワークの活用はもとより、ボランティアサポーターの募集を年度初めに保護者・地域の人に向けて行い人材バンクとして活用している。できる人が、できる時に、できることをするという基本コンセプトにして、サポート内容を自己申告で登録してもらっている。この取組で、広範に渡る人材発掘を可能にしている。サポート協議会の主体事業として、豊かな情操を養う放課後子供教室の英語と生け花を平成27年度から開講している。

● 事業を実施しての効果・成果

子供たちは、学校の先生、友達、家族以外の様々な年齢の地域の人たちと接することで、知識・技能を高めたり幅広い体験を積んだりするだけでなく、豊かな人間関係を築いていこうとする意欲にもつながっている。子供たちの書いている感想やお礼の手紙などから、サポーターの人たちとの活動を通して、思いやりや感謝の気持ちの大切さを感じとっている様子もうかがえる。また、地域・集団の一員としてのボランティアの在り方や自分の生き方について考える機会になっている子供もいる。教員も保護者も地域の一員であるという認識が深まり、「地域とともにある学校」の意義と必要性を感じ、地域と協力して学校づくりに励んでいるところである。

● その他

【学習支援について】

①サポート学習（平成24年度から開始）

3年生希望者を対象に、各学期末の月曜日6校時の時間帯（他の児童は放課後）に3回、年間9回程度実施している。内容は算数の補充学習で、学校自作の復習プリントの学習を指導する。最後には修了証を子供に渡す。地域の教員OB、元保護者、学生ボランティアが担当している。

②外国語活動サポート（平成23年度から開始）

ALTによる外国語活動を全学年実施している。このとき、サポーターも一緒に活動して、児童のコミュニケーションの機会を増やしたり、スムーズな進行を助けたりして、学級担任を補助している。担当しているのは、サポーター募集で集まった地域の人や保護者である。

③放課後子ども英語教室（平成27年度から実施）

地域の英語指導の経験者や海外生活経験のある保護者が指導者となって、年間13回（平成27年度実績）実施している英語教室である。2年生の希望者を対象に木曜日5校時にあたる時間帯（他の児童は放課後）で行っている。指導計画や指導内容も指導者が相談して決めている。チャンツやゲームなどの活動を中心に、季節の行事（ハロウィンなど）も楽しんでいる。外国語活動サポーターも活動補助で入っている。



地域の元教員・元保護者・学生ボランティアによるサポート学習（3年算数）



統合前小学校跡地で「新番丁花火大会」の開催（地元商店街振興組合協賛）

こんな活動です

共に遊び合い、学び合い、楽しい時間を過ごす子供の「居場所」

香川県丸亀市

活動名

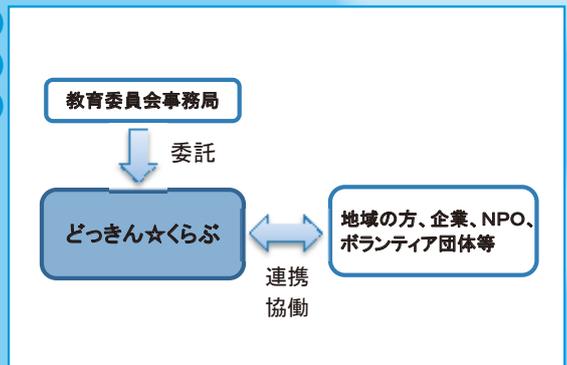
放課後子供教室 どっきん☆くらぶ

関係する学校名

城東小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	11人	220日	21年度	有	無	有
		実施場所			学習支援	放課後児童クラブとの連携			
		NPO法人 さぬきまっすこみシアター施設内			無	連携なし			
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要
 放課後や夏休みを利用して、遊びや勉強、文化芸術活動、地域の方との触れ合いなどを通して、子供が創造性豊かに「生きる力」を育むことを目的に、「遊び、学び、出会い」の場としての子供の居場所作りを行っている。古民家を利用した施設の中で、おやつ作り・造形体験・自由遊び・英語レッスン・フットバック・茶道教室など、多様な体験活動を通して、たくさんの子供たちが、共に遊び合い、学び合い、もう一つの家として楽しい時間を過ごしている。
 子供たちの塾通いやPCゲームなどの生活に問題意識を持ち、団体が長年培ってきた人材やスキルを活用し、子供の日常生活の中で体験活動を提供し、子供の成長に寄与したいと考え、活動を開始した。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

庭のある古民家を活用した教室で、少人数ではあるが異年齢でじっくり関わり合える活動を主にしている。おやつ作りや造形体験、お話会なども企画しているが、外遊びやゲームなどを通して子供たちが自主的に遊びを作り出せるようにしている。
 また、同施設で乳幼児親子の集える広場や、高齢者の居場所作りにも取り組んでおり、児童×乳幼児親子×高齢者といった様々な年代の交流を通して、子供たちが積極的に赤ちゃんや親たちと触れ合ったり、高齢者の方から遊びや伝承事を教わったりしている。屋外にある畑では高齢者の指導のもと、野菜作り体験も行っている。
 また、ボランティア団体「げんき会」による讃岐うどん作りや伝承遊び体験、警察官による自己防衛教室など、地域の方やボランティアの協力を得て、様々な体験活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

子供たちの「生活力」「自己管理能力」「創造力」「編集力」を育むよう、様々な人との出会いや関わり合いを大事にしている。指導員はファシリテーターとして子供たちに寄り添う大人の役割を担っている。また、子供にも保護者にも活動の理解と協力をしてもらうため、親子説明会を開催している。体験や遊びなどは、子供たちのニーズを拾い、主体的に関われるように企画実施している。
 いろいろな状況・状態の子供が参加しており、細やかな対応や配慮が必要のため、スタッフの研修やカンファレンスにも努め、ノートを活用してスタッフの共通認識にもつなげている。
 スタッフ間、また保護者との関係を深めることで、一人一人の子供たちの状態をつかめ、丁寧に向き合うことができている。指導者や保護者とは違う立場の大人の前で、子供たちはありのままの自分を出し、居心地良い場所として普段見せない表情で楽しんでいるようである。

● 事業を実施しての効果・成果

自由に伸び伸びと過ごせる場である放課後子供教室に通うことで、自分らしさを発揮し自分発見、自己表現ができるようになってきている。また、異年齢の関わりの中で、譲り合ったり教え合ったり支え合ったりしながら、コミュニケーション力が育まれている。他の学校や異年齢の友達が増えると共に、保護者同士の繋がりもできている。
 継続することで地域に根付いてきており、様々な体験をさせてやりたいという保護者の意識が高まってきていることや、協力してくれる大人も増えてきており、地域の中で子供を見守り育てるという機運が広がっている。活動に関わる者も、子供たちが生き生きと過ごす状況や、日々成長する姿に接することができる喜びを感じている。

● その他

(株)シナジー英会話の講師による英会話教室や、NPO法人ELF丸亀によるサイエンス体験の指導など、企業や他団体の協力も頂きながら活動を展開しており、これからも地域の様々な団体や人材と共に活動の幅を広げたいと考える。
 今後も、小学生の居場所のニーズは高まると思っており、少しでも多くの子供たちに教室での体験ができるよう、人材活用や活動場所の工夫もしていきたい。また、卒業した子供たちが後輩たちと関われるような仕組み作りを小中学校とも連携・協働して取り組んでいきたい。



おまわりさんから護身術を学ぶ



野菜ソムリエさんと野菜ケーキ作り

こんな活動です

夏休みに体験活動！地域の方に教わりながら、一緒に楽しく学びます。

香川県三豊市

活動名

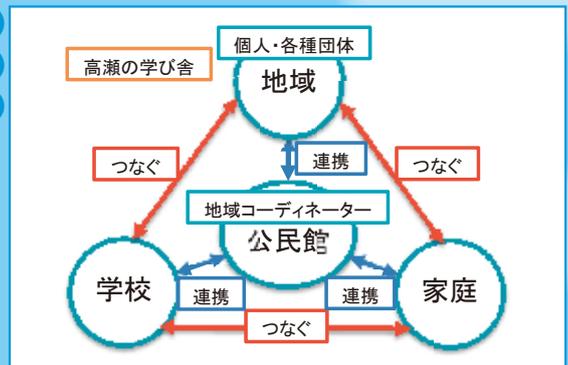
高瀬の学び舎

関係する学校名

上高瀬小学校 他4校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	20人	9日	26年度	有	無	無	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		高瀬町公民館 第2会議室・調理室・講座室ほか		無	連携なし					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員会	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要
 三豊市では平成26年度より、市内3公民館にて放課後子ども教室を開設。公民館が主体となって企画運営を行っている。
 「高瀬の学び舎」は、高瀬町公民館が実施しており、三豊市高瀬町内の小学生を対象に実施している。定員を設けているが、毎年定数を越えた応募があり人気の教室となっている。夏休みの約2週間、9時から15時まで実施している。
 学校や家庭では体験できないような活動を盛り込んだ内容で、体験を通して学び、経験し、成長することができるよう、プログラムを構成している。また地域の人と一緒に学びながら交流できるよう工夫している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

～社会性・協調性を育むしかけ～

● 町内の全小学校区から参加者を募集。校区外、異学年の児童を含めた班で活動することで校区外や異学年の児童との交流を深め、社会性や協調性を育めるようにしている。

～生きる力（体験から得た学び）を身につける～

● 活動内容は自分が住む地域の、歴史や文化、自然環境について学ぶもので、職場体験、茶道、登山、料理、水生生物調査等、多岐にわたっている。平成28年度は防災学習に重点を置き、日赤香川支部による災害学習プログラムを実施、また消防署見学や防災体験等、体験活動を通して、児童のこれからの人生で、活かせる学びを得られるようなプログラム作りをしている。

～メリハリを持って行動する～

● 夏休みの宿題等自主勉強する時間を決めている。勉強する時間、遊ぶ時間をはっきりさせることでメリハリを持った生活ができるようにしている。

【実施に当たっての工夫】

● 事故や怪我については、事前準備も含め十分に配慮しているが、保護者にも事前に理解を求めている。

● 上級生にはリーダーシップを取って下級生をサポートするように促す。

● 元気な挨拶、話を聞くときの姿勢等については、その都度指導する。

● 保護者から、支援が必要かどうか、食物アレルギーの有無、体調について事前に聞き取る。

● 刃物や火を使うような体験でも、大人はなるべく手を出さず、児童が主体的に活動できるようにし、正しい使い方や危険な行動等、体験を通して学び取ってもらえるようにしている。

● 宿題タイムでは教員OBにサポーターをお願いし、児童が自主学習に集中できるよう体制を整えている。

● 児童が自分で時間管理できるよう「何時から何を」と具体的に時間を伝え、時計を見て行動するよう促している。

● 事業を実施しての効果・成果

● 学習したことを活かして防災かるたを作成した。今後の防災学習にも活用できるものとなった。

● 他の学校の児童とも仲良くなれ、「中学生になったらまた会えるね」「今度遊ぼう」等今後の交流にもつながった。

● 児童と地域の方だけでなく保護者とも関係性ができ、学校帰りや近所で出会ったときに、挨拶をして話をするようになった等、教室時以外でも交流がみられるようになった。

● 班で活動を行ううちに、協力し、助け合って活動する姿勢がみられ、協調性や社会性の成長につながった。

● 児童や保護者から、「違う学年、学校の友達ができた」「初めての体験ができてよかった」「来年も参加したい」など好評価をいただいた。

● 「今日体験したことを報告したり、進んで料理や手伝いをするようになったりと、子供の成長がみられ、親子のコミュニケーションも増えた」という感想をいただいた。



消防署見学



防災かるた作り

こんな活動です

橘っ子は橘で育てる -礼節をわきまえ創造力豊かな子供に-

愛媛県西条市

活動名

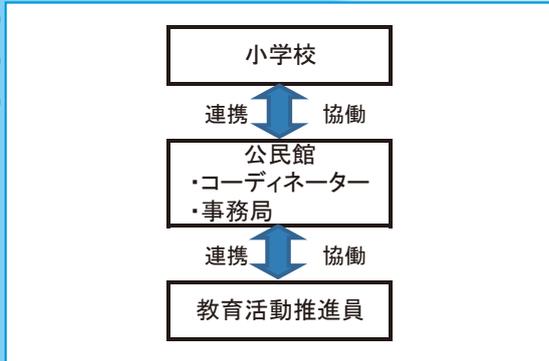
たちばな愛ちゃん教室

関係する学校名

橘小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	10人	66日	19年度	有	無	無	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		橘公民館		無	連携型					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯

○概要：「たちばな愛ちゃん教室」の活動は2教室。「詩吟教室」…毎週水曜日；吟詠練習 / 「公民館で遊ぼう」…日曜日（年7回程度）；ストラップやツールペイントの制作、愛媛県総合科学博物館学芸員を講師にした体験型実験。

○経緯：学校と地域との連携・協働を図り、地域の子供は地域で見守り育てるという理念のもと平成19年に発足。大人の教室しかなかった「詩吟」は、伝統文化の後継者を“橘地域”で育成したいという指導者と地域の願いのもと開始。「公民館で遊ぼう」は、小学校で読み聞かせをしていたPTAが創造力豊かな子供にと活動を発展させて開始。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 教室指導者は全て地域住民で構成されており、“地域力”で子供たちを育てている。
- 詩吟は伝統文化の後継者育成をねらいとし、挨拶、言葉遣い、吟じる時の姿勢など礼儀を身に付けることを重んじている。講師は準師範の有資格者。
- 成果発表の場として、恒例の敬老会・文化祭などの地域イベントには必ず参加して詩吟を披露し、地域の貴重な宝となっている。例年チャレンジの場として参加している詩吟総連盟主催の全国優勝者決定大会では入賞、県下の吟詠剣詩舞大会では合吟の部で優勝、独吟の部でも準優勝、優吟賞、佳吟賞を受賞と、毎年数多くの功績を収めている。

【実施に当たっての工夫】

- 「公民館で遊ぼう」はイベント毎に案内チラシを作成して小学校を通じて配布。全児童対象だが、体験型実験教室は保護者の参加も可能とすることで、家族の触れ合いの貴重な機会にもなっている。
- 運営会議は、コーディネーターと教育活動推進員が参加して子供たちの安全・活動内容等について意見を出し合い、連絡を密に取るようにしている。
- 成果発表の場をもち、地域への周知を図るため、「詩吟」は郷土の先人顕彰、校区文化祭、敬老会で披露、「公民館で遊ぼう」は作品を校区文化祭に出展することにより創作意欲の向上につなげている。
- 地域の子供の成長を地域住民全体で感じ取れるよう、活動の様子を公民館だより「たちばな」に掲載することで地域の関心が高まっている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 幅広い年齢層と触れ合うことで、学校・家庭とは異なる協調性や、年長者を敬い、年少者をいたわるという優しさが芽生えてきている。自ら進んで挨拶をするなど、積極性が身に付いてきた。
- 学校からは「有意義な経験が自信にもつながっており、学校行事での代表に積極的に手を挙げる、大きな声で歌を歌う、大きな声で挨拶をするなど効果が顕著である。」との評価をいただいている。
- 保護者からは、人前で発表することにより「物怖じしなくなった」、「腹の底から声を出すことで風邪をひかなくなった」と喜びの声が寄せられた。
- 指導者からは「大会の度にたくましくなっていく」との感想。着実に強靱な心身が養われている。

● その他

詩吟についてはここ2,3年低学年の入会者が少なく後継者問題が課題。伝統文化ではあるものの、時代に応じた育成方法が必要なのかもしれない。



敬老会での吟詠発表
(詩吟)



父の日のプレゼント作り
(公民館で遊ぼう)

こんな活動です

地域の子供は地域で育てる

愛媛県今治市

活動名

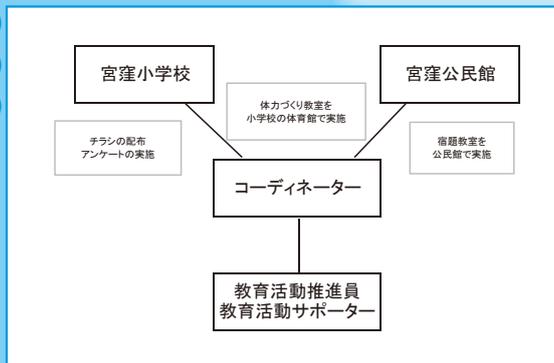
宮窪放課後子ども教室

関係する学校名

宮窪小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	19人	49日	20年度	有	無	無
		実施場所			学習支援	放課後児童クラブとの連携			
		宮窪小学校体育館、宮窪公民館 他			無	連携なし			
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



- 活動の概要・経緯**
- 宮窪放課後子ども教室は平成20年度に開設し、その中で体力づくり教室においては、当時宮窪で盛んであった、女子はバレー、男子は剣道といったスポーツによる健全育成につなげてきたが、全ての子供を対象とすることが難しくなり、平成27年度から、誰もが放課後を安全・安心に過ごすことができる居場所として、活動内容を軽体力づくりに変更して実施している。
 - また、子供たちが家でゲームをしている時間が長いという課題から、長期休業中、子供たちが楽しく学習ができるよう夏休み宿題教室を実施し、みんなで一緒に学習をする楽しさを分かち合い、子供たちの交流と人間性の形成を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 体力づくり教室では、スポーツインストラクターの資格を有する教育活動推進員等が中心となり、「ボール遊び」「体幹づくり」「リズム運動」等、月ごとにテーマを決めて実施している。教室を楽しく続けられるよう、決められたテーマを頑張り、目標を達成した後に、子供たちからリクエストを受けて好きな運動をする時間を設けている。また、1年生から6年生までの体力・能力に違いがある子供たちが参加するため、一人一人の子供の体力・能力に合わせた指導を心掛けるとともに、高学年の子が低学年の子に教えてあげることができるような環境づくりに努めている。
- 宿題教室においては、幅広い年齢の指導者の方々が子供たちの学習を手助けしている。

【実施に当たっての工夫】

- 小学校を通じてチラシを配布し、教室のことを周知することで、多くの児童に参加してもらえるようにしている。
- 年間の活動が終わった後には小学校を通じてアンケートを実施し、翌年度の活動の参考にしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 放課後、長期休業中における子供たちが安心・安全で健やかに活動を行える場を確保することができた。
- 体力づくり教室では、体力の向上はもちろん、異なる学年の子供たち同士の活動をとおして、ルールを守ることの大切さ、協調性・チームワークを学ぶことができた。子供たちは、「体を動かすことに楽しさを見いだし、スポーツを始めるきっかけになった」という感想を持ち、保護者の方からも、「他学年の子と同じ環境で活動することは、子供にとって良い経験になる」といった声をいただいた。
- 宿題教室では、子供たちが学習をする習慣を身に付けることができ、教室に通う子供同士で仲良く挨拶する姿が見られるようになった。



みんなが大好きなドッジボール



みんなでのびのび宿題

こんな活動です

地域の未来をになう子どもを育てる ～なるっこはみんなの宝物～

高知県南国市

活動名

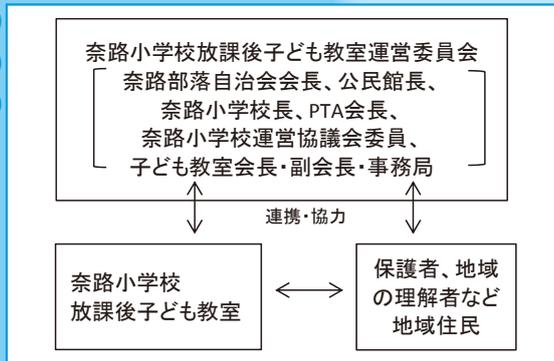
奈路小学校放課後子ども教室

関係する学校名

奈路小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	16人	216日	21年度	有	無	無
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
		南国市立奈路小学校余裕教室		有		連携なし			
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	
	平成 19年 4月 1日					15人	26人	5学級	

体制図



【経緯】

奈路小学校は平成12年度に小規模特認校となり、現在では半数以上の児童がスクールバスを利用して他地域から通学している。奈路地区では、以前から地域住民が子供たちの育ちを支援する活動が盛んで、平成21年度より奈路小学校を拠点として活動が始まった放課後子ども教室でも、地域と学校の絆を強くもちつつ、子供たちの豊かな居場所づくりに取り組んでいる。

【概要】

奈路小学校放課後子ども教室は、年間200日以上（週5日、土曜日6日、長期休業期間20日）開設しており、普段は主に宿題や自由遊びなどをして過ごすほか、コーディネーターが中心となって、地域住民と触れ合う地域行事を考慮しながらイベントを催している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

普段の自由遊びの中では、山間地域である奈路地区ならではの豊かな自然を生かし、校庭の隅でサワガニをつかまえることが子供たちの楽しみとなっている。「なるっこ文化教室」として地域の木工さんを講師に招いて木工教室等を開催した他、高齢化により氏子が減少している地域の藤岳神社の神祭には、子供たちが地域の方と一緒に神輿行列に参加し、神祭を盛大に行っている。また、以前から地域の中にあつた「奈路防災コミュニティセンターの壁に子供たちの絵を彩ってみようか」という思いをもとに、地元の中学校美術部に講師をお願いし、協力して取り組んだ。

【実施に当たっての工夫】

奈路小学校では、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）制度も実施しており、「学校あつての地域、地域あつての学校」を合言葉に、様々な活動を連携・協働させることにより、地域ぐるみで子供たちの育ちを支える取組がより一層充実したものとなっている。子供教室とコミュニティ・スクールではお互いの役員がそれぞれの会議に参加し情報交換を行うだけでなく、行事等へもより効果的に参加できるよう取り組んでいる。子供教室で参加した藤岳神社祭では、事前にコミュニティ・スクールの一環として藤岳神社について地域の方と一緒に学習に取り組んでおり、それにより子供たちの地域理解により一層の深まりをもたせることができています。



奈路地区防災コミュニティセンターの壁画作成



● 事業を実施しての効果・成果

複数の地域からスクールバスで通う子供たちが放課後等に友達と楽しく過ごすことのできる安全・安心な居場所となっている。1年生から6年生までが参加する中で、下級生は上級生の生活態度をまね、上履きを脱いだらきちんとそろえるなど教室のルールを学んだり、行事などへの参加と一緒に経験することができている。また、奈路地区防災コミュニティセンターの壁画作成にみられるように、子供教室を利用する児童だけの活動にとどまらず、地域の大人や中学生とも交流する経験を積むことができ、その取組が地域を活性化させる活動のひとつとなっている。



藤岳神社祭への参加

● その他

学習支援では、主に宿題等の取組を行い、学習習慣の定着に取り組んでいる。子供教室へ来室する時間が児童によって異なっているため、スクールバス発車までの時間を考慮しながら、子供たちが自分で宿題に取り組む時間帯を考えるなど自主的な取り組みができています。

「輝け 蓮池の子！」 地域は蓮池の子の応援団

高知県土佐市

活動名

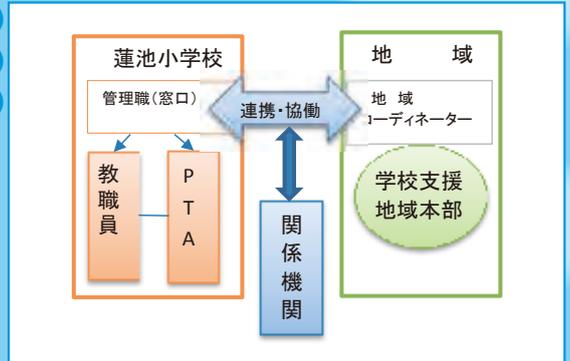
蓮池小学校支援地域本部

関係する学校名

蓮池小学校

基本データ	学校支援活動	●	総括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 60人	学習支援 無	開始年度 23年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有	
	地域未来塾		総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室		総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携						
	土曜日の教育活動		総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	コミュニティ・スクール		指定日				委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯 蓮池小学校支援地域本部は、平成23年度に組織された。ボランティア登録者は60名で、地域や関係機関との機動的な連携・協働により、「子供たちの学び」、「見守り活動」、「地域行事との連携」、「環境整備」の4分野の支援を展開している。「子供たちの学び」については、学校のテーマソングづくり、自然体験教室、福祉専門学校と連携・協働した福祉教育等、学ぶ意欲や心育での支援を自由な発想で行っている。「見守り活動」については、安全指導の中心を担う「蓮池パトロール隊(平成23年度結成)」があり、平成27年度に高知県安全安心まちづくり推進会議より表彰された。「地域行事との連携」と「環境整備」では、コーディネーターが学校と地域のニーズを的確に把握して関係づけることで創意工夫ある活動が展開されている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 子供たちの学び…楽曲づくり「希望の花～輝け蓮池の子どもたち～」、米作り、自然体験教室、福祉教育、音楽、ストーリーテリングと読み聞かせ、ダンス、体力づくり、夏季休業中の図書館開放、NIE、マンガクラブ、朗読、生け花等
- 見守り活動…3木の日(第3木曜)を中心とする見守り活動(蓮池パトロール隊と連携)、持久走大会の安全確保
- 地域行事との連携…蓮池ハス祭り、蓮池地区敬老会、土佐市ふれあい運動会、高知県無形民俗文化財蓮池太刀踊り、3世代餅つき交流とグラウンドゴルフ大会
- 環境整備…児童と地域合同の井筋清掃、消防団によるプール洗い、校舎内外の環境整備、生け花等

【実施に当たっての工夫】

- コーディネーターを2名配置し、60名がボランティア登録。地域教育協議会(7・2月)では、活動報告と情報交換を行う。
- コーディネーターは、学校のニーズをもとに支援に広がりを持たせている。例えば、6年生が開催する「ここにこスマイル広場(福祉教育の出口として設定)」には、地域の高齢者の方々が例年約50名参加して交流している。自然体験教室には「仁淀川流域の山川海環境保全推進協議会」から10名以上が協力、プール洗いには消防団員が10名以上参加、「蓮池パトロール隊」は28名が登録、「3世代餅つき交流」は地域連携の大きな柱として100名以上の協力がある。
- 活動の基本は、「輝け 蓮池の子」を具体化するために、「今学校が必要としていること・・・」「今の子供たちに必要なこと・・・」で成立しており、自由な発想をどんどん取り入れていく。(例:「希望の花～輝け蓮池の子どもたち～」)



卒業記念に学校のテーマソングづくり



● 事業を実施しての効果・成果

卒業前に何かを残したいとの児童の思いをもとに取り組んだ「希望の花～輝け 蓮池の子どもたち～」の楽曲づくりに代表されるように、児童の思いをコーディネーターと共有することで、次々と豊かな発想で活動が展開できている。

宅地化が進み住宅が増える中、地域の関係が薄くなりがちな蓮池地区にとって、子供と子供・子供と地域・地域と家庭をつなぐ本部の活動の意義は大きく、地域に見守られているという安心感が児童に芽生えている。また、学校だけでなく本部の活動を紹介する中で、「音楽の授業支援をしたい」、「図書館開放を支援したい」等の申し出をいただけるようになった。

● その他

福祉教育(福祉専門学校との連携により6年間で20時間)、自然体験教室(仁淀川流域の山川海環境保全推進協議会との連携 3・5年生)、体力づくり(NPO法人総合クラブとさとの連携)、音楽の授業(ピアノ教室講師との連携)、読み聞かせ(市民図書館との連携)



自然体験教室・・・守れ仁淀川

こんな活動です

経験を生かして、子供のために、誰かのために、私のために。

福岡県篠栗町

活動名

篠栗小校区づくり実行委員会

関係する学校名

篠栗小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 3人	ボランティア登録数 210人	学習支援 無	開始年度 19年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 3人	子供の平均参加人数 20人	学習支援 無	開始年度 19年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図

篠栗小校区づくり実行委員会



活動の概要・経緯
平成19・20年度に文部科学省の事業「学び合い、支え合い地域活性化推進事業」をきっかけに、子供の育成を中心に据えた地域づくりとして、区長（自治会長）を中心とした篠栗小校区づくり実行委員会が発足。平成21年度からは単独事業として事業継続。現在、実行委員会には7部会があり、小学校・中学校と連携・協働しながら、子供たちの登下校の見守りやあいさつ運動、小学校運動場の芝生管理（補植、水やり）などの学校支援、観月会の実施、体験学習として毎月第1～第4土曜日における教育活動などを行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

小学校を核として実行委員会の学びあいの会（通称：棕の木クラブ）が中心となり、子供たちと地域の人とのふれあいや豊かな体験が生まれる活動として、毎月第1～4土曜日の午前中に小学校の余裕教室や多目的ホール、町の体育館、中央公民館の調理室などを使用し、地域ボランティアにより、10サークル（お茶・パステル・手芸・おどり・大正琴・卓球・写真・サッカー・ボール遊び・料理）が実施されている。昨年度は述べ82回のサークル活動が行われ、約1000名の子供たちの参加と地域ボランティア約300名により実施された。活動に当たっては、健康や安全に留意して活動を楽しむとともに、立派にできることだけが素晴らしいことではなく、活動の過程や試行錯誤、マナーを大切にすることを基本に活動がなされている。

【実施に当たっての工夫】

土曜日の教育活動の内容については、学校の協力を得ながら子供たちへのアンケートを実施することにより、子供のニーズにあった活動を選択し実施できている。また、募集に際しても学校の協力を得ることで、スムーズに配布・回収ができています。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ 子供の満足感、達成感、自己存在感、感謝などの心の育みが生まれた。
- ・ 世代間の相互交流は、喜びや充実感を生み、生きがいづくりにつながっている。
- ・ 「地域大好き子」が増えている。
- ・ 学校と地域の信頼関係や協力関係がたく強くなっている。
- ・ 地域の力強い支援の中で、開かれた学校づくりが進展し、教育活動が充実してきている。
- ・ 地域の子供と大人が共に学び合う場になっている。



学びあいの会（棕の木クラブ）「手芸サークル」



学びあいの会（棕の木クラブ）「料理サークル」

こんな活動です

わ —学校と家庭と地域が輪となり、和み合うように—

福岡県春日市

活動名

日の出小学校学校運営協議会

関係する学校名

日の出小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	14人	101日	19年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		図書室、パソコン室、理科室、体育館		無	連携なし					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
	1人	0人	12人	有	27年度	有	無	有		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		
	平成 17 年 4 月 1 日					16人	292人	14学級		

体制図



- 活動の概要**
- 平成17年度、九州で初めてのコミュニティ・スクール（当時地域運営学校）として歩みをスタート。
 - 学校・家庭・地域でめざす子供像を共有し、活動に関する協議・承認・評価を行う「学校運営協議会」を核として展開
 - 学校課題を基に課題別コミュニティ（学び・心・体力・安全安心）を組織、学校・家庭・地域が一体となり具体的な活動を実施
- 経緯**
- 保護者・地域住民の多くの支援による効率的、効果的な教育活動を展開し、地域の共育基盤を醸成
 - 小中連携、中学校ブロック運営協議会、福祉等関係機関との連携・協働等、学校を多方面に開き様々な教育活動を展開

● 活動の特徴・工夫

- 【特徴的な活動内容】** 課題別コミュニティでの取組により、地域との連携・協働による開かれた教育課程を通しての授業、活動を実施
- 学びコミュニティ……地域人材による学習支援（生活科「野菜づくり」「紙ヒコーキ名人」、書写指導等）
保護者による学習支援（丸付け支援、校外学習参加・見守り、家庭科学習支援、キャリア教育支援等）
 - 心を育むコミュニティ……地域との連携・協働による活動（地域高齢者との交流「ふれあい・いきいきサロン」、校区内清掃「心のチャレンジ」等）
保護者による支援（読書ボランティアによる読み聞かせ、児童・保護者合同の挨拶運動等）
 - 体力コミュニティ……地域との合同ふれあい運動会、お弁当の日、スポーツテストにおける保護者の協力等
 - 安全安心コミュニティ……登下校を見守る地域の方々による生活科学習「発見・探検・通学路」、不審者対応訓練・避難訓練
ふれあい歓迎遠足への保護者・地域住民参加及び現地までの安全見守り等

【実施に当たっての工夫】

- 校内組織を課題別コミュニティ（学び・心・体力・安全安心）に連動させ、効率的・効果的に地域・保護者との連携・協働を展開
- 学校・家庭・地域の代表者による課題別コミュニティ会議と校務分掌組織に基づく校内課題別コミュニティを隔週で実施し、職員間の共通理解を図り、スムーズな活動を実現
- 地域人材の協力に関して、依頼を自治会長に一本化し、組織的な協力体制を構築
- コミュニティ・スクールに関する理解を保護者や地域住民に広く浸透させるため、PTA総会、隣組長会等の様々な機会を捉えて、学校による説明、コミュニティ・スクールの活動に関する内容の便りの配付を実施
- 家庭の事情や様々な困り感をもつ保護者や児童支援のため、学校と関係機関の連携・協働を密にし、きめ細やかな対応を実施



保護者との連携協働活動
(家庭科学習支援・丸付け先生
体力テスト支援・校外学習補助)

● 事業を実施しての効果・成果

- 地域住民、保護者との連携・協働により、効率的・効果的な教育活動の展開が可能となった（教員の指導に加えての学習の丸付け、家庭科作業補助等のきめ細やかな指導体制、安全確保の充実のための校外学習引率、教員の専門的知識や技能不足を補う書写指導やクラブ活動指導等）
- 開かれた教育課程を通して多くの大人との関わりの中で、子供たちの学びの充実が図られ、社会に関わる力が育成されてきた
- 保護者や地域住民による学習支援により、学力向上や児童・保護者・地域住民・教職員間の人間関係構築につながった
- 子供を核として地域ぐるみでの共育基盤が醸成してきた

● その他

- 学力に課題のある小学4～6学年児童を主な対象として土曜補充学習「まなびや春日」を実施（当該校の他3校で実施）
ベネッセ個別教材の作成提供、当該学習支援、小テスト実施及び学力分析・評価を委託



地域住民との連携協働活動
(キャリア教育・歓迎遠足 高齢者との交流・書写指導)

こんな活動です

正助さんの寺子屋事業では放課後の学習会やスポーツ体験教室等を行っています。

福岡県宗像市

活動名

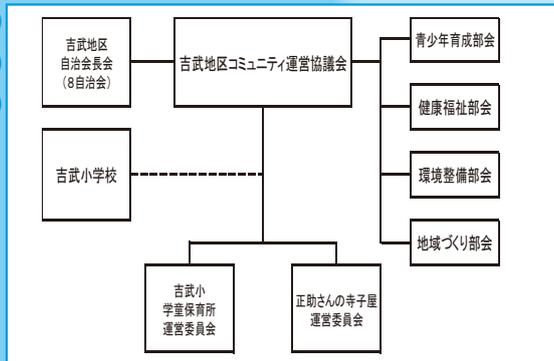
正助さんの寺子屋

関係する学校名

吉武小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	30人	51日	25年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		吉武地区コミュニティセンター・吉武小学校		有	一体型					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯
 吉武小学校の校区である吉武地区は、年々子供が減少し、「小学校の存続」を地域の重要な課題としている。そのため「地域の子供は地域で育てる」を理念に掲げ、学校と地域が連携・協働し、「むなかたで一番行きたい学校」を目指し、合同運動会や文化祭、地域の伝統文化の保存継承等地域ぐるみで様々な取組みを実施している。平成25年度に吉武小の全児童を対象に放課後子供教室である「正助さんの寺子屋事業」が開始した。また、平成26年度から吉武地区コミュニティ運営協議会が放課後児童クラブ運営の指定管理を市より受けたことから、放課後児童クラブに参加している児童と放課後子供教室に参加する児童が一体となって、放課後学習会やスポーツ教室等を寺子屋事業を実施している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

子供の居場所づくり事業として大学等と連携・協働した「放課後学習会」や地元のプロスポーツチームと連携・協働した「放課後スポーツ教室」を開催している。また、その他にも地域の歴史・自然資源を生かした夏休みの体験学習会や宿泊体験（通学合宿）を開催している。

宗像市教育委員会では、地域が主体となって放課後学習の取組を行っている吉武小学校及び吉武地区に着目し、学校教育における外国語教育の推進を支える土台づくりを行い、グローバル化社会に対応できる人材育成を目的として、吉武地区の拠点であるコミュニティセンターにALTを配置している。ALTは吉武小学校と併せて地域での寺子屋事業等で外国語活動と国際交流を推進している。

【実施に当たっての工夫】

吉武小学校が運動会や文化祭などを吉武地区と合同実施するにあたっては、吉武地区コミュニティ運営協議会の組織に関わることで実施意義や目的について共有することができている。

放課後学習会では地域在住の教員退職者、福岡教育大学の留学生や地域の男子寮の学生を活用することで、児童が地域住民等の多様な人と触れ合う機会を創出している。

夏休みの体験学習や通学合宿の実施にあたっては、小学校、コミュニティ運営協議会構成団体や地域ボランティアと連携・協働し、地域内施設や資源を活用し、歴史文化の継承に努め、地域力の向上に努めている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・宿題をする習慣を身に着けることで学力の向上につながっている。
- ・子供の集団における規範意識の向上につながっている。
- ・子供たちの異学年交流、家族以外の人たちとの交流によるコミュニケーション能力が向上している。
- ・区域外通学の児童の増加に伴う吉武小学校の活性化が図られている。
- ・子育て支援と高齢者世代間交流を通して、青少年健全育成のみならず高齢者の生きがいづくりにつながっている。

● その他

(株)サニックスと連携してスポーツ教室を実施



寺子屋の様子



体験学習（陶芸）の様子

こんな活動です

学校と地域が連携・融合し、吉井町の人づくり、地域づくりに資する

活動名

吉井南小放課後子ども教室

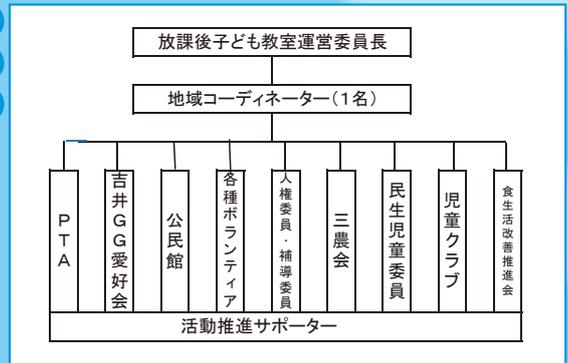
関係する学校名

吉井南小学校

長崎県佐世保市

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	1人	27人	28日	19年度	有	無	有
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
 放課後子ども教室は、平成19年に発足し、地域の人材と徐々に結びつきを深めながら、子供たちにとって有意義な放課後の過ごし方を提案する形で、様々な活動を仕組んできました。これまでに、地域の人材はもとより、上橋川内農業環境保全組合、三農会、市食生活改善推進協議会、地区公民館、社会福祉協議会、手話サークル等の各団体からの協力を得ながら活動を推進してきました。それぞれの団体の特徴を生かした活動内容は、子供たちの中に定着し、多くの参加者を得ている。また、学校支援活動として、授業参観後の懇談会終了を待つ子供たちの見守り活動も計画的に行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

放課後子ども教室のメンバーは、学校支援会議のメンバーを兼務しており、学校経営方針をよく理解し、その方針に沿いながら、目標や課題を共有しつつ、活動の企画運営がなされている。特徴的な活動内容として、保護者が講師になり開催する教室及び、地域の有識者を講師に迎える「地域探訪活動」がある。「ことばの扉をひらこう」は、学校の施設を利用して、元高校英語教師である保護者が、子供たちに楽しく英語を教える教室である。この教室は年間に6回程度定期的に開催しているが、参加者には常連が多い。地域探訪は、町のよさを再認識し、自分が住んでいる地域に愛着をもってもらうと始めた活動である。吉井エコツーリズムの会が講師になり、子供たちは、里山探検をしながら地域のよさを感じている。

【実施に当たっての工夫】

英語教室は、学校が早く終わる水曜日の放課後に設定し、60分間の活動の後でも十分帰宅時刻に間に合うようにしている。講師は、手作りの教材を活用し、子供たちの興味関心を高める工夫をしている。低学年の参加も多いため、ゲームや歌を取り入れ子供たちを飽きさせないようにしている。地域探訪活動は、児童クラブとも連携・協働し運営した。低学年の参加も多かったが、起伏の多い野山を歩き回りながらの里山探検を中心としたので、楽しみながら地域を学ぶことができた。各活動の後には子供たちが確実に帰宅することができるように、参加申込書には、帰宅方法について記載させ、安全対策にも心がけているので、保護者が安心して活動に参加させることができている。

● 事業を実施しての効果・成果

どの教室も子供たちの地域に対する思いや考えを再発見する場として大変効果的である。地域を知り、地域を愛する心を育てることで、地域に貢献する次の世代が育成されることを念頭に、すべての教室を開催している。そのために、地域の各団体が積極的に教室開催に尽力し、子供たちのためにと考えてくださるようになった。このような活動は地域のよさを再発見することができる貴重な場となり、地域の人に、より親しみを感じると発言したり、地域探検に興味を持ったりする子供が増えた。これからも、学校と家庭と地域が知恵を絞り、子供たちの健全育成のために、この活動を充実させていきたいと考えている。

● その他

木工教室（地域の大工さんから教わる木工製作活動） 吉井エコツーリズムの会（町の文化財をめぐる、町のよさを再発見する取組）



ことばの扉を開こう
英語教室



吉井のいいところみつけた
牧の岳遊歩道

こんな活動です

こどもたちいらっしやい！ おとなもいらっしやい！

長崎県対馬市

活動名

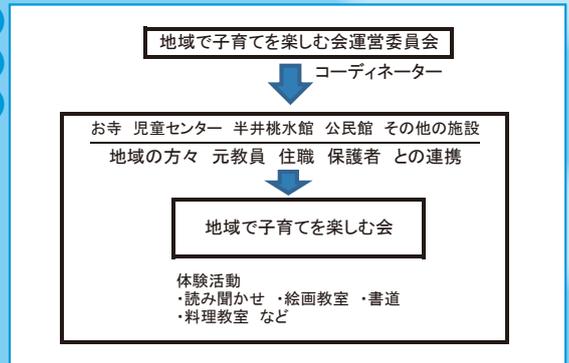
地域で子育てを楽しむ会

関係する学校名

巖原小学校区

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯

「地域で子育てを楽しむ会」は、学校週5日制が施行され、土曜日が完全に休みになったのを機に「子供たちに楽しい活動や体験の場を提供したい」と有志が集まり結成された。ボランティアスタッフは、元教員や保育士・住職・主婦と様々であるが「子供が好きで一緒に楽しみたい。子供の居場所を作りたい」という思いは同じ。平成14年9月に始まった活動で、無理をせず、出来る人が出来る時に参加し、そして何より『大人も一緒に楽しもう！』ということから始まった。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

いろいろな体験活動を通して、子供時代をのびのびと楽しく過ごせるようプログラムを計画している。楽しい子供の頃の思い出が郷土愛につながればと願っている。

[活動内容]・読み聞かせ ・ 絵画教室 ・ 書道教室 ・ 軽スポーツ (韓国の遊び 体操教室 空手に挑戦 ドッジボール など) ・ 料理教室 (包丁にチャレンジ 飯ごう炊飯 いのちのおむすび 郷土料理 刺身に挑戦 芋煮 土鍋で新米 ちゃんこ鍋 日韓料理交流 など) ・ クラフト ・ 季節ごとのイベント (カルタ大会 ハロウィン クリスマス 凧揚げ 餅つき など) ・ コンサート ・ 生け花 ・ 一休さんになってみよう ・ カヌー体験 ・ 親子釣り大会 ・ 3世代交流会 ・ 竹馬を作って遊ぼう ・ 英語で遊ぼう ・ 磯遊び・・・ など

【実施に当たっての工夫】

幼少の頃から本物に触れてほしいという気持ちから、料理教室においても地元の新鮮な食材を使い「出汁」も丁寧に時間をかけて作るようにしている。地元の漁師さんや、プロの料理人に講師をお願いし、プロの技術を見せることも多い。島外からのアーティストや書道家に来ていただくこともある。

● 事業を実施しての効果・成果

会を結成して15年が経過したが、「あいさつの仕方」「靴のぬぎ方」「感謝の心」など、スタッフの言葉を子供たちが素直に受け止め、それを実行している姿に地域で子育てをするってこういうことかと実感している。

スタッフや講師が本物のボランティア精神で子供たちと楽しみながら続けていることが、これまでの継続力に繋がったのだと思われる。



「書」の体験



何も言わずきちんと並べる
子供たちの靴

こんな活動です

筒城の子供は筒城で育てる

長崎県壱岐市

活動名

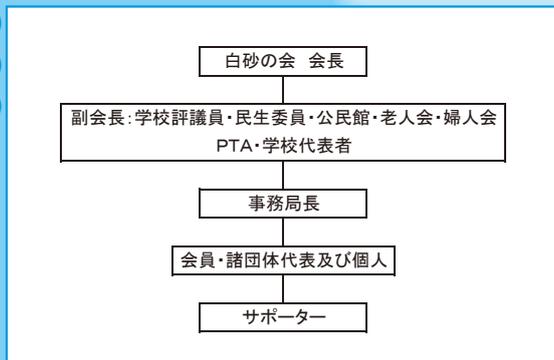
白砂の会

関係する学校名

筒城小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	23人	59日	17年度	無	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		筒城小学校(教室・体育館)		有	連携なし					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要・経緯
 「白砂の会」は平成17年度から筒城小学校の子供たち及び筒城小学校を将来にわたって支援するため、学校・家庭・地域の三者が一体となり、ふるさと筒城を愛し守り、たくましく生き抜く力を身につけさせるため、協力支援している中心母体である。この会は学校が主催し運営するのではなく、この主旨に賛同していただく方々の自発的な運営と活動によって支えている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

環境整備・・・除草作業、学校園、花植え

学習支援・・・読み聞かせ、英語教室

体験活動支援・・・緑の少年団活動、通学合宿サポート及び指導

スポーツ支援・・・綱引き、フットサル、卓球、陸上、ソフトボール、バレーボール

【実施に当たっての工夫】

強い子を育てる・・・早起きして雨の日でも歩いて登校する。動く、働くの時間の指導を曖昧にしない。

つらめく子を育てる・・・積み重ねを大切にし、目標を持って学習を進める子にするため、自己表現の場を工夫する。

気が優しい子を育てる・・・自然を愛し、命あるものを大事にする。ふるさとを大切に思う。

● 事業を実施しての効果・成果

「筒城の子供は筒城で育てる」という住民の活動の拠点づくりができており、住民の意識にも根強く備わっている。学校・家庭・地域の三者の連携・協働も良い距離間が保てており、無理なく活動ができていく状況である。学校においては、白砂の会はとても心強く、なくてはならない組織となっている。白砂の会においては子供と交流することが楽しみであり生きがいとなっている。

● その他

読み聞かせ、英語教室



通学合宿



案山子づくり

こんな活動です

子供は地域から支えられ、地域は子供から元気をもたらう共育活動

長崎県佐々町

活動名

口石小学校学校支援会議

関係する学校名

口石小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 92人	学習支援 有	開始年度 25年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯 平成25年度から、地域の中の学校として、様々な支援活動を受けながら、子供たちの心力、学力、体力の向上を目指して日々の教育活動に取り組んでいる。子供たちの成長と共に各地域団体の活性化にも役立っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

毎週火、木曜日には退職校長会・民生委員によるサポートティーチャー支援が行われている（全学年）。同日の放課後には学習内容に困り感を持った児童への個別指導も行っている。

婦人会には3年生の総合的な学習の時間において野菜作り、梅干作り、5年生には家庭科の裁縫指導や調理実習支援など子供たちの学習班に入るなどして個別に技術指導をしてもらっている。教師にとっての授業支援にもなっている。

老人会においては2年生の生活科（昔遊び集会）や5年生の米学習支援（田植え、稲刈り活動）指導を行っている。

他にも毎朝の街頭支援（交通安全見守り、あいさつ運動等）にもボランティアの方々が活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

学校の総括コーディネーターが中心になり、各学級の学習内容定着及び向上について支援方法のニーズを調整し、担当していくシステムを作っている。特に退職校長会のサポートティーチャーと婦人会の裁縫、調理支援は子供にも教師にも評判がよく、有効な活用となっている。他にも積極的に学校の敷居を低くすることにより地域の方々が参加しやすい体制や雰囲気を作るように日頃から心がけている。毎朝の街頭ボランティアの方々が横断歩道での感謝一礼運動のさらなる指導・工夫を行っている。



ここ、教えてください！

● 事業を実施しての効果・成果

心力・学力・体力向上という目標に向かって学校が取り組んでいるのと同時に地域の支援があいさつ面や非行防止、交通事故防止の面で心力の育成、向上に役立っている。学力面においても個別指導が行き渡り、教師だけの指導だけでは時間的に不可能な面を補う支援をしてもらうことで学力の向上が見られている。全国学力テストの結果もここ3年間向上しており、全国平均を大きく上回っている。また、支援をいただいている地域の方々も子供と向き合いながらその手ごたえとやりがい（生きがい）を感じ、元気をもらっている。

● その他

毎週火、木曜日に、退職校長会・民生委員によるサポートティーチャー支援（全学年）を実施している。また、同日の放課後には学習内容に困り感を持った児童への個別指導も行っている。



こうやってやればいいのか！

こんな活動です

子供をお客さんにしない！ —地域教育力を活かし、地域に貢献するCS—

熊本県荒尾市

活動名

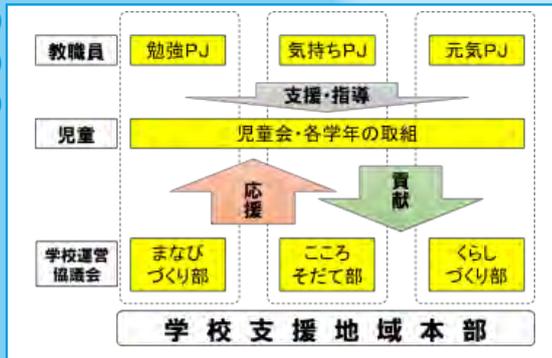
荒尾第一小学校学校運営協議会

関係する学校名

荒尾第一小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日 平成25年4月1日					委員数 14人	児童生徒数 439人	学級数 18学級	

体制図



活動の概要・経緯
平成25年4月から、荒尾第一小学校ではコミュニティ・スクールをスタート。当時、子供たちの社会性の欠如や生徒指導上の諸問題を抱える中、学校運営協議会において学校と地域が一体となって子供の健全育成に向けた熟議が何度も繰り返されていた。そのような中、平成17年度に発足していた「元気づくり委員会」は一大イベントである「音と光の祭典」を毎年実施していた。本校の子供たちも毎年ステージ発表という形で「参加」していたが、運営協議会のメンバーでもある元気づくり委員会関係者から、「企画・準備段階から運営まで一緒に取り組ませてはどうか。」という提案があった。「子供の学びにつながる活動（主体性を育て、地域の一員としての自覚形成や貢献意識の向上）」であり、「地域としてもプラスになる活動」となるものであった。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・一小校区元気づくり委員会が行う、地域の一大イベント「音と光の祭典（辛亥革命を起こした孫文と交流のあった宮崎滔天の生家を舞台に、音楽や竹灯りの融合をテーマに掲げ、地域住民の手作りではあるが非常にクオリティの高いイベント）」に、子供たちをお客さんとして「参加」させるのではなく、企画段階から「参画」させ、地域と学校、子供たちが共に作り上げていること
- ・子供自身が課題を発見し、その解決策を話し合い、それらを企画に反映させていくことで、主体的な学びにつながっていること
- ・地域の人と同じ目的に向かって仕事を行うことは、家族以外の大人とのコミュニケーションスキル及び地域貢献の意識が高められるとともに、子供たちの自己有用感の獲得につながり、郷土に対する愛着が育てられていること
- ・子供たちが作業に加わることで、地域住民の労力軽減とともに、保護者がイベントに来場する機会となること（来場者数の増加）

【実施に当たっての工夫】

- ・総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、イベントの準備、実施、振り返りを含めた反省までを含め込んだこと
- ・事前の打ち合わせ、前日までの道具づくり（灯籠作成等）、会場設営（のぼり旗設置、道具運搬、灯籠設置等）、当日の運営（受付、イベントのMC、会場案内、出演者接待、マルシェ＜駄菓子・金魚すくい等＞、事後の振り返りまでを確実にやったこと
- ・本イベントが土曜日に開催されることから、授業日に設定するなど市教委とも連携・協働を図ったこと
- ・元気づくり委員会において、子供たちをどのように受け入れるのか何度も話し合いを持つことで共通理解を図ったこと
- ・子供たちには、本イベントの目的や内容を理解させるだけでなく、疑問や不安について話し合いの機会を持ち、解決してきたこと
- ・学校及び学校運営協議会においても、これらの取組へのサポート体制を図るために、運営協議会の組織と学校の組織を揃えて熟議を重ねていること



地域のために裏方として作業に取り組む様子

● 事業を実施しての効果・成果

- ・参画意識を持たせたことで、自ら考え行動する子供たちの姿に対して、地域住民からの高評価を得ることができた。そのことで、子供たちは地域貢献の手応えを感じ、自己有用感を高めただけでなく、地域住民との繋がりが深まり社会性が身に付いてきた。
- ・地域から、本校のコミュニティ・スクールとしての成果及び子供たちの姿が認識され、5年生は「地域の文化祭運営」、4年生は「自発的な地域清掃活動」といった地域貢献への要請及び協力が増えてきた。
- ・子供たちが参画したことで、家族も関心を高め本イベントの来場者増に寄与している。
- ・活動を通して、地域の方との交流を大切に感じた子供が増えている。
- ・新たなプロジェクトが運営協議会から提案され、他の学年にも地域貢献や震災復興への取組が広がっている。



参画意識を持った子供たちと主催者による事前の話し合いの様子

こんな活動です

支え、見守り、育てる、地域の力 「われら人よし 生き域 学校応援団」

熊本県人吉市

活動名

人吉市学校支援地域本部事業

関係する学校名

第二中学校、人吉西小学校、西瀬小学校、中原小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	0人	2人	278人	有	20年度	有	無	無
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				

体制図



活動の概要
本事業は、平成20年度に国の委託事業として立ち上がった。平成23年度からは県の補助事業として継続し、本年度で9年目を迎えている。学校支援地域本部を教育委員会、中央公民館（地域住民の生涯学習の視点から）、学校支援推進協議会（各団体等の代表者）で組織している。事業推進の中心主体である学校支援推進協議会には、これまでPTA・老人会等で行ってきた学校支援活動を大切に、共同支援体制を構築するため、その代表者も協議会委員として参入してもらった。現在は、学校教育活動の要請に基づく新しい領域の支援活動も活発化し、教科指導・学力充実・体験活動・農業生産活動・伝統文化継承・環境整備・安全見守り・部活動等、幅広い支援活動を展開中である。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 支援を主体的・継続的な活動として定着させるため、ボランティアのグループ化を進めている。現在、「安全確保」、「読み聞かせ」、「学力充実」などのグループがある。
- 既存の支援活動の関係団体と学校支援ボランティアとの共同支援（伝統芸能保存会、市環境課、農業委員会、地域協力者等）を積極的に進めている。
- 支援活動を広く知ってもらい、支援の輪を広げるため、支援活動の様子等を記載した学校支援だより「もやい」を年2回発行し、広報に努めている。
- 年に1回、ボランティア・学校関係者・保護者・その他地域住民等が会し「ボランティアの集い」を開催している。成果等を確認し、次につなげていくこととともに、学校支援活動を通して地域の横のつながり（コミュニティ）づくりを目的としている。

【実施に当たっての工夫】

- 学校支援ボランティアは登録制であり、登録時に提出する「登録申込書」には、自分ができる支援項目を記入してもらっている。これをもとに、地域コーディネーターが学校の支援要請内容に対応できるボランティアに依頼する形をとっている。
- 各学校に学校支援担当を置き、地域コーディネーターとの連絡調整を行っている。学校の支援要請は担当が電話するだけでなく、正確性を期するため、学校支援要請カード（SSカード）でコーディネーターへ依頼することとしている。

● 事業を実施しての効果・成果

本事業開始から9年目を迎え、学校支援活動は完全に定着したと言える。この間のボランティアの活動参加状況は、毎年のべ1000名を越えている。これは、ボランティア個々の熱意とともに、地域の中で子供を見守り育てるという意識・環境の広がりから起因しているものと思われる。また、学校支援活動は教育効果の高まりと共に教師・子供たちからの感謝の声も多く、ボランティア自身もボランティア同士の交流や子供たちとのふれあい、さらには感謝の言葉をもらい、支援の喜びや自己有用感を味わうことができている。さらに、子供の感謝の言葉には「僕は大きくなってから、人のためにできることをやりたいです。」とあり、副次的にボランティア自身の活動そのものが子供たちに社会の形成者としての資質や社会性を醸成していると言える。

● その他

学校の学力充実の時間、ピックアップした個別指導が必要な児童を、ボランティア（教職免許所有者中心）が丸付けをしながら指導する。



小学校生活科「昔遊び」支援（あやとり）の様子



中学校「読み聞かせ」支援の様子

こんな活動です

学校・家庭・地域が一体となり、「田島っ子」の健やかな成長を目指して

熊本県菊池市

活動名

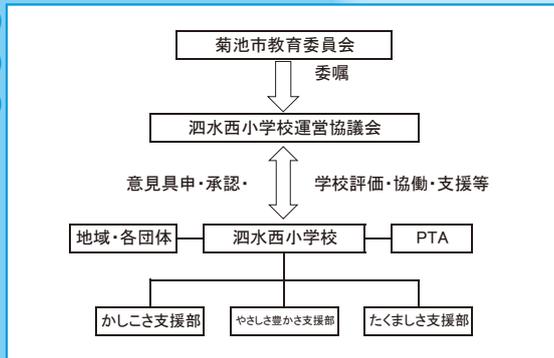
泗水西小学校運営協議会

関係する学校名

泗水西小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所		学習支援			放課後児童クラブとの連携				
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		
	平成 20 年 4 月 1 日					12 人	91 人	7 学級		

体制図



活動の概要・経緯
 本校は、創立 140 年の歴史と輝かしい伝統をもち、また、地域（田島地区）の方々から、創立当初から学校の教育活動及び PTA 活動に積極的に支援・協力いただいている。現校舎の完成後、地域の方が校地に植木等がないということで、学校のため、子供のために、地域の全戸数から米を出してもらい、それをお金に換えて植木代とし、「友情の森」（S61 完成）を整地した経緯もある。コミュニティ・スクールについては、平成 20 年から菊池市の指定を受け、現在に至っている。学校・家庭・地域が一体となり、地域の宝「田島っ子」の健やかな成長を願い、よりよい学校を作り上げていくように取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 本校のコミュニティ・スクールの組織（部と班）は、次のとおりである。
- (1) かしこさ支援部・・・学習支援班（読み聞かせと学習支援ボランティア）、農業体験・食育班（梅干し・梅ジュース作り、米作り、JA 田島青壮年部による「食」の授業）、伝統芸能伝承班（しめ縄作り）
 - (2) やさしさ・豊かさ支援部・・・地域交流学習班（保育園、高齢者介護施設、身障者介護施設との交流）、環境保全活動班（資源回収、リサイクル活動協力）
 - (3) たくましさ支援部・・・体力向上班（運動会協力、部活動支援）、安全活動班（登下校見守り、交通安全教室協力）、スポーツ交流班（老人会とのグラウンドゴルフ大会）

校区内には、様々な人・物・行事等があり、小さい時からいろいろな場でいろいろな方といろいろな活動や体験学習を経験することができ、とても恵まれている。

【実施に当たっての工夫】

年度当初に、コミュニティ・スクール懇談会を開催し、学校側と保護者や区長会、老人会等地域住民の代表、各施設長、各種団体、ゲスト・ティーチャー、支援ボランティア等の方々を集まっていただき、本年度の年間計画等を班別に協議し、その年の方向性を打ち出すようにしている。

本校の活動については、保護者や祖父母との関わりのみならず、校区内の様々な保育園等の施設や区長会等の各団体、地域住民、ボランティアの方々から支援し協力していただいている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・保護者や地域住民にゲスト・ティーチャー、学習支援ボランティアなどの教育支援ボランティアとして参加してもらった。その結果、児童に細やかな指導が行き届き、わかる喜びや学ぶ楽しさを感じ取ることができた。
- ・酪農など地域産業の教材化や地域産業に関する人材の発掘が行われ、生活科や総合的な学習の時間における体験学習の内容が充実してきた。
- ・読み聞かせボランティアによる取組が継続して行われ、児童にとって楽しい時間となり読書への興味関心を高めることができた。
- ・食育、環境教育、キャリア教育、福祉教育等いろいろな視点から学ぶことができた。
- ・学習支援活動やボランティア等に関わっていただく方々からもやりがいを持って楽しく取り組めるという声も聞く。



JA 田島青壮年部による「食」の授業（低学年）



しめ縄作り

こんな活動です

教室から飛び出そう！見て、触って、作る、生活の知恵体験中。

大分県国東市

活動名

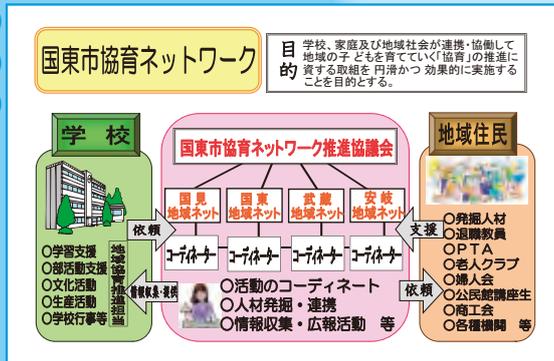
安岐地域ネットワーク

関係する学校名

安岐中学校 安岐小学校 安岐中央小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 55人	学習支援 無	開始年度 23年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 20人	年間開催日数 40日	開始年度 23年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
		実施場所 学校余裕教室		学習支援 有		放課後児童クラブとの連携 連携型			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 4人	学習支援 有	開始年度 26年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
コミュニティ・スクール	指定日 平成27年4月1日					委員数 36人	児童生徒数 658人	学級数 23学級	

体制図



活動の概要 子供は家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨くという学校・家庭・地域の共通理解の下、平成23年度より国東市協育ネットワーク推進協議会を設置し、三者が連携・協働して協育する体制づくりを推進している。市内を四つのブロック（中学校区）に分け、地域の特色を生かした教育支援活動を展開している。今回紹介する「安岐地域ネットワーク」（以下：安岐地域ネット）では、保護者や地域住民の精力的な協力により、年間を通して継続的な活動が実施できている。また、子供たちの体験学習不足解消のためフィールドワークも実施している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

安岐地域ネットの特徴として、保護者や地域住民による「読み聞かせ」活動があげられる。小中学生を対象に年間延べ約900名の支援者による「読み聞かせ」活動は市内でも最も組織的な活動である。小学生を対象にした「読み聞かせ」では、学年ごとに絵本を選定し、美しい日本語で表現される言葉を子供たちに伝え、中学生を対象にした場合は「読み語り」のように作者や読み手の気持ちが伝わるような表現になるよう支援者の方も工夫を凝らしている。また、「読み聞かせ」の舞台となる背景について（今回は森をテーマに写真で紹介している。）、実際に自らが赴いてその雰囲気を感じられるよう教室から離れ、自然の中で学習できるようなプランも実施している。

【実施に当たっての工夫】

安岐地域ネットでは、トータル的な学習コーディネートを図るため学校支援活動の他に、小学生を対象にした放課後チャレンジ教室（学習支援、体験活動）や中学生を対象にした土曜日教室（数学・英語）、さらに保護者、地域住民、学校関係者を対象にした家庭教育講演会も実施している。

特に土曜日教室では、中学1年生を対象にすることで、学習のつまづきを早期に発見でき、基礎基本の定着につながるような指導を心がけている。また、体験学習においては、各種企業に協力要請することで普段では経験できない貴重な体験が出来るよう工夫している。

● 事業を実施しての効果・成果

保護者や地域住民、企業関係者が指導者となることで、子供たちも新鮮な気分で学習でき、また他校との交流を通してコミュニケーション能力も向上している。子供たちの身近な「大人」がかかわることで、「いつものおじさんは実は〇〇の先生だったのか！」地元の企業協力では、「この会社は世界的に活躍しているのか！」など自分たちの郷土に対する見つけ直しや郷土愛や誇りを涵養できている。指導者側としては、自らが培った技術や生涯学習の成果が子供たちの学習に繋がり、生き活きと活動する姿を見ることで、元気をもらい今後の活動の原動力になっている。

● その他

【協力企業：九電みらい財団】【内容：くじゅう九電の森でのフィールドワーク。森林の管理、生態系保全の大切さを学ぶ環境学習を実施。】



広大な森の中で学習中



間伐後、森に光が入りました

こんな活動です

「真玉きらきらコミュニティ」 -地域の“応援団”を味方にして-

活動名

関係する学校名

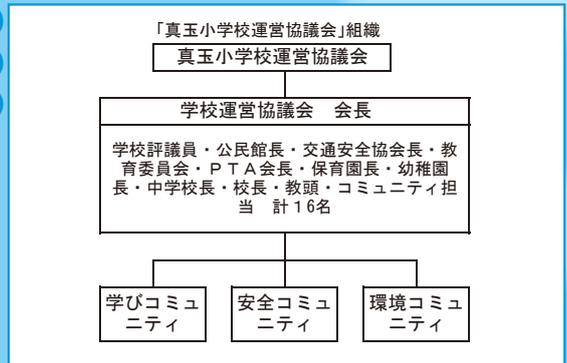
大分県豊後高田市

「真玉きらきらコミュニティ」
-地域の“応援団”を味方にして-

真玉小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 58人	学習支援 有	開始年度 20年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 50人	学習支援 有	開始年度 17年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
コミュニティ・スクール	指定日 平成26年4月1日					委員数 16人	児童生徒数 88人	学級数 7学級	

体制図



活動の概要
 「真玉きらきらコミュニティ」は、平成26年度にコミュニティスクールとして指定を受け、地域を、強力な応援団にして活動を続けている。委員は、自治委員会代表、公民館長、交通安全協会分会長、読み聞かせの会代表、幼稚園長、保育園長、校区中学校長、保護者、市教委指導主事、校長、教頭、コミュニティ担当の16名で構成している。また、全体を次のように3つの部で構成している。
 「学びコミュニティ」・・・地域の方々のサポートにより、授業の質や学習への興味・関心を高めて学力向上をめざす
 「安全コミュニティ」・・・校区全体で、児童が安全に登下校できる安心な校区づくりをめざす
 「環境コミュニティ」・・・環境整備や美化活動を行い、潤いのある生活や教育環境づくりを行う
 ○それぞれの部で、地域の方や保護者、学校が、子供を育てる際の目標を持ち、活動に取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「学びコミュニティ」では、授業の中での学習サポーター、読み聞かせや夏季休業中の補充学習のサポーターなどで、多くの方が参加してくれている。特に、総合的な学習の時間には、地域を知り、地域を愛する子供を育てるために、児童が地域に出かけると共に、サポーターの方もたくさん来校して下さっている。1年間では、のべ200人ほどである。「安全コミュニティ」では、見守りのおかげで、児童が安心して登下校できている。さらに、「環境コミュニティ」では、「花いっぱい」の活動で、種まきを地域の方とし、苗を植えたプランターを地域の数力所に置いていただく活動もした。

○このように、地域と密着した活動で、理解と支援をいただいている。

【実施に当たっての工夫】

○活動の様子を、学校だよりを配布したり地域の各所に掲示したり、HPで地域の方にお知らせしたりしている。また、活動（学習）後には、お礼の手紙を差し上げたり学習のまとめを発表したりして、つながりを持つようにしている。

○月1回の学校公開日の案内を地域の方にも配布し、来校していただき、授業の中での子供の様子を参観してもらったり、学校の環境について意見をいただいたりして、日頃から、つながりをもつようにしている。

○地域支援本部のコーディネーターと連携・協働し、サポーター登録の状況について、連絡を取り合うようにしている。



育てた花を地域に

● 事業を実施しての効果・成果

○体験活動を通して、多くの地域の方との触れ合うことができ、地域の方の知恵や工夫、地域を愛する心に触れることができました。さらに、それらのお陰で、登下校の子供からの挨拶や声かけがスムーズにできるようになって、活動後のつながりができている。また、児童の学びが、地域の方々の喜びにもなっている。

○特に、総合的な学習の時間の「地域を知る活動」「真玉の名人探しの活動」は、探求的で活用力をつける内容になったために、県学力定着状況調査や全国学力・学習状況調査における活用の問題に対応する力の伸びがみえてきた。

○地域の方々は、子供たちを常に見守ってくださり、「学校の応援団」であることを再認識した。今後も、応援団を味方できるように連携・協働して取組を進めていきたい。

● その他

○夏季休業中の補充学習の際に、3年生以上に学習サポーターとして入ってもらっている。



夏休み中の補充学習

こんな活動です

体験活動や交流活動を核とした放課後子供教室！

宮崎県都城市

活動名

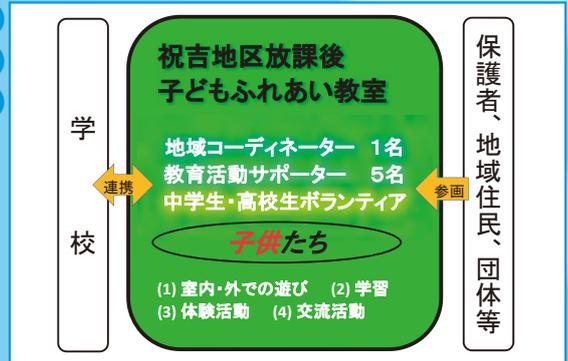
祝吉地区子どもふれあい教室

関係する学校名

祝吉小学校、川東小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	30人	73日	19年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		都城市郡元1丁目1番地4		有	連携なし					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動概要 祝吉地区子どもふれあい教室は、平成19年度から、子供の放課後、週末等における安全・安心な活動拠点を都城市の祝吉地区公民館内に設け、勉強、スポーツ・文化活動及び地域住民との交流活動等の遊びを通して、創造性豊かな人間性を育むとともに、地域で子供を育てる環境づくりを推進している。

経緯 平成27年度は、地域コーディネーター1名、教育活動サポーター5名の計6名で、51名の子供たちを受け入れ、隔週火曜日・毎週水曜日・毎月第1土曜日に教室を開催している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 学習支援、スポーツ等に加え、特に体験活動及び地域住民との交流活動を中心とした取組
- ・室内・外での遊び： なわとび、ボール運動、ミニ運動会、レクリエーション等
- ・学習： 宿題・宅学習支援
- ・体験活動： 料理、花作り、稲の栽培・観察、自然体験、創作活動、干し柿作り、紙すき、押し花、紙・竹細工、凧作り、リース作り等
- ・交流活動： 地域行事への参加、グラウンドゴルフ、お年寄りとの交流等
- ・その他： 季節の行事、昔の遊び、手芸、読み聞かせ、映画祭参加

【実施に当たっての工夫】

- 事業の実施に当たって、次のようなことに留意している。また、広報誌『「祝吉地区子どもふれあい教室」だより』を定期的に発行している。(平成27年度は、No.1～No.27)
- ・各関係機関・団体等との連携・協力(ボランティアとして近隣中学生や高校生も参加している)
- ・可能な限り、地域等の各種行事等への参加
- ・スタッフ会議の実施(毎月1回)
- ・保護者の協力(年1回以上は活動に参加)
- ・年1回の「大自然の中で遊ぼう」では、近隣の施設6カ所を交代で訪問

● 事業を実施しての効果・成果

小学校1年生から6年生までの子供たちが一緒になって学び、遊ぶことで、創造性豊かな人間性が育まれていく。また、各関係機関・団体との連携・協力による様々な体験活動・交流活動を通して、地域で子どもを育てる環境が整っている。

※以下、『「子どもふれあい教室」の思い出』と題して、子供たちが書いた作文より抜粋

「みんなでしゅくだいがおわったあと、木のぼりやなわとびをしたことが、とてもたのしかったです。ならいごとで、さんかできないときもありましたが、さんかできたときは、とてもたのしかったです。」(祝吉小学校 2年生)



苗から育てたさつまいもの収穫



たこを作って遊ぼう

こんな活動です

子どもの元気が地域の元気に！地域総ぐるみによる放課後子供教室支援

宮崎県日向市

活動名

魚っ子クラブ放課後子ども教室

関係する学校名

細島小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	0人	18人	193日	23年度	有	無	無
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	余裕教室、図書室、体育館、校庭		有		連携なし				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図

HOSOSHIMAまちづくり協議会

- ・ 青少年育成部会
- ・ 生活環境部会
- ・ 福祉・健康部会
- ・ 地域活性化部会
- ・ 公民館活動部会

— 放課後子ども教室「魚っ子クラブ」の受託・運営
— 魚っ子クラブ放課後子ども教室指導者会

- 活動の概要・経緯**
- ・ 平成 23 年度より、子供の放課後等における安心・安全な活動拠点として活動を開始した。
 - ・ 運営の主体は地域住民によって組織される HOSOSHIMA まちづくり協議会である。
 - ・ 教育活動サポーターによる学習支援（自主学習等の支援）
 - ・ 地域住民による伝統芸能の指導
 - ・ 教育活動サポーター手作りによる七夕飾り作り、クリスマス会、豆まきなど毎月時候にあった活動をしている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・ まちづくり協議会における公民館活動部会が中心となって運営しており、区長会、PTA、学校関係者、民生委員などがその構成員として活動している。その活動の一つとして魚っ子クラブ放課後子ども教室がある。
- ・ まず自主学習をするという習慣を付けさせており、答え合わせや簡易な指導をしている。特に国語は、辞書を引かせるなど自ら調べる習慣を付けさせている。
- ・ 伝統行事である「細島みなと祭り」において、子供教室の児童を含めた地域の子供による「太鼓台」を出しており、その練習に地域の方に参加いただくなど子供への指導をとおして、伝統芸能の継承に努める活動を行っている。
- ・ 当地域が海沿いにあり、津波の危険性もあるため、教育活動サポーターの指導による子供教室独自の避難訓練を実施している。また、細島地区全体の子供たちだけの避難訓練にも取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

- ・ まちづくり協議会と連携・協働を図っており、子供の様々な地域活動への参加について支援をいただいている。併せて、予算面での支援をいただき、活動の充実に努めている。
- ・ 毎月 1 回定期的に開催している地域活動サポーターの会議において、学校での様子を聞くと同時に、子供教室での様子を学校側に伝えることにより情報の共有とともに連携・協働を図っている。
- ・ 実施場所が小学校であるため、学校の協力を得て、体育館や図書室を利用し、有意義な活動を展開できている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ 子供たちの顔を覚え、表情から異変に気付くことを目的に地域住民による登下校時の見守り・あいさつ運動に取り組むなど、地域学校協働答申にもある学校と地域・家庭との連携・協働の取組が図られ、まさに「地域の子は地域で育てる」という住民の意識が醸成された。
- ・ 魚っ子クラブに参加して、いろいろな体験や活動ができて楽しい。(児童の感想より)
- ・ 自主学習、外遊びの奨励、学習習慣の定着化、体力づくりの推進に貢献いただき、学校を助けていただいている。(教職員の感想より)



避難訓練の様子



学習支援の様子

地域の歴史を大切に！観光地ならではの学校支援活動

宮崎県日南市

活動名

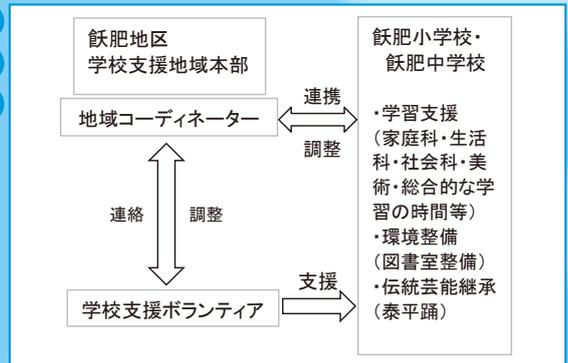
飫肥地区学校支援地域本部

関係する学校名

飫肥小学校、飫肥中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 48人	学習支援 無	開始年度 22年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要 飫肥地区学校支援地域本部は、教員が子供と向き合う時間の拡充と、地域の子供は地域で育てるといった地域教育力の活性化を図るために、平成22年度に日南市で初めて中学校に設置された本部であり、平成24年度からは小学校にも活動を広げている。

支援内容は、郷土芸能指導、家庭科、美術科、図書室支援等多岐にわたっており、質の高い支援活動が行われている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

(郷土芸能 泰平踊指導支援)

地元の保存会を中心に、小学6年生が運動会や地域のまつりで披露する泰平踊の指導をしている。伝統芸能の継承として学校支援ボランティアがこれまで培ってきた経験を子供達へ伝える活動となっている。

(観光ボランティアガイド体験) ※中学生

日南市の観光地である飫肥に学校があるという好条件を生かし、地区在住の観光ボランティアの方を講師に、自分達の住んでいる町の歴史や文化財について学習し、実際に観光客へガイドをする。飫肥出身の明治の外交官小村寿太郎のように「誠」の信念でのガイド・対応で観光客にも好評である。この経験を踏まえ、普段よく目にしてはいる風景やよく知っているはずの町のよさを再発見する。

【実施に当たっての工夫】

- 学校支援地域本部事業に対する理解を得るために、年度初めに学校側へ説明を行なっている。
- 学校支援ボランティアが入る授業については、学校側から必ず「ボランティア・講師依頼書」を提出してもらい、その依頼書を基に地域コーディネーターと教員が打合せをする。
- 地域コーディネーターは地域在住の教職員OBということもあり、地域だけでなく学校のこともよく知っているため、コーディネートしやすい環境である。

● 事業を実施しての効果・成果

- 地域の方が積極的に参画し、地域資源・地域人材を生かすことで、地域の歴史や伝統を子供達に継承できている。
- 子供達も地域の方と交流することができ、社会性やコミュニケーション能力が育まれている。
- 学校支援ボランティアもいろいろな場面で支援に入り子供達とふれあう事で「元気をもらった。」「子供達と接するのが楽しみだ。」などの意見があり、地域住民の生きがいや自己実現が図られている。



「泰平踊」の指導の様子 (小学校)



観光ガイドボランティア体験 (中学校)

こんな活動です

地域住民や企業などの多様な主体が参画する学校支援活動

活動名

学校支援ボランティア事業
八幡小学校

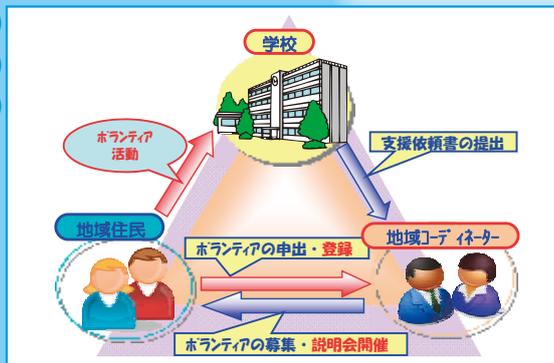
関係する学校名

八幡小学校

鹿児島県鹿児島市

基本データ	学校支援活動	統計コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 98人	学習支援 有	開始年度 23年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	地域未来塾	統計コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統計コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統計コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

体制図



活動の概要・経緯

- 鹿児島市では、地域住民の知識・技能・経験を子供たちのために役立たせたいという熱い思いを生かし、組織的・計画的に学校教育活動を支援してもらうために、「学校支援ボランティア事業」を実施している。
- 地域住民だけでなく、保護者や大学生もボランティア登録をしたり、事業所職員、青色パトロール隊員の協力など、多様な主体の参画が、地域の活性化に大きな役割を果たしている。
- 学校からの様々なニーズに対応できるボランティア人材の発掘や効果的な活用が、地域住民の学校教育活動に対する関心を高めている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 「日本語の理解が十分でないため、個別の学習支援を依頼したい」という外国人児童の保護者の声を受け、話し相手になったり、一緒に学習活動を行ったりしている。
- 事業所職員の交通量の多い道路横断のための見守り活動や、青色パトロール隊員の下校時の見回りや声かけ活動など、通学路の安全確保に向けた取組が充実している。
- 特別支援学級における図工、体育、音楽等の実技を伴う活動では、安全面に配慮した学習支援が展開されている。また、特別な支援を要する子供が安心・安全に生活するための昼休みの見守り活動などにより、子供たちの交流活動が充実している。
- 学校図書館における本の修理、図書の整理や学級での読み聞かせが充実し、読書活動の推進につながっている。

【実施に当たっての工夫】

- 学校支援ボランティア担当職員を位置けるとともに、年度初めに、地域コーディネーターが学校職員に対して本事業の趣旨説明を行うことにより、本事業が円滑に推進されている。
- 大判ポスターの作成・掲示や校区社会福祉協議会広報紙での活動紹介、地域教育協議会での説明等、大学を含む地域への広報活動を積極的に行うことにより、学校と地域が一体的となった取組が推進されている。
- ボランティア同士の活動後の情報交換や、子供の感想などを掲載した学校支援ボランティアだよりの配布などにより、学校と活動者の本事業に対する相互理解が深まっている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 本事業の趣旨や実施方法等への理解が深まり、教職員が子供と向き合う時間の確保や地域の教育力の向上、地域の活性化につながっている。
- 八幡校区コミュニティ協議会活動に、地域コーディネーターと協議会委員とで組織する「地域教育協議会」を位置付けることにより、本事業の推進への理解と啓発に効果を上げている。
- 子供の安心・安全につながる活動が、ボランティアの方々への参加意欲を高めたり、高齢者の学校行事等への参加につながったりしている。



学習支援（生活科）



昼休みの見守り活動

地域全体で子供を守り育てる環境づくり

鹿児島県垂水市

活動名

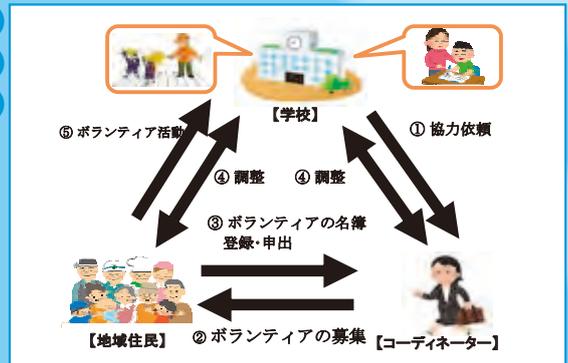
たるみず学校応援団

関係する学校名

垂水中央中学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	3人	27人	有	24年度	無	無	無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



活動の概要 平成22年4月、4つの中学校が統合して垂水中央中学校として開校し、市内全域が一つの校区になった。それまであまり交流がなかった児童・保護者・地域の人々の交流を図り、地域の学校としての意識を高めるため、たるみず学校応援団の活動を開始した。

【主な活動】

- 1 校門・玄関でのあいさつ運動
- 2 通学バス添乗
- 3 花苗の植替え
- 4 放課後学習支援、夏休み学習支援
- 5 行事の手伝い
- 6 授業支援
- 7 部活動支援

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 1 通学バスへの添乗
北は牛根地区～南は新城地区まで校区が広域化しており、通学バスは4つの路線に分かれている。毎月一回二人ずつバスに乗車し、生徒へのあいさつを中心に声をかけている。
- 2 放課後学習支援、夏休み学習支援
職員会議や研修がある時間や夏休みに、学習に自信の持てない生徒や希望する生徒たちと一緒に学習に取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

- 1 バス添乗の日にちを決めているため、ボランティアの方々には自分が添乗する日が前もって分かるようになっている。
(毎月第二月曜日) 添乗10日前には、バス会社、中学校、ボランティアの方々に依頼文が届くように計画的に実施。
早朝6時半の乗車であるため、二人一組で添乗としている。念のため、2～3日前にはコーディネーターから再度連絡を入れるようにしている。実施後に、感想・意見等を提出していただき、必要な場合には学校へ申し送りしている。
- 2 夏休みの学習支援では不登校気味の生徒や、学習面で不安を持っている子供に声をかけて、一日に2時間程度一緒に学習をしている。

● 事業を実施しての効果・成果

どの活動でも、生徒たちの中に、ボランティアの方々が入っているのが嬉しい。バス添乗での声かけにより、子供たちのあいさつもとてもよくなってきている。また、生徒たちからの「おはようございます。」の声に、ボランティアの方々も元気をもらっているとのことで、相互に応援し合う状況となっている。

放課後学習では、教職員OBの方々だけではなく、一般の方々にもお手伝いをいただいている。短い時間ではあるが、大人も生徒も一生懸命学習に取り組んでいる。一人一人と密に関わってもらえるので生徒たちもしっかり理解できるようになった。

夏休みの学習では、不登校気味の生徒を中心に声をかけて一緒に学習しているが、それ以外にも学習面で不安がある生徒も参加している。この学習会に参加するようになり、少しずつ登校できるようになった生徒も出てきた。

国語の俳句の授業では、外部講師が技術的な面も具体的に指導することによって、子供たちが興味を持って積極的に俳句作りに取り組んでいた。

● その他

放課後の補充学習、長期休業中の学習会、家庭科ミシンの扱い方支援、国語の俳句作り



夏休みの学習支援



通学バスへの支援

こんな活動です

学校支援ボランティアの活用による地域の伝統芸能活動の継承

活動名

かのや学校応援団
吾平地域学校支援本部

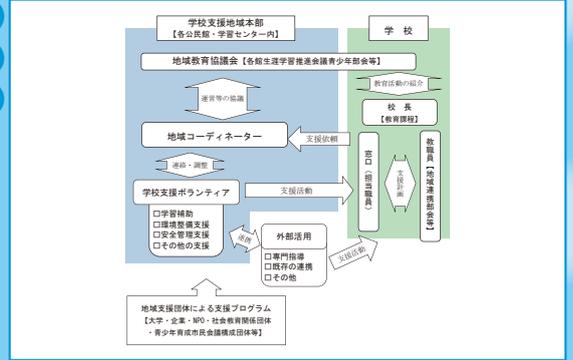
関係する学校名

吾平小学校

鹿児島県鹿屋市

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数 1人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 228人	学習支援 有	開始年度 23年度	国庫補助 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援			放課後児童クラブとの連携		
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要・経緯
約250年前から途切れることなく伝承されてきた「八月踊り」だが、高齢化に伴い踊りや音の継承が難しくなってきた。そのため、有志により保存会を立ち上げ、音の明確化（楽譜におこす）の作業や、踊り・唄などを伝承する活動が始まった。また、中央町地区子ども会育成会での伝承活動が展開され、郷土の伝統芸能を次世代へ引き継ぐ活動が行われるなか、学校のニーズと地域の思いが一致し平成23年度より協働体制が生まれ実施され、今年度で5年目を迎える取組である。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

学校からの吾平地域の伝統芸能を子供たちに体験させたい、保存会の方々の次世代に継承したいとする思いから、平成23年度より実施され今年度で5年目を迎える取組である。後継者不足に悩む伝統芸能において、特定の地域の子供だけでなく学校全体を通じて継承することで、広く知ってもらえることができる。

今後、連携・協働が広くなり、子ども会や地域の女性連等の社会教育関係団体との連携・協働も構想している。多くの地域住民の有志が子供たちのためにだけでなく、多くの住民が地域のコミュニケーションの場とあることが期待される。

【実施に当たっての工夫】

吾平町八月踊り保存会の方々の協力を得て、毎回実際の踊り手・唄い手・太鼓・三味線奏者の方々の協力のもと、八月踊り子ども会で活躍している子供たちにも踊り手（指導者）として指導していただいている。また踊りの継承を通して、八月踊りに関わる歴史の学習機会を設けている。また、年代の違う方々とのふれあいを通してコミュニケーション能力の育成にも力をいれ、基本的な「あいさつ」や「目上の方を敬う」など、地域の生活文化を大切に指導をいただいている。

● 事業を実施しての効果・成果

事業を実施する前は、伝承活動を行っている地域の子供しか知らなかった事を学校で継続して実施する事により、より多くの子供たちに伝統芸能の良さを知ってもらうことが出来た。また、興味を持つ子供が増え、結果的に奏者や踊り手などの確保にも繋がっている。平成26年度からは吾平町で伝統芸能祭が催され、大勢の前で披露する事により自分たちの生まれ育った町に残るものに対する誇りと、絶やしてはならないという強い責任感が生まれた。生涯学習の観点からも、異世代間の交流を通して学び伝えることの楽しさや、高齢者の活躍の場が広がり子供たちと地域住民との絆も広がっている。

● その他

NPO等：大隅広域公園・始良川河川愛護会・小鹿酒造(株)・倉岡建設・吾平町文化協会・Aコープ吾平店・NPO法人緑のカーテンプロジェクト九州・JICA デスク鹿児島

内容：河川見学・町たんけん・ソーイング・伝統芸能体験・さつまいもの苗植え・グリーンカーテン・楽器演奏・昔遊び・戦争体験・たこあげ・豆腐作り・そろばん・卒業生による学校自慢



運動会での披露にむけて



保存会 踊りの伝承

こんな活動です

地域の子は地域で育てる「室川っ子応援団」ひやみかち隊

沖縄県沖縄市

活動名

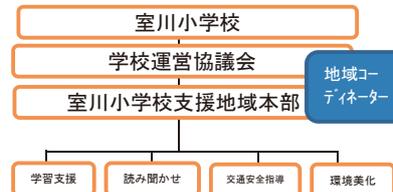
室川小学校支援地域本部

関係する学校名

室川小学校

基本データ	学校支援活動	●	地域コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 126人	学習支援 有	開始年度 21年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無	
	地域未来塾		地域コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 12人	子供の平均参加人数 117日	年間開催日数 23年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有	
	放課後子供教室	●	実施場所 室川小学校		学習支援 有	放課後児童クラブとの連携 連携なし					
	土曜日の教育活動		地域コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 12人	子供の平均参加人数 117日	年間開催日数 23年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有	
	コミュニティ・スクール	●	指定日 平成26年4月1日						委員数 10人	児童生徒数 294人	学級数 14学級
					指定日 平成26年4月1日	委員数 10人	児童生徒数 294人	学級数 14学級			

体制図



・総合的な学習

・家庭科支援

・平和学習

・丸付け

・収穫体験

活動の概要
 室川自治会をはじめとする本校地域の方々は、本校を「わったー学校」という意識で関わり、老人会、青年会、婦人会など多くの方々が積極的に学校教育へ協力し、子供たちを見守り育てている。平成21年度からは、学校支援地域本部事業として正式に地域コーディネータを配置した。学習支援や環境美化活動、登下校の安全支援、地域人材・教材の積極的な活用、各種講座を行っている。また、地域の方が学校での子供たちの様子を知り理解するために校長講話等にも積極的に参加している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・ 地域の方々は常に「学校に協力するのは当たり前」という意識をもって、学校の教育活動に協力して下さる。こうした方々を積極的に活用するために、地域の事情に精通した地域コーディネーターを配置し、適材適所での活動を依頼している。また、コミュニティ・スクールを推進し、地域の方々に学校運営委員会の中で意見を頂きながら、学校運営を進めている。具体的な活動としては子ども会と連携・協働した「根性ウォーク」毎年2月開催（室川小児童、教師、地域の方、保護者参加が200名以上参加し28年間実施している）
- ・ 室川青少年健全育成会と連携・協働し、ラジオ体操実施（30年の歴史があり、毎朝150人が参加している。）等行っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・ 日常的なボランティアの方との情報交換会。
 - ・ 自治会行事へ子供たちを積極的に参加させ、地域の人や老人会の方々と親しくする中で、自然に感謝の気持ちが育つようにしている。
 - ・ 元々ある「わったー学校」という地域の思いを生かすように学校をオープンにする。
 - ・ 地域コーディネーターが自治会の総会でのボランティア活動紹介、募集呼びかけ。
- こうした活動により学校と地域の方々が密接に協力し合えるだけでなく、子供たちも地域に対する誇りを持つことが出来るようになっている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ 本事業に関わることで保護者や地域ボランティアは学校の役に立つことができた実感すると同時に、子供たちへの声かけがしやすくなった。子供たちからの挨拶が増える等コミュニケーション能力が向上した。登下校の安全指導、校外学習の引率補助のおかげで児童が安全に学習を出来るようになった。大人の温かい眼差しが子供たちに伝わり、子供たちは地域の宝という接し方が、子供たちの情緒面を支え学ぶ意欲に繋がった。また、学校運営委員会の中で、学校の現状を理解していただく事で、地域の方々が学校と保護者を結びつける役割を果たしている。

● その他

- ・ 学校運営を含めて、地域の方々とさらに連携・協働を深めながら、地域に根ざした学校として、特色ある学校を目指す。



学習支援ボランティアによる丸付け



子ども会と連携・協働した「根性ウォーク」

沖縄県沖縄市

活動名

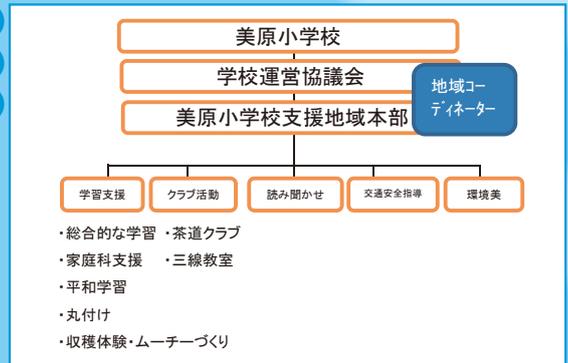
美原小学校支援地域本部

関係する学校名

美原小学校

基本データ	学校支援活動	●	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 123人	学習支援 有	開始年度 21年度	国庫補助 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無				
	地域未来塾		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携				
	放課後子供教室	●	統括コーディネーター数 0人	地域コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 25人	年間開催日数 147日	開始年度 21年度	国庫補助 有	ICT活用 0	企業・NPOとの連携 有				
	実施場所		美原小学校 クラブハウス		0		学習支援		放課後児童クラブとの連携					
	土曜日の教育活動		統括コーディネーター数		地域コーディネーター数		子供の平均参加人数		学習支援		開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール		指定日 平成 26 年 4 月 1 日				委員数 10人	児童生徒数 962人	学級数 34学級					

体制図



活動の概要・経緯
 平成 21 年度に学校支援地域本部事業スタートした。地域コーディネーターが学校と地域の連携・協働を図りながら活動を行っている。
 具体的な活動としては、毎朝の交通安全指導、登下校の安全パトロール、保護者や地域ボランティアによる丸付けや朝の読み聞かせ（毎週木曜日全学年、全学級）、環境美化活動等がある。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・地域のボランティアの方による平和講演会やクラブ活動（三線教室、茶道クラブ）指導を行なっている。また、思春期講座、命の授業など地域の助産師と地域コーディネーターが連携・協働しスムーズに授業に繋がっている。
- ・地域コーディネーターが中心となり保護者や地域ボランティアへ声をかけ、家庭科ミシン補助、丸付け、学生ボランティアによる学習支援等が行われている。

【実施に当たっての工夫】

- ・校内に地域との情報交換ができるよう、コーディネーターとボランティアの部屋（クラブハウス）を設置し、地域と学校が連携・協働しやすい環境を作っている。PTA や自治会など地域の組織とも連携・協働するために定期的に会合を開いている。
- ・読み聞かせでは月 1 回「おはなしのあさごはん」の便りを発行して地域ボランティアや保護者へ配布している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・月 1 回のボランティアの情報交換会や年 2 回の校外での交流会を通してコミュニケーションを図り、地域と学校の連携・協働体制が整った。
- ・朝の交通安全指導や安全パトロールにより、狭く交通量が多い道でも児童の安全安心な登下校が出来る。
- ・多くの地域ボランティアに参加してもらうことによって、児童が様々な体験をすることができ、児童の人間性を育成することに繋がっている。

● その他

これまで保護者、地域住民の個人による学校支援ボランティアの拡充が図られ、読書、安全面、学習支援、文化活動等の支援が充実してきている。今後は地域企業の協力も得て、防犯活動やキャリア教育・体験活動・体験学習等の面での支援充実を推進し、地域との連携・協働をさらに深めていきたい。



読み聞かせアトラクション



三線教室

参

考

资

料

「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰要項

平成23年3月2日
文部科学大臣決定
平成28年7月20日一部改正

1 趣 旨

この要項は、地域全体で次代を担う子供たちを育成するために、地域と学校が連携・協働し、社会総掛かりで地域の教育力の向上を図ることを目的に、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動（以下「地域学校協働活動」という。）のうち、その内容が他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学大臣が行う表彰に関して必要な事項を定めることとする。

2 表彰の対象

表彰は、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等の学校と地域が連携・協働して行う「学校支援活動」、「地域未来塾」、「放課後子供教室」及び「土曜日等の教育活動」等の地域学校協働活動並びに「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」での教育方針に基づいた地域学校協働活動等のうち、他の模範と認められるものに対して行うものとする。

なお、PTA活動として行われる地域学校協働活動については、別に定めるところにより表彰を行うものとし、本要項の対象とはしない。

〔表彰基準〕

組織、運営及び活動について、概ね以下に掲げる内容であること。

(1) 組織、運営

ア 地域や学校の実情や特色に応じた組織により、幅広い地域住民等の参画を得て、効果的な運営が行われていること。

イ 地域と学校が、目標を共有して運営が行われており、地域と学校の関係者の連携協力が円滑に行われていること。

(2) 活動

ア 学校や地域住民等との連絡・企画調整等を担うコーディネーターの調整のもと、地域住民等と学校が連携・協働し、学びによるまちづくり、

地域人材育成、郷土学習、学習支援、放課後子供教室、土曜日等の教育活動等、「地域学校協働活動」が活発かつ継続的に行われていること。

イ 多くの地域住民等の参画による地域や学校の実情や特色に応じた創意工夫のある多様な活動を展開していること等により、当該地域の教育環境の改善・充実に効果を上げていること。

3 推薦方法

(1) 推薦依頼

文部科学省は、都道府県、指定都市、中核市（以下「都道府県等」という。）に対し、上記表彰基準を満たす活動のうち、表彰するにふさわしいと判断するものについての推薦依頼を行うものとする。

(2) 都道府県等における推薦方法

都道府県等は次に定めるところにより、被表彰対象候補として、上記表彰基準を満たす「地域学校協働活動」を、文部科学大臣に推薦することができる。

なお、推薦に当たっては、別紙推薦書に推薦の理由等を記載し、文部科学大臣に提出するものとする。

〔都道府県等による推薦数〕

都道府県等は、選考の上、管内の上記表彰基準を満たす「地域学校協働活動」のうち、都道府県にあっては3件以内（ただし、特別区を含む東京都にあっては2件以内の推薦分をこれに加えることができる。）、指定都市にあっては2件以内、中核市にあっては1件を、それぞれの被表彰対象候補として推薦することができる。

なお、選考に当たっては、都道府県等に関係者からなる選考委員会を設け、その議を経るとともに、複数推薦する場合は、推薦順位を決定し、推薦書に明記した上で提出するものとする。

(3) 文部科学省における推薦

文部科学省は、上記表彰基準に基づく都道府県等からの推薦のほか、表彰するにふさわしいと判断する「地域学校協働活動」を、被表彰対象候補として審査の対象に加えることができる。

4 被表彰対象活動の審査及び決定

文部科学大臣は、上記推薦方法により推薦された「地域学校協働活動」について、学識経験者等の意見を聞いて審査を行い、被表彰対象活動を決定する。

5 受賞歴について

当該表彰の受賞は1回限りとする。ただし、他の表彰等の受賞歴は問わない。

6 表彰の期日等

文部科学省において別に定める。

7 表彰の取り消し

次に該当する場合は、表彰を取り消すことができる。

(1) 被表彰対象活動に関する推薦書に不実な記載があると判明したとき。

(2) 被表彰対象活動において、本表彰の趣旨を損なう行為があったとき。

8 本表彰にかかる事務

本表彰にかかる事務については、文部科学省初等中等教育局参事官付（学校運営支援担当）の協力を得て、文部科学省生涯学習政策局社会教育課において処理する。

附 則

1 この決定は、平成23年3月2日から実施し、平成23年度の表彰から適用する。

2 放課後子ども教室推進表彰要項（平成20年11月11日生涯学習政策局長決定）は、本要項の決定をもって廃止する。

新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた 学校と地域の連携・協働の在り方や今後の推進方策について(中教審答申)の概要

(H27.12.21)

背景

- 地域の教育力の低下や家庭教育の充実の必要性が指摘されており、**地域の教育力の充実**が必要
- 学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教職員のみならず**社会総掛かりで対応**する必要
- これからの厳しい時代を生き抜く力の育成、地域から信頼される学校づくり、社会的な教育基盤構築等の観点から、**学校と地域がパートナーとして連携・協働**するための組織的・継続的な仕組みが必要

主な課題

【コミュニティ・スクール】

- 現在2,389校(約6%)にとどまっており、**更なる推進の加速**が必要
- 元々、学校のガバナンス強化を目的に導入された制度であるが、**学校を応援する存在**とする必要
- 学校運営の責任者である**校長のリーダーシップ**をより一層発揮させる必要
- 教職員の任用に関する意見によって、人事が混乱するのではとの**懸念を払拭**する必要

【地域における学校との協働体制】

- 子供を育て、地域を創るため**地域の教育力を向上し、持続可能な地域社会**を創ることが必要
- 地域と学校が連携・協働して、**地域全体で子供たちの成長を支える活動の全国的な推進**が必要
- 従来の学校支援地域本部、放課後子供教室等の活動を**総合化・ネットワーク化**することが必要
- 地域住民や学校との連絡調整等を担う**コーディネート機能の強化**が必要

【両者の一体的推進】

- 両者の体制が、相互に補完し高め合う存在として、**両輪となって相乗効果を発揮**していくことが必要
- 学校や地域の実情、両者の有機的な接続の観点等を踏まえた体制の構築が重要

今後のコミュニティ・スクールの在り方について(中教審答申のポイント)

教育再生実行会議第6次提言(平成27年3月)

コミュニティ・スクールの**仕組みの必置**の検討

中央教育審議会答申(平成27年12月)

以下の制度面・運用面の改善とあわせ、教育委員会に学校運営協議会の**設置の努力義務**を課すといった総合的な方策により、コミュニティ・スクールを推進することを提言。

制度面の改善	現状	提言内容(見直しの方向性)
①学校を応援する役割の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関して協議し、意見を述べる役割のみ規定。 ・委員は、地域住民や保護者一般が規定されているのみ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の役割として、学校運営に加えて学校支援の企画・立案を行える仕組みに。 ・学校支援活動に携わる者(地域コーディネーター等)の委員としての参画を促進。
②校長のリーダーシップ発揮	<ul style="list-style-type: none"> ・委員は教育委員会の任命とされ、校長の関与は特段規定なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の任命に当たり、校長が意見申出を行えることとし、校長がリーダーシップを発揮できる仕組みに。
③任用に関する意見の柔軟化	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の任用に関する意見を任命権者に申し出ることができる他、特段の規律なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール導入の積極的な検討を促す観点から、柔軟な運用(※)を確保。 (※)柔軟な運用例:個人を特定しない形での意見に限定(「部活動経験が豊富な教員を配置して欲しい」等)
④複数校設置を可能に	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ごとに協議会を設置することとされ、複数校の協議会の委員の併任等に対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育等の学校間の円滑な接続を図る観点から、複数校について一の協議会設置を可能とする仕組みに。

参考資料

今後の地域における学校との協働体制の在り方について（中教審答申のポイント）

教育再生実行会議第6次提言（平成27年3月）

地域と相互に連携・協働した活動を展開するための抜本的な方策の推進が必要

中央教育審議会答申（平成27年12月）

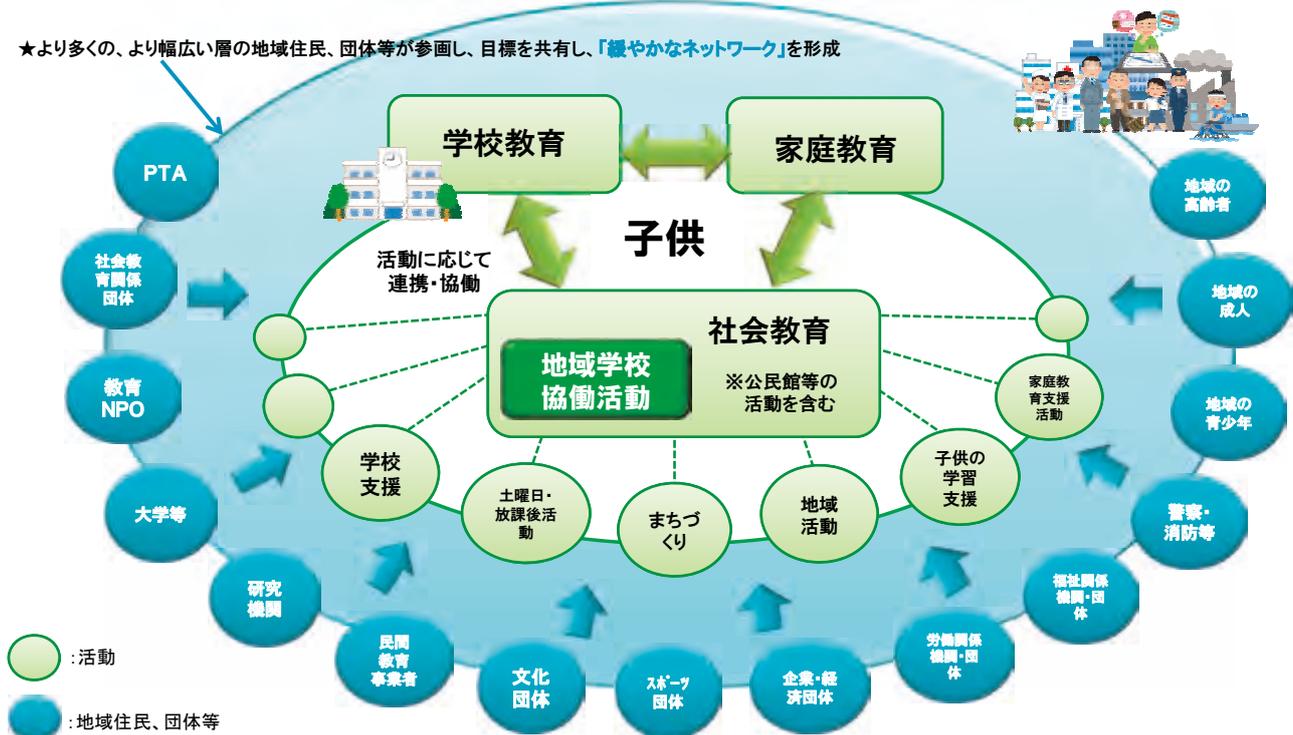
従来の学校支援地域本部、放課後子供教室等の活動を基盤に、「**地域学校協働本部**」を全ての地域に整備し、地域全体で学び合い未来を担う子供たちの成長を支える活動（**地域学校協働活動**）を推進する。

体制の改善	現状・課題	提言内容
①「 地域学校協働活動 」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化、地域の教育力の低下、学校が抱える課題は複雑化・困難化に対応し、<u>社会総掛かり</u>での教育の実現を図る必要がある。 ・これまでの学校支援地域本部や放課後子供教室等の取組を通じ、学校と地域との関係構築につながるなど、<u>一定の成果は評価</u>。 ・一方、学校支援活動や放課後子供教室、土曜日の教育活動等の活動間の連携が十分でない等の課題あり。 ・地域住民が学校のパートナーとしてより主体的に参画し、<u>地域と学校との関係を新たな関係（連携・協働）に発展させる</u>ことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動を「地域学校協働活動」として積極的に推進。 ◆ 「支援」から「連携・協働」、個別の活動から「総合化・ネットワーク化」を目指す新たな体制としての「地域学校協働本部」を全国的に整備 <p>➡ 教育委員会による地域学校協働活動推進のための体制整備について法令上明確化</p>
② コーディネーター機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域のコーディネーターの下で、<u>特定の個人に依存するなど持続可能な体制ではない</u>等の課題あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「地域コーディネーター」（地域住民や学校との連絡調整を実施）及び「統括的なコーディネーター」（複数のコーディネーターとの連携調整等を実施）の配置や機能強化（持続可能な体制の整備、人材の育成・確保、質の向上等）を推進。

（※）この他、地域学校協働活動の推進に向けた財政支援、普及啓発、事例集作成等の方策について提言。

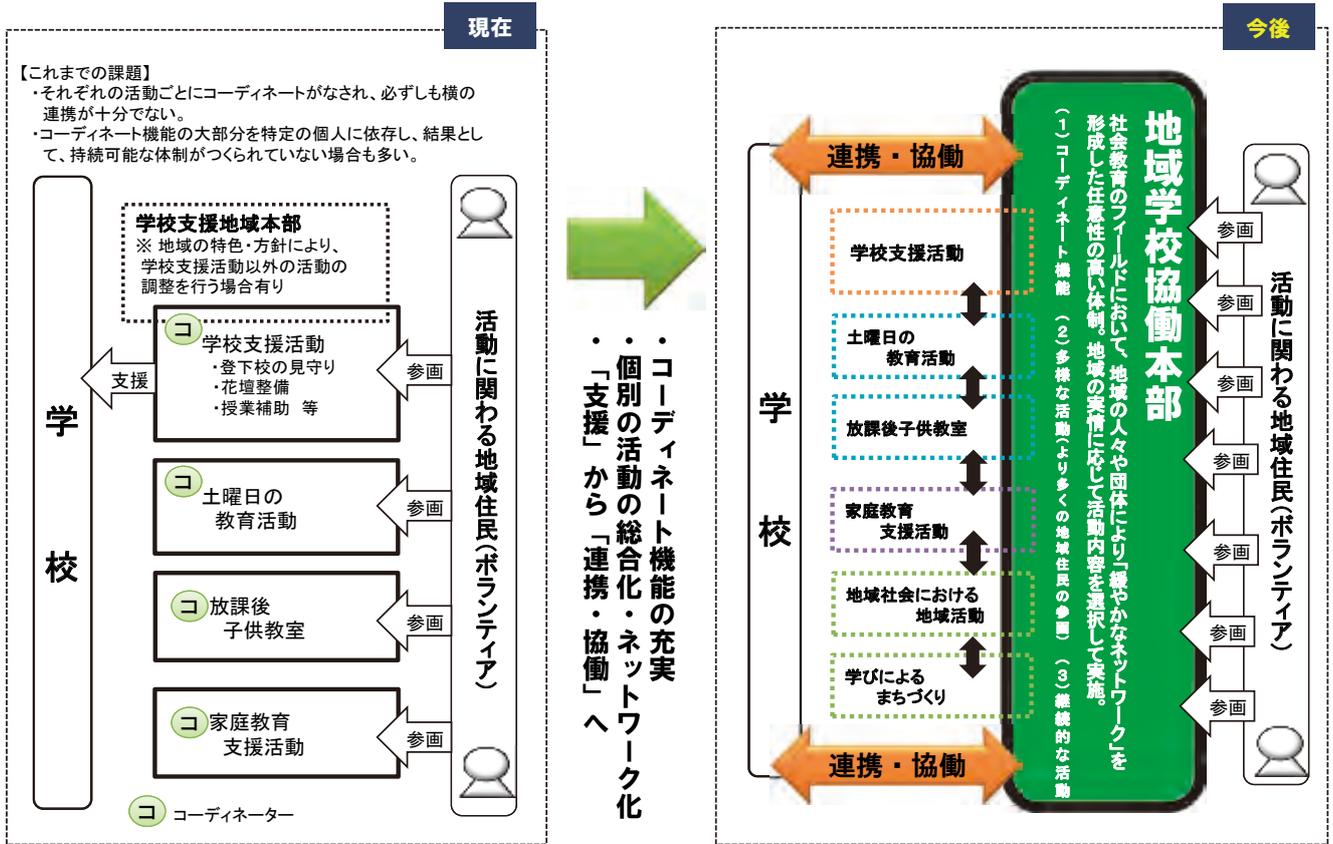
地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。



参考資料

今後の地域における学校との協働体制（地域学校協働本部）の在り方 ～目指すべきイメージ～



1. 「次世代の学校・地域」創生プランの目指す方向

一億総活躍社会の実現！ 地方創生の推進！

我が国が抱える主な課題

高齢者人口は増大する一方で生産年齢人口は減少	グローバル化の進展に伴い激しく国際環境は変化
学校の抱える課題は著しく複雑化・多様化	地域社会の支え合いの希薄化、家庭の孤立化

「次世代の学校・地域」の創生を車の両輪として課題を克服！

「次世代の学校・地域」の創生

学校

- 「社会に開かれた教育課程」の実現
 - 知識・技能とそれを活用する力、他者と協働する力の育成
 - アクティブ・ラーニングの視点に立った学びの推進
- 「次世代の学校」創生に必要な指導体制の質・量両面での充実
 - 教員が生涯を通じて研鑽できる環境づくり
 - いじめや不登校、発達障害等に教員と心理・福祉等の専門スタッフが連携・分担して対応
- 「地域とともにある学校」への転換

地域

- 次代の郷土をつくる人材の育成
 - 地域の資源を学校教育、社会教育に活かす
- 学校を核としたまちづくり
 - 生徒と地域住民が主体的に課題を発見・解決し、地域課題に向き合う
- 地域で家庭を支援し、子育てできる環境づくり
 - 放課後・早朝の子供の居場所、学習・部活動支援
- 学び合いを通じた社会的包摂
 - 若者・大人も子供・地域のためにできることを考え、自己実現

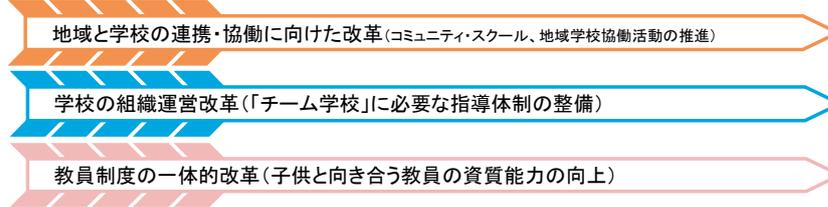
「次世代の学校・地域」創生プランを策定！

中央教育審議会3答申(平成27年12月21日)の内容の具体化を強力に推進

- 「次世代の学校・地域」が両輪となった体系的な施策を展開！
- 文部科学省として今後取り組むべき具体的施策と改革工程表を明示！

2. 「次世代の学校・地域」創生プランの具体的施策

「次世代の学校・地域」の創生に向け
一体改革として
＜3本の矢＞を放つ！



「次世代の学校・地域」の創生に向けた具体的施策

<p>地域と学校の連携・協働に向けた改革</p>	<p>□ コミュニティ・スクール(CS)を推進・加速する！</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の設置の努力義務化、教職員の任用に関する意見の柔軟化等(法改正) CS導入に伴う学校の体制強化、類似の取組からの移行支援等(予算等) 首長や教育長への働き掛け強化等(マニュアルの策定や教育委員会規則の制定推進等) 	<p>□ 地域学校協働活動を地域創生の基盤に！</p> <ul style="list-style-type: none"> 教委による地域学校協働活動推進のための体制整備(法改正) 若者から高齢者までが活躍し地域を創生する場として、地域学校協働本部を全小中学校区をカバーして整備 郷土学習、地域行事等の地域学校協働活動を支援 放課後子供教室・家庭教育支援の充実による子育て環境の整備 先進事例の収集・発信、全国フォーラム等の開催(以上、予算等)
<p>学校の組織運営改革</p>	<p>□ 教職員の指導体制を充実する！</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成32年度からの指導要領の全面実施を踏まえた指導体制の充実(法改正・予算等) <p>□ 専門性に基づくチーム体制を構築する！</p> <ul style="list-style-type: none"> SCやSSW等専門職員の職務の明確化・配置促進(法令改正・予算等) <p>□ 学校のマネジメント機能を強化する！</p> <ul style="list-style-type: none"> 主幹教諭の配置充実(予算等)、事務体制の強化(法改正・予算等)等 	<p>□ 地域が学校のパートナーとして子供の教育に関わる！</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネーターと地域連携担当教職員(仮称)の配置の促進(法令改正・予算等) 教員が子供と向き合う時間の確保 学校施設の有効利用、管理の工夫による地域への学校開放の促進
<p>教員制度の一体改革</p>	<p>□ 大学での養成を充実する！</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職科目の大括り化(法改正)、学校インターンシップ制度化(省令改正)等 <p>□ 教員研修を充実する！</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員研修計画の整備(法改正)、メンター方式実施(予算等)等 <p>□ キャリアシステムを構築する！</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員育成協議会の構築、教員育成指標の整備(法改正)等 	<p>□ 地域と連携・協働する教員の養成・研修！</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との連携・協働を円滑に行うための養成・研修の充実 教員を目指す学生の放課後子供教室、土曜学習等への参加の拡大 地域課題を題材にしたアクティブ・ラーニングの視点に立った学びやICTを活用した学びの推進

改革工程表に基づき施策を計画的に展開し、「次世代の学校・地域」の創生を着実に実現！

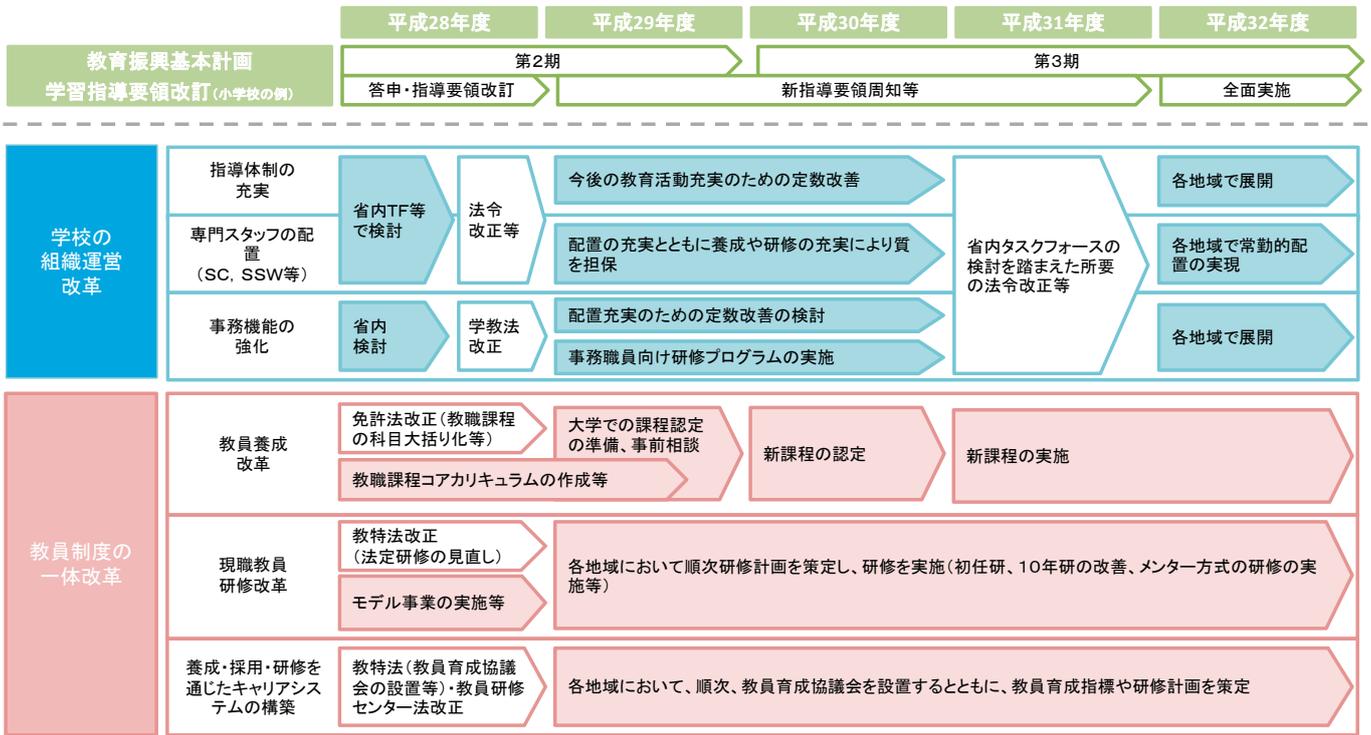
3. 「次世代の学校・地域」創生プラン一体改革工程表①



<p>地域と学校の連携・協働に向けた改革</p>	<p>地域学校協働活動の推進加速</p>	<p>省内検討</p>	<p>社会教育法等改正</p>	<p>制度等説明会の実施</p>	<p>施行後の状況のフォローアップ</p>
	<p>ガイドライン(※)検討・策定</p>	<p>ガイドラインの普及・定着 (※)地方自治体等の関係者向けの地域学校協働活動の推進の参考手引き</p>			
	<p>体制面・財政面への支援の充実(コーディネーターの配置・促進、活動経費の支援等)</p>	<p>進捗状況等を踏まえ、更なる体制面・財政面への支援や普及促進の充実の検討・実施</p>			
<p>コミュニティ・スクールの推進加速</p>	<p>省内検討</p>	<p>地教行法改正</p>	<p>制度等説明会の実施</p>	<p>法施行後の状況のフォローアップ</p>	<p>進捗状況等を踏まえ、更なる制度見直しの検討</p>
<p>体制面・財政面への支援の充実(導入に伴う教職員の配置充実、類似の取組からの移行の支援等)未導入地域の首長・教育長への働き掛けの強化(マニュアルの策定や教育委員会規則の制定推進等)</p>					
<p>ガイドライン(※1)改訂ハンドブック(※2)策定</p>		<p>ガイドラインの普及・定着 (※1)教育委員会や学校に対し学校運営協議会導入の際のポイント等を示した手引き (※2)学校運営協議会委員としての心構えや必要な知識等をまとめた教材</p>			
<p>地域学校協働活動、コミュニティ・スクールの一体的推進</p>	<p>地域学校協働活動、コミュニティ・スクールの全国的推進(好事例の収集・普及、普及促進イベント開催等)</p>				

参考資料

3. 「次世代の学校・地域」創生プラン一体改革工程表②

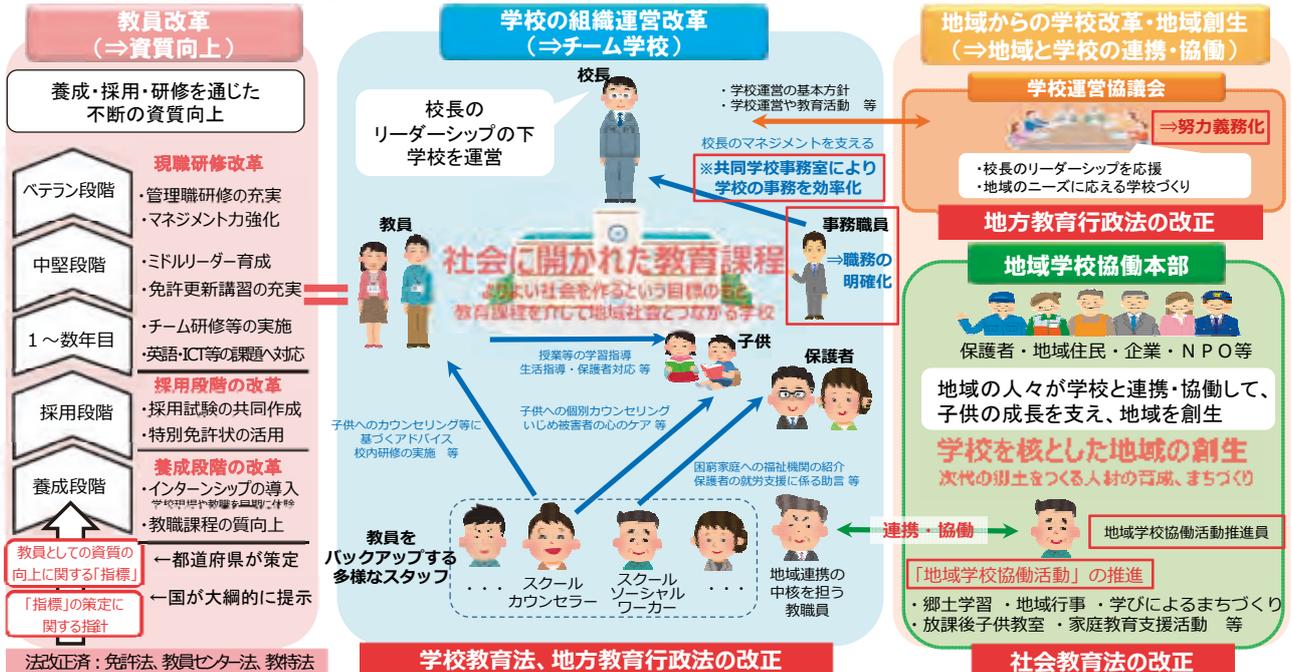


「次世代の学校・地域」創生プラン(平成28年1月 文部科学大臣決定)の実現に向けて

中教審答申③←教育再生実行会議第7次提言

中教審答申②←教育再生実行会議第7次提言

中教審答申①←教育再生実行会議第6次提言



「次世代の学校」の創生に必要な不可欠な教職員定数の戦略的充実

義務標準法等の改正

子供たちが自立して活躍する「一億総活躍社会」「働き方改革」「地方創生」の実現

学校を核とした地域力強化プラン

(前年度予算額:6,832百万円)
29年度予算額:6,932百万円

◇一億総活躍社会の実現と地方創生の推進には、学校と地域が相互にかかわり合い、学校を核として地域社会を活性化していくことが重要。

学校を核として地域住民等の参画や地域の特色を生かした事業を展開することで、まち全体で地域の将来を担う子供たちを育成するとともに、一億総活躍社会と地方創生の実現を図る。



地域力強化プラン

地域の特色ある取組を柔軟に支援

- ◆地域の実情に応じて、柔軟に事業を実施することができるよう、関連施策によるプランを推進。
- ◆学校を核とした地域力強化のための仕組みづくりや地域の活性化に直結する様々な施策等を地域の特色に応じて組み合わせる推進。

<p>【地域学校協働活動推進事業】(6,435百万円) 地域と学校を繋ぐコーディネーターが中心となり、地域と学校の連携・協働の下、幅広い地域住民等が参画し、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を全国的に推進。</p>	<p>【コミュニティ・スクール導入等促進事業】(162百万円) 学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組む「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」について、運営の充実や未導入地域での体制づくりへの支援等により一層の拡大・充実を図ること、地域とともある学校づくりを推進する。</p>	<p>【地域における家庭教育支援総合推進事業】(73百万円) 地域人材の養成を通じて家庭教育支援チームの組織化、家庭教育支援員の配置等を行い、身近な地域における保護者への学習機会の提供や親子参加型行事の実施、相談対応等の支援活動を実施することで、家庭教育支援を総合的に推進。</p>
<p>【地域を担う人材育成のためのキャリアプランニング推進事業】(8百万円) 「キャリアプランニングスーパーバイザー」を都道府県等に配置し、地元企業等と連携した職場体験やインターンシップ及び地元への愛着を深めるキャリア教育の推進等を通じ、地元就職し地域を担う人材を育成する。</p>	<p>【地域提案型学校を核とした地域魅力強化事業】(4百万円) 学校を核とした地域の魅力を創造する取組として、地域が提案する創意工夫ある独自で多様な取組を支援することにより、地域の活性化を図る。</p>	<p>【地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業】(86百万円) 「スクールガード(学校安全ボランティア)」の活用等により、地域ぐるみで子供の安全を見守る体制を整備し、地域社会と連携した学校安全に関する取組を通じて、地域力の強化を図る。</p>
	<p>【地域と連携した学校保健推進事業】(8百万円) 養護教諭の未配置校等に対し、経験豊富な退職養護教諭をスクールヘルプスリーダーとして派遣し、学校、家庭、地域の関係機関等の連携による効果的な学校保健活動の展開を図り、地域力の強化につなげる。</p>	<p>【健全育成のための体験活動推進事業】(99百万円) 農山漁村等における体験活動において、地域人材や地域資源を活用することにより、異世代間交流や都市農村交流を図り、地域の活性化につなげる。</p>

学校を核とした地域力強化・将来を担う子供たちの育成を通じて、一億総活躍社会、地方創生を実現

地域学校協働活動推進事業

(前年度予算額 6,295百万円)
29年度予算額 6,435百万円

補助率	
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

近年、子供を取り巻く環境が大きく変化しており、未来を担う子供たちの成長を支えるには、地域と学校が連携・協働し、社会総がかりで教育を行うことが必要。平成27年12月の中教審答申(地域と学校の連携・協働)や平成28年1月の「次世代の学校・地域」創生プランに基づき、幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進するため、地域と学校をつなぐコーディネーターの配置や機能強化により、基盤となる「地域学校協働本部」の整備を推進するとともに、学びによるまちづくりや地域人材育成、放課後子供教室、地域住民等による学習支援(地域未来塾)、外部人材の活用による土曜教育の取組を通じて、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る。

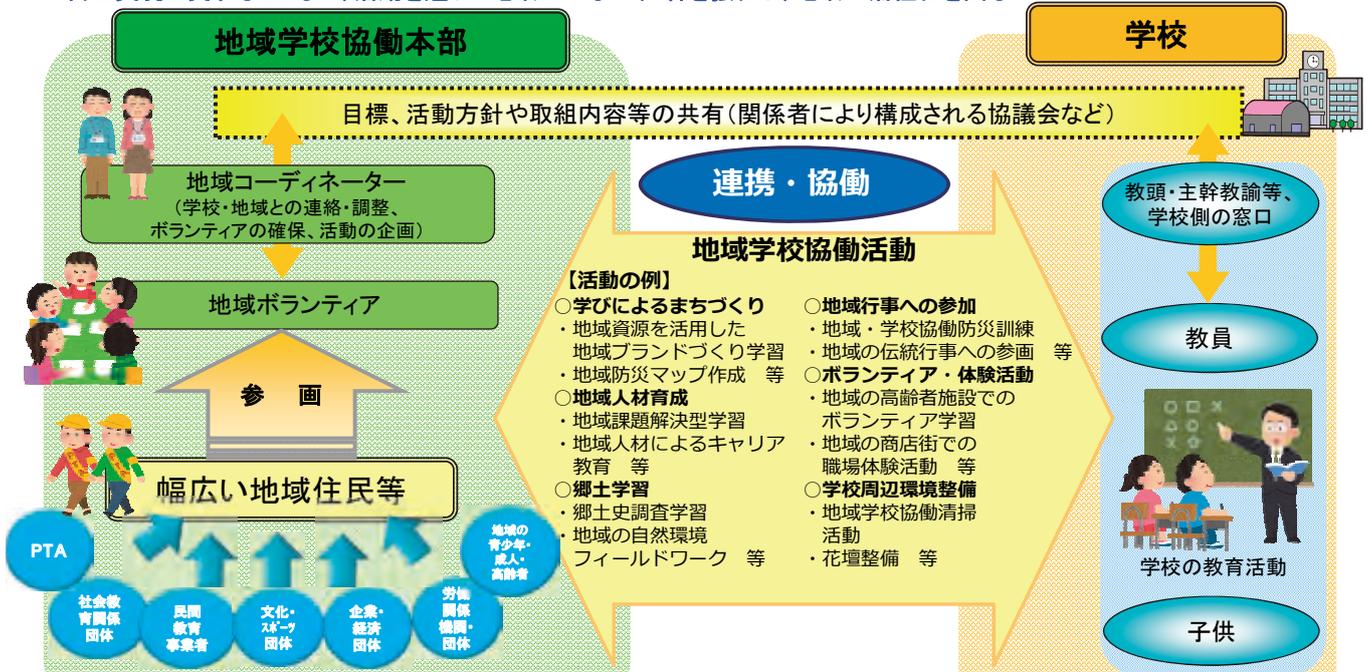


地域学校協働活動の実施

(前年度予算額:6,295百万円の内数)
平成29年度予算額:6,435百万円の内数
地域学校協働活動推進事業の一部で実施

【補助率】	
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子供の成長を支え、地域を創生する活動を実施
 ▶ 地域と学校が連携・協働する仕組みづくりを促進し、子供たちを支えるだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を図る



ニッポン一億総活躍プラン(平成28年6月2日閣議決定)(工程表:抜粋)

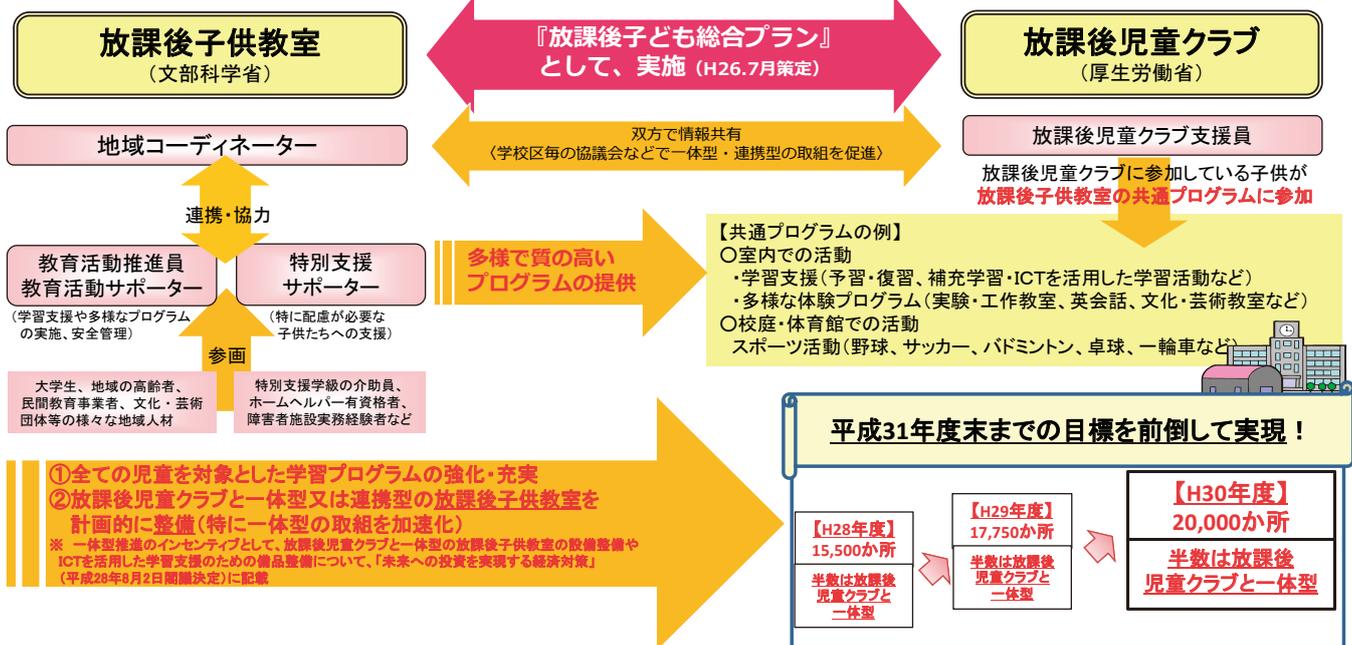
・地域と学校との連携・協働の下、高齢者等をはじめとする地域住民の参画により、社会全体として子どもたちの学びや成長を支える活動を、全国的に推進する。

放課後子供教室 ~放課後子ども総合プランの推進~

(前年度予算額:6,295百万円の内数)
平成29年度予算額:6,435百万円の内数
地域学校協働活動推進事業の一部で実施

【補助率】	
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての児童が放課後を安心・安全に過ごし、多様な体験・活動ができるよう、厚生労働省と連携して総合的な放課後対策を推進



ニッポン一億総活躍プラン(平成28年6月2日閣議決定)(抜粋)

共働き家庭等の小1の壁を打破するとともに次代を担う人材を育成するため、2019年度末までに放課後児童クラブを約122万人分整備(2014年度以降追加的に30万人分を整備)全小学校区(約2万か所)で放課後児童クラブと放課後子供教室を一体的に又は連携して実施し、うち1万か所以上を一体的に実施する。また、取組の加速化を図るため、引き続き学校施設の活用を促進するとともに、追加的な受け皿整備を2018年度末に前倒して実現するための方策を検討する。

学習支援が必要な中学生・高校生等を対象とした学習支援
～地域住民の協力を得た地域未来塾の充実～

(前年度予算額:269百万円)
29年度予算額:322百万円
※地域学校協働活動推進事業 6,435百万円の一部で実施

地域未来塾について

中学生・高校生等を対象に、教員OBや大学生など地域住民の協力やICTの活用等による学習支援を実施

- ◆ 経済的な理由や家庭の事情により、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていない中学生・高校生等への地域と学校の連携・協働による学習支援を実施
- ◆ 教員を志望する大学生などの地域住民、学習塾などの民間教育事業者、NPO等の協力やICT機器、学習ソフトウェア等の活用により、多様で効果的な支援が可能



- * 学習支援が必要な中学生・高校生等に対して学習習慣の確立と基礎学力の定着
- * 高等学校・大学等進学率の改善、高校中退の防止、学力・自己肯定感の向上



学習機会の提供によって、貧困の負の連鎖を断ち切る

全生徒を対象とした学習支援の事例

【東京都内のある中学校の取組】

＜放課後学習支援＞

- ・対象は中1～3の希望者
- ・年間約80回（学期中の週2回(2時間程度)）
* 学校の空き教室を利用、無料
- ・指導員による個別指導と自習
* 指導員：退職教員や教員志望の大学生など



平成31年度末までの目標数



ニッポン一億総活躍プラン(平成28年6月2日閣議決定)(抜粋)

経済的な理由や家庭の事情により学習が遅れがちな子供を支援するため、大学生や元教員等の地域住民の協力及びICTの活用等による原則無料の学習支援を行う地域未来塾を、平成31年度(2019年度)までに全中学校区の約半分に当たる5000ヶ所に拡充し、高校生への支援も実施する。

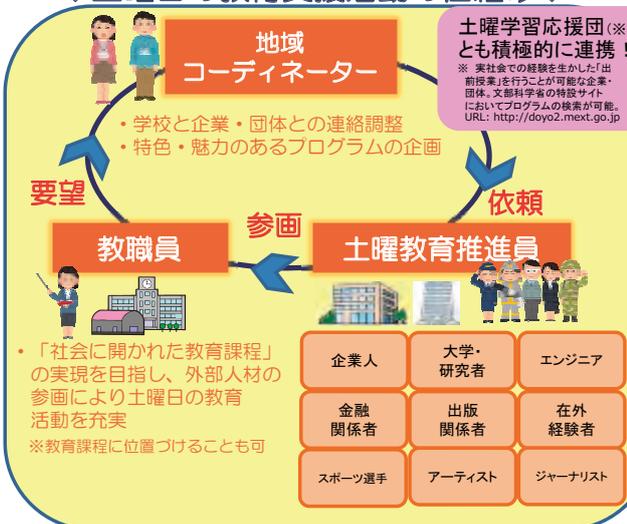
外部人材を活用した土曜日の教育支援活動

平成29年度予算額:6,435百万円の内数(新規)
地域学校協働活動推進事業の一部で実施

【補助率】	
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

全ての子どもたちの土曜日等の教育活動を充実するため、民間企業・団体等を中心として多様な経験や技能を持つ外部人材等の参画により、特色・魅力のある教育プログラムを企画・実施する市町村・学校等の取組を支援することにより、地域と学校の連携・協働による教育活動を推進し、地域の活性化を図る(12,000か所)(小学校・中学校・高校など)

◆土曜日の教育支援活動の仕組み◆



◆実践例◆

- ◆社会に開かれた教育プログラム
 - 【算数・数学】企業エンジニアによるICTを活用したプログラミング講座
 - 【理科】航空工学団体によるロケット発射実験教室
 - 【体育】地域のプロバスケット選手によるバスケット教室
- ◆グローバル化対応プログラム
 - 在外経験者による英会話・プレゼン教室
- ◆社会適応力育成プログラム
 - 金融関係者による経営・金融・経済体験学習
- ◆地域学習
 - NPO・団体等の協力による地域の伝統芸能体験学習、環境課題解決

企業・団体ならではの
実社会で得られた知識や経験を子供たちへ!

日本再興戦略2016(平成28年6月2日閣議決定)(抜粋)

- ・初等中等教育において、社会や世界の変化に対応した「社会に開かれた教育課程」を地域社会と連携しながら実現
- ・学校現場に民間等の外部人材の活用を図ることが重要であるため、地域・社会との連携・協働を推進する

(平成28年10月)

「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」及び
 「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」実施状況
 (学校支援地域本部、地域未来塾、放課後子供教室、土曜日の教育活動)

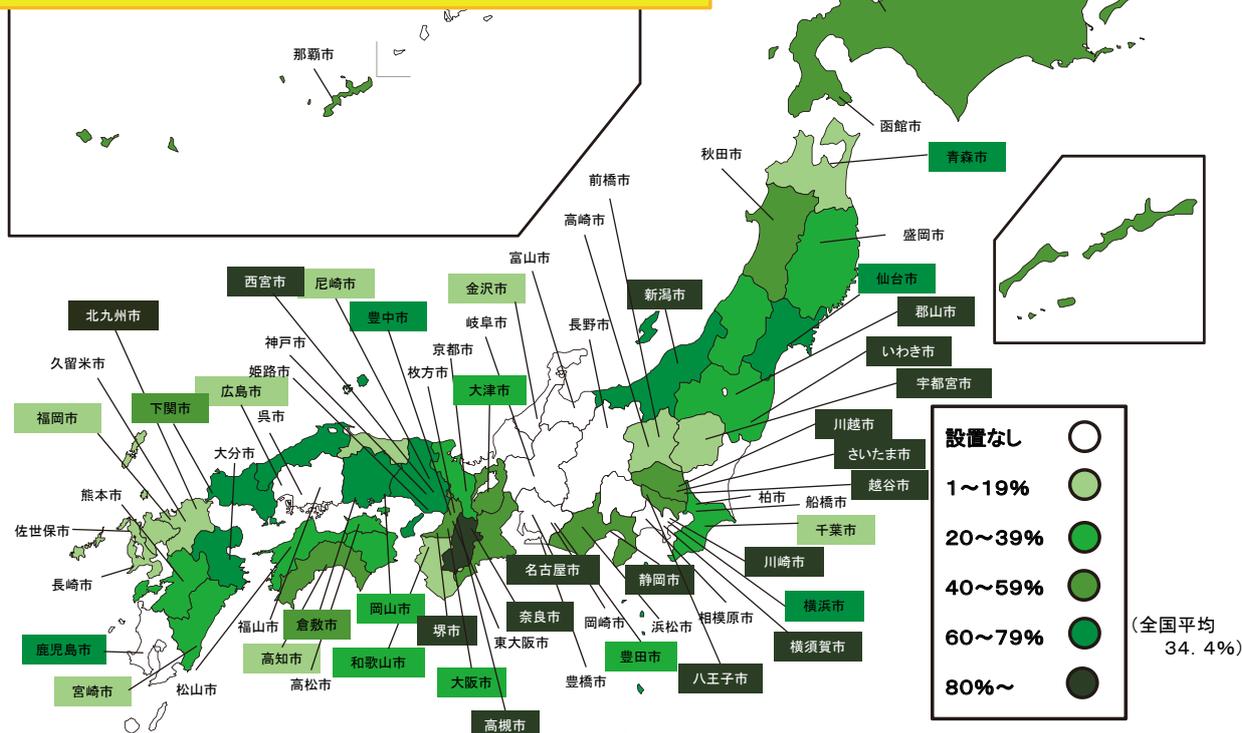
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
国庫補助金額	4,649百万円	4,870百万円	5,071百万円	6,340百万円	6,466百万円
学校支援地域本部設置数	3,036本部	3,527本部 (小学校:5,939校 中学校:2,715校)	3,746本部 (小学校:6,244校 中学校:2,814校)	4,146本部 (小学校:6,568校 中学校:3,039校)	4,527本部 (小学校:6,881校 中学校:3,148校)
地域未来塾実施数	—	—	—	1,751箇所	2,587箇所 (中学校:2,439校 高等学校:148校)
放課後子供教室実施数	10,098教室	10,376教室	11,991教室	14,392教室	16,027教室
土曜日の教育活動実施数	—	—	4,845校	10,412校	11,895校
実施市町村数	本部 576市町村 放課後 1,076市町村 土曜 1市町村	本部 619市町村 放課後 1,090市町村 土曜 1市町村	本部 628市町村 放課後 1,135市町村 土曜 388市町村	本部 642市町村 未来塾 322市町村 放課後 1,077市町村 土曜 953市町村	本部 669市町村 未来塾 472市町村 放課後 1,097市町村 土曜 1,054市町村

※ 岩手県、宮城県、福島県等の被災自治体は委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」等で実施

平成28年度

『学校支援地域本部』の実施状況

- ※ 公立小中学校における実施
- ※ 「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」を活用
- ※ 被災県は「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」を活用

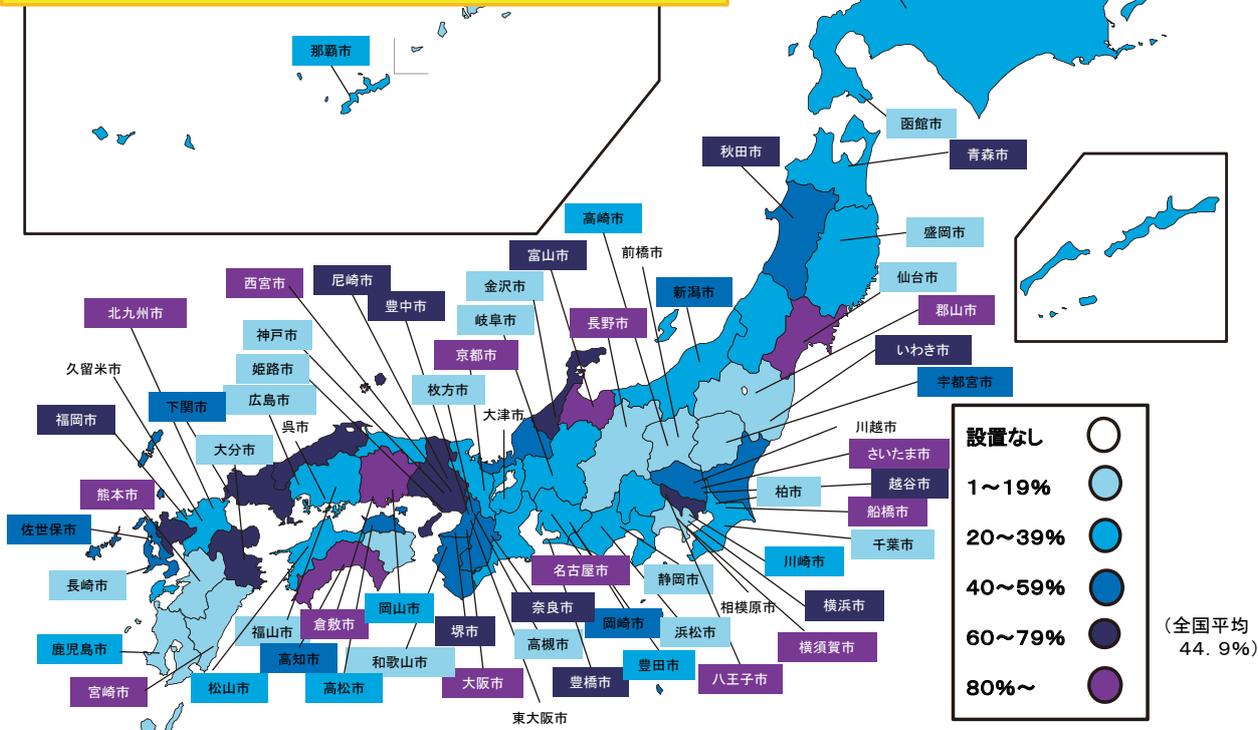


参考資料

平成28年度

『土曜日の教育活動』の実施状況

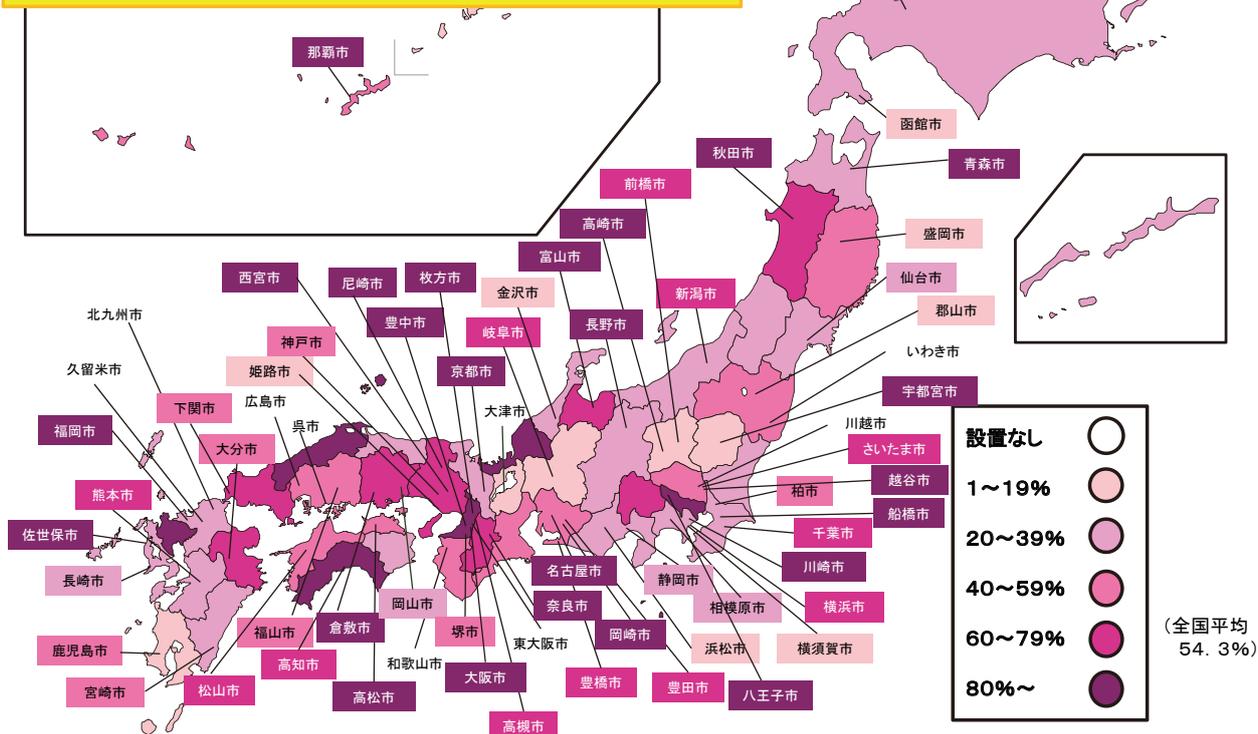
※公立小中学校における実施
 ※「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」及び「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」を活用



平成28年度

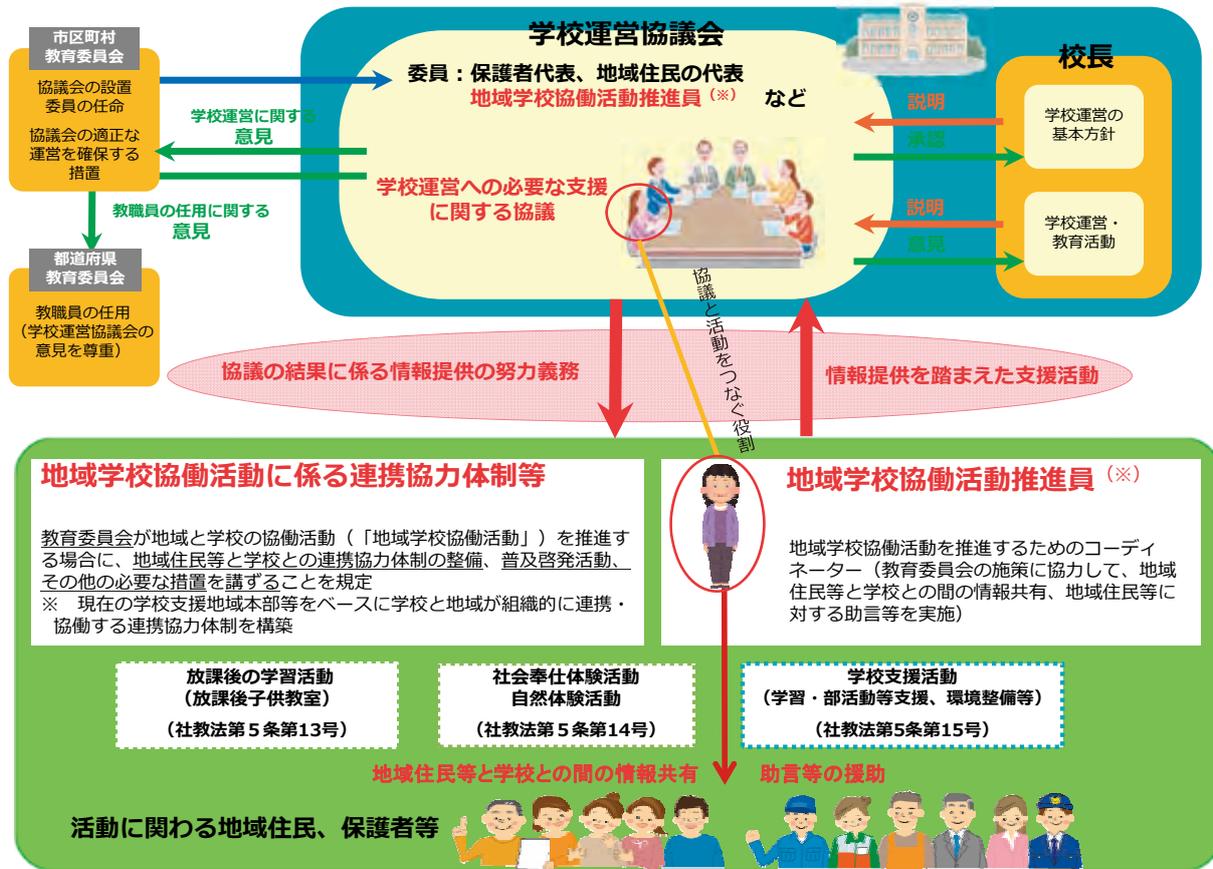
「放課後子供教室」の実施状況

※公立小学校における実施
 ※「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」を活用
 ※被災3県は「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」を活用



参考資料

学校運営協議会と地域学校協働活動の関係



コミュニティ・スクールの推進について

子供や学校の抱える課題の解決、子供たちの豊かな成長のためには、**学校のみで対応するのではなく、学校・家庭・地域が連携・協働し、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠。**

⇒多くの地域の人々が学校に関わることで、より豊かな子どもの学びが生まれ「生きる力」が育まれる。
⇒教職員、保護者、地域住民等がともに成長し「地域が良くなれば学校が良くなる」という好循環を生み出す。

全ての学校が、地域の人々と目標を共有し、地域一体となって子どもたちを育む「**地域とともにある学校**」へ

コミュニティ・スクール → 教育委員会の指定により「学校運営協議会」が設置された学校

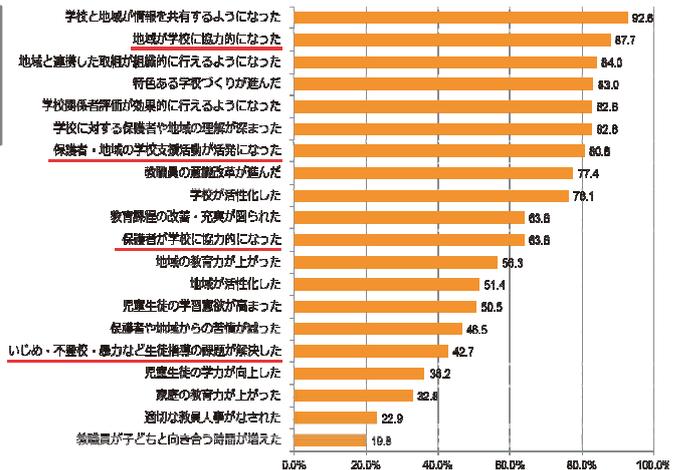
「学校運営協議会制度」の主な3つの機能

- 教育委員会が、学校や地域の実情に応じて学校運営協議会を設置する
- 校長が作成する学校運営の**基本方針の承認**をすること（必須）
- 学校運営**について、教育委員会又は校長に**意見を述べる**ことができること
- 教職員の任用**に関して、教育委員会に**意見を述べる**ことができること

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律】



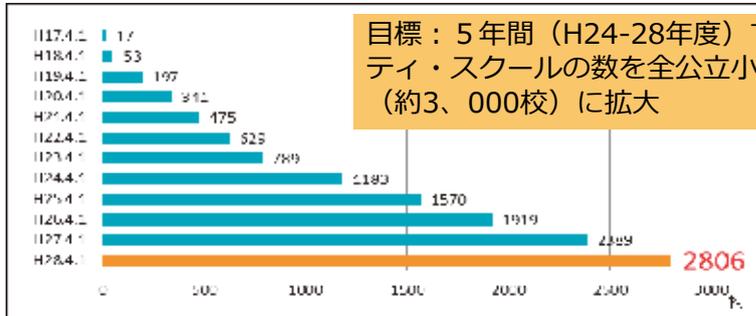
<コミュニティ・スクールに対する成果認識>



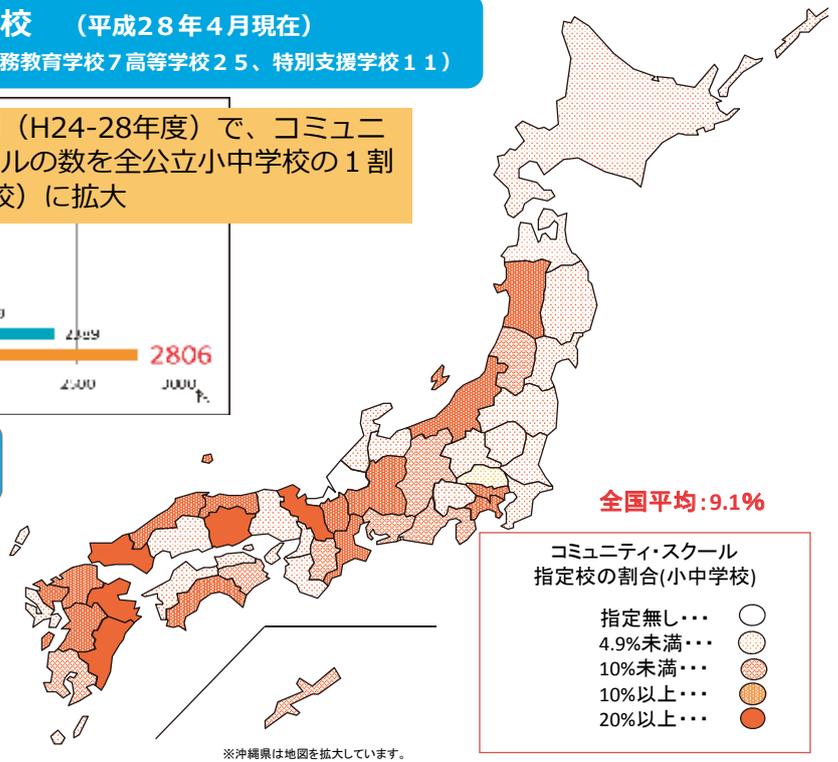
コミュニティ・スクールの指定状況

46都道府県内 2,806校 (平成28年4月現在)

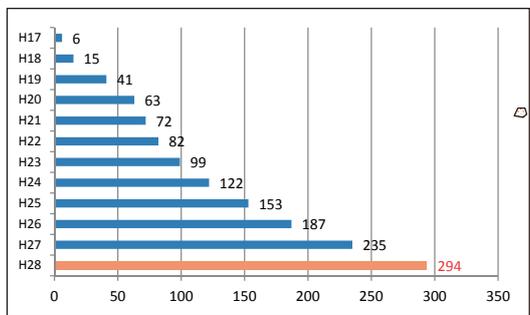
(幼稚園109、小学校1819、中学校835、義務教育学校7高等学校25、特別支援学校11)



目標：5年間（H24-28年度）で、コミュニティ・スクールの数を全公立小中学校の1割（約3,000校）に拡大

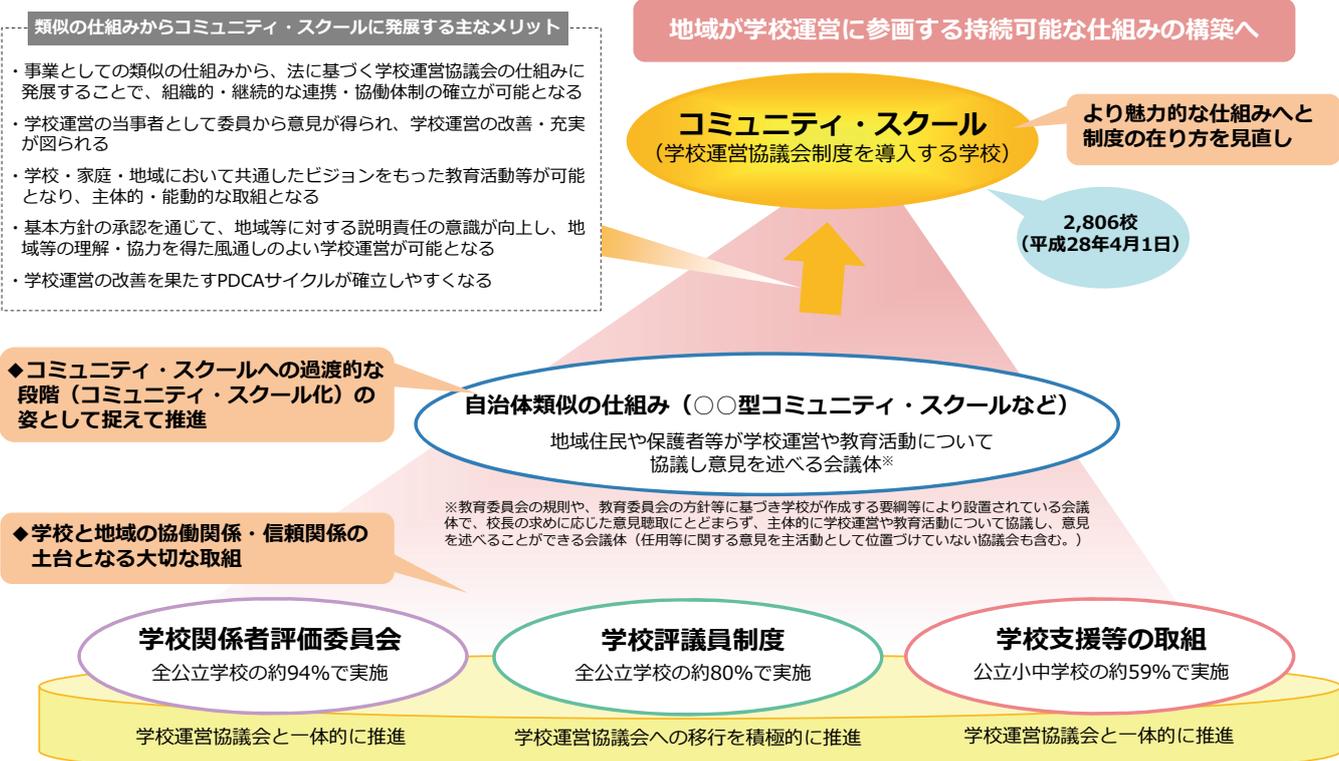


コミュニティ・スクールの学校設置者数：294自治体



※ここでいうコミュニティ・スクールは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第47条の5に規定された学校運営協議会が置かれた学校を指す。

コミュニティ・スクールの拡大・充実の姿(イメージ)



学校・教育委員会が主体的に取り組んでいる地域との連携に関する実践を効果的に生かしていく視点が必要
学校・教育委員会が自らコミュニティ・スクールの意義や成果等を理解し、その道を選ぶことが大切

コミュニティ・スクール導入等促進事業

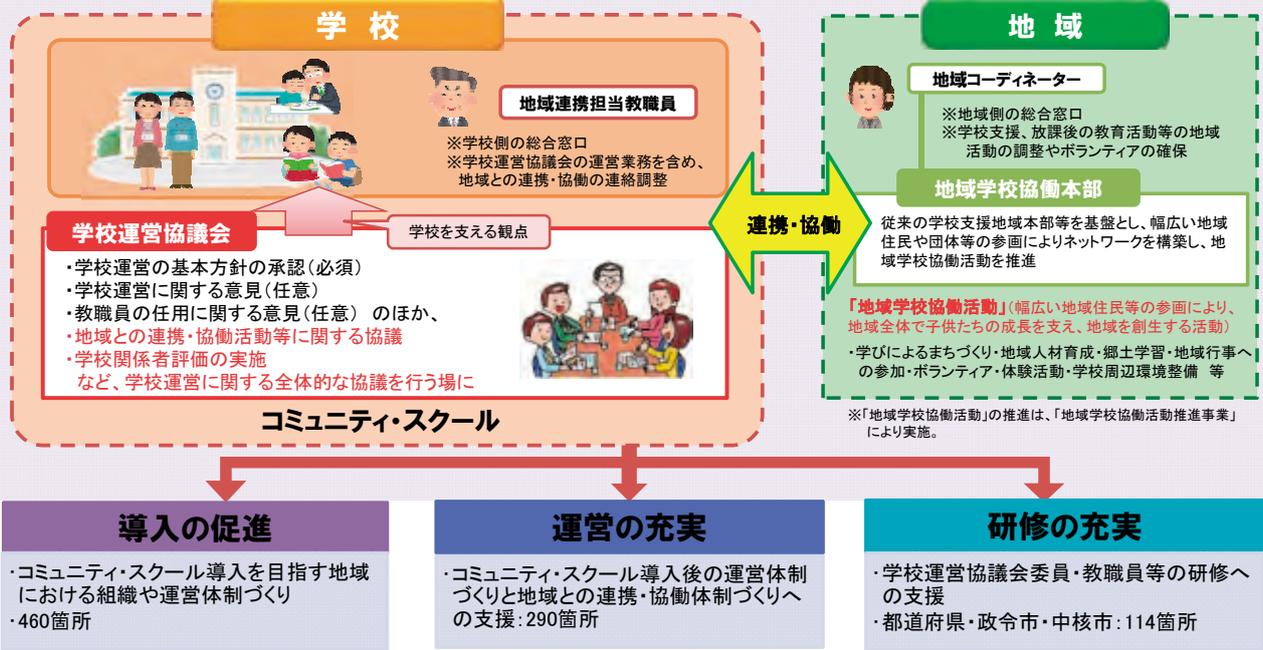
平成29年度予算額(案) 162百万円
平成28年度予算額 160百万円

※「学校を核とした地域力強化プラン」の1メニュー。

補助率: 国 1/3

※1

全ての公立学校が地域の人々と目標を共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」となることを目指し、「次世代の学校・地域」創生プランに基づき、コミュニティ・スクールを推進加速する。コミュニティ・スクールの未導入地域への支援や導入地域における取組充実への支援等により、一層の拡大・充実を図ることで、将来の地域を担う人材の育成、学校を核とした地域づくりを推進する。



※1 補助については、都道府県の判断により、間接補助とすることも可能。その場合、都道府県、市区町村が1/3ずつ負担。
※2 CSディレクター: 学校運営協議会の会議運営、協議会委員や学校間の連絡・調整・事務手続、分野横断的な活動の総合調整など、統括的な立場で学校運営協議会に関わる業務を行う地域人材。

〈参考〉WEBサイト

地域学校協働活動に関するWEBサイト <http://manabi-mirai.mext.go.jp>
本事例集に掲載している取組についても掲載しています

土曜学習応援団に関するWEBサイト <http://doyo2.mext.go.jp>
賛同企業等の一覧や取組を紹介しています

お住まいの地域や学習テーマ、民間企業・団体等の業種などからワンクリックで連携可能な民間企業・団体の情報や、実施可能な学習プログラムに関する情報にアクセスできます!(情報は随時追加します)その他、民間企業・団体等における教育活動に関する最新情報を掲載しています。

業種・実施エリア(都道府県)で検索できます。

教科・学習テーマ・実施エリア(都道府県)・対象・学年・開催可能日・開催場所・業種で検索できます。

学習プログラムを探す | 賛同企業・団体を探す | 土曜学習応援団とは



文部科学省